

岩手大学教育推進機構

年次報告 2015

THE ANNUAL REPORT OF CENTER FOR TEACHING, LEARNING and CAREER
DEVELOPMENT, IWATE UNIVERSITY, 2015

CONTENTS

1. 教育推進機構会議
 2. 教養教育センター
 3. グローバル教育センター
 4. 教育推進連携部門
 5. 学生支援部門
 6. キャリア支援部門
 7. その他(委員会等)
-

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development

国立大学法人岩手大学

教育推進機構

Iwate University :
Center for Teaching,
Learning and Career Development

岩手大学教育推進機構

年次報告 2015

THE ANNUAL REPORT OF CENTER FOR TEACHING, LEARNING and CAREER
DEVELOPMENT, IWATE UNIVERSITY, 2015

CONTENTS

1. 教育推進機構会議
 2. 教養教育センター
 3. グローバル教育センター
 4. 教育推進連携部門
 5. 学生支援部門
 6. キャリア支援部門
 7. その他(委員会等)
-

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development

国立大学法人岩手大学

教育推進機構

Iwate University :
Center for Teaching,
Learning and Career Development



はじめに

教育推進機構長 丸山 仁

2014年の4月から教育推進機構長に就任しました。教育推進機構は、旧大学教育総合センターを改変して同年に設置されましたので、初代の機構長ということになります。

旧大学教育総合センターは、入試部門を含む6部門体制でした。全学的な教育研究支援施設の再編に伴い、入試部門が入試分析と入試広報を担う入試センターとして独立する一方で、旧国際交流センターから国際教育部門を迎えました。また教育改善部門と専門教育等連携部門を統合して合理化・効率化を図りましたので、教育推進機構は、5部門体制（全学共通教育部門・教育推進連携部門・国際教育部門・学生支援部門・キャリア支援部門）でのスタートとなりました。さらに昨年度の集中的な検討を経て、全学共通教育部門と国際教育部門は、2015年4月から機構内で独立性を高めた「教養教育センター」、「グローバル教育センター」として生まれ変わり、両センターを主担当とする専任教員も増員されました（各2名、計4名の補充が認められ、年度内に3名が着任しました）。

岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指しています（岩手大学の「教育理念」）。教育推進機構（2センターと3部門）は、本学の教育理念に基づいて、学士課程教育、グローバル教育、学生生活及びキャリア形成に関する施策を総合的に推進し、さらなる教育の充実・改善を図っていきます（「教育推進機構規則」より）。今年度は第2期中期目標・中期計画期間の最終年度、また翌年に全学の学部改組を控えた1年となり、GPA制度、科目ナンバリングの導入を初めとした一連の教育改革の多くが実現、また前進しました。以下の教育推進機構会議報告、また各センター・部門報告において詳しく説明します。

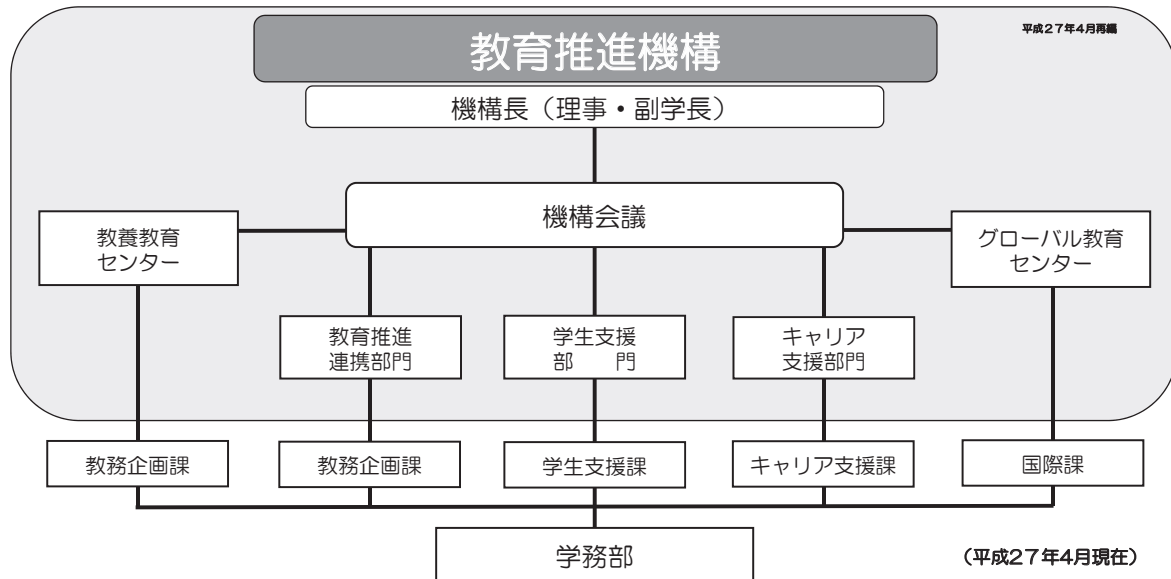
本報告書は大学教育推進機構の1年間の様々な活動を網羅したものです。電子化された媒体は、ピンポイントで読んだり検索するには便利ですが、全体像を把握するには必ずしも適していません。このような冊子体の報告書は、全体像を包括的に把握する情報源として、また機構の適正な評価を受けるための、保存性の高い証拠資料として価値あるものと考えています。本報告書が多くの関係者に役立つことを願っています。

「市町村が消滅する可能性」に耳目が集まる今、地域が衰退する中で、地域の大学のみが繁栄することは不可能です。地域の大学は、地域社会の活性化にどこまで貢献できるのか。この点がこれまで以上に厳しく問われる時代に入っていることを痛感しています。大学の知を地域へと還元し、同時に地域の教育力を大学へと還元していきましょう。グローバルな視野から持続可能な地域社会を展望し、地域と共に学生を育てていく。教育推進機構長として、微力ながら「地（知）の拠点」の名に恥じない大学教育の実現、「地域に顕在化した諸課題を、グローバルな視点から解決し発信できる人材＝グローバルな視点を持ったいわて協創人材」（第3期中期目標・中期計画より）の育成に努力したいと思っています。

最後に、日頃から本学の学生の教育と支援のためにご尽力いただいている教育推進機構会議委員、各センター・部門のセンター長・部門長、兼務教員、機構の専任教員、そして事務職員の皆様に感謝申し上げますと共に、一層のご協力をお願い申し上げます。

平成28年8月

教育推進機構 組織図



教育推進機構会議委員名簿

（平成27年12月1日）

	氏 名	担 当 部 局 等
機構長	丸 山 仁	理事（教育・学生担当）・副学長
副機構長 教養教育センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副機構長 グローバル教育センター長	藪 敏 裕	教育学部
教育推進連携部門長	松 川 倫 明	工学部
学生支援部門長	栗 林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	関 野 登	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	早 坂 浩 志	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
各学部の副学部長又は評議員	家 井 美千子	人文社会科学部
	遠 藤 孝 夫	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	武 田 純 一	農学部
各学部から選出された教員	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	菊 地 洋 一	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	山 下 哲 郎	農学部
学務部長	八 田 弘	学務部

教養教育センター会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副センター長／兼務教員	齋 藤 博 次	人文社会科学部
科目委員会委員長 兼務教員	齋 藤 博 次	外国語科目委員会
	澤 村 省 逸	健康・スポーツ科目委員会
	木 村 彰 男	情報科目委員会
	重 野 和 彦	文化科目委員会
	藤 本 幸 二	社会科目委員会
	西 崎 滋	自然科目委員会
	中 西 良 樹	科学技術科目委員会
	中 澤 廣	環境科目委員会
専任教員	中 島 清 隆	地域科目委員会
	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
各学部の教務（学務）委員会 委員長又は副委員長	富 永 陽 子	教育推進機構
	中 村 安 宏	人文社会科学部
	犬 塚 博 彦	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
教務企画課長	國 崎 貴 嗣	農学部
	山 崎 義 夫	学務部
センター長が必要と認めた者	後 藤 厚 子	COC特任准教授

グローバル教育センター会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	藪 敏 裕	教育学部
副センター長／専任教員	松 岡 洋 子	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
各学部の国際交流委員会委員 又は教務（学務）委員会委員 から選出された教員	家 井 美千子	人文社会科学部
	藁 谷 収	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	木 崎 景一郎	農学部
国際課長	斎 藤 幸 代	学務部

教育推進連携部門会議委員名簿

(平成 27 年 4 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 川 倫 明	工学部
副部門長／兼務教員	阿久津 洋 巳	教育学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
各学部の教務関係委員会から 選出された教員	中 村 安 宏	人文社会科学部
	川 口 明 子	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	國 崎 貴 嗣	農学部
各学部の F D 又は教育評価を担当 する委員会から選出された教員	中 島 清 隆	人文社会科学部
	山 本 獎	教育学部
	大 坊 真 洋	工学部
	立 澤 文 見	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 18 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	栗 林 徹	教育学部
専任教員	Anders Carlqvist	教育推進機構
	早 坂 浩 志	教育推進機構
兼務教員	菊 池 孝 美	人文社会科学部
	宇佐美 公 生	教育学部
	西 村 文 仁	工学部
	武 藤 由 子	農学部
各学部から選出された教員	山 本 昭 彦	人文社会科学部
	鎌 田 安 久	教育学部
	海 田 輝 之	工学部
	下 飯 仁	農学部
学生支援課長	今 野 和 男	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成 27 年 4 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	関 野 登	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
兼務教員	竹 村 祥 子	人文社会科学部
	上 濱 龍 也	教育学部
	水 野 雅 裕	工学部
	佐 野 宏 明	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部
部門長が必要と認めた者	遠 藤 雅 子	C O C 特任准教授

目 次

□機構長あいさつ

□組織構成図 名簿

□目次

□教育推進機構会議

教育推進機構会議報告	003
平成28年度学年暦	005
学位授与の方針	006
ナンバリングについて	029
GPAについて	034
DP達成状況調査に基づくカリキュラムの検討報告	035
成績評価の妥当性に関する検証報告	061
成績評価のガイドラインの検討報告	095

□教養教育センター

活動報告	107
教養教育の理念等	109
科目委員会に関する申合せ	119
平成27年度科目委員会メンバー表・開講科目一覧	123
分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン	140
「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン	153
オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン	154
平成27年度授業アンケート実施状況報告	155
平成27年度前期授業アンケート集計結果	156
平成27年度後期授業アンケート集計結果	164
平成27年度優秀授業選出方針	174
平成27年度後期優秀授業科目一覧	176
平成27年度授業アンケート用紙	177
平成27年度全学共通教育授業公開のお知らせ	189
平成27年度前期全学共通教育授業公開実施報告	191
平成27年度後期全学共通教育授業公開実施報告	201

□グローバル教育センター

活動報告	213
岩手大学留学生数（平成27年5月1日現在）	216
岩手大学留学生数（平成27年11月1日現在）	217
大学間交流協定	218
部局間交流協定	219
平成27年度海外交流状況	221

□教育推進連携部門

活動報告	225
平成27年度教育推進機構主催研修会（FD）等	237
平成27年度卒業生・修了生アンケート集計結果	239

□学生支援部門

活動報告	251
平成27年度岩手大学学生表彰者名簿（個人・団体）	256

□キャリア支援部門

活動報告	261
------------	-----

□その他（委員会等）

入学前教育実施小委員会報告	274
学務関係システム整備状況	308
・教学ＩＲシステム	
・学務情報システム（履修状況の見える化システムを含む。）	
・達成度自己評価システム	
・マルチメディア教育支援（CALL）システム	



教育推進機構会議

教育推進機構会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
機構長	丸 山 仁	理事（教育・学生担当）・副学長
副機構長 教養教育センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副機構長 グローバル教育センター長	藪 敏 裕	教育学部
教育推進連携部門長	松 川 倫 明	工学部
学生支援部門長	栗 林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	関 野 登	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	早 坂 浩 志	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
各学部の副学部長又は評議員	家 井 美千子	人文社会科学部
	遠 藤 孝 夫	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	武 田 純 一	農学部
各学部から選出された教員	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	菊 地 洋 一	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	山 下 哲 郎	農学部
学務部長	八 田 弘	学務部



教育推進機構会議報告

機構長 丸山 仁

今年度は前期に3回、後期に8回、計11回の機構会議が開催されました。以下に主な検討・実施項目を紹介します。

教育改革の推進について

昨年度から取り組んできた一連の教育改革が、大きく前進しました。教育推進連携部門会議、機構会議の審議を経て、28年度からの（成績の上書きが可能な）GPA制度の導入が決まり、また科目ナンバリングの導入も進みました（工学部、農学部と教養教育センターが先行）。さらに、（4ターム制を視野に入れた）全学的な学事暦の柔軟化（試行）に備えて、1学期16回（4タームの場合は8回－8回）の授業が可能となるように28年度の学事暦を定めました。柔軟化試行の成果の検証、他大学の先行事例の調査等を進めつつ、引き続き学事暦のあり方について検討を進めることになりました。

専任教員（教養教育センター）の採用について

第4回機構会議において、昨年度末に設置された教員選考委員会から、教育推進機構の専任教員（教養教育センター主担当の准教授）として、東北農業研究センター契約研究員の富永陽子氏を最終候補者としたという報告があり、機構会議での審議、投票の結果、同氏の採用を了承しました。なお同人事は、女性限定公募として実施されたものです。

専任教員（グローバル教育センター）の採用について

第2回機構会議において、昨年度末に設置された教員選考委員会から、教育推進機構の専任教員（グローバル教育センター主担当の准教授）として、フィリピンにある日本大使館・国連児童基金・国連食糧農業機関等の組織においてプログラムオフィサー・コンサルタント・調査員等を歴任された平井華代氏を最終候補者としたという報告があり、機構会議での審議、投票の結果、同氏の採用を了承しました。なお同人事は、女性限定公募として実施されたものです。

さらに第8回機構会議において、第2回機構会議で設置された教員選考委員会から、教育推進機構の専任教員（グローバル教育センター主担当の准教授）として、国立鶴岡工業高等専門学校講師の主演祐二氏を最終候補者としたという報告があり、機構会議での審議、投票の結果、同氏の採用を了承しました。これでグローバル教育センターを主担当とする教員は、センター設置に伴い新たに補充を認められた2名を加えて5名体制となり、「学部担当コーディネーター制」が本格稼働することになりました。

グローバル教育センターの体制強化について

第2回機構会議において、グローバル教育センター長からの要請に基づき、4月に設置された同

センターの体制強化について審議しました。その結果、今後の業務遂行において、同センターの業務に精通し、主導的役割を果たす専任教員（教授）が必要であるという結論に至り、構内公募による教授の採用人事を行うことを了承しました。その後全学の組織検討委員会で同採用人事が了承され、第3回機構会議において教員選考委員会を設置しました。第5回機構会議において、教員選考委員会から松岡洋子准教授を最終候補者としたという報告があり、審議、投票の結果、同氏の教授採用（昇任）を了承しました。

成績評価の「保留」について

前年度からの引き継ぎ事項に基づき、第3回機構会議において、成績評価の「保留」の扱いについて審議しました。「保留」制度が例外的な制度であること、この間（成績評価確定期限を越えるものを含めて）保留科目が多数存在すること、成績評価基準に基づく厳格な成績評価が求められていること、また必要に応じて事後の成績評価の変更が可能であること等を踏まえ、保留を廃止する方向で検討したい旨機構長から提案し、各学部を検討を依頼しました。第6回機構会議において、各学部からの意見を踏まえ、慎重に審議した結果、運用を厳格化した上で、当面「保留」制度を存続させることになりました。運用については以下の結論を得ました。

1. 「保留」とした科目については、担当教員が責任をもって（成績評価確定に必要な）指導を行う。
2. 「成績評価確定期限」を越えてなお「保留」となっている科目については、「当該教員が不可であると決定した」とみなして、成績評価（不可）を確定させる。

成績不振の基準及び個別指導の体制について

第10回機構会議において、各学部からの回答に基づき、「成績不振の基準」及び「個別指導の体制」について審議しました。適用単位に関して、工学部は学科単位、他の3学部は学部共通であること、指標に関して、人文社会科学部はGPAと修得単位数の併用、他の3学部においては修得単位数であることを確認しました。全ての学部において、担任もしくは指導教員の個別指導が行われます。なお全学的な相談窓口としては、ラーニング・サポート・ルーム（学修支援室）を活用していくことになりました。

ウインター・セッションについて

第3回機構会議において、本年度の高大連携ウインター・セッションの日程（12月25日～27日）、プログラム概要について審議の上、了承しました。プログラム名については、学長が提示した「岩手大学ビジョン2015（7月28日公表）」を踏まえて、「グローバル（グローバル×ローカル）な大学を目指して一地域に根ざし、世界に羽ばたく！」とすることになりました。また今回は、テーマに合わせて、全体講演（学長）、各学部提供の講義に加え、グローバル教育センターからも講義を提供してもらうことになりました。

平成28年度学年暦

前期予定表

	日	月	火	水	木	金	土
4月						1	2
	3	4	5	6 全学休講 新入生英語試験	7 入学式 新入生学部オリ	8 全学休講 新入生学部オリ	9
	10	11 全学休講	12 Ⅰ：開始	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29 祝日	30
5月	1	2	3 祝日	4 祝日	5 祝日	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1 開学記念日 授業公開期間	2	3	4
6月	5	6	7	8	9	10 Ⅰ：終了	11
	12	13 Ⅱ：開始	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30 クォーター後半科目 履修申告取消期間	1	2
	3	4	5	6	7	8	9
7月	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 祝日	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
	7	8 Ⅱ：終了 補講期間	9 ←夏季休業	10 オープン キャンパス	11 祝日	12 教育学部 8/12～8/16 閉庁	13
8月	14	15	16	17	18	19	20
	21	22 教養教育・専門 成績締切	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
9月	18	19 祝日	20	21	22 祝日	23	24
	25	26 9月卒業式	27 夏季休業→ 成績発表	28 Ⅲ：開始	29 履修申告(7/7/25/26/27) 教育学部補講期間	30	
授業 可能 回数		16回 (15回)	16回	16回	16回	16回 (15回)	4/12～8/8

後期予定表

	日	月	火	水	木	金	土
10月				9/28	9/29	9/30	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10 10月入学式	11	12 月曜授業日	13	14 午後休講	15 大学祭 (オープン・キャンパス)
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
11月	30	31	1	2	3 祝日	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 祝日	22 午後休講	23 推薦入試	24 祝日	25	26
	27	28	29	30 Ⅲ：終了	1 Ⅳ：開始	2	3
12月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20 クォーター後半科目 履修申告取消期間	21	22	23 祝日	24 ←冬季休業
	25	26	27	28	29	30	31
1月	1 祝日	2 振替休日	3	4 冬季休業→	5	6	7
	8	9 祝日	10	11	12 全学休講	13 全学休講	14 大学入試 センター試験
	15 大学入試 センター試験	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3	4
2月	5	6	7	8	9 月曜授業日	10 Ⅳ：終了	11 祝日
	12	13 木曜授業日	14 金曜授業日	15	16	17 教養教育・専門 成績締切	18
	19	20	21	22	23 全学休講	24 全学休講	25 一般入試 (前期)
	26 一般入試 (前期)	27	28	1	2	3	4
3月	5	6	7	8	9 全学休講	10 全学休講	11
	12 一般入試 (後期)	13	14	15	16	17	18
	19	20 祝日	21	22	23 卒業式	24 ←春季休業	25
	26	27	28	29	30	31 春季休業→ 成績発表	
授業 可能 回数		午前17回 午後16回	16回	16回 (15回)	16回 (15回)	午前17回 午後16回 (午前18回 午後15回)	9/28～2/10

※1 平成28年度は教育学部のみ移行措置として、補講期間(=授業無)と追加期間(=授業有)を設ける。

※2 クォーター(試行)科目における前期・後期の後半に開講される科目について、クォーター後半科目に限定した履修取り消し期限を設定する。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー):人文社会科学部

人文社会科学部では、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており、所定の教育課程を学修し、以下に示す能力を修得した者に「学士(総合科学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育により幅広い分野の知識を修得している。
2. 人間・文化・社会・環境について、教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし、専門的な知識と理解を有するとともに、総合的・学際的な広い視野を有している。

(思考・判断)

3. 総合的な学修を活かし、変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

(技能・表現)

4. グローバル化が進む社会において、多様な考え方、異質なものを理解するとともに、自らの見解・成果を的確に表現し、発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

(関心・意欲・態度)

5. 地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み、貢献しようとする積極的な態度と高い倫理性を有している。

【行動科学専修プログラム】

行動科学専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と社会的側面から総合的に理解し、情報科学的素養と人間学的素養をもって、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 心理学、社会学を中心とした行動科学的なアプローチから得られた人間行動に関する知識を幅広く身につけており、人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

(思考・判断)

2. 人間行動をめぐる諸問題に適切に対処するための情報分析能力やコミュニケーション能力を身につけている。
3. 人間行動に関する専門的な知識等を活用して、現実の問題解決に向けてアプローチでき、地域社会に積極的な提案を行うことができる。

(技能・表現)

4. 現代社会に生きる人々が新たに直面する事象を、自らの力で理解し判断する自発的課題探求力を身につけている。
5. 発表や討論を通じてのコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

6. 経験(実習・実験)を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるスキルを修得している。

(関心・意欲)

7. 専門分野の学問内容、最新の研究成果、動向等について興味・関心を持っている。

8. 専門性を活かして、社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処できる。

【スポーツ科学専修プログラム】

スポーツ科学専修プログラムでは、スポーツ科学の基礎的な知識を踏まえ、多様な対象者に適切な運動やスポーツの処方や指導ができる資質を身につけ、スポーツを通じた地域づくりや地域住民の心身の健康づくりに適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. スポーツ科学の基礎的な知識を理解している。

2. 健康づくりに関する知識とその意義を理解している。

(思考・判断)

3. スポーツや健康に関する地域の多様なニーズやシーズを察知でき、適切な対応策が講じられる。

(技能・表現)

4. 対象に応じた適切な運動処方が計画、および具体的な実践指導ができる。

5. 地域課題を探索するために、社会調査等を利用した方法が活用できる。

(関心・意欲)

6. 健康やスポーツによる地域の活性化や地域づくりに関心を持ち、自ら地域に出て実践的な活動をする意欲がある。

(態度)

7. 専門性を生かし、グローバルな視野から地域貢献に積極的に関わる態度を身につけている。

【現代文化専修プログラム】

現代文化専修プログラムでは、人間の営みの総体としての文化を近代モダニズムを含む現代的な視点から捉え、文化現象の生成・発展・変容とともに流動化する現代社会を把握し、文化の継承や創成を通じて地域社会の活性化に寄与できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と素養を有している。

2. 国際的な視野に立って異文化を理解できる。

3. 地域社会の諸問題を歴史や思想などの根源的原理から考察できる。

4. 現代的状況の下で文化がどのように変容していくかを理解できる。

(思考・判断)

5. 地域社会の現況把握や遭遇する諸課題に対して、多角的な視点から対象を把握できる。

6. グローバルな観点が不可欠な現代的諸課題に対して、柔軟な思考で最適解を導き出せる判断力を有している。

(技能・表現)

7. 対象に応じた認識手段や分析手法を有している。

8. 企画・立案した内容や自身の見解等を的確に説明し発信できる。

(関心・意欲・態度)

9. 未知の事象に対しても積極的に対応し得る好奇心や意欲を持っている。

10. 地域社会の活性化等に主体的に関わろうとする態度を有している。

【異文化間コミュニティ専修プログラム】

異文化間コミュニティ専修プログラムでは、性別、国籍、言語・民族性などの違いによってマイノリティ（少数者）が生み出されるしくみ、社会的排除の現状と歴史的背景を学び、これらの知識と当事者へのエンパワーメント・スキルを身につけ、社会的排除の乗り越えを目指す地域の創生に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. マイノリティが生み出されるしくみについて、総合的・多角的に理解する能力を有している。

2. 社会的排除の現状・歴史的背景・乗り越えをめぐる模索について、人文・社会諸科学の幅広い知識にもとづいて理解する能力を有している。

(思考・判断)

3. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らがどのような社会的位置づけに置かれているのかを、人文・社会科学の諸議論をふまえて思考する能力を有している。

4. 性別、国籍、言語・民族性などの違いによって、自らにどのような視座の偏りが生じるのかについて、自覚的な思考ができる能力を有している。

(技能・表現)

5. 社会的排除当事者へのエンパワーメント・スキルのうち、基礎的な技能を身につけている。

6. 社会的排除当事者のヴァルネラビリティ（社会的立場の弱さ）を考慮に入れた、行動や表現ができる能力を有している。

(関心・意欲)

7. 多様なコミュニケーション手段を積極的に学び、国内のみならず国際的な異文化間コミュニティ形成に対する関心を有している。

(態度)

8. 社会的排除の乗り越えに対して、地域の一員として主体的に関わろうとする態度を持っている。

【歴史専修プログラム】

歴史専修プログラムでは、日本・アジア・西洋の過去を横断的に学び、現代の諸問題の歴史的背景を理解するとともに、過去との対話を通して現代を相対化して捉える能力を身につけ、流動性や越境性を増す現代社会で活躍できる、歴史的視座と国際的視野、および比較の視点を有する人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を有し、国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
2. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する横断的、基礎的な知識を有し、現代の諸問題の歴史的背景を理解している。

(思考・判断)

3. 日本・アジア・西洋各国の政治・経済・社会・文化・思想などについて歴史的視座から検討し、また国際的視野から比較することを通して、現代の諸地域の政治・経済・社会・文化・思想などを相対化し、問い直すことのできる能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い、読み解く能力を身につけている。また、従来の研究成果を批判的に検討し、自らの見解を論理的に組み立て、資料に基づいて適切に発表することができる。

(関心・意欲・態度)

5. 日本・アジア・西洋各国の歴史に関する諸問題について自らの課題を見出し、主体的に探究する意欲を持っている。

【芸術文化専修プログラム】

芸術文化専修プログラムでは、社会における文化・芸術のあり方に関する総合的な学修を基礎として、生涯教育活動の中核となる芸術文化の実践によって、地域における文化の活性化、および地域からの文化発信に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 芸術文化の諸領域に関して総合的な素養を身に付けている。
3. 現代的状況や地域社会の下で、多様な視点から芸術文化を理解することができる。
4. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 芸術文化について、作品鑑賞や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 芸術文化におけるアート・デザイン・クラフト・理論の諸領域のいずれかに関して、実践的あるいは論理的な技能を身に付け、作品あるいは文章によって表現することができる。
8. 探求する課題について、制作あるいは文章によって自分の考えを展開し、表現することができる。
(関心・意欲)
9. 芸術文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。
(態度)
10. 強い責任感を持って、専門分野を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

【英語圏文化専修プログラム】

英語圏文化専修プログラムでは、英語圏の文化・文学・言語について深い理解と英語の高度なコミュニケーション能力を通して、グローバル社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野に関して総合的な素養を身に付けている。
4. 英語圏の文化・文学・言語・英語習得の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。

(思考・判断)

5. 英語圏の文化・文学・言語について、英語の資料や文献を使って自主的に学習し思考することができる。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

7. 実践的な英語コミュニケーション能力を身に付け、英語圏の人と英語で交流することができる。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

(関心・意欲)

9. 英語圏の文化と言語に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 強い責任感を持って、専門分野で得た知識や技能を社会に活かそうとする態度を身に付けている。

【ヨーロッパ語圏文化専修プログラム】

ヨーロッパ語圏文化専修プログラムでは、ヨーロッパの諸言語（ドイツ語、フランス語、ロシア語）のコミュニケーション能力を養成するとともに、ヨーロッパ諸国の文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、ヨーロッパ諸言語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. ヨーロッパ諸国の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
4. ヨーロッパ諸国の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。
(思考・判断)
5. ヨーロッパ社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。
(技能・表現)
7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。
(関心・意欲)
9. ヨーロッパの諸言語、文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。
(態度)
10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

【アジア圏文化専修プログラム】

アジア圏文化専修プログラムでは、日本および中国を中心としたアジア地域の歴史的文化的特徴・社会事情の理解、文学作品・作家についての理解、日本語および中国語の言語学的分析方法の習得などを通して、多文化・多言語化するグローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

- (知識・理解)
1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
 2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
 3. アジア圏の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
 4. アジア圏の言語・文化・文学の諸分野のいずれかに関して深い知識を有している。
(思考・判断)
 5. アジア圏における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
 6. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。
(技能・表現)
 7. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
 8. 探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。
(関心・意欲)

9. アジア圏の諸言語、文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

【政策法務専修プログラム】

政策法務専修プログラムは、法学全体、とくに公法、刑事法、政治学などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義、歴史的経緯についての的確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【企業法務専修プログラム】

企業法務専修プログラムは、法学全体、とくに民法(財産法)、商法、労働法などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。こ

の目的の下、本プログラムの教育課程は、企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし、以下に示す条件を満たした者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域産業が抱える現実的な法的（とくに私法に関する）課題の内容や意義、歴史的経緯についての確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法）、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域産業が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【地域社会経済専修プログラム】

地域社会経済専修プログラムでは、経済学の基礎的学修とともに、地域・地方自治にかかる基礎的な制度・政策を学ぶことによって、地域経済の創生・再生を担うことができる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域経済のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。
4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域経済のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域経済の現状や課題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域経済が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

【地域社会連携専修プログラム】

地域社会連携専修プログラムでは、経済学を基礎として、法学や環境学の視点を取り入れながら地域社会や産業の現場で生じている生産・生活をめぐる諸問題を学修することによって、地域が抱える諸課題を総合的な観点から解決できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域社会や産業のしくみを総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 経済と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する経済学的素養を身につけている。
4. 経済学をはじめとした専門的知識を活用し、地域社会や産業のしくみとその課題を総合的に思考することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会や産業が抱える諸問題を関連資料・データに基づいて理論的・実証的に分析・評価し、それらに基づく政策的判断ができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会や産業が抱えるさまざまな諸問題や経済現象に強い関心を持っている。
8. 経済学をはじめとする専門的視点を活かして、地域社会や産業の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につ

けている。

【環境共生専修プログラム】

環境共生専修プログラムでは、環境学・法学・経済学の総合的学修を基礎に、環境学の専門的学修を環境政策・環境マネジメントの実践に活かし、持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。
4. 環境学を始めとした専門的知識を活用し、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会とその環境に関する調査・分析ができ、そこに潜む問題点やその解決法について、自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地球規模から身近な地域まで、多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境や地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー):教育学部

岩手大学教育学部の理念と教育目標に則り、所定の教育課程(複数免許取得を含む)を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(教育)」の学位を授与する。

【小学校教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 小学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探求的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 小学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

【中学校教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 中学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 取得する免許教科の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探求的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

【理数教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 義務教育段階の学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 理科あるいは算数・数学の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識、理数教育に関する知識、及び実践的な体験を通して、学校教育について実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探求的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 理数教育を中心として小学校及び中学校における学習指導の基本的な技能を身につけている。
8. 小学校及び中学校における生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
9. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。

また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

10. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、理数教育の充実を中心として学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

11. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

【特別支援教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 特別支援学校における教育及び小学校教育または中学校教育並びに子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 特別支援学校及び小学校または中学校の各教科等の内容並びに指導法に関する基礎的な知識を身につけている。

4. 特別支援教育の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。

6. 特別支援教育への探求的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 小学校または中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。

8. 特別支援学校における指導及び支援、特別支援学校が有するセンター的機能に求められる相談支援のための基礎的な技能を身につけている。

9. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

10. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

11. 特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち、最新の動向の把握に努め、特別支援教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

12. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

13. 特別支援教育に対する強い使命感と責任を自覚し、児童生徒及び保護者の思いに寄り添う態度を身につけている。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー):理工学部

- ・理学・工学双方の素養を有し、両学問を統合・融合した理工学の幅広い学力と論理的な思考力を持ち、地域や世界の諸課題に果敢に挑戦する研究者・技術者として主体的に活躍する能力を身に付けたと認定した場合、「学士(理工学)」の学位を授与する。
- ・工学系の幅広い学力、専門分野の深い知識と柔軟な思考力を持ち、社会で要求される様々な工学システムの開発、設計、製造に関する次世代の技術者・研究者として主体的に活躍する能力を身に付けたと認定した場合、「学士(工学)」の学位を授与する。

◇化学・生命理工学科

【化学コース】

化学コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と理工学分野の基礎学力を身につけている。
2. 化学に関する専門知識を有し、それらを応用できる。

(思考・判断)

3. 地域における諸問題を分析し、その解決法を論理的に提案できる。
4. 化学に関する専門知識に基づいて、直面する課題に対する解決法を思考することができる。

(技能・表現)

5. 化学技術者として必要な基本的実験技能を有する。
6. 実験や調査結果を論理的に表現する文章作成能力を有し、国際的に通用するプレゼンテーション能力を身につけている。

(関心・意欲・態度)

7. 地域における課題、化学に関する研究動向に関心を持っている。
8. 化学に関する知識や技能を活かして、社会に貢献する意欲と態度を持っている。

【生命コース】

生命コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 一般教養を身につけている。
2. 自然科学に関する幅広い基礎知識と、生命理工学に関する専門知識を有しそれらを応用できる。

(思考・判断)

3. 多様な社会性や地域性を考慮しつつ、生命理工学の見地から健康や福祉等の諸問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(技能・表現)

4. 生命理工学分野の基本的な研究・実験技能を身につけている。
5. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を修得している。
(関心・意欲・態度)
6. 生命理工学及び関連分野の進展に関心を持ち、主体的に学ぶことができる。
7. 生命理工学に関する知識や技能を活かして、社会に貢献する意欲と態度を持っている。

◇物理・材料理工学科

【数理・物理コース】

数理・物理コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育、数学、物理、化学の各分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。
2. 数理科学および物理学に関する幅広い専門知識を有している。

(思考・判断)

3. 数理科学および物理学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(興味・関心)

4. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う新現象の解明、研究手法の開発、および、数理科学、物理学に大いなる意欲を有している。

(技能・表現)

5. 教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や演習、計算の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
6. 科学英語の読解力と文章力を有するとともに、英語により自らの成果をプレゼンテーションすることができる。

(態度)

7. 社会における科学技術の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術を地域や国際社会の様々な問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

【マテリアルコース】

マテリアルコースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育、数学、物理、化学の各分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。
2. マテリアル工学および材料科学に関する幅広い専門知識を有している。

(思考・判断)

3. マテリアル工学および材料科学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(興味・関心)

4. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う材料開発や評価技術開発に大いなる意欲を有している。

(技能・表現)

5. 教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や計算の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
6. 研究者あるいは技術者として必要な科学技術英語の基礎知識と技能を有している。

(態度)

7. 社会におけるマテリアル工学および材料科学の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術をエネルギーや地球環境などの問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

◇システム創成工学科

【電気電子通信コース】

電気電子通信コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養を備え、電気電子通信工学に関する基本的な原理、法則、理論を理解している。

(思考・判断)

2. 専門知識を実際の課題に結びつけて柔軟な思考ができ、創造的に応用することができる。

(技能・表現)

3. 電気・電子・通信に関する機器の動作原理を理解し、活用することができる。
4. 他人と議論や協力ができる論理的なコミュニケーション能力・語学力を身につけている。

(関心・意欲)

5. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学習することができる。

(態度)

6. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

【知能・メディア情報コース】

知能・メディア情報コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と知能・メディア情報工学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

(思考・判断)

2. 問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。
3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。
5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。
6. 知能・メディア情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

(興味・関心・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び知能・メディア情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。
8. 社会における知能・メディア情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

【機械科学コース】

機械科学コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 一般的な教養を身につけ、工学に関する幅広く基礎的な知識と、機械科学に関する専門的な知識及び技能を修得している。

(思考・判断)

2. 幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会における科学技術者の在り方や社会への貢献について考察できる。

(技能・表現)

3. 機械科学分野の機器およびコンピュータを活用し、所望の機能を実現する基礎的な能力を身につけている。
4. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけている。

(関心・意欲)

5. 機械科学の進展に関心を持ち、専門的な知識を応用しながら主体的に学習することができる。

(態度)

6. 社会における機械科学の役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

【社会基盤・環境コース】

社会基盤・環境コースの教育目的と修得能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を習得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。
2. 社会環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身

につけている。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。
4. 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学習を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学習能力)。

(関心・意欲・態度)

5. 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環社会構築のための技術を考える能力を身につけている。
6. 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。

(技能・表現)

7. 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。
8. 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。
9. 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー):農学部

岩手大学農学部では、所定の教育課程を修了し、以下に掲げる各学科・コースの学位授与の方針に該当する者に学位を授与する。

◇植物生命科学科

植物生命科学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 生命機能を解明し、農業生産に応用するための自然科学、情報技術、コミュニケーション技術に関する基礎知識を有している。
2. 有用植物の遺伝育種・機能開発、新規作物の創出、植物ウィルスと昆虫の制御及び機能利用、持続的農業生産、有用技術の開発・応用に関する科学的方法について十分に理解している。

(思考・判断)

3. 生命資源・農学に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめ、行動することができる。

(関心・意欲)

4. 豊かな課題探求能力と課題解決能力をもって生命資源に関連する諸課題を解決しようとする意欲を持っている。

(態度)

5. 生命資源の創出・発展のニーズに、協調性と倫理性をもって、自律的・継続的に行動することができる。

(技能・表現)

6. 自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

◇応用生物化学科

応用生物化学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 微生物や動植物などの生物資源に関する分子レベルから生態系レベルまでの生命現象や食品素材の特性を理解するための基礎的な知識を化学的な視点で理解している。

(思考・判断)

2. 生物資源や食品素材に関する知識と理解を基礎に、食糧、環境、健康に関する諸課題・未知事項について、多面的に思考し、自らの考えをまとめることができる。

(関心・意欲)

3. 食糧、環境、健康に関する課題や未知事項に関心を持ち、その解決・解明に意欲的に取り組

むことができる。

(態度)

4. 生物資源の有効利用やその応用を通じて、食品産業や医薬品産業を始めとするバイオ関連産業の創出・発展に寄与し、地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

(技能・表現)

5. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

◇森林科学科

森林科学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学、自然科学、情報処理に関する基礎的知識を持っている。
2. 森林科学の学問内容および方法を説明できる。

(思考・判断)

3. 森林の多面的機能について、総合的に考えることができる。
4. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる。

(関心・意欲)

5. 地球的視点から、各地の文化や異なる価値観に関心を示している。
6. 自主的、継続的に学修できる。

(態度)

7. 技術者が社会に対して負っている責任を感じる。
8. チームワークを意識して行動できる。

(技能・表現)

9. 日本語で論理的に記述・発表・討議できる。
10. 森林科学の知識を利用し、社会の要求を解決するために提案できる。

◇食料生産環境学科

【農村地域デザイン学コース】

食料生産環境学科農村地域デザイン学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 自然科学や情報技術および地域文化に関する基礎知識を身につけている。
2. 農村地域デザイン学の基礎・応用分野の知識を身につけている。

(思考・判断)

3. 地域の問題点と課題を理解し、生産環境と地域社会の計画・設計の在り方を考察できる。
4. 自ら課題を見つけ、計画を立て、自分の考えをまとめ、積極的に表現することができる。

(関心・意欲)

5. 地域の生産・生活基盤の充実と環境改善に対する関心を持ち、解決の意欲がある。

(態度)

6. 技術者としての社会的責任の重さを自覚している。

(技能・表現)

7. 地域・現場の人達と良好なコミュニケーションを図る能力がある。

8. 文章や口頭発表による表現力を身につけている。

【食産業システム学コース】

食料生産環境学科食産業システム学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 食産業に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学、情報技術および地域社会に関する基礎知識を身につけている。

2. 食料安定供給と環境負荷低減の両立や農業の6次産業化の推進など、次世代の食産業システムの構築に関する広範な知識を有している。

(思考・判断)

3. 食産業に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめ、行動することができる。

(関心・意欲)

4. 食産業について多面的な関心を持ち、技術や経営の革新を通じて諸課題を解決しようとする意欲を持っている。

(態度)

5. 食産業における技術開発や経営活動において、協調性と倫理性をもって、自律的に行動できる。

(技能・表現)

6. 自らの論理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

【水産システム学コース】

食料生産環境学科水産システム学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 水産システム学を実践するための数学、自然科学、社会科学、コミュニケーション（日本語・英語）に関する基礎的知識を身につけている。

2. 水産業の復興と持続的発展に貢献するために、水産科学分野に加えて、水産業に関わる人文・社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に身につけ、水産業の現状とその課題を俯瞰的視点から理解できる。

(思考・判断)

3. 水産業が抱える諸課題について多角的に分析、俯瞰的に思考し、最善の解決策を判断できる。

(関心・意欲)

4. 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、問題解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を持つ。

(技能・表現)

6. 漁業及び周辺産業、海洋環境や水産資源管理の現状把握と分析のための基礎的な技術を身につけている。

7. 調査や統計データを的確に分析・利用する技術、結果に基づく論理的な思考能力、および得られた結果を的確に伝えることが出来るコミュニケーション力(プレゼンテーション、日本語、英語)を身につけている。

◇動物科学科

動物科学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 農学や生命科学につながる幅広い知識及びその基礎となる教養を持っている。

2. 動物生産及び動物科学分野に関する知識を持っている。

(思考・判断)

3. 動物関連産業に関する課題の解決を適切に行うため、動物生産及び動物科学分野に関する知識により考察することができる。

(関心・意欲)

4. 動物関連産業に関する課題に関心を持ち、課題の解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 動物関連産業に関する課題の解決を客観的に行うため、情報収集及び議論を積極的に行うことができる。

(技能・表現)

6. 動物関連産業に関する課題を解決して論文又は口頭で発表を行うか、修得した動物生産及び動物科学分野の技術を実践することができる。

◇共同獣医学科

共同獣医学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(獣医学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。

(思考・判断)

2. 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

(関心・意欲)

3. 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している。
4. 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得しており、意欲も有している。

(態度)

5. 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。
6. 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる。

(技能・表現)

7. 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる。
8. 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。

ナンバリングについて

教育推進機構

平成28年度から導入を開始するナンバリングについて、以下の基本ルールで教養教育、理工学部、農学部について番号の付与を行いました。番号付与のルールについては、今後も議論を続け、常に見直す必要があると考えています。

なお、平成28年度分については、登録済みのシラバスに対して、「科目番号」として、これらの番号を表示させる予定です。

■基本ルール：分野名の英記号（3文字）＋3桁の数字

- * 当初は英語の記号を3文字とするが、将来的には拡張可能。
- * 分野名の設定については、詳細にならないように注意が必要。大きなくくりで考える。
- * 3桁の数字は、基本的に「レベル」を表現するものとするが、カリキュラムにおける「レベル」の概念は難しいので、科目の識別番号としての意味合いを持つケースもある。
- * 基本的に、番号が大きくなるほど「高年次で」履修するものとなるが、必ずしも履修順序が明確な科目ばかりではないので、あくまでも目安という位置づけである。

■教養教育 ※シラバス掲載済

○基本ルール：

- * 講義科目は100番台。
- * リメディアル科目は50番台。
- * 2年次にならなければ履修できない科目は200番台（英語発展、地域課題演習等）。

■理工学部：

○基本ルール：

- * 専門基礎科目は160～を利用（他学部との棲み分けのため）。
- * 高大連携科目は50番台。
- * 学部内共通科目は履修年次にあわせて、1年次100番台、2年次200番台、3年次300番台、4年次400番台で配置。
- * 学科内共通科目は200番台を配置。
- * コース科目は300番台を配置。
- ※この200番台、300番台は専門性の深さで判断。コース科目の方が専門性が深いということで、300番台を配置。
- * コース科目の中では、履修順序を基本とするが、以下のようなルール付けを行っている学科（コース）もある。他コース等でルール作りをするかどうかは、今後の課題。

電気電子通信コース		知能・メディア情報コース		機械科学コース	
十の位	科目グループ	十の位	分野	十の位	科目グループ
0	電気回路	1	ソフトウェア	0	機械力学・メカトロニクス
1	電磁気学	2	コンピュータシステム	1	材料力学
2	電子回路	3	ハードウェア	2	設計製図
3	計測・制御	4	情報工学基礎	3	機械材料および加工
4	通信システム	5	知能・メディア	4	熱流体力学
5	電子デバイス	8	卒研関連	5	燃焼・伝熱・環境問題
6	電気エネルギー			6	コンピュータ
7	実験実習			7	実験・実習・演習系
8	共通科目			8	共通科目
9	その他				

■農学部：

○基本ルール：

- * 専門基礎科目は180～を利用（他学部との棲み分けのため）。講義科目（180～）、演習科目（186～）、実験（191～）と科目の種別により、番号を配置。
- * 学部共通科目は履修年次にあわせて、1年次（181～）、2年次（281～）、3年次（381～）を配置。
- * 今回、専門重点科目については、各学科（コース）毎にルールを策定。将来的には、ある程度ルールを一本化する方向性で議論を行う。
- * 特に各学科（コース）で共有する分野名については、番号のルール付けが必要。
- * 具体的には以下の通り。

植物生命科学科	応用生物化学科	森林科学科	動物科学科
100番台：1年	100番台：1年	100番台：1年	100番台：1年
200番台：2年	200番台：2年	200番台：2年	200番台：2年
300番台：3年	300番台：3年	300番台：3年	300番台：3年
400番台：4年	400番台：4年	400番台：4年	400番台：4年
10番台：作物	講義科目：00～	講義科目：00～	
20番台：蔬菜	実験・演習：50～	実験・演習：50～	
30番台：果樹			
40番台：育種			
50番台：生理			
60番台：病理			
70番台：昆虫			
80番台：経済			
90番台：農場			
00番台：共通			
5番：実験			
6番：演習			
1桁台：履修順			

食料生産環境学科			共同獣医学科
農村地域デザイン学	食産業システム学	水産システム学	
100番台：1年	100番台：1年	100番台：1年	100番台：基礎獣医学科目
200番台：2年	200番台：2年	200番台：2年	200番台：病態獣医学科目群
300番台：3年	300番台：3年	300番台：3年	200番台：応用獣医学科目群
400番台：4年	400番台：4年	400番台：4年	300番台：小動物臨床獣医学科目群
70番台：講義	10番台：環境		300番台：大動物臨床獣医学科目群
80番台：講義	20番台：情報		選択科目：履修年次配置
90番台：実験・実習・演習	30番台：機械		専修科目：履修年次配置
1桁台：履修順	40番台：資源		
	50番台：農産		
	60番台：経済		
	00番台：共通		
※AGEについては、食産業システム学との調整が必要	5番：実験		
	6番：演習		
	1桁台：履修順		

（資料作成：江本理恵）

教養教育科目：ナンバリング一覧

科目区分	科目名	ナンバリング		
		分野英語名	分野記号	番号
転換教育科目	基礎ゼミナール	Basic Seminar	SEM	101
外国語科目	英語総合Ⅰ（初級）	English	ENG	111
	英語総合Ⅱ（初級）	English	ENG	112
	英語総合Ⅰ（中級）	English	ENG	113
	英語総合Ⅱ（中級）	English	ENG	114
	英語総合Ⅰ（上級）	English	ENG	115
	英語総合Ⅱ（上級）	English	ENG	116
	英語コミュニケーションⅠ（初級）	English	ENG	117
	英語コミュニケーションⅡ（初級）	English	ENG	118
	英語コミュニケーションⅠ（中級）	English	ENG	119
	英語コミュニケーションⅡ（中級）	English	ENG	120
	英語コミュニケーションⅠ（上級）	English	ENG	121
	英語コミュニケーションⅡ（上級）	English	ENG	122
	英語基礎	English	ENG	051
	英語発展 A	English	ENG	201
	英語発展 B	English	ENG	202
	英語発展 C	English	ENG	203
	英語発展 D	English	ENG	204
	英語発展 E	English	ENG	205
	英語発展 F	English	ENG	206
	英語発展 G	English	ENG	207
	英語発展 H	English	ENG	208
	初級ドイツ語（入門）	German	GER	111
	初級ドイツ語（発展）	German	GER	112
	中級ドイツ語	German	GER	113
	初級フランス語（入門）	French	FRE	111
	初級フランス語（発展）	French	FRE	112
	中級フランス語	French	FRE	113
	初級ロシア語（入門）	Russian	RUS	111
	初級ロシア語（発展）	Russian	RUS	112
	中級ロシア語	Russian	RUS	113
	初級中国語（入門）	Chinese	CHI	111
	初級中国語（発展）	Chinese	CHI	112
	中級中国語	Chinese	CHI	113
	初級韓国語（入門）	Korean	KOR	111
	初級韓国語（発展）	Korean	KOR	112
	中級韓国語	Korean	KOR	113
	上級日本語 A	Japanese	JPN	211
	上級日本語 B	Japanese	JPN	212
	上級日本語 C	Japanese	JPN	213
	上級日本語 D	Japanese	JPN	214
	上級日本語 E	Japanese	JPN	215
	上級日本語 F	Japanese	JPN	216
	上級日本語 G	Japanese	JPN	217
	上級日本語 H	Japanese	JPN	218
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ A	Sports Practice	SPT	111
	健康・スポーツ B	Sports Practice	SPT	112
	健康・スポーツ C（シーズン）	Sports Practice	SPT	113
情報科目	情報基礎	Information Science	IFS	101
文化科目	哲学の世界	Philosophy	PHI	111
	倫理学の世界	Ethics	ATH	111
	日本の思想と文化	Thought and Culture	THG	111
	アジアの思想と文化	Thought and Culture	THG	112
	欧米の思想と文化	Thought and Culture	THG	113
	日本の歴史と文化	History and Culture	HIS	111
	アジアの歴史と文化	History and Culture	HIS	112
	欧米の歴史と文化	History and Culture	HIS	113
	ジェンダーの歴史と文化	Gender	GDE	111
	女性と科学の関係史	Gender	GDE	112
	大学の歴史と現在	History of University	HIS	114
	岩手大学ミュージアム学	Museology	MUS	111
	心の理解	Psychology	PSY	111
	日本の文学	Literature	LIT	111
	言葉の世界	Linguistics	LIN	111
	中国の文学	Literature	LIT	112
	欧米の文学	Literature	LIT	113
	欧米の言語論	Linguistics	LIN	112
	芸術の世界	Art	ART	111

ナンバリングについて

科目区分	科目名	ナンバリング		
		分野英語名	分野記号	番号
社会 科目	日本語表現技術入門	Japanese	JPN	120
	図書館への招待	Library Science	LBR	111
	コミュニケーションの現在	Communication	CMN	111
	心と表象	Psychology	PSY	112
	日本事情 A	Japanese Culture	JAC	111
	日本事情 B	Japanese Culture	JAC	112
	英語で学ぶ日本の文化	Japanese Culture	JAC	113
	市民生活と法	Law	LAW	112
	憲法	Constitutional law	LAW	111
	経済のしくみ	Economics	ECO	111
	現代社会と経済	Economics	ECO	112
	市民と政治	Political Science	POL	111
	現代政治を見る眼	Political Science	POL	112
	社会的人間論	Sociology	SOC	111
	現代社会の社会学	Sociology	SOC	112
	地域と生活	Geography	GEO	111
	地域と社会	Geography	GEO	112
	対人関係の心理学	Psychology	PSY	120
	知的財産入門	Law	LAW	113
	知財ワークショップ	Law	LAW	114
自然 & 科学 技術 科目	キャリアを考える	Career Education	CAE	111
	ボランティアとリーダーシップ	Sociology	SOC	113
	科学・技術と現代社会	Sociology	SOC	114
	現代の諸問題	Sociology	SOC	115
	公共社会	Sociology	SOC	116
	多文化コミュニケーション A	Communication	CMN	112
	多文化コミュニケーション B	Communication	CMN	113
	生命のしくみ	Natural Science	SCE	111
	自然のしくみ	Natural Science	SCE	112
	自然と数理	Natural Science	SCE	113
	数理のひろがり	Natural Science	SCE	114
	宇宙のしくみ	Natural Science	SCE	115
	物質の世界	Natural Science	SCE	116
環境 科目	自然と法則	Natural Science	SCE	117
	自然と数理の世界	Natural Science	SCE	118
	自然の科学	Natural Science	SCE	119
	科学と技術の歴史	History of Science	HIS	115
	くらしと科学技術	Scientific Technology	TEC	111
	科学技術	Scientific Technology	TEC	112
	「環境」を考える	Environment	ENV	111
	生活と環境	Environment	ENV	112
	都市と環境	Environment	ENV	113
	地域の環境保全を考える	Environment	ENV	114
	地球環境と社会	Environment	ENV	115
	水と環境	Environment	ENV	116
	廃棄物と環境	Environment	ENV	117
地域 関連 科目	植物栽培と環境テクノロジー	Environment	ENV	118
	森林と環境	Environment	ENV	119
	動物と環境	Environment	ENV	120
	人の暮らしと生物環境	Environment	ENV	121
	環境マネジメントと岩手大学	Environment	ENV	122
	環境の科学	Environment	ENV	123
	現代社会をみる視角	Local Learning	LOC	111
	岩手の研究	Local Learning	LOC	112
	環境マネジメント実践学	Local Learning	LOC	113
	いわて学 I	Local Learning	LOC	114
	いわて学 II	Local Learning	LOC	115
	宮沢賢治の世界	Local Learning	LOC	116
	危機管理と復興	Local Learning	LOC	117
	持続可能なコミュニティづくり実践学	Local Learning	LOC	118
	地元の企業に学ぶ E S D	Local Learning	LOC	119
	地場産業・企業論	Local Learning	LOC	120
	三陸の研究	Local Learning	LOC	121
	自然災害と社会	Local Learning	LOC	122
	東北の歴史	Local Learning	LOC	123
	地域を考える	Local Learning	LOC	124
	地域と国際社会	Local Learning	LOC	125
	海外研修－世界から地域を考える－	Local Learning	LOC	126
	初年次自由ゼミナール	Basic Seminar	SEM	102

科目区分	科目名	ナンバリング		
		分野英語名	分野記号	番号
地域課題演習	地域課題演習A	Regional Studies	RES	201
	地域課題演習B	Regional Studies	RES	202
	地域課題演習C	Regional Studies	RES	203
	地域課題演習D	Regional Studies	RES	204
	地域課題演習E	Regional Studies	RES	205
	地域課題演習F	Regional Studies	RES	206
	地域課題演習G	Regional Studies	RES	207
	地域課題演習H	Regional Studies	RES	208

GPAについて

教育推進機構

平成27年12月16日機構会議にて決定した事項を整理

【GPAの算出方式】

1. 成績評価に対して、以下の通りGP (Grade Point) を付与する。

成績評価	GP (Grade Point)
秀	4.0
優	3.0
良	2.0
可	1.0
不可	0.0

2. GP の平均値を以下のように計算する。

GPA =

$$\frac{\text{「秀」の単位数} \times 4.0 + \text{「優」の単位数} \times 3.0 + \text{「良」の単位数} \times 2.0 + \text{「可」の単位数} \times 1.0}{\text{「秀」の単位数} + \text{「優」の単位数} + \text{「良」の単位数} + \text{「可」の単位数} + \text{「不可」の単位数}}$$

※分母については、おおよそ以下の通りとなる。

- ・分母：「履修申告した科目のうち、GPA 算出対象科目の単位数を足し合わせたもの」
- ・通算を計算する際には、(「不可」だった科目については) 成績評価を「上書き」する。例えば、以前に「不可」をとった科目を再履修して「可」となった場合、「可」のみを算出対象とする。重複履修が認められている科目については、(従来通り) それぞれを算出対象とする。
- ・GPA 計算にあたっての「保留」単位の扱いが決まっていない(分母にいれるかどうか等)ので、分母の正確な定義は現時点ではできない。(「保留」については、教務企画課長預かり。)

【学生への通知方法等】

- 学生に配布する「成績通知書」に記載する。
- 「成績通知書」には、「当該学期の GPA」と「通算の GPA」、および、それぞれの「当該学生が所属する学科・課程・コースの GPA 平均値」を掲載する。
- 理工学部は現在の「工学部 GP」も併記する。

【検討事項（現時点で確定していない事項）】

- GPA 算出対象科目
 - ・「保留」単位があった場合、GPA の計算に組み入れるかどうか。
 - ・当面は、提案通り(工学部 GP に準ずる)とし、以下の科目が算出対象科目となる。
全学共通教育科目(教養教育科目)、専門教育科目、放送大学プロジェクト科目
- GPA 算出から除外される科目
 - ・工学部 GP では以下の科目は算出から除外される。
課外科目、資格試験による単位認定、編入学に係る単位認定、留学による単位認定、放送大学単位互換、北東北3大学科目、いわて5大学単位互換、他大学科目、成績評価を伴わない科目(「合」とする科目)等。
 - ・その他、以下のような考え方もあり、今後の議論が必要である。
 - ・成績評価が出ている科目(「合」以外の科目)はすべて算入する
 - ・成績評価が出ている科目(「合」以外の科目)のうち、卒業要件とならない科目(キャップ制に該当しない科目)をのぞいた科目をすべて算入する。
 - ・留学による単位認定を算入する
- 学生指導等への活用方法
 - ・成績不振学生の抽出の指標の1つとする等、学生指導に役立てる。

人文社会科学部 カリキュラムの検証・評価

人間科学課程

人間情報科学コース

学位授与の方針達成度自己評価等アンケート結果(2015)に基づいて

人間情報科学コースの学位授与の方針は次の7項目である。

1. 人間とはどのような存在かを人間科学的及び情報科学的な方法で理解している
2. その理解を人間科学と情報科学との横断領域(心理学など)で補完することによって、複雑化した現代社会における諸課題に適切に対処できる
3. 伝統的な人間科学と萌芽期にある情報科学との連携の中で、人間存在についての新たな学問のあり方を探求する能力をもっている
4. 人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を習得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処できる
5. 現代社会において、新たに直面する事象を自らの力で理解し判断する自発的課題探求を身につけている
6. 他者との関わり、他者理解に際して、発表や討論を通じてのコミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを習得している
7. 経験(実習・実験)を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるスキルを習得している

それぞれの項目に対して以下の①～④の4者択一のアンケートが行われた。

- ① 入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。
- ② 入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである。
- ③ 入学の時点で多少できていたが、あまり変わらなかった。
- ④ 入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった。

①と④を選択した人数よりも、②と③を選択した人数が上回った項目は3である。項目3は人間科学と情報科学の境界領域の達成度であり、人間情報科学基礎演習や人間情報科学演習Ⅰ、Ⅱは境界領域の能力獲得も授業の目標の一つではあるが、まだ十分にはその目標を達成されてはいないようである。

①と④を選択した人数と②と③を選択した人数が同数の項目が5である。項目5は自発的課題探求能力の達成度であり、人間情報科学演習Ⅰ、Ⅱや卒業研究の授業の目標の一つである。

その他の項目については、①と④を選択した人数が②と③を選択した人数を上回っていた。学位授与の方針全体については、以下のQ1～Q3のアンケートが行われた。

Q1. あなたは、上記の「学位授与の方針」を知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

知っていると答えた人は三分の一で、三分の二は知らなかった。

Q2. あなたは、大学での学修を通して、上記「学位授与の方針」を十分に身につけることができたと思いますか？

- ① 十分身につけることができた ② 少し足りないところもあるが、身につけることができた。 ③ あまり身につけられなかった。 ④ まったく身につけられなかった。

Q3. あなたが受けたカリキュラムは、上記「学位授与の方針」を身につけるのに十分なものであったと思いますか？

- ① 十分なものであった ② 少し足りないところもあったが、十分だった。
③ かなり足りないところがあった。 ④ まったく足りなくて不十分だった。

Q2 と Q3 については、ほとんどの学生が①か②を選択していた。

学位授与の方針の各項目に対する単位取得状況には大きな偏りがみられるが、これはその項目を指定している単位数自体が偏っているせいである。

学士力達成度自己評価アンケート結果について

学士力達成度自己評価アンケートについても次の 9 項目について、上と同様に行われた。

【知識・理解】

1) 幅広い基礎的知識

文化・社会・自然・環境に関する諸現象についての学問的な基礎知識を理解する

2) 学問的専門性

所属する学科・課程での学士課程に求められる学問的な専門性を習得する

3) 領域を超えた学際的知識

グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する

【汎用的スキル】

4) 論理的思考力

自然現象や社会現象等を多面的に考察し、自分の考えを論理的に展開できる

5) コミュニケーション・スキル

日本語や他の言語を運用して、課題解決に向けて他者と効果的に意思疎通を図ることができる

6) 情報リテラシー

多様な情報を適切かつモラルに則って収集・処理・分析し、その結果を効果的に活用できる

【態度・志向性】

7) 持続可能な共生社会への志向性

環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対して、持続可能性の観点からその解決に取り組む姿勢を持つ

8) 市民としての社会的責任

人や自然を思いやり、自己の良心にしたがって市民として責任ある判断や行動ができる

9) 課題探求力

生涯を通じての持続的な学習に備え、課題を主体的に探求できる

個別項目のアンケート結果について、①と④を選択した人数よりも、②と③を選択した人数が上回った項目は 7) であり、同数の項目が 3) であった。

全体についての質問については、Q2 と Q3 についてはコースのものと同様の結果であったが、Q1 について岩手大学の学士力を知っている学生はいなかった。岩手大学のウェブページには、「学位授与の方針：学士課程」として上の 9 項目が書かれているが、学士力という言葉が使われていないので、質問の仕方に問題があったのかもしれない。

行動科学コース

「26 年度行動科学コース卒業予定学生」は、1 から 6 までの学位授与の方針については、比率の低い項目であっても 5 割以上が、①「入学時点ではほとんどできなかったが、できるようになった」を選択しており、おおむね理想的な達成状況と判断できる。

ただし、7「経験（実習・実験）を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団行動場面におけるスキルを習得している」については、4 割弱しか①「できるようになった」を選択していない。カリキュラムの見直しと学位授与の方針のレベルについても見直しが必要

要な項目である。

Q 2 「学位授与の方針」を十分身につけることができたか。(p 21～)

「26 年度行動科学コース卒業予定学生」は、14%が①「できた」を選択し、86%が②「少し足りないところもあるが、できた」を選択している。「できなかった」という回答はなかった。「26 年度行動科学コース卒業予定学生」は、「学位授与の方針」を身につけることができたと評価できる。

Q 3 受けたカリキュラムは「学位授与の方針」を身につけるのに十分か。(p 22～)

「26 年度行動科学コース卒業予定学生」は、7 割が①「十分なものだった」を選択し、3 割が②「少し足りないところもあるが、十分だった」を選択している。「足りない、不十分だった」を選択した者はいなかった。「26 年度行動科学コース卒業予定学生」は、受けたカリキュラムが「学位授与の方針」を身につけるのに十分であるという評価をしていることがわかる。

平成 26 年度卒業生の「学士力」達成状況集計から (p 24～)

「行動科学コース学位授与の方針」7 項目とも、学位授与の方針達成に「特に寄与する科目 (◎)」と「寄与する科目 (○)」とをあわせた取得単位数が、「印なし (△)」の修得単位数よりも多くなっており、学位授与の方針達成に寄りそったカリキュラムであると評価できる。

あえて課題を指摘するならば、1 「心理学、社会学、地理学的アプローチによって得られた人間行動に関する知識を有し、人間行動とその諸条件を心理面と社会面の両側面から複眼的に理解することができる」について、学位授与の方針達成に「印なし (△)」が 12.5 と他に比べれば高い取得単位数となった点である。

各専門分野を授業内に盛り込んだオムニバスの講義を除いて、1 の学位授与の方針は、心理学や社会学や地理学等個々の専門科目中で達成されるものではなく、コース専門科目の複数科目を取り終えることで、「複眼的に理解することができる」ものである。したがって授業科目の単位数で換算すると学位授与の方針達成に寄与する科目として印をつけなかった専門分野の授業があると考えられる。しかし卒業に必要な単位を取得できた時点で、1 の「学位授与の方針」は達成されると判断できるうえ、新カリキュラムでは、「印なし (△)」を作らない方針で臨んでいるので、今後に向けての改善すべき課題とはならないと判断できる。

学修状況アンケート集計結果 (人文社会科学部) (p 44～)

全学部と比較すると、人文社会科学部卒業予定者の特徴として、e 「図書館で文献や資料を調べる」 f 「Web を使って文献や資料を調べる」 i 「自分の考えや調べてきたこと、研究成果等を発表する」 j 「(授業中に) 学生同士で議論する」 l 「授業中に先生や他の学生との意見のやりとり等がある」という項目が、「ひんぱんに／ときどきあった」という回答の比率が高くなっている。学生自身が積極的に文献や資料検索をしたうえで授業にのぞみ研究を進めていることがうかがえる。ただし、授業時間を離れた取り組みについては、全学部データとの大差はないこともわかる。

他方 a 「実験、実習、フィールドワークなどを通して、体験的に学ぶ」 o 「ティーチングアシスタント等から支援を受ける」という項目は、「あまり／まったくなかった」という回答の比率が高くなっている。

人文社会学系学部の特徴から、a については、実験、実習がすべてのコースで開講しているわけではないので、この結果となったと判断できる。o については、今後の授業運営に、大学院生による学部学生の支援等を活かす取り組みを考える等の課題が明らかになった。

国際文化課程

文化システムコース

概ね学生には学位授与の方針が理解されていると判断する。他コースに比べ文化システムコースでは「地域社会に文化的な発信貢献を行うことができる」の項目がやや低い傾向にあるが、これまで特別に地域への関心や貢献を意識して指導してきたわけではないので、その結果が現れていると思われる。地域への関心の喚起が必要であると判断されたため、平成28年度に改組し、新たな教育プログラムを実施する。

アジア文化コース

(Q1) 学位授与の方針達成度自己評価(個別)について

コースの達成度項目4項目に関して、いずれも①が75%を越えており、4分の3以上の学生には適切な達成項目と教育であったと見ることができる。ちなみに、全学的に見渡しても、全項目7割以上①なのは、アジア文化コースと教育学部の書道コース、農学部共同獣医学科だけである。

但し、2番目の項目「比較検討することを通して、自らの観点や価値判断を相対化し…」に対する回答で4名(20%)が「現在もできないまま」であることを考えると、自文化の問い直しや文化の比較に関する教育をより強化する必要がある。

(Q2) 学位授与の方針達成度自己評価(全体)について

①の「十分にできた」が学部内では比較的少ない(10%)。これは、コース学生の控えめな傾向を反映しているかもしれないが、「十分に」と言いきれ自信を与える教育態度が少ないためと考えられる。

(Q3) 学位授与の方針カリキュラム評価について

75%が①「十分」と回答しており、学部内では最も高い。

また、残りの25%は②「少し足りなかったが十分」の回答であり、学部内でカリキュラムを最も高く評価しているコースといえる。

この傾向と、上記Q2の回答数値を合わせると、学部教育を十分と評価しつつ、それを十分に活かせなかった自己への反省、という学生の考え方を推測できる。

欧米言語文化コース

欧米言語文化コースについては、各質問項目にたいして、①と②の占める割合が高く、現行の体制にさほどの問題点は感じられなかった。

「欧米諸国を対象とした歴史学・文化・文学・言語学・コミュニケーション論のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、自ら設定した課題を考察し、解決することができる」という項目に32名が①の評価をしているが、「欧米諸国の歴史・文化・文学・言語・コミュニケーションに関する諸問題に深い関心を持ち、それを探求する意欲をもっている」という項目の①の評価者は20名にとどまった。「解決する」能力は認めるものの、「意欲」に関しての評価が低い。卒業後も自らの研究分野に対する関心を維持するためにも、卒業時に学習意欲を持続させる動機付けが必要であると思われる。

法学・経済課程

法学コース

平成26年度卒業生を対象に実施された学位授与の方針達成度自己評価(個別)によると、法学コースでは全体的な傾向として、「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」という解答が60%近くを占め、次に「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである」という選択肢が20%前後の解答率となっている。それ以外の「入学の時点で多少できていたが…」という解答が少ないのは、経済コースとも共通するが、

法学・経済という学問領域の特性であると考えられる。

個別に見てみると「社会や地域が抱える様々な法的問題」への認識や取り組みを内容とする項目において「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである」という解答の割合が比較的高くなっており、これは現在のカリキュラムの実践において、教員が、既存の判例教育を中心とする法学教育メソッドに捉われ過ぎ、修得した知識やスキルの現実的問題への適用という方向性がおろそかになった部分が影響していると思われる。これに関しては改組後の地域政策課程および政策法務・企業法務各専修プログラムのカリキュラムにおいて、PBL科目を導入するなど「実践」を重視したプログラムを志向することである程度改善は見込めると思われるが、これに加えて教員の意識改革も必要になってくるだろう。

学位授与の方針達成度自己評価（全体）については、大多数が「学位授与の方針」について「少し足りないところもあるが、できた」という解答となっている。これは大学全体の傾向にも合致しており、その意味では可もなく不可もなし、という評価も可能だろうが、カリキュラムに対する評価においては「十分なものだった」「少し足りないところもあったが、十分だった」という解答がほぼ全体を占めていることを考えると、自身が何を身に付けることができたのかを自信を持って断言できないある種の不安感を学生に与えてしまっている傾向があることは否めない。これにはやはり上述したような「実践」の経験を与えられていないことが多分に影響しているものと考えられる。

学士力達成度自己評価の結果については大学全体での集計であり、特に評価・検証の対象になるものではないと考えられる。

平成25年度卒業生単位取得状況については、「知識・理解」、「思考・判断」および「関心・意欲・態度」に関して「◎」や「○」を付された科目が30ポイントずつ履修されていることがわかり、これらに関してはカリキュラムの設計と学生の単位履修に大きな齟齬はないと考えられる。他方、「技能・表現」についてはポイントが極めて少なくなっており、そもそもこれらを内容とする科目数が多いは設定されていないことが学生の履修にも影響を及ぼしていることが一目瞭然となっている。これについては改組後の地域政策課程および政策法務・企業法務各専修プログラムのカリキュラムにおいて、やはりPBL科目の導入や演習および特別研究の必修化によって改善を図ることができると考える。

経済コース

経済コースにおいては、多くの学生が経済学に関する基礎的な知識ならびに経済学的思考に基づく課題分析の能力を身に付けることができているため、学生は学位授与の方針を達成できており、学位授与の方針に適った卒業認定が行われている。しかしながら、諸課題に対して実践的に取り組む能力の涵養に関しては約半数の学生のみが達成できている状況であり、さらなる改善が望まれる。

「学位授与の方針」を身に付けることについては、大多数の学生が「十分にできた」ないし「少し足りないところもあるが、できた」と判断していることから、教育プログラムの有効性が確認される。さらに、すべての学生がカリキュラムは「学位授与の方針」に即していると振り返っており、経済コースにおいては適当なカリキュラム編成が行われている。

環境科学課程

環境科学コース

「地球規模から身近な地域まで、多岐にわたる環境の問題に強い関心を持って…」の項目は、③+④が過半数に達しており、レベルの見直しが必要と思われる。「文献によって論理的に思考するにとどまらず、問題の現場（フィールド）に積…」の項目は、②+③が半数近くになるので、カリキュラムの見直しが必要かも知れない。

教育学部 学校教育教員養成課程 学校教育コースにおける カリキュラムの検証・評価

1. 「学士力」に基づくカリキュラム評価

平成 26 年度の学校教育コース卒業生対象の「学士力」達成状況調査結果では(回答数 113)、“大学での学修を通して「学士力」を身につけられたか(Q2)” という問いに対し 95.6%が「身につけられた」と肯定的な回答をしている。当該調査で「学士力」の中身として挙げられた 9 項目各々に関する設問で、半数以上の学生が全項目「…できるようになった／…さらにできるようになった」と自己評価している。とくに「課題探究力 (77.9%)」、「コミュニケーション・スキル」、「市民としての社会的責任」(2 項目とも 77.0%) の力が在学中伸びたと学生は捉えている。その一方で、「…現状もできないまま」あるいは「あまり変わらなかった」という回答の合算値を見ると「持続可能な共生社会への志向性 (44.2%)」、「領域を超えた学際的知識 (42.3%)」の 2 項目が多い。Q3 の“カリキュラムは「学士力」を身につけるのに十分なものだったか” という問いへの回答状況を見ると、「①十分」「②少し足りないところもあったが、十分」の合算で 92.9%という状況であり、概ね学生はカリキュラムについて満足している状況が推察される。

2. 「学位授与の方針」に基づくカリキュラム評価

次に、「学位授与の方針」達成状況調査(平成 26 年度卒業生対象 回答数 117)の結果を見ると、6 割以上の学生が全項目について「…できるようになった／…さらにできるようになった」と捉えている。その中で、最も評価が低かった項目は、共通項目「4.持続可能な社会の構築…」で「学士力」に関する調査結果と対応する状況だった。

「課程・コース別」の設問では「5.学習指導及び生活指導のための基礎的な技能(81.2%)」ができるようになったと最も評価しており、「入学の時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」を選んだ学生が多いのも特徴的である。また、“大学での学修を通して「学位授与の方針」が示す力を身につけられたか(Q2)”、“カリキュラムは「学位授与の方針」が示す力を身につけるのに十分なものだったか(Q3)”という問いには、いずれも 95%以上の学生が身につけられた、十分だった、と回答していた(回答①と②の合算値)。

3. 卒業生の授業科目の単位履修状況および新カリキュラム策定に当たり改善した事項

平成 25 年度の学校教育コース卒業生を対象とした「単位(授業科目)取得状況」を見ると、各サブコースで多少の違いはあるものの、「1.…幅広い教養」「3.各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識」を主な到達目標に置く科目の単位取得が多い。その一方で、6 の「授業・話し合い活動」を支える力を到達目標に設定する科目の単位取得が少ない傾向にある。項目 6 は、今後の教員養成において育成すべき能力の一つと捉えられることから、新カリキュラムでは、項目 6 にかかわる科目の必修化等、教員養成をさらに充実させるカリキュラム編成となっている。

学校教育教員養成課程 特別支援教育コースにおける カリキュラムの検証・評価

学務委員 我妻則明

学士力に基づくカリキュラム評価（回答人数17名/所属人数17名中）

平成27年2～3月に実施した「学士力達成度自己評価」アンケートによれば、「幅広い基礎的知識」、「学問的専門性」、「論理的思考力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「市民としての社会的責任」、「課題探求力」の9項目中7項目について、過半数以上が「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に、「学問的専門性」に関しては、回答者17名中15名が「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」と答えていた。また、「あなたは、大学での学修を通して、上記「学士力」を十分に身につけることができたと思いますか？」の質問に対しては、回答者17名中14名が「十分身につけることができた」と「少し足りないところもあるが、身につけることができた」のいずれかを選択していた。「あなたが受けたカリキュラムは、上記「学士力」を身につけるのに十分なものであったと思いますか？」の問いに対しても、回答者17名中15名が「十分身につけることができた」と「少し足りないところもあるが、身につけることができた」のいずれかを選択していた。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価（回答人数17名/所属人数17名中）

平成27年2～3月に実施した「学位授与の方針達成度自己評価」アンケートによれば、11項目中9項目において過半数が「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に「特別支援教育分野の専門的な知識を有する」と「学習指導及び生活指導ための基礎的な技能を身に付けている」に関しては、17名中14名が「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択していた。また、「あなたは、大学での学修を通して、上記「学位授与の方針」を十分に身につけることができたと思いますか？」の質問に対しては、回答者17名中15名が「十分身につけることができた」と「少し足りないところもあるが、身につけることができた」のいずれかを選択していた。「あなたが受けたカリキュラムは、上記「学位授与の方針」を身につけるのに十分なものであったと思いますか？」の問いに対しても、回答者17名中16名が「十分身につけることができた」と「少し足りないところもあるが、身につけることができた」のいずれかを選択していた。

卒業生の授業科目の単位履修状況

『学位授与の方針』平成25年度卒業生単位（授業科目）取得状況（教育学部）の資料によれば、特別支援教育コース（中学校基礎免許（社会）2人平均）と特別支援教育コース（小学校基礎免許，9人平均）ともに、「総合的思考力を養うために幅広い教養を身に付けている」と「特別支援教育分野の探求的な活動を通して、教育に関する多面的なものの見方や実践的な思考・判断力を養っている」という科目群の単位取得数が高かった。

生涯教育課程 日本語・地域文化コースにおけるカリキュラムの検証・評価

学務委員 佐藤由紀男

1、学士力

学士力アンケートによれば、「幅広い基礎知識」「学問的専門性」「領域を超えた学際的知識」「論理的思考力」「コミュニケーションスキル」「情報リテラシー」「持続可能な共生社会への志向性」「市民としての社会的責任」「課題探究力」のすべてにおいて、回答者 21 名の過半数が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択している。「課題探究力」が最も多く、19 名が選択している。一方「持続可能な共生社会への志向性」が 11 名の選択と最も少ない。「学士力を十分身につけることができたか」の問いに対しても過半数の 18 名が「十分身につけることができた」「少し足りないが身につけることができた」を選択している。「カリキュラムが学士力を身につけるのに十分なものであったか」の問いに対しても 19 名が「十分」もしくは「少し足りないところがあったが十分であった」を選択している。

2、学位授与の方針

学位授与の方針アンケートによれば多くの項目で回答者 22 名の過半数が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択している。ただし 4 と 5 の問いは、ともに 10 名であり過半数に達していない。4、5 の問いは日本語文化分野と地域文化分野に特化した設問であるため、本コースが実態として、日本語文化分野と地域文化分野を専門とする学生に二分されていることが、反映されている可能性が高い。

3、卒業生単位取得状況

平成 25 年度卒業生の単位取得状況◎と○が最も多かったのは「地域の文化に強い関心を有し、生涯学習社会に貢献する意欲を持ち、地域文化・社会の課題に対し主体的に対応できる」であった。一方最も少なかったのは「日本語文化と日本語教育に関する総合的な基礎力を背景として、個々の課題に対応できる実践的な思考力・判断力を養っている」であった。

生涯教育課程 スポーツ教育コースにおけるカリキュラムの検証・評価

1. 学士力に基づくカリキュラム評価 (29 名)

平成 27 年度に実施されたアンケート結果によると、「幅広い基礎的知識」については 69% が入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。あるいは、入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになったと回答している。

同様に「学問的専門性」については 79%、「領域を超えた学際的知識」については 62%、「論理的思考力」については 66%、「コミュニケーション・スキル」については 72%、「情報リテラシー」については 66%、「持続可能な共生社会への志向性」については 62%、「市民としての社会的責任」については 72%、「課題探究力」については 72% が、入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。あるいは、入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになったと回答している。

大学での学修を通して「学士力」を十分に身につけることができたか。という問いには 90% が十分身に付けることができた、あるいは、少し足りないところもあるが身に付けることができた、と回答している。また、受けたカリキュラムは「学士力」を身につけるのに十分なものだったか。という問いに対しても、90% が十分なものだった、あるいは、少し足りないところもあったが、十分だった、と回答している。

これらのことから、本学が求める「学士力」の修得において、本コースのカリキュラムには十分な妥当性があり、履修した学生の満足度も高いものであったことが読み取れる。

一方、「学士力」を知っていたか。という問いには、83% が知らなかったと回答しており、本学が希求する「学士力」は、学生に周知されていない現状であることが明らかとなった。

2. 学位授与の方針に基づくカリキュラム評価 (29 名)

平成 27 年度に実施されたアンケート結果によると、「教育を行うための知識基盤と創造的活動を支える専門的知識」については、72% が入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。あるいは、入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになったと回答している。同様に「指導者として活躍するための技能的基盤」については 76%、「協調性を持って自らの意見を表現する」については 86%、「教育分野に貢献する意欲と、自己目的を達成するために成長する」については 62% が入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。あるいは、入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになったと回答している。

過程コース別項目である「総合的思考力を養うための幅広い教養」については 72%、「生涯教育及び生涯スポーツに関する基礎的知識」については 79%、「スポーツの実践と指導に関する基礎的な知識」については 72%、「身体及びスポーツに関する専門的な知識」については 79%、「スポーツの実践力及び指導に関する基礎的な技能」については 83%、「成果を整理して口頭や文章で表現し、主導的かつ協調的に議論する」については 69%、「スポーツ

に関する課題に対応できる実践的な思考力・判断力」については 83%、「課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的に推進する力」については 69%、「科学的探究心や社会的諸課題への強い関心を持ち、地域スポーツの普及・発展に貢献する意欲」については 69%、「問題を探求し、生涯を通じて学習し続ける資質と態度」については 69%が、入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。あるいは、入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになったと回答している。

大学での学修を通して「学位授与の方針」を十分に身につけることができたか。という問いには、全員が十分身に付けることができた。あるいは、少し足りないところもあるが身に付けることができたと回答している。また、受けたカリキュラムは、上記「学位授与の方針」を身につけるのに十分なものであったか。という問いに対しても、93%が十分なものであった、あるいは、少し足りないところもあったが、十分だったと回答している。

これらのことから、スポーツ教育コースの「学位授与の方針」に対して、コースのカリキュラムは十分に沿ったものであり、学生の満足度も十分に高いことが示された。

一方、コースの「学位授与の方針」を知っていたか。という問いには、69%が知らなかったと回答しており、学生に対する周知が不十分であったことも明らかとなった。

3. 平成 25 年度卒業生単位（授業科目）取得状況（22 名）

スポーツ教育コースでは、スポーツ活動の実践・指導・普及に関する専門的知識を修得させ、地域社会のスポーツ活動の発展に寄与する人材の輩出を目的としている。そのため、「身体及びスポーツに関する専門的知識に関する科目」や「スポーツ実践に必要な実技力及び指導に関する技能に関する科目」の科目数が多く、当然のことながら卒業生の単位取得数も高い。

一方、「生涯教育及び生涯スポーツに関する科目」や「研究結果を口頭や文章で表現したり、ディスカッションを進めることを求める科目」の単位取得数が比較的少ない傾向にあった。昨今の学生の現状を考えると、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を伸ばすことを目的とした科目の増設も考慮する必要があったかもしれない。

4. 新カリキュラム策定に当たり改善した事項

改組によりスポーツ教育コースは廃止となる。

芸術文化課程 美術・デザインコースにおけるカリキュラムの検証・評価

学士力に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2～3 月に実施した「学士力達成度自己評価」アンケート（25 名回答）によれば、「幅広い基礎的知識」、「学問的専門性」、「論理的思考」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「市民としての社会的責任」、「課題探求力」の項目においては、過半数以上が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」または「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在もできないままである」という回答が、「領域を越えた学際的知識」の項目について 11 名、「持続可能な共生社会への志向性」の項目について 8 名いた。また、「(上記の)学士力を知っていたか」の問いについては、25 名回答中 23 名が「知らなかった」と答えており、入学時において学生の記憶に残るような周知が必要と思われる。しかしながら、「大学の学修を通して学士力を十分に身につけることができたか」については、「十分に身につけることができた」に 2 名、「少し足りないところもあるが、身につけることができた」に大多数（18 名）が回答しており、「カリキュラムは学士力を身につけるのに十分なものだったか」についても、「十分なものだった」に 4 名、「少し足りないところもあったが、十分だった」に大多数（17 名）が回答している。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

「学位授与の方針達成度自己評価」アンケート（26 名回答）によれば、共通の 4 項目のうちの 2 項、及び課程・コース別の 11 項目すべてについては、過半数以上が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」または「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。共通の「学校内外の指導者としての技能的基盤」に関する項目において、「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在もできないままである」という回答が 12 名、「持続可能な社会の構築」に関する項目においては、「入学時点で多少できていたが、あまりかわらなかった」という回答に 11 名いた。

卒業生の授業科目の単位履修状況

教育学部における「学位授与の方針」平成 25 年度卒業生単位（授業科目）取得状況の資料によると、「実践的な思考・判断力」に関する授業、「持続的に成長する資質と態度」に関する授業、「自国・他国の美術文化や異なる価値観」に関する授業についての取得が少なく、学位授与の方針に基づくカリキュラム評価において「学校内外の指導者としての技能的基盤」と「持続可能な社会の構築」に関する項目における問題と連動している可能性がある。

新カリキュラムについて、文化課程美術・デザインコースは廃止。

芸術文化課程 書道コースにおけるカリキュラムの検証・評価

学士力に基づくカリキュラム評価

「学士力達成度自己評価」アンケート（4名回答）によれば、「幅広い基礎的知識」「学問的専門性」「論理的思考」「コミュニケーション・スキル」「情報リテラシー」「持続可能な共生社会への志向性」「課題探求力」の項目においては、3名（75%）が「入学時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択、1名（25%）が「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである」を選択していた。「市民としての社会的責任」の項目においては、半数の2名が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択、「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在もできないままである」と「入学時点で多少できていたが、あまり変わらなかった」をそれぞれ1名（25%）が選択していた。また、「(上記の)学士力を知っていたか」の問いについては、4名回答中3名が「知らなかった」と答えている。しかしながら、「大学の学修を通して学士力を十分に身につけることができたか」については、「十分に身につけることができた」に1名、「少し足りないところもあるが、身につけることができた」に3名が回答しており、「カリキュラムは学士力を身につけるのに十分なものだったか」についても、「十分なものだった」に1名、「少し足りないところもあったが、十分だった」に3名が回答している。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

「学位授与の方針達成度自己評価」アンケート（4名回答）によれば、【共通】の4項目のうちの3項目、及び【課程・コース別】の7項目については、全員が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択していた。【共通】の「学校内外の教育分野における指導者として活躍するための技能的基盤を有する」で、3名が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択、1名が「入学時点ではほとんどできなかったし、現在もできないままである」を選択していた。【課程・コース別】の「書道活動や書道教育に関する基礎的な知識を身に付けている」「専攻する書道分野の専門的な知識を身に付けている」「書道活動や書道教育に関する基礎的な技能・実践力を身に付けている」「書道活動や書道教育に関する専門的な技能・実践力を身に付けている」においては、3名が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択、1名が「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。

卒業生の授業科目の単位履修状況

教育学部における「学位授与の方針」平成25年度卒業生単位（授業科目）取得状況の資料によると、「地域社会の書道活動や書道教育に関する多面的なものの見方や実践的な思考・判断力」「課題解決能力及び自己向上力を養い、持続的に成長する資質と態度」に関する授業についての取得がやや少ない。

芸術文化課程 音楽コースにおけるカリキュラムの検証・評価

学務委員 川口 明子

1. 学士力に基づくカリキュラム評価

「学士力達成度自己評価」アンケートによれば、全ての項目で過半数以上が「入学時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に、「学問的専門性」と「コミュニケーション・スキル」では、14人中10人が、上記2種の「できるようになった」を選択して回答している。

「学士力」については、14人中「十分身につけることができた」が2人、「少し足りないところもあるが、身につけることができた」が12人で、全員が「身に付けることができた」と回答している。「カリキュラム」についても、同様に「十分なものだった」4人、「少し足りないところもあったが、十分だった」10人と全員が「十分」と認識していることから、満足度は高いと考えられる。

2. 学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

「学位授与の方針」アンケートによれば、共通の4項目の全てで過半数以上が「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択しており、特に、「協調性を持って物事を進めるとともに、自らの意見を適切に表現できる」は14人中11人が回答するという高い割合であった。

「課程・コース別」の11項目も、全ての項目で過半数以上が「入学時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に、「自国・他国の音楽文化や異なる価値観に関心を持っている」については、14人中10名が「入学時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」と回答し、1名が「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。音楽コースでは和楽器やアジアの音楽の代表例としてインドネシアのガムラン音楽の実習等の授業も充実させており、それらの成果が実証された結果と言える。

3. 卒業生の授業科目の単位履修状況

音楽コースの「学位授与の方針」に基づく単位取得状況は、概ね全体的にバランス良く取得されていた。特に、「総合的思考力をヨシなうために幅広い教養を身に付けている」と「自国・他国の音楽文化や異なる価値観に関心を持っている」が最も高く、次いで「専攻する音楽分野の専門的な知識を身に付けている」と「音楽活動や音楽教育のための専門的な技能・実践力を身に付けている」が続いており、知識面も実技的な技能面も共に着実に身に付くカリキュラムと評価できる。

工学部 カリキュラムの検証・評価

応用化学・生命工学科

「学士力達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 2 月実施）について、当学科の結果を次のように分析した。

Q2「学位授与方針を身につけることができた」および Q3「達成に必要なカリキュラムであったか」において、「十分なものであった」と「少し足りないが十分であった」を合わせると 9 割弱であり、全体的には特に問題はないようである。しかし、当学科の学位授与方針に対する達成度を個別にみると、今後検討すべき項目もある。大方、授与方針が具体的に描かれている場合は、良好な結果を得られるようである。

（知識・理解）

1. 「化学、生物、数学、物理の各分野の基礎知識及び化学と生命工学に関する専門基礎知識を備えている。」2. 「化学反応及び分子の構造変化より成り立つ化学現象を伴う工業プロセス並びに生命プロセスを原子・分子レベルで理解できる」について、両方とも①（入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。）と④「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった。」合わせても 5 割弱であり、カリキュラムも含め今後検討すべきである。特に 2. については学位授与方針をもう少し具体的にすべきことも含め改善する必要があるかもしれない。

（思考・判断）

3. 「文化・社会・自然・環境などの共通教育科目を履修し、社会における諸問題を化学と生命工学の見地から分析し、解決のための論理的な判断や提案ができる。」についても①+④の割合が少ない。これについても、授与方針自体を見直す必要があるかもしれない。
4. 「化学と生命工学の専門分野における科目を履修し、実践的な専門知識を学び、直面する諸問題を的確に整理・解析し、解決のための正しい判断ができる。」については特に問題はない結果である。

（関心・意欲）、（技能・表現）、（態度） については特に問題はないが、7. 「国際共通語である英語科目及び現代社会で必須の情報に関わる科目を履修し、国際オンライン文献などの様々な情報源を利用できる。また、科学的な事象に対して、自らの思考・判断を英語を用いて論理的に表現できる。」についてのみ、①+④が 5 割を下回った。英語力の習得がカリキュラム上の課題である。

マテリアル工学科

平成 27 年 1～2 月に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート（平成 26 年度卒業予定者の 4 年生 63 名のアンケート結果）を受け、本学科卒業生は、学位授与の方針各 8 項目とも、①「入学時の時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」と④「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった」をあわせた数が 40 名程度（約 6.4 割）であり、おおむね良好の結果であると考えている。

特に、（知識・理解）「材料工学と物質科学の基本的な知識を有し、材料や物質の作成と性質の発現の仕組みについて理解している」と（技能・表現）「材料や物質の作製および性質の測定を実施することができる」の 2 項目については、①と④をあわせた人数が 45 名以上となっており、高く評価できると考えられる。

一方、工学部の DP である（技能・表現）「獲得した知識や技術を様々な科学技術分野に役立てることを通して、地域や国際社会の様々な問題解決に結びつけることのできる人物であること」の項目は、②「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである」と自己分析した学生が他の項目より多く、（技能・表現）を向上できるようにカリキュラムを改善していくことが望ましい。

また“大学の学修を通して、「学位授与の方針」を十分に身につけることができたか？”という問いに対しても 45 名程度（約 6.3 割）が、“十分できた”あるいは“少し足りないところもあるが、概ねできた”と回答しており、高い評価がなされている。さらに“当学科のカリキュラムが「学位授与の方針」を身につけるのに十分なものであったか？”という「カリキュラムの整合性」に関する設問に対し、47 名程度（約 7.6 割）が、“十分できた”あるいは“少し足りないところもあるが、概ねできた”と回答している。当学科で準備している教育プログラム（カリキュラム）が、教育の理念および目的に基づいて適切に構成されていることを客観的に示しており、「学位授与の方針」と整合した形で実際に上手く機能していることを概ね保証していると評価できる。

電気電子・情報システム工学科

「電気電子工学コース」

学位授与の方針における教育プログラム別達成度自己評価によれば、電気電子工学コースの学生は、ほとんどの項目において、①「入学の時点でほとんどできなかったのが、できるようになった。」が 50%以上であった。特に専門科目については 60%程度あり、専門分野の知識、課題解決能力、論理的分析、機器活用能力について、身についたと自己評価されている。一方、文章表現能力、英語能力については、相対的に低いポイントになっており、この領域の能力開発が容易でないことを示唆しており、今後力を入れなければならない課題であると思われる。

④「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった。」が、他コースと比較

してやや多いことが注目される。これは高校で物理を学んできているので、電気工学の知識がある程度あることが背景となり、大学に入ってからのもっとなる興味や勉学意欲に影響しているのではないと思われる。

②「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである。」が多いのは、「工学分野とそれに関連する幅広い専門知識を有し…」であり、狭い専門的なことは理解できたが、広範な知識を有機的に関係づけするような俯瞰する能力開発までには至っていないことを物語っている。分野横断的な科目の充実も必要と考えられる。また、文章表現能力、英語能力については、この項目でも割合が多くなっており、カリキュラムを改善していくことが望ましい。

「情報システム工学コース」

平成27年3月卒業の4年生を対象に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート結果を見ると、本コースの卒業生は、8割以上の学生が「学位授与の方針」を＜十分に身につけることができた＞、あるいは＜少し足りないところもあるができた＞と回答しており、カリキュラムに関しては良好な印象を持っているのではないかと推察される。特に、(知識・理解)と(思考・判断)に掲げた3項目については、＜入学の時点ではほとんどできなかったのができるようになった＞と回答している学生が多く、高く評価してよいと考える。しかしながら、(技能・表現)に掲げた項目「情報システム工学に関する基礎的な英語文献を読める英語能力を身につけている」については、＜入学時点でほとんどできなかったし、現在でもできないままである＞、あるいは＜入学の時点で多少できていたが、あまり変わらなかった＞と自己分析している学生が多く、この点に関しては改めてカリキュラムの改善を検討する必要があると思われる。

機械システム工学科

平成27年2月以降に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート（平成27年3月卒業の4年生約80名のアンケート結果）を総括すると以下の通りである。学位授与方針を十分に身につけることができたかの問いに対して約85%以上ができたと考え、そのカリキュラムについて約90%の学生が十分であったと判断している。

詳細に見ると、学位授与の方針と対応する各6項目は、①「入学の時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」と④「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった」をあわせた数が約60%を超えており、おおむね良好の結果であると考えている。特に、「工学に関する基礎知識と、機械工学に関する専門的な知識及び技術の習得」については、①と④をあわせた人数が約85%となっており、高く評価できると考えられる。それに対して、「日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力」の項目は、②「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである」と③「入学

の時点で多少できていたが、あまり変わらなかった」と自己分析した学生が約75%おり、この項目を向上できるようにカリキュラムを改善していくことが望ましい。

社会環境工学科

アンケートにより、本学科の卒業生は、学位授与の方針の各3項目及び各8項目とも、①「入学時の時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった」の割合が比較的高く、おおむね良好の結果であると考えている。ただし、十分な語学力等に関する項目の割合が相対的に低いことが結果から認められた。

語学力を向上できるようにカリキュラムを改善していくことが望ましいことがわかる。この傾向は以前から指摘されていたため、新カリキュラムでは従来1科目だった科学技術英語を2科目に増加し、学生の語学力の向上を図る予定である。

農学部 農学生命課程 生命資源科学コースにおけるカリキュラムの検証・評価

教務委員 小森貞男

1. 学士力に基づくカリキュラム評価

4 学部全体の調査から平成 26 年度卒業生の「学士力」達成状況集計 (p.23) として約半数が「②できない」または「③入学時点とかわらず」と回答している項目は「領域を越えた学際的知識」である。農学生命課程、生命資源科学コースが提示する学位授与方針に対する卒業生の達成度自己評価(学位授与の方針:「生命資源科学コース」達成度自己評価 p.17) は5項目すべてで過半数が「①できるようになった」「④さらにできるようになった」と回答していることから、「領域を越えた学際的知識」に関する問題は、他学科、他課程、全学共通教育と専門課程をつなぐ教育分野の整備の必要性を示していると考えられる。上記のように生命資源科学コースの学位授与方針は多くが高評価であることからカリキュラム編成の妥当性は受け入れられていると推察される。

2. 学位授与方針に基づくカリキュラム評価

「学位授与の方針達成度自己評価」の生命資源科学コースのアンケート結果 (p.17) は、「広範な知識と科学的方法の理解」、「課題に対する対策の提案、行動力」、「課題解決への意欲」、「協調性と倫理性、自立的・継続的行動」、「プレゼンテーション、コミュニケーション能力」の項目すべてで 60%以上が「①できるようになった」「④さらにできるようになった」と回答していることから、生命資源科学コースのカリキュラムは学位授与方針に基づくものとして学生に指示されていることが推察される。

3. 卒業生の授業科目の単位履修状況

農学生命課程は専門的な知識の修得について、初年次で農学の全体的知識を教授し、コース配属後年次が上がるにしたがって専門の科目を深く履修するカリキュラムマップになっている。実習・実験・演習に関しても、1・2年次で農場実習を履修し、3年次で学生実験、3年後期の研究室配属後は卒業研究のための圃場作業、実験、セミナーを自主的に行えるように科目が配置されている。ほとんどの学生はカリキュラムマップに沿って単位の取得を行っており、上記 2. で示したカリキュラムに対する評価も高いことから、カリキュラムマップの妥当性が推察される。

新カリキュラム策定に当たり改善した事項

農学部農学生命課程生命資源科学コースは、改組後「植物生命科学科」として単独の学科になるが、上記 2. 3. で示したカリキュラムの優れた点は維持しつつ、より専門性が教授できるカリキュラム編成とした。

農学生命課程 生物産業科学コースにおけるカリキュラムの検証・評価

教務委員 折笠貴寛

○学位授与方針に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学位授与の方針達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 3 月卒業の 4 年生 29 名）によれば、学位授与方針のいずれの項目についても過半数ができるようになった（①と④）と回答していた。しかし、「思考・判断」、「態度」については「②できない」と回答した割合が若干高く、諸課題について自発的に考察して自分の考えに基づき行動することを苦手としている学生が存在することがうかがえた。「学位授与の方針を身につけられたか」（Q2）、および「学位授与の方針を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」（Q3）については、ほぼ全員（96%）が肯定的に回答した。以上のことから、自発的に諸問題に取り組むことができる人材教育に向けたカリキュラムの継続的改善に取り組むのはもちろんであるが、全体的には現在のカリキュラムへの満足度は高いと考えられる。

○新カリキュラム策定にあたり改善した事項

自発的に諸問題に取り組むことができる人材教育を強化するため、2 年次後期に演習科目（食産業システム学演習 I）を新たに配置した。また、専門重点科目の基礎となる応用力学・応用数学・情報処理演習を 1 年次に必修科目として新たに配置し、2 年次以降の数学物理系科目の理解が容易になる様にした。

応用生物化学課程におけるカリキュラムの検証・評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート(平成 27 年 3 月卒業の 4 年生 30 名のアンケート結果)により、本課程の卒業生は、学位授与の方針各 5 項目とも、①「入学時の時点ではほとんどできなかったのが、できるようになった。」と④「入学の時点で多少できていたが、さらにできるようになった。」を合わせた数が 20 名以上であり、概ね良好の結果であると考えている。特に、(知識・理解)「微生物や動植物などの生物資源に関する分子レベルから生態系レベルまでの生命現象や食品素材の特性を理解するための基礎的な知識を化学的な視点で理解している。」と(思考・判断)「生物資源や食品素材に関する知識と理解を基礎に、食糧、環境、健康に関する諸課題・未知事項について、多面的に思考し、自らの考えをまとめることができる。」の 2 項目については、①と④を合わせた人数が 25 人以上となっており、高く評価できると考えられる。それに対して、(技能・表現)「自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。」の項目は、②「入学の時点ではほとんどできなかったし、現在でもできないままである。」と自己分析した学生が他の項目よりやや多く、(技能・表現)を向上できるようにカリキュラムを改善していくことが望ましい。

共生環境課程 共生環境学コースにおけるカリキュラムの検証・評価

教務委員 松木佐和子

学士力に基づくカリキュラム評価（回答人数 14 名/所属人数 16 名中）

平成 27 年 2～3 月に実施した「学士力達成度自己評価」アンケートによれば、「幅広い基礎的知識」、「学問的専門性」、「領域を越えた学際的知識」、「論理的思考」、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「持続可能な共生社会への志向性」、「市民としての社会的責任」、「課題探求力」の全ての項目について、過半数以上が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に、「学問的専門性」に関しては、回答者 14 名中 10 名が入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」と答えていた。また、「学士力を身につける事ができたと思うか」の質問に対しては、回答者 14 名中 12 名が「十分にできた」と「少し足りないところもあるが、できた」のいずれかを選択しており、「受けたカリキュラムは「学士力」を身につけるのに十分なものだったと思うか」の問いに対しても、回答者 14 名中 12 名が「十分なものだった」と「少し足りないところもあったが、十分だった」のいずれかを選択していた。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価（回答人数 14 名/所属人数 16 名中）

平成 27 年 2～3 月に実施した「学位授与の方針達成度自己評価」アンケートによれば、10 個の項目全てで過半数以上が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」もしくは「入学時点で多少できていたが、さらにできるようになった」を選択していた。特に、「農山漁村の自然生態系や景観、生活文化やライフスタイルを生かしながら、地域の持続可能な発展を図るための知識を持っている」に関しては、回答者 14 名中 12 名が「入学時点でほとんどできなかったのが、できるようになった」を選択していた。また、「学位授与の方針」を身につけることができたと思うか」の問いに対しては、回答者 14 名中 12 名が「十分にできた」と「少し足りないところもあるが、できた」のいずれかを選択しており、「受けたカリキュラムは「学位授与の方針」を身につけるのに十分なものだったと思うか」の問いに対しても、回答者 14 名全員が「十分なものだった」と「少し足りないところもあったが、十分だった」のいずれかを選択していた。

卒業生の授業科目の単位履修状況

『学位授与の方針』平成 25 年度卒業生単位（授業科目）取得状況（農学部）」の資料によれば、特に「人と自然が創り出し、維持してきた農山漁村の自然と文化について幅広い教養を持ち、それらの社会、歴史・価値と重要性をよく理解している」という、共生環境学コースで最も重視している科目群の単位取得数が最も高かった。「他者に自分の考えを積極的に表現できる」という科目群は、ほかの科目群よりも少し低い履修取得状況であったものの、どの科目群もバランスよく取得されていた。

共生環境課程 森林科学コースにおけるカリキュラムの検証・評価

教務委員 國崎貴嗣

学士力に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 3 月卒業の 4 年生 19 名）によれば、過半数ができるようになった学士力（①と④）は「幅広い基礎知識」、「学問的専門性」、「論理的思考力」、「コミュニケーション・スキル」、「情報リテラシー」、「持続可能な共生社会への志向性」、「市民としての社会責任」、「課題探究力」であった（下線は、①で過半数を占める能力）。一方、「領域を超えた学際的知識」については過半数が「②できない」または「③入学時点と変わらず」と回答した。森林科学の学際性は自然科学から人文社会科学にわたる「メタ学際」となり、学際部分が極めて広範囲に及ぶ。森林科学コースは必修も多く、実際には学際的知識を十分学修しているはずだが、範囲が広すぎて自己評価が高まらず、②や③で過半数を占めたと考えられる。「学士力を身につけられたか」（Q2）については 19 名中 18 名ができたと回答した。また、「学士力を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」（Q3）については全員が思うと回答した。以上のことから、学際的知識の獲得について改善が必要であるものの、全体的にはカリキュラムへの満足度は高いと考えられる。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学位授与の方針達成度自己評価」アンケート（回答者は学士力と同じ）によれば、過半数ができるようになった学位授与の方針は（①と④）は「学問内容と方法」、「多面的機能」、「技術者倫理」、「日本語による記述・発表・討議」、「問題解決」であった（下線は先述）。一方、「基礎的知識」、「デザイン能力」、「文化・価値観」については過半数が「②できない」または「③入学時点と変わらず」と回答した。学士力では過半数が「基礎的知識」をできるようになったと回答しており、一見すると矛盾している。また、「文化・価値観」はいわゆる全学共通教育科目と対応しており、森林科学コースだけ著しく学修が不足している訳ではない。これら三つの方針に関しては、「基礎的知識を応用できる」、「デザインをまとめることができる」、「文化・価値観に関心を持っている」という表現が、学生にとっては少々しきいの高いものに誤解されたと考えられる。実際、「学位授与の方針を身につけられたか」（Q2）、および「学位授与の方針を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」（Q3）については全員が肯定的に回答した。以上のことから、継続的改善は当然であるとしても、全体的にはカリキュラムへの満足度は高いと考えられる。

卒業生の授業科目の単位履修状況

平成21～23年度入学生（平成25～27年 3 月に卒業した計70名）の成績通知表とカリキュラム・マップを用いて、「履修者数」および「年次指定どおりに履修したか」を確認した（詳細については、別に作成した報告書を参照されたい）。その結果、軽微な改善点は散見されるものの、現時点でボトルネックとなる部分はなかった。また、JABEE（日本技術者教育認定機構）による三度（平成20、23、26年度）の審査でも、カリキュラム・マップに相当する「学習・教育目標を達成するための必要な授業の流れ」について改善を指示されたことはない。これらのことから、すでに充実した専門教育プログラムの域に達していると考えられる。

新カリキュラム策定にあたり改善した事項

学士力に関して改善すべき「学際的知識」では、現・共生環境学コースから自然環境・生態学分野の科目が多数追加されるとともに、「地域おこし」、「世界の林業」など社会科学的科目を増加した。学位授与の方針に関して誤解された「しきいの高さ」を、実態に合わせて文言修正した。また、単位履修状況を踏まえ、履修者がほとんどいなかった3年次後期の選択の実習・実験2科目を3年次前期に移動し、部分クォータ制により週二回開講という方式に変更した。

共生環境課程 農村環境デザイン学コースにおけるカリキュラムの検証・評価

学士力に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 3 月卒業の 4 年生 21 名）によれば、すべての項目において過半数ができるようになった（①と④）と回答している。また、「学士力を身につけられたか」（Q2）については 17 名中 16 名ができたと回答した。また、「学士力を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」（Q3）については 17 名中 15 名が思うと回答した。以上のことから、極めて少数でカリキュラムに不満はあるものの、全体的にはカリキュラムへの満足度は高いと考えられる。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学位授与の方針達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 3 月卒業の 4 年生 21 名）によれば、過半数ができるようになった学士力（①と④）は「基礎・応用分野の知識」「計画・設計の考察」「関心・意欲」「社会的責任の自覚」であった。一方、「コミュニケーション能力」については過半数が「②できないまま」であるか「③変わらない」と回答した。「学位授与の方針を身につけられたか」（Q2）と「学位授与の方針を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」（Q3）についてはほぼ全員が身につけられた、十分なカリキュラムと思うと回答した。以上のことから、コミュニケーション能力の科目について改善が必要であるものの、全体的にはカリキュラムへの満足度は高いと考えられる。

卒業生の授業科目の単位履修状況

「学位授与方針」平成 25 年度卒業生単位（授業科目）単位取得状況（平成 26 年 3 月卒業の 4 年生 22 名）によれば、「コミュニケーション能力」を主な到達目標としている科目の単位の取得が、他の項目より著しく少ない。これは、「コミュニケーション能力」に対応する科目の殆どが選択科目であり、科目数自体が少ないことによるものである。これは、上述の学位授与の方針に基づくカリキュラム評価における「コミュニケーション能力」が身につけられていないという結果の一因であると考えられる。

新カリキュラム策定にあたり改善した事項

「学士力を身につけるのに十分なカリキュラムだったと思うか」の問いに少数でありながら不満があった要因の一つに、力学系科目の理解の不足があると考えられ、その対策として力学系科目の配当時期を半期（半年）前倒しすることにより、理解不足を補う期間を増やすこととした。また、カリキュラム評価と単位取得状況においては「コミュニケーション能力」の科目に不足があると思われ、その対策として実践的教育科目群を配置するとともに、学部共通選択科目の「インターンシップ」の履修を積極的に促すこととした。

動物科学課程におけるカリキュラム検証・評価

1. 学士力に基づくカリキュラム評価（回答人数 25 名/所属人数 31 名中）

「学士力達成自己評価」アンケートによれば、「学士力」の項目のほとんどは、過半数が「できるようになった」（回答番号①と④）回答し、特に「学問的専門性」は 22 名ができるようになったと答えていた。一方、「領域を超えた学際的知識」は過半数が「できない」または「変わらず」と回答した。動物科学課程の講義範囲は多岐に渡っており、実際には広範囲にわたる学際的知識を十分に修得しているはずである。Q2 の「学士力」を身に着けることができたか」という質問に 20 名が「十分にできた」「少し足りないところもあった」と回答した。また、「Q3:カリキュラムは「学士力」を身に着けるのに十分なものであったと思うか」と設問に対しても、23 名が「十分」もしくは「少し足りないところもあったが十分」を回答していた。全体的には、カリキュラムへの満足度は高いと思われる。しかし、Q1 の「「学士力」を知っていたか」にはほとんどの学生が「知らなかった」と答えており、矛盾が生じている。初年度～卒業年度を通して、「学士力」の周知が必要と思われる。

2. 学位授与の方針に基づくカリキュラム評価（回答人数 25 名/所属人数 31 名中）

「学位授与の方針達成自己評価」アンケートによれば、すべての項目に関して 7 割以上が「できるようになった」と回答した。「できない」もしくは「入学時と変わらない」の比率が高かったのは「2. 課題解決のための考察ができる」と「4. 課題解決のための議論ができる」の 2 項目であった。上記、「学士力」と同様、8 割が「学位授与の方針」を知らなかったと回答したが、「学位授与の方針を身につけることができたか」「カリキュラムは学位授与の方針を身につけるのに十分だったか」には 8 割以上が「できた」または「十分だった」と回答している。以上より、「考察、議論ができる」への改善は必要かもしれないが、全体的にはカリキュラムの満足度は高いと思われる。また、初年度～卒業年度を通して、「学士力」「学位授与方針」の周知が必要と思われる。

3. 卒業生の授業科目の単位履修状況

過去の卒業生（H21～23 年度入学）の成績通知表とカリキュラムマップを用いて確認したところ、4 年間で卒業した学生は概ね年次指定通りに履修していた。

共同獣医学科におけるカリキュラムの検証・評価

教務委員 山崎 真大

学士力に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学士力達成度自己評価」アンケート（平成 27 年 3 月卒業の 26/32 名）によれば、「1. 幅広い専門知識 (92.3%)」「2. 学問的専門性 (96.2%)」「3. 領域を超えた学際的知識 (69.2%)」「4. 論理的思考力 (84.6%)」「5. コミュニケーション・スキル (76.9%)」「6. 情報リテラシー (92.3%)」「7. 持続可能な共生社会への志向性 (80.7%)」「8. 市民としての社会的責任 (80.7%)」「9. 課題探求力 (76.9%)」（括弧内は入学時点でほとんどできなかったのができるようになった、あるいは入学時点で多少できていたがさらにできるようになった、と回答した学生の割合）の 9 つの項目全てにおいて半数以上の学生が「できるようになった」と回答しており、領域を超えた学際的知識を除いた 8 つの項目では 7 割以上の学生が「できるようになった」と回答している。さらに、全員が「学士力」を身につけることが「十分にできた」あるいは「少し足りないところもあるが、できた」と回答した。また、1 名を除いてカリキュラムは「学士力」を身につけるのに「十分なものだった」あるいは「少し足りないところもあったが、十分だった」と回答している。以上より、共同獣医学科のカリキュラムは「学士力」を身につける上でおおむね十分なものであり、かつ学生の満足度も高いものであると考えられる。一方で「学士力」については全員が知らず、語句が浸透していないことが明らかになった。

学位授与の方針に基づくカリキュラム評価

平成 27 年 2 月以降に実施された「学位授与の方針：達成度自己評価」アンケート（回答者同上）によれば、「1. 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している (92.3%)」「2. 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断出来る (92.3%)」「3. 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している (73.1%)」「4. 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得しており、意欲も有している (80.7%)」「5. 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる (84.6%)」「6. 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる (88.5%)」「7. 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる (76.9%)」「8. 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている (88.4%)」（括弧内同じ）のすべての項目において 7 割以上の学生が「できるようになった」と回答している。さらに、全員が「学位授与の方針」を身につけることが「十分にできた」あるいは「少し足りないところもあるが、できた」と回答した。また、1 名を除いてカリキュラムは「学位授与の方針」を身につけるのに「十分なものだった」あるいは「少し足りないところもあったが、十分だった」と回答している。以上より、共同獣医学科のカリキュラムは「学位授与の方針」を身につける上でおおむね十分なものであり、かつ学生の満足度も高いものであると考えられる。一方で「学位授与の方針」については 84.6%の卒業生が知らず、語句が浸透していないことが明らかになった。

卒業生の授業科目の単位履修状況

共同獣医学科においては専門科目のほとんどが必修であり、全ての学生が卒業時点においてはカリキュラム・マップに記載されている授業科目を履修し、単位を獲得している。平成 27 年度の獣医師国家試験の合格率は 9 割を超えており、充実した専門教育プログラムが実施されていると考えられる。

人文社会科学部 人間科学課程 人間情報科学コース成績評価検証報告

教務委員 白倉孝行

26 年度後期、27 年度前期の人間科学課程人間情報科学コースの専門科目の成績評価の分布を講義科目と演習・実習科目別に集計した。ただし、受講者数が極端に少ない科目（受講者数が 5 人未満の 5 演習科目）は集計から除外した。講義科目 15 科目、演習・実習科目 9 科目の成績分布の平均は以下のようになっている。

	人数	評価比率 (%)						
	受講者数	秀	優	良	可	不可	保留	合計
全体	27.3	14.9	47.0	19.8	6.6	10.9	0.7	100
講義科目	29.6	16.6	36.0	24.2	8.0	14.0	1.2	100
演習・実習科目	23.3	12.1	65.4	12.6	4.2	5.7	0	100

演習・実習科目で優評価に偏りがみられるが、これは学部の成績評価ガイドラインの成績評価の方法で、「演習・実習科目では、原則として実践を重視し、授業内外の成果物・発表内容を成績評価に取り入れる」としており、絶対評価としているためやむを得ないと思われる。

講義科目に関しては、平均した成績分布は特に偏りはなく、個別の科目の成績分布をみても極端に偏った成績評価をしている科目は見当たらなかった。

全体として、概ね妥当な評価がなされていると判断する。

人間科学課程 行動科学コース成績評価検証報告

26 年度後期、27 年度前期の行動科学コース専門科目の成績評価の分布を講義科目、演習科目、実験・実習科目別に集計した。

講義科目の保留は、前期授業に集中していた。夏季休業後のレポート提出等で次期には成績が出される予定となっていることが確認できた。

また課目によっては、受講者が少数で、評価が一部に集中する場合もあったが、全体を通してみると適切な評価を行っているとは判断できる。

	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目（25 科目）	19.6	34.8	20.8	9.6	11.1	4.0
演習科目（14 科目）	44.7	51.7	2.5	1.0	0.0	0.0
実験・実習科目（7 科目）	18.2	78.2	1.0	0.7	0.0	1.8

国際文化課程 文化システムコース成績評価検証報告

平成 26 年度後期及び平成 27 年度前期に開講した文化システムコースの全科目の成績評価を分析した。

【対象科目】

平成 26 年度後期開講科目：21 科目（講義科目 14、演習科目 7）

平成 27 年度前期開講科目：19 科目（講義科目 13、演習科目 6）

【成績評価の平均値】

[平成 26 年後期 開講 21 科目]

	受講生数	評価比率（％）						
		秀	優	良	可	不可	保留	合計
全体	23.1	14.3	42.2	22.8	5.5	14.0	1.2	100.0
講義科目	25.5	10.2	43.2	21.4	5.3	18.1	1.8	100.0
演習科目	18.3	22.5	40.3	25.7	5.8	5.8	0.0	100.0

[平成 27 年前期 開講 19 科目]

	受講生数	評価比率（％）						
		秀	優	良	可	不可	保留	合計
全体	24.7	8.9	49.7	24.1	7.4	8.4	1.5	100.0
講義科目	28.0	10.6	49.6	22.4	6.6	8.6	2.2	100.0
演習科目	17.7	5.3	49.9	27.7	9.0	8.1	0.0	100.0

【分析結果】

※ 平成 26 年度後期の開講科目において、「秀」の比率が多い科目があったが、当該科目の到達目標を再考するなどした結果、平成 27 年度前期では成績比率の偏り等は見受けられず、概ね妥当な評価がなされていると判断した。

【付録：対象科目一覧】

以下に対象とした全科目の一覧表（黄色枠は演習科目）を添付する。

平成 26 年度後期・通年 成績評価比率一覧（人文社会科学部）										
時間割 コード	学期	科目名	受講 生数	評価比率（％）						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4161	後期	文化システム論	68	4.4	36.8	38.2	14.7	5.9	0	100
4163	後期	表象文化論演習Ⅵ	20	10	90	0	0	0	0	100
4164	後期	ジェンダー文化論演習Ⅱ	13	0	61.5	15.4	23.1	0	0	100
4165	後期	文化領域論Ⅰ	24	50	41.7	0	4.2	4.2	0	100
4166	後期	ジェンダー文化論特講Ⅱ	10	0	40	50	0	10	0	100
4167	後期	消費文化論Ⅰ	32	3.1	37.5	31.3	3.1	21.9	3.1	100
4168	後期	ジェンダー文化論Ⅱ	39	2.6	61.5	12.8	10.3	12.8	0	100
4169	後期	文化論コロキウムⅣ	46	2.2	41.3	41.3	10.9	4.3	0	100
4170	後期	文化理論特講Ⅱ	9	0	33.3	22.2	11.1	33.3	0	100
4171	後期	文化記号論Ⅳ	10	20	30	0	0	50	0	100
4172	後期	社会文化思想論Ⅱ	28	7.1	17.9	39.3	3.6	17.9	14.3	100
4173	後期	社会文化思想論演習Ⅱ	16	6.3	87.5	0	0	6.3	0	100
4174	後期	テキスト分析論演習Ⅱ	5	20	0	60	0	20	0	100
4176	後期	社会文化論特講Ⅳ	12	8.3	41.7	33.3	8.3	8.3	0	100
4177	後期	社会文化論演習Ⅳ	16	6.3	43.8	37.5	6.3	6.3	0	100
4178	後期	社会文化論Ⅳ	14	21.4	21.4	7.1	14.3	28.6	7.1	100
4179	後期	メディア文化論特講Ⅱ	20	5	30	25	5	35	0	100
4180	後期	表象文化論Ⅳ	41	0	75.6	17.1	0	7.3	0	100
4181	後期	文化領域論演習Ⅰ	18	88.9	5.6	5.6	0	0	0	100
4182	後期	文化記号論演習Ⅱ	10	30	40	20	0	10	0	100
4183	後期	表象文化論特講Ⅰ	34	14.7	50	23.5	0	11.8	0	100
平均			23.1	14.3	42.2	22.8	5.5	14.0	1.2	100.0

平成 27 年度前期 成績評価比率一覧（人文社会科学部）										
時間割 コード	学期	科目名	受講 生数	評価比率（％）						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4170	前期	テキスト分析論Ⅲ	10	30.0	50.0	0.0	0.0	20.0	0.0	100
4171	前期	社会文化思想論演習Ⅲ	19	5.3	78.9	0.0	0.0	15.8	0.0	100
4172	前期	社会文化論特講Ⅰ	19	10.5	42.1	47.4	0.0	0.0	0.0	100
4173	前期	社会文化論演習Ⅰ	7	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3	0.0	100
4174	前期	社会文化論Ⅰ	26	11.5	46.2	26.9	3.8	11.5	0.0	100
4175	前期	表象文化論演習Ⅰ	14	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	100
4176	前期	メディア文化論特講Ⅲ	20	10.0	70.0	5.0	5.0	10.0	0.0	100
4177	前期	ジェンダー文化論演習Ⅲ	8	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	100
4178	前期	エスニシティ論Ⅰ	21	23.8	38.1	4.8	19.0	14.3	0.0	100
4179	前期	表象文化論Ⅰ	70	2.9	74.3	15.7	1.4	4.3	1.4	100
4180	前期	文化歴史地理学Ⅱ	22	27.3	31.8	18.2	9.1	13.6	0.0	100
4181	前期	ジェンダー文化論特講Ⅲ	3	0.0	100	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4182	前期	社会文化思想論特講Ⅰ	20	5.0	40.0	30.0	0.0	15.0	10.0	100
4183	前期	文化記号論演習Ⅲ	11	18.2	27.3	36.4	0.0	18.2	0.0	100
4184	前期	ジェンダー文化論Ⅲ	45	0.0	26.7	62.2	11.1	0.0	0.0	100
4185	前期	文化論コロキウムⅠ	47	8.5	57.4	19.1	14.9	0.0	0.0	100
4186	前期	社会文化思想論Ⅲ	23	4.3	47.8	21.7	0.0	13.0	13.0	100
4187	前期	比較文学論Ⅲ	56	8.9	57.1	17.9	8.9	3.6	3.6	100
4188	前期	文化記号論Ⅰ	29	3.4	20.7	41.4	27.6	6.9	0.0	100
平均			24.7	8.9	49.7	24.1	7.4	8.4	1.5	100.0

国際文化課程 アジア文化コース成績評価検証報告

教務委員 中村安宏

平成26年度後期及び平成27年度前期に開講したアジア文化コースの専門科目の成績評価の分布を講義科目、講読科目、演習科目別に集計した。講義科目27科目、講読科目8科目、演習科目14科目の成績分布の平均は以下の通りである。

	受講者数	評価比率 (%)						
		秀	優	良	可	不可	保留	合計
全体	14.9	49.7	27.9	10.1	4.3	6.9	1.1	100
講義科目	17.4	39.0	28.5	14.3	7.2	9.6	1.4	100
講読科目	16.9	63.2	21.4	8.7	1.7	3.0	2.0	100
演習科目	8.8	62.7	30.4	2.9	0.0	4.0	0.0	100

講義科目、演習科目のほかに講読科目を別に立てて検証を行った。講読科目は演習科目とほぼ同じ評価比率になっていることが判明した。この両科目は「秀」の比率がとりわけ高いが、学部の成績評価ガイドラインの成績評価の方法で、「演習・実習・実験科目では、原則として実践を重視し、授業内外の成果物・発表内容を成績評価に取り入れるようにする」としており、実践や発表内容が優秀な学生が多かったことを反映している。

講義科目についても「秀」の比率が高く、全27科目のうち15科目で「秀」の比率がもっとも高かった。今後の適性な評価に活かしていきたい。

国際文化課程 欧米言語文化コース成績評価検証報告

平成26年度後期（単位：％）

	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目（10科目）	29.0	41.9	12.9	6.6	7.6	2.0
演習系科目（34科目）	31.8	43.8	12.9	5.9	8.2	0.2

平成27年前期（単位：％）

	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目（17科目）	30.9	33.1	20.9	4.2	6.9	2.4
演習系科目（29科目）	36.4	41.5	14.4	3.6	3.7	0.3

ほぼ全ての項目でガイドラインを満たしており、成績評価が明記された方針に従って実施されていることが確認された。

法学・経済課程 法学コース成績評価検証報告

文責：藤本（法学・経済課程教務委員）

平成 26 年度後期および平成 27 年度前期の人文社会科学部法学・経済課程法学コース専門科目につき、成績評価の分布を講義科目と演習科目ごとに集計した。なお、講義科目は受講生数寡少（15 人以下）のもの（以下、受講生数寡少科目）を別集計とし、平均は各科目各評価に該当する実人数を算出し各評価人数を合計しのべ受講生数で割ることで算出している（%）。なお、対象とした科目および集計結果は以下の通りであった。

平成26年度後期 成績評価比率集計結果

講義科目

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4260	後期	民法(総則)Ⅱ	84	14.3	27.4	19.0	35.7	3.6	0.0	100
4264	後期	会社法Ⅱ	78	9.0	23.1	21.8	23.1	23.1	0.0	100
4267	後期	法律学特講B	53	5.7	22.6	22.6	20.8	28.3	0.0	100
4268	後期	民法(債権各論)Ⅱ	99	6.1	28.3	28.3	25.3	12.1	0.0	100
4269	後期	商法(商取引法)	78	10.3	21.8	16.7	29.5	21.8	0.0	100
4270	後期	労働団体系・労働法Ⅱ	72	5.6	36.1	25.0	19.4	13.9	0.0	100
4272	後期	国際政治学Ⅱ	31	3.2	9.7	22.6	29.0	35.5	0.0	100
4273	後期	刑法各論Ⅱ	24	12.5	29.2	25.0	16.7	16.7	0.0	100
4275	後期	刑法総論Ⅱ	61	6.6	31.1	45.9	11.5	4.9	0.0	100
4276	後期	民法(物権)Ⅱ	64	15.6	12.5	42.2	23.4	6.3	0.0	100
4277	後期	雇用管理法・法律学特講C	58	3.4	37.9	27.6	10.3	20.7	0.0	100
4278	後期	民法(家族法)Ⅱ	59	25.4	40.7	20.3	10.2	3.4	0.0	100
4287	後期	行政法(作用法総論)Ⅱ	24	16.7	25.0	45.8	12.5	0.0	0.0	100
4288	後期	基礎法B・法律学特講A	40	7.5	17.5	25.0	25.0	20.0	5.0	100
平均			59	9.9	26.7	26.8	21.9	14.4	0.2	100

講義科目だが受講生数寡少(15人以下)のため別統計としたもの

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4261	後期	憲法(人権)Ⅱ	15	26.7	33.3	6.7	6.7	26.7	0.0	100
4263	後期	刑事訴訟法Ⅱ	12	16.7	25.0	33.3	8.3	16.7	0.0	100
4266	後期	民事訴訟法Ⅱ	7	42.9	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	100
平均			11	26.5	29.4	17.6	5.9	20.6	0.0	100

演習科目

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4265	後期	政治学演習Ⅱ	11	27.3	54.5	18.2	0.0	0.0	0.0	100
4274	後期	憲法演習Ⅱ	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100
4279	後期	商法演習Ⅱ	12	33.3	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100
4280	後期	労働法演習Ⅱ	10	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4283	後期	特別演習Ⅱ	8	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	100
4281	後期	民法(財産法)演習Ⅱ	20	40.0	50.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
4284	後期	民法(財産法)演習Ⅱ	15	93.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	100
4285	後期	民法(家族法)演習Ⅱ	17	64.7	17.6	0.0	0.0	17.6	0.0	100
4286	後期	刑法演習Ⅱ	17	29.4	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100
平均			13	56.6	33.6	5.3	0.0	3.5	0.9	100

平成27年度前期 成績評価比率集計結果

講義科目

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4272	前期	民法(総則) I	93	8.6	22.6	22.6	31.2	15.1	0.0	100
4273	前期	憲法(人権) I	80	3.8	6.3	11.3	31.3	47.5	0.0	100
4274	前期	法律学基礎	87	5.7	46.0	25.3	13.8	5.7	3.4	100
4277	前期	社会保障論 I	84	3.6	23.8	51.2	16.7	4.8	0.0	100
4280	前期	刑事訴訟法 I	43	2.3	14.0	20.9	20.9	20.9	20.9	100
4281	前期	会社法 I	68	1.5	5.9	39.7	29.4	14.7	8.8	100
4282	前期	法律学特講A	19	10.5	31.6	36.8	5.3	15.8	0.0	100
4287	前期	民法(債権総論) I	123	8.9	20.3	32.5	30.1	8.1	0.0	100
4288	前期	商法(総則)	41	7.3	19.5	24.4	39.0	9.8	0.0	100
4290	前期	行政法(救済法) I	34	29.4	11.8	20.6	23.5	14.7	0.0	100
4291	前期	労働法 I・労働保護法	76	3.9	34.2	28.9	28.9	2.6	1.3	100
4293	前期	憲法(統治機構) I	26	19.2	23.1	11.5	7.7	38.5	0.0	100
4294	前期	刑法各論 I	46	19.6	23.9	37.0	13.0	6.5	0.0	100
4295	前期	民法(家族法) I	71	9.9	33.8	33.8	18.3	4.2	0.0	100
4302	前期	刑法総論 I	52	11.5	28.8	19.2	28.8	11.5	0.0	100
4303	前期	民法(物権) I	60	11.7	20.0	21.7	33.3	13.3	0.0	100
4305	前期	基礎法A	45	4.4	13.3	24.4	28.9	11.1	17.8	100
4306	前期	社会保障法・法律学特講D	37	2.7	32.4	24.3	35.1	5.4	0.0	100
平均			60	8.0	23.1	28.0	25.3	13.0	2.5	100

講義科目だが受講生数寡少(15人以下)のため別統計としたもの

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4289	前期	行政学 I	7	14.3	14.3	28.6	0.0	42.9	0.0	100
4301	前期	民事訴訟法 I	13	30.8	23.1	30.8	0.0	15.4	0.0	100
平均			10	25.0	20.0	30.0	0.0	25.0	0.0	100

演習科目

時間割 コード	学期	科目名	受講生数	評価比率(%)						
				秀	優	良	可	不可	保留	合計
4283	前期	政治学演習 I	11	18.2	72.7	0.0	9.1	0.0	0.0	100
4284	前期	商法演習 I	13	30.8	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4285	前期	特別演習 I	7	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4286	前期	労働法演習 I	12	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4296	前期	憲法演習 I	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4297	前期	民法(財産法)演習 I	16	6.3	87.5	6.3	0.0	0.0	0.0	100
4298	前期	民法(財産法)演習 I	15	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4299	前期	民法(家族法)演習 I	14	92.9	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	100
4300	前期	刑法演習 I	23	21.7	78.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
4304	前期	法学外書講読A	3	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100
平均			12	48.7	47.8	0.9	0.9	1.7	0.0	100

平成 26 年度後期および平成 27 年度前期ともに講義科目では「秀」から「優」へと比率が増大し、「良」評価をピークとして「可」へと減少していく傾向が見られ、ほぼ理想的な分布を示していると言える。個別にはこれとは異なる分布を示しているものも二、三見受けられるが極端な偏りはないと言える。また、両期とも受講生数寡少科目では「不可」の割合が相対的に大きくなっているが、どの科目でも途中で受講を断念する受講生が一定数おり、受講生数寡少科目ではそれが比率として大きく表れているものと推測される。演習科目では「秀」および「優」評価が全体の大多数を占めているが、少人数の演習という科目特性により学生個々に十分な教育効果が与えられているとみられ、これもむしろ理想的な結果であると考えられる。総じて、本コースでは適切な成績評価が行われていると判断できる。

法学・経済課程 経済コース成績評価検証報告

(文責 教務委員 島田佳憲)

1. 対象科目

平成 26 年度前期および後期の法学・経済課程の開講科目のうち主として経済コースを担当している教員が受けもつ授業科目を中心に 39 科目を対象科目として選択した。内訳は、講義科目 24 科目、演習科目 15 科目である。科目名は下記のとおりである。

経済学基礎，理論経済学Ⅰ・Ⅱ，政治経済学Ⅰ・Ⅱ，経営学総論Ⅰ・Ⅱ，社会保障論Ⅰ・Ⅱ，農業経済論Ⅰ・Ⅱ，簿記論Ⅰ・Ⅱ，会計学Ⅰ・Ⅱ，経済外書講読，時事経済論，経済学基礎演習，公会計論，経済数学（微分積分学），西洋経済史，経済思想，労働経済論，人的資源管理論，地方財政論，応用マクロ経済学，理論経済学演習Ⅰ・Ⅱ，政治経済学演習Ⅰ・Ⅱ，農業経済論演習Ⅰ・Ⅱ，財政学演習Ⅰ・Ⅱ，経営学演習Ⅰ・Ⅱ，会計学演習Ⅰ・Ⅱ，国際経済論演習Ⅰ

2. 点検方法

成績評価が『人文社会科学部成績評価ガイドライン』（以下、成績評価ガイドライン）3. 成績評価の方法と基準に合致しているかを評価するために、成績評価の方法ならびに成績評価の基準を点検する。成績評価の方法については、「講義科目では、最終試験あるいは最終レポート1回のみでの評価はできる限り避け、複数の方法・観点で評価を行うことが望ましい」、また「演習・実習・実験科目では、原則として実践を重視し、授業内外の青果物・発表内容を成績評価に取り入れるようにする」とされているため、調査対象科目のシラバスをアイアシスタントで確認し、講義科目の評価が複数の方法を組み合わせられて行われているか、演習科目ではレポートや発表内容が成績評価に加味されているかを点検する。

成績評価の基準については、教育推進機構でまとめられた平成 26 年度前期および平成 26 年度後期の成績評価比率一覧を利用し、上記対象科目 43 科目につき、講義科目と演習科目に区分して、秀・優・良・可・不可・保留の割合（パーセンテージ）の平均値を算出した。なお、受講者が少なく比較的良好な成績評価がされる傾向にある演習科目が対象科目のおよそ 1/3 を占めることを考慮して、受講者人数加重平均値を算出している。また、成績評価ガイドラインにおいて、「到達目標ほどの程度の水準で到達すれば、どのような成績評価を得られるかについて、できるだけ学生にも理解しやすい基準をもうける」ことが規定されているため、シラバスに到達目標と具体的な評価の基準が明記されているかも点検する。

3. 調査結果

3.1 成績評価の方法

アイアシスタントにより成績評価の方法を点検したところ、最終試験ないし最終レポート1回

のみで成績評価を行っている講義科目は1科目も存在せず、すべての講義科目で複数の方法・観点による評価が取り入れられていた。また、すべての演習科目で、成績評価は授業外で作成したレジュメ等の成果物や授業内での発表内容を基礎に成績評価がなされていた。それゆえ、点検対象科目全39科目について、成績評価の方法は成績評価ガイドラインにしたがっており、適切な成績評価方法がとられていると判断できる。

3.2 成績評価の基準

経済コースにおける授業科目の成績評価比率の受講者人数加重平均値は、秀（18.1%）、優（31.3%）、良（25.7%）、可（13.8%）、不可（10.7%）、保留（0.5%）となった。講義科目の成績評価比率の受講者人数加重平均値は、秀（13.0%）、優（32.9%）、良（27.4%）、可（14.7%）、不可（11.5%）、保留（0.5%）となった。演習科目の成績評価比率の受講者人数加重平均値は、秀（82.1%）、優（10.5%）、良（4.2%）、可（2.1%）、不可（1.0%）、保留（0.0%）となった。

表 経済コースにおける成績評価比率の受講者人数加重平均値

	評価比率（%）						合計
	秀	優	良	可	不可	保留	
全体	18.1	31.3	25.7	13.8	10.7	0.5	100.0
講義科目	13.0	32.9	27.4	14.7	11.5	0.5	100.0
演習科目	82.1	10.5	4.2	2.1	1.0	0.0	100.0

以上のとおり、経済コースの授業科目全体として、成績評価の分布にとくに目立った偏りがあるわけではないことが確認される。講義科目についても同様に受講者人数加重平均値は成績評価区分に満遍なく分散されている。演習科目については秀の割合が高い傾向があるもの、成績評価ガイドラインでは「到達講義科目の達成度を基準とした絶対評価を原則とする」と規定されており、このような演習科目の偏った結果は絶対評価を適用した結果であるため、成績評価ガイドラインに即応して適切な評価が行われているといえる。なお、評価基準の具体性については、全39科目でシラバスに到達目標および具体的な評価の基準が明記されており、成績評価ガイドラインにしたがって評価基準が設定されている。

以上のように、成績評価ガイドラインを満足していることが点検され、成績評価は適切に実施されているという妥当性が確認された。

環境科学課程 環境科学コース成績評価検証報告

教務委員：尾台喜孝

●平成26年度後期

成績評価比率の平均は以下の表の通りである。講義科目については、分布に偏りはなく、成績評価基準に照らして特に問題は無いことを確認した。実験・実習・演習科目については、分布に偏りは認められるものの科目の特性を考慮すれば、成績評価基準に照らして特に問題の無いことを確認した。

平成26年度後期	評価比率(%)					
	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目 (受講生10名未満を除く13科目)	11.4	23.3	34.3	21.2	9.7	0.0
実験・実習・演習科目 (受講生10名未満を除く3科目)	25.7	63.9	7.2	1.0	2.1	0.0

●平成27年度前期

成績評価比率の平均は以下の表の通りである。講義科目については、分布に偏りはなく、成績評価基準に照らして特に問題は無いことを確認した。実験・実習・演習科目については、分布に偏りは認められるものの科目の特性を考慮すれば、成績評価基準に照らして特に問題の無いことを確認した。

平成27年度前期	評価比率(%)					
	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目 (受講生10名未満を除く13科目)	11.3	30.3	34.0	17.3	7.2	0.0
実験・実習・演習科目 (受講生10名未満を除く3科目)	15.1	50.4	18.0	13.5	2.9	0.0

成績評価の妥当性に関する検証 ー平成26 年度前期(教育学部)ー

I. 学部の全体的視点からの検証

1 報告の趣旨と検討事項

成績評価について、科間の成績評価について比較することで、教育学部全体として適切に評価が行われているのかを検討することとする。また、教員免許法に定められた科を越えた「教職専門科目」、「教科専門科目」、「教科の指導法」などの区分を持つことも教育学部の特徴であることから、これらの区分においても、評価が適切に行われているのかを検討することとする。さらに、これら科目は、共通性の高い基礎的講義、選択制の発展的講義、演習、実験・実習等多様な形態により構成されているが、これらの間でも評価が適切に行われているのかを検討する必要があると考えられる。しかし、これらの形態は個々の科目内においても複合することから、各科目の形態を分類することは容易ではない。そこで、その代替として、受講人数の多寡による検討を行うこととする。

2 各科・区分間等の成績評価の比較

(1) 比較する「科」等：教員組織及び学生のサブコース並びに科目数を考慮し、「国語科」「社会科」「数学科」「理科」「技術科・家庭科」「英語科」「音楽科・美術科」「保健体育科」「教育学・心理学・教育実践学」「特別支援教育」の10科に、「教育専門科目」「教科専門科目」「教科の指導法」の3区分を加えた13科等間で成績評価を比較した。

(2) 各科目の成績評価に関する変数の生成：各受講者の「秀」～「不可」の5段階の評価に5～1点を与え生成した平均点を用いた。

(3) 対象科目：受講者が10人未満の科目については、誤差を考慮し扱わないこととした。ここでは10人以上の科目の225科目を対象とした。

(4) 結果：225科目の(2)の平均点を対象に、(1)の13水準の『科要因』について、1要因の分散分析を行った。その結果、科要因は有意であり($F(12,212)=5.53, p<.01$)、英語科が教職に関する3区分に比べて高く、理科が3区分や他科に比べて低い評価となっていることが示されたが($MSe=0.49, p<.05$, 詳細な多重比較は省略)、その他の区分や科間に有意な差はなかった。

3 受講人数による成績評価の比較

(1) 比較する受講人数等：まず、人数の多寡に関わらず、2(1)同様に3区分を取り上げた上で、残りの科目について等しい人数になるよう配慮しながら「50人」「40人」「35人」「30人」「25人」「20人」「17人」「14人」「12人」「10人」以上の10水準を設け、3区分と併せ合計13水準を比較した。

(2) 結果：上の2と同様の225科目の点を対象に、『受講人数要因』について、1要因の分散分析を行った。その結果、受講人数要因は有意であったが($F(12,212)=2.98, p<.01$)、他より高かったのは「12～13人」「10～11人」のみであり($MSe=0.49, p<.05$)、その他の区分や受講人数間に有意な差はなかった。

4 検討結果

以上により、科や教職の3区分間においても、受講人数（各授業形態）においても、成績評価は概ね同一の基準により行われていることが示された。やや高い傾向にあった英語科についてもその標準偏差は比較的小さく、科内でよく検討されていることがうかがえるものであった。また低い傾向にあった理科については、評価の課題ではなく、学生側の課題によるものと考えられた。この課題に応える形で平成28年度からは、理数教育に強い教員を養成するために、理数教育コースを設置する。

Ⅱ. 各科での検証

教育学部の科目を担当する教員は、専門分野によって科に所属している。そこで各科で開講している科目について、科内の教員間で意見交換を行い、成績評価比率等量的側面と実際の授業との関連に関する質的側面から検証を行った。その結果、成績評価は適切に行われていると認められ、その妥当性が確認された。

成績評価の妥当性に関する検証 ―平成26 年度後期(教育学部)―

I. 学部の全体的視点からの検証

1 報告の趣旨と検討事項

成績評価について、科間の成績評価について比較することで、教育学部全体として適切に評価が行われているのかを検討することとする。また、教員免許法に定められた科を越えた「教職専門科目」、「教科専門科目」、「教科の指導法」などの区分を持つことも教育学部の特徴であることから、これらの区分においても、評価が適切に行われているのかを検討することとする。さらに、これら科目は、共通性の高い基礎的講義、選択制の発展的講義、演習、実験・実習等多様な形態により構成されているが、これらの間でも評価が適切に行われているのかを検討する必要があると考えられる。しかし、これらの形態は個々の科目内においても複合することから、各科目の形態を分類することは容易ではない。そこで、その代替として、受講人数の多寡による検討を行うこととする。

2 各科・区分間等の成績評価の比較

(1) 比較する「科」等：教員組織及び学生のサブコース並びに科目数を考慮し、「国語科」「社会科」「数学科」「理科」「技術科・家庭科」「英語科」「音楽科・美術科」「保健体育科」「教育学・心理学・教育実践学」「特別支援教育」の10科に、「教育専門科目」「教科専門科目」「教科の指導法」の3区分を加えた13科等間で成績評価を比較した。

(2) 各科目の成績評価に関する変数の生成：各受講者の「秀」～「不可」の5段階の評価に5～1点を与え生成した平均点を用いた。

(3) 対象科目：受講者が10人未満の科目については、誤差を考慮し扱わないこととした。ここでは10人以上の科目の202科目を対象とした。

(4) 結果：202科目の(2)の平均点を対象に、(1)の13水準の『科要因』について、1要因の分散分析を行った。その結果、科要因は有意でなく($F(12,189)=1.65, ns$)、すべての区分や科間に有意な差はなかった。

3 受講人数による成績評価の比較

(1) 比較する受講人数等：まず、人数の多寡に関わらず、2(1)同様に3区分を取り上げた上で、残りの科目について等しい人数になるよう配慮しながら「50人」「40人」「35人」「30人」「25人」「20人」「17人」「14人」「12人」「10人」以上の10水準を設け、3区分と併せ合計13水準を比較した。

(2) 結果：上の2と同様の202科目の点を対象に、『受講人数要因』について、1要因の分散分析を行った。その結果、受講人数要因は有意でなく($F(12,189)=1.04, p<.ns$)、すべての区分や受講人数間に有意な差はなかった。

4 検討結果

以上により、科や教職の3区分間においても、受講人数(各授業形態)においても、成

績評価は同一の基準により行われていることが示された。

Ⅱ. 各科での検証

教育学部の科目を担当する教員は、専門分野によって科に所属している。そこで各科で開講している科目について、科内の教員間で意見交換を行い、成績評価比率等量的側面と実際の授業との関連に関する質的側面から検証を行った。その結果、成績評価は適切に行われていると認められ、その妥当性が確認された。

平成25・26年度 工学部授業実施報告

岩手大学工学部教務委員会
平成28年3月発行

授業実施報告書 全体まとめ

工学部教務委員会委員長 嶋田和明

I. 全体のまとめ

1. 授業実施報告の目的

工学部教務委員会では平成 15 年度後期より毎年度ごとに授業実施報告書の作成を行ってきた。この報告書作成の目的は、

(1) 授業の実施状況を検証して現行の教育システムの問題点を見つけ出し、それに対する適切な改善策を検討すること

(2) 成績評価の実態を検証して、「成績評価の適正化」および「工学部内での成績評価基準の共通化」を促進すること

の 2 点を通して岩手大学工学部の教育の質保証に資することである。

2. 授業実施状況の調査方法

授業実施状況調査の基本的内容は、それぞれの講義の担当教員が毎年度前期・後期に行う講義の成績報告のデータに基づいて算出された授業実施回数、履修者数、成績評価の比率である。各教員は各年度の講義の履修学生に対して期末試験、出席、課題レポート、小テスト等の成績を総合的に判断して「秀・優・良・可・不可」あるいは「保留」との成績評価を出し、それを一定の期限内に学務課に報告することが義務づけられている。この授業実施状況の主な調査対象は工学部で開講されている専門基礎科目・工学基礎科目・および専門教育科目であり、卒業研究、セミナー、特別研修等を除くほとんど全ての講義・演習・実習・実験科目が含まれる。またここでの成績評価の比率とは、講義履修学生全体の中におけるそれぞれの成績評価の学生の比率である。

即ち、上記の方法で授業実施状況の調査結果を集計することにより、各講義科目ごとに以下に掲げるデータを示すことが可能となる。

(1) 当該講義の担当教員氏名

(2) 当該講義の履修者数

(3) 当該講義科目の講義回数

(4) 履修者の中に占める単位認定者数、未履修者数、成績保留の人数、およびそれらの割合

(5) 単位認定者の中に占める「秀・優・良・可・不可」の認定の履修者の割合

この授業実施状況の調査結果は学科ごとに集計された上で解析がなされ、最終的にその検討結果までを含む形で本冊子としてまとめられている。

3. 成績評価基準について

授業の成績評価は個々の担当教員に委ねられているが、その基準はそれぞれの教科のシラバスに明記することになっている。

(1) 講義、実験、実習、演習の担当教員はその到達目標を設定し、その到達目標をシラバスに明記することにより事前に履修学生達に周知することになっている。

(2) 講義、実験、実習、演習の学業成績の評価を行うにあたっては絶対評価に基づき、期末試験、レポート、および平常点により評価している。

(3) 講義、実験、実習、演習の担当教員は試験、レポート、および平常点の成績を数値化するにあたって主に以下の 4 つの観点に基づく評価を行う。ただしこれらの比重の設定については担当教員の判断に委ねられている。

(a) 関心・意欲、(b) 知識・理解、(c) 技能・表現、(d) 思考・判断

(4) 学業成績の評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重については担当教員の総合的判断に委ねられている。ただし講義科目では期末試験の成績の比重をおおむね60%以上とし、実験、実習、演習等ではレポートと平常の成績（平常点）の合計の比重をおおむね80%以上に設定するのが一般的である。

(5) 各科目の成績の評価は100点を満点とし、原則として以下の基準により判定することが定められている。

(a) 秀：100～90点（到達目標を超えて秀でた成績）、(b) 優：89～80点（到達目標にふさわしい優れた成績）、(c) 良：79～70点（到達目標をおおむね満たす成績）、(d) 可：69～60点（到達目標を最低限満たす成績）、(e) 不可：59～0点（到達目標に達していない成績）

成績評価は以上の成績評価基準に基づいて行われるが、学生の学力が一様でなく一定の分布を呈する場合には通常は下記のようなになるであろう。

(a) 通常の授業科目については、「秀」や「不可」の割合が極端に高くなることはなく、「優」「良」「可」の割合が相対的に高くなるはずである。

(b) 講義科目においては成績評価の主要な部分は期末試験の成績であり、副次的に出席・課題レポート・小テスト等が用いられる。一方、実験・実習・演習等は体験重視の科目であることより、成績評価における「出席」や「課題レポート」等の重みが高くなるのは当然のことと思われる。

(5) 学生への成績配付、およびGPA（工学部GP）について

岩手大学工学部では半期ごとに学生本人が取得した単位およびその成績評価をすべて学生本人に通知し、あわせて保護者にも知らせている。成績通知書には以下の各項目が記述されており、学生は当期の成績評価のみならずこれまでの本人の履修状況や所属学科のクラス内での本人の成績評価面での位置付け等も知ることができる。

成績通知書の記述項目

- (a) 履修科目名
- (b) 年期
- (c) 成績評価（秀・優・良・可・不可、あるいは保留）
- (d) 取得単位数
- (e) 担当教員名
- (f) これまでの修得単位数（全学共通教育科目、専門教育科目、その他（教職など））
- (g) 工学部GP（＝GPT、当期および通算の値を学科平均・学部平均と並記）
- (h) 成績優秀者の場合はその表示

この中で特に講義単位の履修の有無は重要であるが、それとともに本人の勉学にとって重要な意味を持つのがGPAである。GPA（Grade Point Average）は当該学生の取得した成績評価に対して岩手大学工学部は岩手大学の規定するスコア（秀＝4、優＝3、良＝2、可＝1、不可＝0）を与え、その合計点と平均点で本人の勉学への取り組み状況を評価している。

岩手大学工学部では10年ほど前に他学部在先駆けてGPAの導入と学生への成績通知の際に本人のGPA値を含む成績通知書を配付することを開始した。さらにこのGPAを学科クラス内での学生の順位の算出に用いてきた。その結果、学生の中の「単位が取れさえすればよい」との風潮が多少は是正され、きちんと学ぶ姿勢が見られるようになってきた。しかしその一方で自身のGPA値を下げないために必須な講義以外の履修をしない傾向も強まり、幅広く学ぶという大学の基本理念にそぐわない状況が顕在化するようになった。このような点を改め、本人の努力がGPの値に直結することを目指して工学部では平成2

5年より GPA から G P T（Grade Point Total）への変更を行い、それを学生の成績評価に表示し学生に知らせるようにして今日に至っている。GPA から GPT への変更により学生達は卒業に必要な講義以外の選択科目等を比較的積極的に履修するようになった。しかしその一方で本人の専門分野の選択科目以外（例えば教養教育科目）で学修面での努力をあまり要しないと思われる講義科目を履修することにより GPT をかさ上げしようとする新たな傾向が特に低学力学生の中で見られる。そのような動向への対策として、今後は GPT と GPA の双方のデータを上手く場合ごとに使い分けることにより学生達の適切な勉学意欲の向上を図る必要があると考えられる。また、GPA にせよ GPT にせよ講義がきちんと実施されその成績評価（秀，優，良，可，不可）の基準や評価分布が適切であってこそ意味をなすものであることより、今回の授業実施報告書の結果を通して教員の中で適切な成績評価が定着することが肝要と考えられる。

4. 授業実施状況の調査を通して明らかにしうる事柄

この授業実施状況の調査を通して、以下に示す幾つかの問題点が明らかになると考えられる。

- (1) 学科の講義の中で履修者が極端に少ない講義科目が少数ながら見られるが、その講義の教育目的や到達目標の中に改善されるべき何らかの問題点があると考えられる。
- (2) 講義・実験実習が規定通りに適切に（半期 15 回）実施されているか否かは講義単位の実質化の面で非常に重要であり、講義を休講する場合は補講等の形でその講義内容を補うのは当然である。そのようなことが適切に行われていない講義があるとすれば、そこには改善を要する問題があると考えられる。
- (3) 一般に学生達の学力はある程度の分布を示しており、極端に優秀な学生や極端に成績不振な学生は通常は少ないものと考えられる。従って仮に単位認定者の中に「秀」あるいは「可」が非常に多く「優」や「良」が少ない場合は、成績評価の方法が必ずしも適切ではない可能性がある。
- (4) すべての授業科目について担当教員には事前に教育目的と到達目標を設定し、シラバスに明記することが求められている。従って、1つの講義の成績評価において「不可」の学生の比率が極端に高い場合には、その講義の教育目的と到達目標が学生達の学力から乖離して不適切に設定されていることが示唆される。
- (5) すべての講義科目は前期または後期の期末に成績を報告することが義務づけられている。これに対して「保留」とは「期末試験等を経ても担当教員がその学生の成績判定を期限内に行なうに至らなかった」ということであり、成績評価の確定に向けた学生の何らかの学習行動の結果待ちの状態と言える。本来的には成績判定が一定期限内に適切に行われる場合は「保留」はゼロとなるはずである。従ってある講義科目の成績評価において「保留」の割合が高く現れている場合には、担当教員が適切な成績判定の行動を取っていない可能性（場合によっては適切な成績判定を怠っている可能性）が考えられる。

5. 調査結果の概要

(1) 授業実施の実態について

まず着目すべきは講義・実験実習が規定通りに適切に実施されているか否かである。現在の 5 学科の授業実施報告書を通読する限りにおいてはほとんどすべての講義において 15 回の講義（30 時間 2 単位、実験実習科目においては 45 時間 1 単位）が確保されている。講義回数 15 回＋試験実施 1 回の計 6 回の講義体制は文科省が教育の質保障のために推奨しているものであり、平成 26 年度より岩手大学でも前期後期の講義において 15 回講義に加えて 8 月の 1 週間と 2 月の 1 週間を「補習期間」と位置づけてこの

期間での試験実施も可能としている。しかしこの「補習期間」を実際の補習や期末試験の実施に使っている講義は非常に少ないのが現状のようである。

なお、授業実施報告書に記載されている「講義回数」はあくまでも担当教員の自己申告の数値であり、客観的なものではない。今後はアイアシスタントの機能の一つである講義の概要記録の機能を利用することなどにより講義回数を正確に確認する方向での検討が不可欠と考えられる。

(2) 履修学生数と単位取得率について

工学部内各学科の入学定員（推薦入試・一般入試（個別前期と後期）の定員の合計）は下記の通りである。

応用化学・生命工学科：75 名

マテリアル工学科：60 名

電気電子情報システム工学科：120 名

機械システム工学科：80 名

社会環境工学科：65 名

実際にはこれよりやや多い数の学生が各学科の学年ごとに在籍しており、通常の場合は学科内の 1 学年の在籍者数がその学科の専門基礎科目や専門教育科目の必修科目の履修人数にほぼ等しくなるはずである。しかし実際には過年度の単位未履修者の数が加わるため、必修科目の履修者数は 1 学年の 120%程度となっている。一方選択科目の場合はその講義科目の学修を希望する学生が履修するため、履修人数に幅が見られるのが普通である。これらの点に着目しながら、工学部内各学科の講義科目の評価学生数と単位取得率を見ると、興味深いいくつかの事柄が指摘可能である。

- (a) 工学部各学科の必修科目の履修者数は平均して 110～120%である。従って履修者の中には常に相当数の過年度学生が含まれていることになる。しかもこの数値は平成 22 年度や 24 年度の授業実施報告の結果と大差ない。即ち 1 つの講義科目を履修している学生のうちの 20%程度は講義内容について行けない状態と推定される。
- (b) 選択科目の履修者数が必修科目の場合よりも少なくなるのは不自然なことではないが、科目により履修者数に大きな差が現れている点、および 3 年前期と比較して 3 年後期は履修者数の平均値がやや減少する点にはあまり着目されていない。これらは学生達が卒業必要単位の取得や GPT のかさ上げを優先し、「深い専門性を身に付ける」という方向での履修行動を取っていないことの現れと見ることができる。しかし問題は学生だけにあるわけではなく、高度に専門的な内容を有する高学年の選択科目を多くの学生に履修させるためにはその講義内容や担当教員の教育姿勢の改善も求められるはずである。
- (c) 成績評価が「保留」の科目が少数ながら見られる。特にこれらの科目の中には必修科目が多く含まれることより、担当教員が期末試験での成績不振学生達に追試再試等あるいはレポート提出等を複数回にわたって実施していることが伺える。本来なら「不可」の評価となる学生に「不可」を出さずに努力を続けさせるそのような措置には教育的配慮という面があるとは思われる。しかし半年の講義開講期間中に学生に求めるべきそのような努力と努力の成果の判定を「保留」の形で延長するのは成績評価の不公平を生む側面もあり、さらに GPA や GPT の算出を難しくすることにも繋がる。

(3) 成績評価の状況

工学部内 5 学科における成績評価の状況は、以下の項目「Ⅱ. 平成 25・26 年度学科

別授業実施報告」に示されている。どの学科においてもほとんどの講義科目の成績分布は「秀」「可」がやや少なく、「優」や「良」がやや多く現れている。即ち成績分布に極端な偏りの見られる講義科目は少なく、ほとんどの講義科目において比較的適切な成績評価がなされていると思われる。ただ、「不可」の比率の高い講義科目も散見される。詳細は各学科の報告内容をご覧ください。

ここで「不可」となるケースにも2通りが考えられる。その一つは「履修申告をして通常の講義に出席し、課題や期末試験をきちんとこなしたものの最終的に得点が足りなかったための不可」であり、もう一つは「履修申告したものの、その後の履修放棄による不可」である。「履修見直し」の期間が設定されているため後者のようなケースは発生しないと考えられているが、それにも関わらず特に必修科目においては「期末試験を受験しない」という形の履修放棄学生が実際に相当の比率で存在する。講義を担当している教員の側では前者と後者を区別して扱っていると思われるので、今後のこの種の調査においてはそれぞれの科目について「履修者数」とともに「期末試験受験者数」のデータも示し、受験しなかった学生については「不可」とは区別して例えば「履修放棄」と別記するなどの対応としてはどうであろうか。さらにこのような2種類の「不可」の違いを反映できるようなGPTあるいはGPAの算出方法の見直しも必要となってくると思われる。

(4) 授業実施報告データのない講義について

工学部各学科の授業科目は(a) 専門基礎科目、(b) 工学基礎科目、(c) 学科ごとに設定された学科内専門科目、(d) 学科内共通科目、(e) 学部内共通科目、(f) 卒業研究、の6つのカテゴリーに分けられる。この中で「(f) 卒業研究」を除くすべてが「工学部授業実施報告」の対象となるはずであるが、具体的理由は不明であるが実際には全ての講義科目の授業実施報告のデータが出されているわけではない。その講義を非常勤講師や他学部他学科の教員に担当して貰っているためというような理由であろうと想像できるが、仮にそうであっても授業実施報告書にそのような断り書きを付記した上できちんと授業実施報告データを掲載するべきであろう。あるいはその講義科目が当該年度に開講されなかった可能性も考えられるが、特にその年度の「履修の手引き」や「シラバス」に記載されている講義科目が実は開講されていないとすればそれは大学の規定に反しており、学生にとっては単位取得の面で非常な不利益となる。学科としては非常勤講師を任用するなどの方法により速やかに改善策を講じるべきである。

※以下の「Ⅱ. 平成25・26年度学科別授業実施報告」の内容は省略する。

Ⅱ. 平成25・26年度学科別授業実施報告

1. 応用化学・生命工学科
2. マテリアル工学科
3. 電気電子情報システム工学科
4. 機械システム工学科
5. 社会環境工学科

農学部 農学生命課程 生命資源科学コース成績評価実施状況報告

生命資源科学コース 小森貞男

1. 対象科目

農学生命課程の課程共通科目および生命資源科学コースのコース科目のうち必修科目 30 科目である。内訳は講義科目 19 科目、実験・実習・演習科目 11 科目である。科目名は以下の通りである。

バイオテクノロジーとバイオ産業、植物生産学概論、園芸学概論、生物制御学概論、農業経済学、農業気象・環境学、農業生産施設学、農業生態学、食用作物学Ⅰ、果樹園芸学、蔬菜園芸学、植物育種学Ⅰ、植物育種学Ⅱ、植物病理学Ⅰ、植物病理学Ⅱ、応用昆虫学、昆虫バイオテクノロジー、植物生理学、分子生物学、情報処理演習Ⅰ、科学英語、農場実習Ⅰ、作物学実験、蔬菜花卉園芸学実験、果樹園芸学実験、植物育種学実験、植物病理学実験、応用昆虫学実験、生命資源科学演習Ⅰ、生命資源科学演習Ⅱ

2. 調査方法

上記 30 科目のシラバスについてアイアシスタントを用いて閲覧し、「農学部の成績評価ガイドライン（2012.12.05）」に基づき記載内容を点検した。

3. 点検の結果

点検結果の凡例は以下の通りである。

◎：全科目でガイドラインを満たしている

○：多くの科目でガイドラインを満たしている

×：多くの科目でガイドラインを満たしていない

（受業の到達目標・目的）講義、実験、実習、演習の担当教員はその到達目標・目的を設定し、その到達目標・目的をシラバスに明記することにより事前に履修学生に周知させるものとする。

◎ 点検した 30 科目すべてで明記されていた。

（学業成績評価の方法）講義、実験、実習、演習の学業成績の評価を行うに当たっては絶対評価に基づき、期末試験、レポートおよび平常点により担当教員が評価する。その成績評価の方法はシラバスに記載して事前に履修学生に公表するものとする。

◎ 点検した 30 科目すべてで明記されていた。

（期末試験）期末試験は、筆記、口述、発表などにより実施する。期末試験の実施方法び日時は担当教員が定めるものとするが、試験の実施に当たっては、その日時、場所、実施方法を履修学生に事前に公表し周知させる。

（レポート）レポートは、講義、実験、実習、演習等において随時行う課題であり、教室外学習に相当する。素の成績は課題に対するレポートの記述内容、記述書式、及び指定された提出期限の遵守の有無等により担当教員が総合的に判定する。

（平常点）平常の成績は、授業中に随時行う小テスト、学習状況や学習態度、レスポンスカード、及び出席状況等によって担当教員が判定する。

○ 点検した 30 科目中 29 科目で複数の方法により成績を評価していた。1 科目は期末試験 100% の単一評価であった。

（学業成績の評価項目）講義、実験、実習、演習の担当教員は試験、レポート、及び平常点の成績を数値化するにあたって主に以下の 4 つの観点に基づく評価を行う。ただし、これらの比重の設定については担当教員の判断にゆだねる。(1)関心・意欲・態度 (2)知識・理解 (3)技能・表現 (4)思考・判断

○ 多くの科目が 4 つの観点に基づく評価を行っていた。

（成績評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重）学業成績の評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重については担当教員の総合的判断に委ねる。

◎ 点検した 30 科目すべてが満たしていた。

（学業成績の評価基準）各授業科目の成績の評価は絶対評価に基づき、100 点を満点として原則として以下の基準により判定する。(1)秀：100 点～90 点（到達目標を超えて秀でた成績）(2)優：89 点～80 点（到達目標にふさわしい優れた成績）(3)良：79 点～70 点（到達目標を概ね満たす成績）(4)可：69 点～60 点（到達目標の最低限を満たす成績）(5)不可：59 点～0 点（到達目標に達していない成績）

◎ 点検した 30 科目すべてが満たしていた。

以上のように、ほとんどの項目でガイドラインを満たしており、成績評価が明記された方針に沿って実施されていることが判明した。

農学生命課程 生物産業科学コース成績評価実施状況報告

教務委員 折笠貴寛

1. はじめに

第二期中期計画【6】の平成 27 年度計画「各教育プログラムにおいて、成績評価のガイドラインと成績評価の実施状況を分析し、次期教育プログラムの成績評価ガイドラインを策定する」にかかり、農学部農学生命課程生物産業科学コースの成績評価の実施状況を分析した。

2. 対象科目

生物産業科学コースのコアカリキュラムに相当する計 32 科目を選んだ。講義科目は、バイオテクノロジーとバイオ産業、科学英語、農業生産施設学、農業気象・環境学、生物環境管理学、植物生体計測学、農業経済学、農業経営学、アグリビジネス論、農業政策論、農業エネルギー利用学、農作業システム学Ⅰ、農作業システム学Ⅱ、農業労働科学、農業環境評価論、草地学、生物資源利用論、食産業技術論、熱工学、情報処理演習Ⅰ、情報処理演習Ⅱ、ものづくり実習、生物産業科学実験Ⅰ、生物産業科学実験Ⅱ、生物産業科学実験Ⅲ、生物産業科学経済演習、生物産業技術演習、生物産業技術セミナー、農場実習Ⅰ、農場実習Ⅱ、農場特別実習、インターンシップ、である。

3. 使用した情報

教育推進機構で取りまとめられた平成 26 年度成績評価比率一覧（前期・後期）をアイアシスタントからダウンロードした。

4. 成績評価比率の平均値

生物産業科学コース科目における成績評価比率の平均値は、秀（12.1%）、優（40.8%）、良（29.1%）、可（14.2%）、不可（3.4%）、保留（0.4%）となった。講義科目の成績評価比率の平均値は、秀（7.1%）、優（31.7%）、良（37.6%）、可（18.9%）、不可（4.3%）、保留（0.3%）となった。実験・演習科目の成績評価比率の平均値は、秀（24.1%）、優（62.8%）、良（8.6%）、可（2.9%）、不可（1.1%）、保留（0.5%）となった。

表 生物産業科学コースの科目における成績評価比率の平均(%)

受講生数	評価比率(%)						合計
	秀	優	良	可	不可	保留	
全体	12.1	40.8	29.1	14.2	3.4	0.4	100
講義科目	7.1	31.7	37.6	18.9	4.3	0.3	100
実験・演習科目	24.1	62.8	8.6	2.9	1.1	0.5	100

応用生物化学課程成績評価実施状況報告

26 年度の前後期の応用生物化学課程の専門科目の成績評価の分布を講義科目と実習科目別に集計した。講義科目 31 科目、実習・演習科目 11 科目の成績分布の平均は以下のようになっている。

	秀	優	良	可	不可	保留
講義科目 (31 科目)	9.6	32.8	26.3	17.7	8.9	4.7
実習・演習科目 (11 科目)	5.8	64.5	10.7	4.4	1.7	12.8

平均した成績分布は、特に偏りはなく、個別の科目の成績分布をみても極端に偏った成績評価をしている科目は見あたらなかった。すべての科目について成績評価基準は農学部成績評価ガイドラインに従ってシラバスに明記されており、本課程では適切な成績評価を行っているとは判断できる。

共生環境課程 共生環境学コース成績評価実施状況報告

対象科目：共生環境学コースのコース科目である45科目（講義科目37科目、演習・実習科目8科目）

農学部の成績評価ガイドラインによる点検

「農学部の成績評価ガイドライン」（2012.12.05 農学部教務委員会了承）に基づき、以下のようにシラバス（平成27年度）の記載内容を点検した。

＜授業の到達目標・目的＞点検した科目全てのうち1科目（海外農林開発論）のみ記載が無かった。

＜学業成績評価の方法＞点検した科目全てのうち1科目（海外農林開発論）のみ記載が無かった。

また、記載されていた科目のうち1科目（環境修復学）では「出席点」が成績評価に含まれていた。

＜成績評価における試験、レポート、平常点等の比重＞点検した科目全てのうち1科目（海外農林開発論）のみ記載が無かった。その他記載のあった全ての科目については、複数の方法によって評価が出されていた。

＜学業成績の評価基準＞点検した科目全てのうち1科目（海外農林開発論）のみ記載が無かった。また、2科目（農業生態学、農業環境評価論）では評価の基準が具体性に欠けていた。

農学部科目の成績評価比率の平均（平成25年度分）との比較

表1 共生環境学コースにおける講義科目の成績評価比率の平均(%)

講義科目	科目数	履修者(名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部(H25年度)	243	40.9	13.6	33.0	27.5	18.5	6.1	1.3
共生コース(H25年度)	37	38.7	14.7	34.9	28.9	12.4	7.2	1.9
共生コース(H26年度)	37	34.6	12.3	39.3	25.8	12.5	6.5	3.6

表2 共生環境学コースにおける実習・演習科目の成績評価比率の平均(%)

実習・演習科目	科目数	履修者(名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部(H25年度)	110	28.4	17.8	63.7	10.7	3.9	1.2	2.7
共生コース(H25年度)	8	21.6	9.3	70.3	10.9	5.6	1.8	2.1
共生コース(H26年度)	6	17.0	2.8	63.9	12.0	11.0	10.3	0.0

平成25,26年度の成績評価比率の平均を「講義科目」（表1）と「実習・演習科目」（表2）に分けて求め、農学部における平成25年度の成績評価比率の平均と比較した。

講義科目では、農学部全体と比べると、共生環境学コース科目の「秀」や「優」の割合は概ね違いは無かった。一方、「不可」や「保留」の割合は兩年とも共生環境学コース科目の方が少し高い傾向にあった。これは、共生環境学コースの特に社会科学系の科目では課されるレポート課題が多く、このレポートの提出が間に合わなかった、もしくは遅れている場合に「不可」や「保留」がついたと考えられる。

一方、実習・演習科目では、「秀」や「優」の割合は農学部全体と比較して少なく、「不可」の割合が高い傾向にあった。これは、選択科目に関して、年度初めは履修するつもりで履修申告したものの、夏期休暇中に集中で行う実習前に予定が変わるなどして履修しなかった受講生が「不可」となったため、このような結果が生じたと考えられる。

共生環境課程 森林科学コース成績評価実施状況報告

森林科学コース教員団
(文責 教務委員 國崎貴嗣)

1. はじめに

第二期中期計画【6】の平成27年度計画「各教育プログラムにおいて、成績評価のガイドラインと成績評価の実施状況を分析し、次期教育プログラムの成績評価ガイドラインを策定する」にかかり、農学部共生環境課程森林科学コースの成績評価の実施状況を分析した。

2. 対象と方法

2.1. 対象科目

点検対象として、森林科学コースのコアカリキュラムに相当する計34科目（講義科目23科目、演習・実験・実習科目11科目）を選んだ。講義科目は、基礎数学入門、生物統計学、森林資源と人間生活Ⅰ（森林と人間Ⅰ）、森林測量学Ⅰ、樹木資源学、林業・木材産業論、樹木の組織と形態・生理、森林・雪氷水文学、環境緑化学、林業生産工学、基礎木材工学、森林化学、森林測量学Ⅱ、森林計測学、砂防学、森林造成学、林道工学、木材・木質材料学、森林バイオマスの成分利用、流域保全学、森林計画学、森林保全生態学、森林保護学である。また、演習・実験・実習科目は、森林測量学実習Ⅰ、樹木の組織と形態・生理実習、森林測量学実習Ⅱ、森林造成学実習、林業生産工学実習、インターンシップ、森林計測学実習、林道工学実習、砂防学実習、森林管理技術者総合演習Ⅰ、森林管理技術者総合演習Ⅱである。

2.2. 使用した情報

これら34科目のシラバスについては、アイアシスタントから最新版（平成27年度）を閲覧した。成績評価比率については、森林科学コースが毎年発行しているコース年報に34科目の成績評価分布がまとめられているので、それを基礎データとした。農学部全体の成績評価比率については、教育推進機構（旧 大学教育センター）で取りまとめられた成績評価比率一覧をアイアシスタントからダウンロードした。

2.3. 方法

第3章では、「農学部の成績評価ガイドライン」（2012.12.05 農学部教務委員会了承）に基づき、34科目におけるシラバスの記載内容を点検した。共生環境課程版の成績評価ガイドライン（案）は平成23年度に作成されたものの、記載項目が少なく、農学部版に包含されているので、平成24年度に作成された農学部版を活用した。

第4章では、「成績評価ガイドライン（例）」（2012.07.02大学教育センター）に基づき、34科目におけるシラバスの記載内容およびコースの取り組み状況を点検した。農学部版の成績評価ガイドラインでは不足している項目を点検するためである。なお、第3章と重複する内容については省略した。

第5章では、34科目の平成22～26年度（5年間）における成績評価比率の平均を「講義科目」と「演習・実験・実習科目」に分けて求め、農学部における平成25年度の成績評価比率の平均と比較した。平成26年度に作成された「農学部における授業実施報告書（平成25年度分）」での分析で、平成25年度の成績評価比率の平均が、農学部の基準として活用できると報告されているためである。

3. 農学部の成績評価ガイドラインによる点検

点検結果の冒頭に付した記号は以下のとおりである。◎は全科目でガイドラインを満たしていることを示す。○は、すべてではないものの、多くの科目でガイドラインを満たしていることを示す。×は、多くの科目でガイドラインを満たしていないことを示す。

（授業の到達目標・目的）講義、実験、実習、演習の担当教員はその到達目標・目的を設定し、その到達目標・目的をシラバスに明記することにより事前に履修学生に周知させるものとする。

◎ 点検した34科目すべてで明記されていた。

（学業成績評価の方法）講義、実験、実習、演習の学業成績の評価を行うにあたっては絶対評価に基づき、期末試験、レポートおよび平常点により担当教員が評価する。その成績評価の方法はシラバスに記載して事前に履修学生に公表するものとする。

◎ 点検した34科目すべてが満たしていた。

（期末試験）期末試験は、筆記、口述、発表などにより実施する。期末試験の実施方法及び日時は担当教員が定めるものとするが、試験の実施にあたってはその日時、場所、実施方法等を履修学生に事前に公表し周知させる。

（レポート）レポートは、講義、実験、実習、演習等において随時行う課題であり、教室外学習に相当する。その成績は課題に対するレポートの記述内容、記述書式、及び指定された提出期限の遵守の有無等により担当教員が総合的に判定する。

（平常点）平常の成績は、授業中に随時行う小テスト、学習状況や学習態度、レスポンスカード、及び出席状況等によって担当教員が判定する。

○ 点検した34科目中、33科目で複数の方法により成績評価していた。残り1科目（実習）では、レポート100%の単一評価になっていた。

（学業成績の評価項目）講義、実験、実習、演習の担当教員は試験、レポート、及び平常点の成績を数値化するにあたって主に以下の4つの観点に基づく評価を行う。ただし、これらの比重の設定については担当教員の判断に委ねる。（1）関心・意欲・態度（2）知識・理解（3）技能・表現（4）思考・判断

◎ 点検した34科目すべてが満たしていた。

（成績評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重）学業成績の評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重については担当教員の総合的判断に委ねる。

◎ 点検した34科目すべてが満たしていた。

（学業成績の評価基準）各授業科目の成績の評価は絶対評価に基づき、100点を満点として原則として以下の基準により判定する。（1）秀：100点～90点（到達目標を超えて秀でた成績）

（2）優：89点～80点（到達目標にふさわしい優れた成績）（3）良：79点～70点（到達目標を概ね満たす成績）（4）可：69点～60点（到達目標を最低限満たす成績）（5）不可：59点～0点（到達目標に達していない成績）

◎ 点検した34科目すべてが満たしていた。

このように、農学部の成績評価ガイドラインの点検項目については、一つの○を除いて、

すべて◎であった。森林科学コースでは農学部の成績評価ガイドラインに沿ってシラバスが適切に作成されていると言える。

また、平成26年度（11月）に実施されたJABEE（日本技術者教育認定機構）による教育プログラム審査（外部審査）においては、各科目別のより詳細な根拠資料に基づき審査がおこなわれ、「森林科学コースにおける成績評価は適切におこなわれている」旨、評価された。これらのことから、森林科学コースにおける成績評価は適正に実施されていると考えられる。

4. 大学教育センターの成績評価ガイドライン（例）による点検

点検結果の冒頭に付した記号は、第3章で用いた記号と同じである。

1. 授業の目的：〇〇コースで策定した「教育目的」「学位授与の方針」との関係を明らかにして、授業の目的を設定する。

○ 点検した34科目中、33科目で明記されていた。残り1科目（講義）では、「学業成績の評価項目」（4つの観点）について言及していた。

2. 到達目標：コースで策定した「学位授与の方針」の項目との関係を明記する。具体的に、どの項目に対応しているかがわかるようにする。

× 対応関係を具体的に明示している科目はなかった。

2. 到達目標：〇〇コースには、基礎科目、発展科目、課程共通科目があり、それぞれの科目区分の性質にあわせた到達目標を設定する。基礎科目では基礎的な事項を確実に身につけることが目的なので、到達目標として、対象となる具体的な事項を明記する。発展科目では身につけた知識等を具体的な事例に応用できることが目的なので、到達目標には、「どのような場面で何ができるか」を含めるようにする。課程共通科目では専門との関係性がわかるような記述を含めるようにする。

○ 点検した34科目中、33科目で具体的な到達目標が明記されていた。残り1科目（講義）では、到達目標は明記されているものの、やや抽象的であった。

3. 成績評価の方法と基準○成績評価の方法

3. 成績評価の方法と基準○成績評価の基準：到達目標の達成度を基準とした絶対評価とする。

これらは第3章で点検済みである（省略）。

3. 成績評価の方法と基準○成績評価の基準：成績評価の比率に極端に評価に偏りがでないように定期的に見直しを行う。

◎ コースの取り組み（授業担当教員による自己評価をコース年報へ掲載する取り組み）として、毎年見直ししている。

3. 成績評価の方法と基準○成績評価の基準：「基礎科目」では、8割程度の学生が単位を取得できるようなレベルを目安に基準を設定する。単位取得状況が悪い場合には、基準を見直す。「発展科目」では、学ぶ意欲が高く、実際に学んで力をつけた学生が単位を取得できるようなレベルを目安に基準を設定する。ただし、単位取得状況が極端に悪い場合には、基準を見直す。

◎ 後述するように、9割程度の学生が単位を取得しているとともに、コースの取り組み(授業担当教員による自己評価をコース年報へ掲載する取り組み)として毎年見直ししている。

3. 成績評価の方法と基準○成績評価の基準：学生に到達イメージが伝わるように記述する。例えば、「テストで80点を取れば優」では、何をどう学習すればいいのかわからないので、「教科書の例題が解けるようになれば良」など、学習の到達点がイメージできるように記述する。

× 点検した 34 科目中、29 科目で具体的な到達イメージが明記されていない。残り 5 科目(到達イメージが明記されていた科目)は、すべて同一教員の担当科目であった。

第3章との重複を除く点検 6 項目のうち、◎、○、×がそれぞれ 2 つずつとなった。ただし、○については、いずれも 97% (34 科目中 33 科目)の科目が満たしているため、6 項目のうち 4 項目は特に問題ないと言える。

一方、×となった 2 項目では、85～100%の科目がガイドライン(案)を満たしておらず、改善が必要である。学位授与の方針と到達目標との対応関係の明記については、平成 28 年度からの新学科担当教員団でミニ FD を開催するなどして、記載方法を決定したい。また、到達イメージについては、シラバスに明記することがすでに何年間も依頼されていることから、平成 28 年度のシラバスからはコース全科目で明記するよう、周知したい。

5. 農学部科目の成績評価比率の平均(平成 25 年度分)との比較

まず、講義 23 科目の成績評価比率の平均を表 1 に示す。一行目の農学部の比率平均を基

表 1 森林科学コースにおける講義科目の成績評価比率の平均 (%)

対象と年度	科目数	平均履修者数 (名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部 25 年度	243	40.9	13.6	33.0	27.5	18.5	6.1	1.3
森林 22 年度	23	29.7	13.0	35.2	30.7	17.2	3.8	0.0
森林 23 年度	23	31.6	8.8	40.8	28.1	16.6	5.7	0.0
森林 24 年度	23	31.0	11.2	39.8	31.9	12.3	4.7	0.0
森林 25 年度	23	30.1	7.9	35.9	27.6	22.4	6.2	0.0
森林 26 年度	23	29.6	11.1	33.7	27.8	22.0	5.4	0.0

対象科目 (23 科目)：基礎数学入門(必修選択)、生物統計学(選択)、森林資源と人間生活 I (森林と人間 I)、森林測量学 I (必修)、樹木資源学(必修)、林業・木材産業論(必修)、樹木の組織と形態・生理(必修)、森林・雪氷水文学(必修)、環境緑化工学(選択)、林業生産工学(必修)、基礎木材工学(必修)、森林化学(必修)、森林測量学 II (必修)、森林計測学(必修)、砂防学(必修)、森林造成学(必修)、林道工学(必修)、木材・木質材料学(必修)、森林バイオマスの成分利用(必修)、流域保全学(選択)、森林計画学(選択)、森林保全生態学(必修)、森林保護学(選択)

準に、「5 ポイント以上異なる場合」に差があると評価するなら、秀の割合は平成 25 年度にやや低かった。優の割合は平成 23、24 年度にやや高かった。可の割合は平成 24 年度にやや低かった。ただし、いずれの年度、成績でも 10 ポイント以上の差は見られず、森林科学コースでは農学部全体とほぼ同様の成績評価比率になっていると言える。

秀と優を合計した割合は、年度に関係なく 45%前後であった。このことから、森林科学

コースでは、到達目標を確実に満たす学生が 4 割から 5 割になるような教育水準を設定していると言える。また、到達目標を超えて秀でた成績である秀の割合は年度に関係なく 1 割前後であり、20：80 の経験則などに照らしても、適正な水準であると言える。

次に、演習・実験・実習 11 科目の成績評価比率の平均を表 2 に示す。ここでも、一行目

表 森林科学コースにおける演習・実験・実習科目の成績評価比率の平均（％）

対象と年度	科目数	平均履修者数 (名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部 25 年度	110	28.4	17.8	63.7	10.7	3.9	1.2	2.7
森林 22 年度	11	19.0	35.8	51.0	9.3	4.0	0.0	0.0
森林 23 年度	11	23.3	20.7	63.0	12.5	2.6	1.1	0.0
森林 24 年度	11	24.5	5.7	78.5	13.7	1.1	1.0	0.0
森林 25 年度	11	20.8	12.1	77.3	9.8	0.8	0.0	0.0
森林 26 年度	11	16.8	9.4	82.4	6.8	1.5	0.0	0.0

対象科目（11 科目すべて必修）：森林測量学実習 I、樹木の組織と形態・生理実習、森林測量学実習 II、森林造成学実習、林業生産工学実習、インターンシップ、森林計測学実習、林道工学実習、砂防学実習、森林管理技術者総合演習 I、森林管理技術者総合演習 II

の農学部の比率平均を基準に、「5 ポイント以上異なる場合」に差があると評価する。秀の割合は経年的に減少し、平成 24～26 年度には 10%前後と、農学部全体よりやや低くなった。逆に、優の割合は経年的に増加し、平成 24～26 年度には 80%前後と、農学部全体より 10 ポイント以上高くなった。良、可、不可、保留の割合は農学部全体と同じだった。

秀と優を合計した割合は、平成 23、24 年度を除いて、90%前後に達しており、農学部全体よりも高かった。加えて、この割合（90%前後）は、森林科学コースの講義科目における割合（45%前後）の 2 倍である。「情報」や「手法」中心の座学（講義）では十分に学修できない「技能」を学ぶために、演習・実験・実習科目が配置されていると考えた場合、その成績評価比率は、講義科目のそれよりも全体的に下方に分布がずれると予想される。しかし、「到達目標にふさわしい優れた成績」以上を修めた学生が 9 割前後もいる教育水準を意味しており、講義科目に比べて、適正な成績評価がおこなわれているとは考えにくい。到達目標の水準を高めるか、もしくは評価の観点（4 つの観点）を点検しつつ、評価項目をさらに増やす（特に、実習時のリーダーシップやグループワーク力を評価する）などの措置が必要であろう。

共生環境課程 農村環境デザイン学コース成績評価実施状況報告

対象科目：農村環境デザイン学コースのコース科目である 37 科目（講義科目 21 科目，演習・実験・実習科目 16 科目）

農学部の成績評価ガイドラインによる点検

「農学部の成績評価ガイドライン」（2012.12.05 農学部教務委員会了承）に基づき，以下のようにシラバス（平成 27 年度，アイアシスタントからダウンロード）の記載内容を点検した．

（授業の到達目標・目的）：点検した科目すべてで明記されていた．

（学業成績評価の方法）：点検した科目すべてが満たされていた．

（期末試験）（レポート）（平常点）：点検した科目において，1 科目で期末試験のみの評価になっていた．

（学業成績の評価項目）：点検した科目において，18 科目で評価の観点（4 つの観点）が明記されていなかった．

（成績評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重）：点検した科目すべてが満たされていた．

（学業成績の評価基準）：点検した科目において，8 科目で合格基準が明記されていなかった．

農学部科目の成績評価比率の平均（平成 25 年度分）との比較

平成 25，26 年度における成績評価比率（アイアシスタントからダウンロード）の平均を「講義科目」と「演習・実験・実習科目」に分けて求め，農学部における平成 25 年度の成績評価比率の平均と比較した．講義科目の成績評価比率の平均を表 1 に示す．農学部の平均との違いは，農村環境デザイン学コースの秀の比率が高く，可の比率が少ないことに現れている．これは，力学系科目において学力差が著しいことが主因であると考えられる．

表 1 農村環境デザイン学コースにおける講義科目の成績評価比率の平均（％）

	科目数	履修者(名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部 25 年度	243	40.9	13.6	33.0	27.5	18.5	6.1	1.3
デザイン 25 年度	21	34.7	18.2	35.1	22.7	14.8	5.5	3.7
デザイン 26 年度	21	32.4	21.7	32.6	24.1	11.0	5.0	5.6

表 2 農村環境デザイン学コースにおける演習・実験・実習科目の成績評価比率の平均（％）

	科目数	履修者(名)	秀	優	良	可	不可	保留
農学部 25 年度	110	28.4	17.8	63.7	10.7	3.9	1.2	2.7
デザイン 25 年度	16	20.6	23.2	49.9	12.7	6.8	1.4	5.9
デザイン 26 年度	16	20.6	19.6	60.8	8.9	5.5	3.0	2.2

次に，演習・実験・実習科目の成績評価比率の平均を表 2 に示す．農学部の平均との違いは，25 年度農村環境デザイン学コースの評価比率に現れ，これはレポートなどの評価が高い学生と低い学生に著しい乖離があることが原因であると考えられる．26 年度農村環境デザイン学コースの評価比率は農学部平均と大きな違いはなく，25 年度に受講した学生の技能に大きな差があったものと推察される．

動物科学課程成績評価実施状況報告

点検評価対象として、動物科学課程のコアカリキュラムに相当する課程科目 27 科目（講義科目 24 科目、実習・実験科目 3 科目）を選んで実施状況を確認した。

1. 成績評価ガイドラインによる点検

成績評価ガイドラインに基づき、該当科目のシラバスを点検した。

（授業の到達目標・目的）：点検したすべての科目においてシラバスに記載されていた。

（学業成績評価の方法）：評価方法として、期末試験、レポート、平常点のいずれを使用するかは、担当教員、講義科目 or 実習・実験科目で異なっていたが、すべての科目においてシラバスに明記されていた。

（成績評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重）：点検したすべての科目でシラバスに明記されていた。

（学業成績の評価項目）：4つの観点の比重は明記されていないものが多かったが、これらの観点に基づいて総合的に評価している。

（学業成績の評価基準）：シラバスには明記していなかったが、成績評価ガイドラインに基づく絶対評価を行い、教育推進機構で取りまとめられた成績評価比率一覧には評価基準の秀・優・良・可・不可で記載した。

2. 動物科学課程（課程科目）成績評価比率

以下に H26 年度の課程科目 27 科目（講義科目 24 科目、実習・実験科目 3 科目）の成績評価比率と参考として H25 年度の農学部平均の成績評価比率（%）を示した。

秀の割合が農学部平均に比べ高く、特に実験・実習で高くなっていた。秀は「到達目標を超えた秀でた成績」を修めたことになるが、実習科目で4割弱おり、やや多すぎる感がある。評価の到達目標を高めるなどの措置が必要かもしれない。

		受講生数	秀	優	良	可	不可
動物科学課程 (H26)	講義	34.5	21.8	32.6	25.3	17.1	3
	実習・実験	31	36.4	62.5	0.0	0.0	0
参考：農学部 (H25)	講義	243	13.6	33.0	27.5	18.5	6.1
	実習・実験	110	17.8	63.7	10.7	3.9	1.2

共同獣医学科成績評価実施状況報告

共同獣医学科教員
(文責 教務委員 山崎真大)

第二期中期計画の平成 27 年度計画においては「各教育プログラムにおいて、成績評価のガイドラインと成績評価の実施状況を分析し、次期教育プログラムの成績評価ガイドラインを策定する」となっている。共同獣医学科においては平成 24 年度に東京農工大学との共同獣医学科が設立され、平成 30 年に第一期生が卒業し、共同獣医学科が完成した時点で教育プログラムを検証し、評価する予定であることから、現時点では新しい教育プログラムの策定とそれに伴う成績評価方法の変更は行わない。現在は共同獣医学科設置の時に作成したシラバスに基づき、出席状況、定期試験、レポートなどを総合的に評価し、成績評価を行っている。

なお、共同獣医学科においては、全国大学獣医学関係者代表者協議会・獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会により策定されたモデル・コア・カリキュラムを基に全国の獣医系大学において一律の教育を実施することを目的として教育内容、方法の改善を図っており、自己点検・評価の実施や分野別第三者評価の導入など、獣医学教育の質を保証する評価システムを構築している。したがって成績評価の基準はこのモデル・コア・カリキュラムにおける目標を達成しているか否かを中心に評価を行っている。

人文社会科学部 成績評価ガイドライン

1. 授業の目的

人文社会科学部には、学部共通科目、課程科目、専修プログラム科目があり、それぞれの科目区分の特性にあわせた授業の目的を設定する。各授業の目的は、学部の教育目的に沿うものとする。

2. 到達目標

- ・各課程および専修プログラムで策定した「学位授与の方針」に沿った到達目標を設定する
- ・各課程および専修プログラムで策定した「修得能力」との関連性がわかる記述にする。
- ・各課程および専修プログラムで設定した「導入科目」「共通科目」「基礎科目」「展開科目」等の、科目区分の特性にあわせた到達目標を設定する。
- ・どの程度の知識や能力を修得しなければならないのかを、できるだけ具体的に設定するようにする。

3. 成績評価の方法と基準

成績評価の方法

- ・講義科目では、最終試験あるいは最終レポート1回のみの評価はできる限り避け、複数の方法・観点で評価を行うことが望ましい。
- ・演習・実習・実験科目では、原則として実践を重視し、授業内外の成果物・発表内容を成績評価に取り入れるようにする。

成績評価の基準

- ・到達目標の達成度を基準とした絶対評価を原則とする。
- ・到達目標へどの程度の水準で到達すれば、どのような成績評価を得られるのかについて、できるだけ学生にも理解しやすい基準をもうける。
- ・到達目標への各学生の到達水準を、適切に反映した成績評価を行う。

教育学部 成績評価ガイドライン

I. 学校教育教員養成課程

小学校教育コース，中学校教育コース，理数教育コース，特別支援教育コース

1. 「授業の目的」の設定の仕方

各授業は，「教育目的」や「学位授与の方針」に沿った人材育成を目指して，コースのカリキュラムポリシーの中に位置づけられている．それぞれの授業の位置づけに沿って授業の目的を設定する．

シラバス等の「授業の目的」の記述に当たっては，「学位授与の方針」との関係（該当する知識・能力等）がわかるように記述すること．

2. 「到達目標」の設定の仕方

- ・各授業の到達目標は，コースの「学位授与の方針」との具体的な対応関係がわかるように設定する．
- ・共通性の高い基礎的講義，選択性の発展的講義，演習，実験・実習，実技等の授業の性質に応じて，適切な到達目標を設定する．なお，到達目標の妥当性は毎年見直すものとし，学生の状況に応じて授業内容の改善に努めることとする．

3. 成績評価の方法と基準

○成績評価の方法

- ・講義科目では，最終試験以外に，レスポンスカード，小テスト，レポート等を活用して複数の方法・観点で評価することが望ましい．
- ・演習科目では，授業中の活動や成果を重視した評価を行う．
- ・実験・実習科目では，十分な体験活動ができるように構成し，その取り組みの様子も評価対象とする．さらに必ずレポート等の提出を求め評価対象とする．
- ・実技科目では，十分な体験活動ができるように構成し，その取り組みの様子や技能等について評価の対象とする．

○成績評価の基準

- ・成績の評価は到達目標に基づいた絶対評価とする．
- ・各授業科目につき100点を満点として，以下の基準で判定をすることを標準とする．

秀：100点～90点（その科目の到達目標を超えて秀でた成績）

優：89点～80点（その科目の到達目標にふさわしい優れた成績）

良：79点～70点（その科目の到達目標をおおむね満たす成績）

可：69点～60点（その科目の到達目標を最低限満たす成績）

不可：59点～0点（その科目の到達目標に達していない成績）

理工学部 化学・生命理工学科 化学コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」の設定の仕方

- ・化学コースの「学位授与の方針」との関係を一明らかにすること。
- ・教員を主語とし、「学位授与の方針」と照らし合わせつつ具体的に記述すること。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- ・「学位授与の方針」との関係を明記し、具体的にどの項目と対応しているかを示すこと。
- ・「学位授与の方針」の「修得能力」の項目と関連づけて設定すること。具体的な事項が明記されていることが望ましい。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

3-1.成績評価の方法

- ・講義科目においては、最終試験のみの評価をできるだけ避け、レスポンスカードや小テスト、小レポート等を活用して複数の方法・観点で評価することが望ましい。
- ・成績評価において、講義への出席を加点してはならない。
- ・演習科目においては、授業中の成果を重視し、授業内外の成果物も成績評価に加えること。
- ・実験科目においては、必ずレポートを成績評価法に取り入れること。

3-2.成績評価の基準

- ・到達目標に対する達成度を基準として絶対評価とすること。
- ・成績評価比率に極端な偏りがでないよう、講義方法や成績評価法等を定期的に見直すこと。
- ・学生に対し、到達イメージが伝わるように記述すること。例えば「期末試験で80点以上取れば優」では、学生自身が何をどう学習すれば良いか不明瞭なので、なるべく「教科書の例題が解ければ良」など、到達点をイメージし易い記述を心掛けること。

化学・生命理工学科 生命コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」の設定の仕方

- ・生命コースの「学位授与の方針」との関係を明らかにすること。
- ・教員を主語とし、「学位授与の方針」と照らし合わせつつ具体的に記述すること。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- ・「学位授与の方針」との関係を明記し、具体的にどの項目と対応しているかを示すこと。
- ・「学位授与の方針」の「修得能力」の項目と関連づけて設定すること。具体的な事項が明記されていることが望ましい。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

3-1. 成績評価の方法

- ・講義科目においては、最終試験のみの評価をできるだけ避け、レスポンスカードや小テスト、小レポート等を活用して複数の方法・観点で評価することが望ましい。
- ・成績評価において、講義への出席を加点してはならない。
- ・演習科目においては、授業中の成果を重視し、授業内外の成果物も成績評価に加えること。
- ・実験科目においては、必ずレポートを成績評価法に取り入れること。

3-2. 成績評価の基準

- ・到達目標に対する達成度を基準として絶対評価とすること。
- ・成績評価比率に極端な偏りがでないよう、講義方法や成績評価法等を定期的に見直すこと。
- ・学生に対し、到達イメージが伝わるように記述すること。例えば「期末試験で80点以上取れば優」では、学生自身が何をどう学習すれば良いか不明瞭なので、なるべく「教科書の例題が解ければ良」など、到達点をイメージし易い記述を心掛けること。

物理・材料理工学科 数理・物理コース, マテリアルコース 成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」(Aim) の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」との関係を明らかにし、担当教員が具体的に記述すること。

2. 「到達目標」(Goals) の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」との関係を明らかにし、本授業を通じて学生が習得・理解し、活用出来る知識・技能・能力等の学習成果を出来るだけ具体的に記述すること。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

○ 成績評価の方法 (Requirements & grading Allocation)

- 講義科目においては、中間・期末試験、レポート提出、小テスト等を活用して複数の方法・観点で多角的に評価すること。
- 演習科目においては、口頭発表、口頭試問、授業への貢献等の評価の種類と比重を含め、多角的な成績評価方法を具体的に記述すること。
- 実験科目においては、必ずレポートを成績評価に取り入れること。また、授業への貢献度、自主・個人学修等の評価も含め、評価方法を具体的に記述すること。

○ 成績評価の基準 (Grading Criteria)

- 到達目標・到達度を基準として絶対評価すること。
- 採点基準が明確に示されており、公表されていること。
- 成績評価比率に極端な偏りがでないよう、第3者も含めて定期的に見直しを行うこと。
- 同じ分野の担当教員複数で、到達目標、成績評価基準の相互チェックを行うこと。
- 最終試験のスコアのみで評価するのではなく、あくまでも「到達度」で評価すること。授業の到達度が学生に理解出来る様、具体的な問題・課題を例に挙げ、説明すること。

○ 授業時間外の学習 (求められる予習・復習の内容) (Preparation & Review)

- 学生に授業外で求める学習内容・量(時間)について予習、復習を記述すること。「単位」は45時間の学習によって1単位を与えることが定められている。今後、この「単位」の実質化を図ることが、大学設置基準で強く求められる。学生には1コマ(90分)の授業に対して2倍の予習・復習時間が求められている点に留意し、周知すること。

システム創成工学科 電気電子通信コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」と関連付けて設定すること。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」の、どの項目に対応しているか具体的に示すこと。
- コースで策定した「修得能力」の項目と関連づけて設定すること。
- 基礎的な基幹科目は、最低限必要とされる知識を身に付けた学生が合格可能となる到達目標を設定することが望ましい。
- 発展的な専門科目は、学生の向学心を十分に満たす高度な内容を含めた到達目標を設定することが望ましい。
- 連続する科目や関連性の高い科目では、授業担当者間で事前に話し合い、接続性や連続性を考慮して到達目標を設定することが望ましい。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

○ 成績評価の方法

- 講義科目においては、最終試験のみの評価をできるだけ避け、レスポンスカードや小テスト、小レポート等を活用して複数の方法・観点で評価することが望ましい。
- 演習科目においては、授業中の成果、取り組み態度、コミュニケーション、授業内外の成果物等を含めて総合的に評価することが望ましい。
- 実験科目においては、必ずレポートを成績評価法に取り入れること。

○ 成績評価の基準

- 到達目標に対する達成度を基準として絶対評価すること。
- 成績評価比率に極端な偏りがでないよう、定期的に規準の見直しを行うこと。
- 実験科目では、複数の担当者の話し合いにより成績評価をすること。

システム創成工学科 知能・メディア情報コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」との関係を明らかにすること。
- 教員を主語とし、コースの「学位授与の方針」と照らし合わせつつ具体的に記述すること。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」との関係を明記し、具体的にどの項目に対応しているかを示すこと。
- コースで策定した「修得能力」の項目と関連づけて設定すること。なるべく具体的な事項が明記してあることが望ましい。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

○ 成績評価の方法

- 講義科目においては、最終試験のみの評価をできるだけ避け、レスポンスカードや小テスト、小レポート等を活用して複数の方法・観点で評価することが望ましい。
- 演習科目においては、授業中の成果を重視し、授業内外の成果物も含めて評価することが望ましい。
- 実験科目においては、必ずレポートを成績評価法に取り入れること。もちろん、他の評価方法を加えても差し支えない。

○ 成績評価の基準

- 到達目標に対する達成度を基準として絶対評価すること。
- 成績評価比率に極端な偏りがでないよう、定期的に見直しを行うこと。
- 学生に対し、到達イメージが伝わるように記述すること。例えば、「期末試験で 80 点以上取れば優」では、学生自身が何をどう学習すれば良いか不明瞭なので、なるべく「教科書の例題が解ければ良」など、到達点がイメージしやすいような記述を心掛けること。

システム創成工学科 機械科学コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」との関係をはっきりと明記し、授業の目的を設定すること。
- 教員を主語にして、コースの「学位授与の方針」を目的において、具体的に記述する。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- コースで策定した「学位授与の方針」の項目との関係を明記する。具体的にどの項目に対応しているかが分かるようにする。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

○ 成績評価の方法

- 講義科目では、最終試験のみの評価はできるだけ避け、中間テスト、小テスト、レポート等を活用して複数の方法・観点で評価を行う。
- 演習科目では、できるだけ授業中の成果を重視し、授業内外の成果物によって成績評価を行う。
- 実験科目では、必ずレポートを成績評価法に取り入れる。レポートが取り入れられていれば、他の評価方法を加えてもかまわない。

○ 成績評価の基準

- 到達目標に対する達成度を基準とした絶対評価とする。
- 成績評価比率に極端に評価に偏りがでないように、できるだけ定期的に見直しを行うこと。
- 「必修科目」では、8割程度の学生が単位を取得できるようなレベルを目安に基準を設定する。単位取得状況が悪い場合には、授業方法などを見直す。
- 「選択科目」では、学ぶ意欲が高く、実際に学んで力をつけた学生が単位を取得できるようなレベルを目安に設定する。
- 学生に到達イメージが伝わるように記述する。例えば、「テストで80点を取れば優」では、何をどう学習すれば良いかわからないので、できるだけ「教科書の例題が解けるようになれば良」など、学習の到達点がイメージできるように記述する。

システム創成工学科 社会基盤・環境コース成績評価ガイドライン

1. 「授業の目的」での設定の仕方

- ・コースで策定した「学位授与の方針」との関係性を明らかにして、授業の目的を設定する。

2. 「到達目標」の設定の仕方

- ・コースで策定した「学位授与の方針」の項目との関係を明記する。具体的に、どの項目に対応しているかがわかるようにする。
- ・コースで策定した「修得能力」の項目と関連づけて設定する。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定の仕方

○成績評価の方法

- ・講義科目では、最終試験のみの評価はできるだけ避け、レスポンスカードや小テスト、中間試験、レポート等を活用して、複数の方法・観点で評価を行うのが望ましい。
- ・演習科目では、授業中の成果を重視し、授業内外の成果物によって成績評価を行う。
- ・実験科目では、必ずレポートを成績評価の方法に取り入れる。

○成績評価の基準

- ・到達目標の達成度を基準とした絶対評価とする。
- ・採点基準が明確にされており、公表されることが望ましい。
- ・成績評価の比率に極端に評価の偏りが出ないように定期的に見直しを行う。
- ・「必修科目」では、8割程度の学生が単位を取得できるようなレベルを目安に基準を設定する。単位取得状況が悪い場合には基準を見直す。
- ・「選択科目」では、学ぶ意欲が高く、実際に学んで力をつけた学生が単位を取得できるようなレベルを目安に基準を設定する。ただし、単位取得状況が極端に悪い場合には基準を見直す。
- ・学生に到達イメージが伝わるように記述する。例えば「テストで80点とれば優」では、何をどう学習すればいいのかわからないので、「教科書の例題が解けるようになれば可」「教科書の演習問題が解けるようになれば優」など、学習の到達点のイメージができるように記述するのが望ましい。

○授業時間外の学習

- ・学生に、授業外で求める学習内容・量（時間）について予習復習の必要性を記述すること。「単位」は45時間の学習によって1単位を与えることが定められている。学生には授業に対して2倍の予習復習時間が求められている点を周知すること。

農学部 成績評価ガイドライン

（授業の到達目標・目的）

講義、実験、実習、演習の担当教員はその到達目標・目的を設定し、その到達目標・目的をシラバスに明記することにより事前に履修学生に周知させるものとする。

（学業成績評価の方法）

講義、実験、実習、演習の学業成績の評価を行うにあたっては絶対評価に基づき、期末試験、レポート、および平常点により担当教員が評価する。その成績評価の方法はシラバスに記載して事前に履修学生に公表するものとする。

（期末試験）

期末試験は、筆記、口述、発表などにより実施する。期末試験の実施方法及び日時は担当教員が定めるものとするが、試験の実施にあたってはその日時、場所、実施方法等を履修学生に事前に公表し周知させる。

（レポート）

レポートは、講義、実験、実習、演習等において随時行う課題であり、教室外学習に相当する。その成績は課題に対するレポートの記述内容、記述書式、及び指定された提出期限の遵守の有無等により担当教員が総合的に判定する。

（平常点）

平常の成績は、授業中に随時行う小テスト、学習状況や学習態度、レスポンスカード、及び出席状況等によって担当教員が判定する。

（学業成績の評価項目）

講義、実験、実習、演習の担当教員は試験、レポート、および平常点の成績を数値化するにあたって主に以下の4つの観点に基づく評価を行う。ただしこれらの比重の設定については担当教員の判断に委ねる。

- (1) 関心・意欲・態度
- (2) 知識・理解
- (3) 技能・表現
- (4) 思考・判断

（成績評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重）

学業成績の評価における期末試験、レポート、及び平常点の比重については担当教員の総合的判断に委ねる。

（学業成績の評価基準）

各授業科目の成績の評価は絶対評価に基づき、100点を満点として原則として以下の基準により判定する。

- (1) 秀 : 100点～90点（到達目標を超えて秀でた成績）
- (2) 優 : 89点～80点（到達目標にふさわしい優れた成績）
- (3) 良 : 79点～70点（到達目標をおおむね満たす成績）
- (4) 可 : 69点～60点（到達目標を最低限満たす成績）
- (5) 不可 : 59点～0点（到達目標に達していない成績）



教養教育センター

教養教育センター会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	松 林 城 弘	人文社会科学部
副センター長／兼務教員	齋 藤 博 次	人文社会科学部
科目委員会委員長 兼務教員	齋 藤 博 次	外国語科目委員会
	澤 村 省 逸	健康・スポーツ科目委員会
	木 村 彰 男	情報科目委員会
	重 野 和 彦	文化科目委員会
	藤 本 幸 二	社会科目委員会
	西 崎 滋	自然科学科目委員会
	中 西 良 樹	科学技術科目委員会
	中 澤 廣	環境科目委員会
	中 島 清 隆	地域科目委員会
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
	富 永 陽 子	教育推進機構
各学部の教務（学務）委員会 委員長又は副委員長	中 村 安 宏	人文社会科学部
	犬 塚 博 彦	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	國 崎 貴 嗣	農学部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部
センター長が必要と認めた者	後 藤 厚 子	COC特任准教授

活動報告

センター長 松林 城弘

1. 教養教育のカリキュラムと実施体制の整備について

平成27年4月1日に「教養教育センター」が設置され、28年度から新しい教養教育のカリキュラムが実施されます。技法知科目群・学問知科目群・実践知科目群の実施体制の強化や担当体制の充実と並行しながら、特に、下記の新設科目や旧科目を改変（改編）した科目については、一層の整備と充実に取り組んできました。

- (1) 技法知科目：「英語基礎」（リメディアル科目）、並びに「英語発展」（2年次以降の選択科目）の担当・実施体制の整備
- (2) 学問知科目：「総合科目」を改編した「地域科目」の担当・実施体制の整備
- (3) 実践知科目：「基礎ゼミナール」における、震災復興に関する学修の充実
「初年次自由ゼミナール」の担当・実施体制の整備
「地域課題演習（試行）」の担当・実施体制の整備

また、教養教育全般に関わる案件については、「教養教育センター企画会議」及び「教養教育センター会議」を開き定期的に審議してきましたが、科目の運営に関わる「科目委員会」については、その運営・責任体制が十分に機能していなかったため、今年度、「科目委員長懇談会」を開催や、科目委員長と副委員長を中心とした科目運営体制のあり方について議論してきました。

2. 実践知科目の「手引書」の作成、及び「懇談会」の実施について

ゼミナールや演習の担当者が円滑に授業を進められるように、下記の科目において、「手引書」の作成や、情報交換会または懇談会の開催を進めてきました。

- (1) 「基礎ゼミナール」：副読本「学びのはじめ」に関して、平成27年度から本科目で本格実施された「震災復興に関する学修」に合わせて内容の改訂について議論してきました。また、26年度から復活した「基礎ゼミナール情報交換会」は、今年度も「基礎ゼミナール説明会（震災復興に関する学修説明会）」という形で内容の整備・充実を図り実施しました。
- (2) 「初年次自由ゼミナール」：「実施の手引き」の作成計画や、「情報交換会（懇談会）」の企画について議論をしてきました。
- (3) 「地域課題演習」：27年度作成を始めた「実施の手引き」を完成し、「地域課題演習懇談会」を引き続き企画し、実施しました。

3. 授業アンケート、公開授業、高大連携講座、入学前教育などの実施について

- (1) 授業アンケートに関しては、アンケート項目の見直しや、結果の活用方法（優秀授業表彰）などを含めて検討してきました。
- (2) 公開授業については、参観者がもっと増えるように検討してきました。

(3) 高大連携講座は、今年度も継続して実施しました。

(4) 入学前教育については、使用する教材や、実施方法について検討し、引き続き実施しました。

4. 日常的な業務について

教養教育のカリキュラムを円滑に実施するために、各学部、各科目委員会、学務部教務企画課と連携しながら、以下の事項について策定・実施してきました。

①授業計画の策定、②時間割の調整、③非常勤講師の採用、④資格試験等による単位認定、⑤高大連携科目の選定と実施、⑥北東北3大学単位互換集中講義の実施、⑦放送大学利用科目の選定、⑧学年歴の策定、⑨ガイドラインに基づく成績評価の検証とガイドラインの見直し、⑩年度計画の策定、⑪FD活動の企画と実施、⑫COC事業関連の科目の充実と実施、など。

教養教育の理念等

全学共通教育	教養教育
●全学共通教育の理念 岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として全学共通教育を設け、「基礎的な知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」ことをその理念としています。 この理念を実現するために、全学共通教育は岩手大学の全ての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。 全学共通教育科目は、「転換教育科目」、「共通基礎科目」及び「教養科目」によって構成されています。 また、その実施に当たっては、国連「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development:ESD）の10年」を共通に意識することに努めています。	●教養教育の理念 岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「世界や地域で活躍できる人材を育成する上で必要となる多様な学問領域の基礎的知識及び基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力、地域の発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観並びにコミュニケーション能力を涵養する」ことをその理念とする。 この理念を実現するために、教養教育は岩手大学の全ての教職員の関心・責任・協力のもとに実施する。 教養教育科目は、「実践知科目」、「技法知科目」及び「学問知科目」によって構成する。
●全学共通教育の教育目的及び修得すべき能力 <教育目的> 岩手大学は、すべての学生が共通に学ぶべき全学共通教育を提供し、それぞれの学生が所属する学部にかかわらず、多様な学問領域の基礎的知識と基本的思考方法を修得するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会や文化の持続的発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観、ならびに多様な人びとと協働するためのコミュニケーション能力を培うことを目的とする。 <修得すべき能力> 全学共通教育では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力 (2) 自ら問題を発見し、それを探究し解決する思考力と判断力 (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力 (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力 (5) 多様な人びとと協働するために必要な母語と外国語による基本的コミュニケーション能力 (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力	●教養教育の教育目的及び修得すべき能力 <教育目的> 岩手大学は、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供し、それぞれの学生が所属する学部にかかわらず、多様な学問領域の基礎的知識と基本的思考方法を修得するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を身につけ、社会や文化の持続的発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観、ならびに多様な人びとと協働するためのコミュニケーション能力を培うことを目的とする。 <修得すべき能力> 教養教育では、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力 (2) 自ら問題を発見し、それを探究し解決する思考力と判断力 (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力 (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力 (5) 多様な人びとと協働するために必要な母語と外国語による基本的コミュニケーション能力 (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力

●各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力 A 転換教育科目 <教育目的> 「転換教育科目」は、初年次教育のイントロダクションとなる教育プログラムであり、新入生が高等学校までの受動的な学習態度や生活のあり方を転換し、大学における能動的な学習スタイルや大学での新しい生活環境に支障なく速やかに適合し、自ら主体的に学ぶ力を身につけることや社会的規範・倫理を学ぶことを目的とする。 <修得すべき能力> 「転換教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 基本的なアカデミックスキル (2) 学習計画を立案する能力と教育資源を有効に活用する能力 (3) コミュニケーション能力と社会的倫理観 ・基礎ゼミナール <教育目的> 「基礎ゼミナール」は、オリエンテーション、ゼミナール及び教室外活動を通じて、高校時代の教育環境とは質的に異なる大学に	●各科目区分の教育目的及び修得すべき能力 A 実践知科目 <教育目的> 「実践知科目」は、技法知・学問知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践化することを目的とする。 <修得すべき能力> 「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 技法知・学問知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力 (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力 (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力 1. 転換教育科目 <教育目的> 「転換教育科目」は、初年次教育のイントロダクションとなる教育プログラムであり、新入生が高等学校までの受動的な学習態度や生活のあり方を転換し、大学における能動的な学習スタイルや大学での新しい生活環境に支障なく速やかに適合し、自ら主体的に学ぶ力を身につけることや社会的規範・倫理を学ぶことを目的とする。 <修得すべき能力> 「転換教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 基本的なアカデミックスキル (2) 学習計画を立案する能力と教育資源を有効に活用する能力 (3) コミュニケーション能力と社会的倫理観 ・基礎ゼミナール <教育目的> 「基礎ゼミナール」は、オリエンテーション、ゼミナール及び教室外活動を通じて、高校時代の教育環境とは質的に異なる大学に
---	--

における学習スタイルや生活環境に新入生が支障なく適合でき、大学における学びに必要なアカデミックスキルを修得することを目的とする。 <修得すべき能力> 「基礎ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 自己の表現力やプレゼンテーション能力 (2) 自主的な学習態度や学習への積極的な意欲 (3) 論理的に思考し、自ら課題を探究するために必要な基礎的能力 (4) 図書館や情報検索等の学習資源を有効に活用する能力 ・初年次自由ゼミナール <教育目的> 「初年次自由ゼミナール」は、学部の枠を越えてあるテーマに沿って課題と取り組み、教員及び学生同士が互いに討論し、幅広い学びの意義を確認することを目的とする。 <修得すべき能力> 「初年次自由ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 専門分野と異なる知識を修得し、自ら課題を設定する能力 (2) 他者の異なる意見も理解したうえで、共同して作業を進める能力 (3) 自らの考えや調査結果を他者に明確に伝える能力	における学習スタイルや生活環境に新入生が支障なく適合でき、大学における学びに必要なアカデミックスキルを修得することを目的とする。加えて、地域について現状を知り理解を深めることを目的とする。 <修得すべき能力> 「基礎ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 自己の表現力やプレゼンテーション能力 (2) 自主的な学習態度や学習への積極的な意欲 (3) 論理的に思考し、自ら課題を発見・探究するために必要な基礎的能力 (4) 図書館や情報検索等の学習資源を有効に活用する能力 (5) 地域の現状を積極的に知り理解しようとする意欲 2. 地域関連科目 <教育目的> 「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力 (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力 ・初年次自由ゼミナール <教育目的> 「初年次自由ゼミナール」は、学部の枠を越えてあるテーマに沿って課題と取り組み、教員及び学生同士が互いに討論し、幅広い学びの意義を確認することを目的とする。 <修得すべき能力> 「初年次自由ゼミナール」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、自ら課題を設定する能力 (2) 他者の異なる意見も理解したうえで、共同して作業を進める能力
--	--

B 共通基礎科目 <教育目的> 「共通基礎科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、教養科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。 <修得すべき能力> 「共通基礎科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力 (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力 (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力 1. 外国語科目 ・英語 <教育目的>	(3) 自らの考えや調査結果を他者に明確に伝える能力 ・地域課題演習 <教育目的> 「地域課題演習」は、専門性を修得しつつある2年生以上の学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた専門的知見を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「地域課題演習」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 専門分野による観点や方法の違いを理解した上で、異なる専門分野と協働して現実問題を積極的に解決しようとする意欲 (2) 多様な人びとともに課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力 (3) 技法知・学問知科目で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力 (4) 自らの専門性を課題の発見と解決に活かす能力 B 技法知科目 <教育目的> 「技法知科目」は、①外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、②健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。 <修得すべき能力> 「技法知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力 (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力 (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力 1. 外国語科目 ・英語 <教育目的>
---	---

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的にする。 また、英語を自律的に学習する習慣を身に付けさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集したり、情報発信する能力を向上させることを目的とする。 さらに、英語による異文化コミュニケーションの在り方について認識を深めさせることも目的とする。 <修得すべき能力> 「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 十分な英語力を身に付けていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの復習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力 (2) ある程度の基礎力を既に身に付けている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力 (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力 (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する。 ・英語以外の外国語 <教育目的> 「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。 <修得すべき能力> 「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。	「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的にする。 また、英語を自律的に学習する習慣を身に付けさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集したり、情報発信する能力を向上させることを目的とする。 さらに、英語による異文化コミュニケーションの在り方について認識を深めさせることも目的とする。 <修得すべき能力> 「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 十分な英語力を身に付けていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの復習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力 (2) ある程度の基礎力を既に身に付けている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力 (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力 (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する。 ・英語以外の外国語 <教育目的> 「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、④外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。 <修得すべき能力> 「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。
---	---

初級外国語（入門・発展）では、 （１）各語学検定試験の４級程度（韓国語は５級程度）をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力 （２）外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力 （３）易しい文章を読んだり書いたりできる能力 （４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識 中級外国語では、 （１）各語学検定試験の３級程度（中国語は５級、韓国語は４級程度）をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力 （２）外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力 （３）やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力 （４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識 ・日本語 ＜教育目的＞ 「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 （１）文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験Ｎ１レベル以上の能力 （２）レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、外国語共通参照枠（CEFR）のＣ１レ	初級外国語（入門・発展）では、 （１）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力 ・ドイツ語技能検定試験 ４級 ・実用フランス語技能検定試験 ４級 ・ロシア語能力検定試験 ４級 ・漢語水平試験 ２級 ・韓国語能力試験 ３級 ・ハングル能力検定試験 ３級 （２）外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力 （３）易しい文章を読んだり書いたりできる能力 （４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識 中級外国語では、 （１）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力 ・ドイツ語技能検定試験 ３級 ・実用フランス語技能検定試験 ３級 ・ロシア語能力検定試験 ３級 ・漢語水平試験 ３級 ・韓国語能力試験 ４級 ・ハングル能力検定試験 ２級 （２）外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力 （３）やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力 （４）国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識 ・日本語 ＜教育目的＞ 「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 （１）文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験Ｎ１レベル以上の能力 （２）レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、外国語共通参照枠（CEFR）のＣ１レ
--	---

ベル以上の日本語能力 2. 健康・スポーツ科目 ＜教育目的＞ 「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力 (2) スポーツを科学的・文化的に理解し、上手にコミュニケーションを図れる能力 3. 情報科目 ＜教育目的＞ 「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力 (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力 (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力 (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力 C 教養科目 ＜教育目的＞ 「教養科目」は、在学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、専門を深める上で必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。	ベル以上の日本語能力 2. 健康・スポーツ科目 ＜教育目的＞ 「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力 (2) スポーツを科学的・文化的に理解し、上手にコミュニケーションを図れる能力 3. 情報科目 ＜教育目的＞ 「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。 ＜修得すべき能力＞ 「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力 (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力 (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力 (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力 C 学問知科目 ＜教育目的＞ 「学問知科目」は、在学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、専門を深める上で必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。
--	--

<修得すべき能力> 「教養科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 物事を多面的な角度から考察できる能力 (2) 多様な価値観を受け入れることができる能力 (3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力 (4) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力 1. 人間と文化 <教育目的> 「人間と文化」は、人文科学における各学問分野の観点から、各種の文化がそれぞれどのように形成され、人間にとってどのような意味や機能（はたらき）をこれまでもってきたか、そして現在もっているかを理解し、また人間の心に関する諸問題を理解することを目的とする。 <修得すべき能力> 「人間と文化」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 各種の文化や人間の心について多角的に分析・把握できる能力 (2) 各種の文化や人間の心についての諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力 2. 人間と社会 <教育目的> 「人間と社会」は、社会で生じている様々な問題を社会科学の各学問分野の視点から取り上げることによって、問題の背後にある諸要因やそこに働いている論理を理解するとともに、それら問題が私たち一人ひとりにとって持つ意味を理解することを目的とする。 <修得すべき能力> 「人間と社会」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 社会問題が生じている基本的背景を多面的・総合的に分析・把握できる能力 (2) 社会問題に対する諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力	<修得すべき能力> 「学問知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 物事を多面的な角度から考察できる能力 (2) 多様な価値観を受け入れることができる能力 (3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力 (4) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力 1. 文化 <教育目的> 「文化」は、人文科学における各学問分野の観点から、多様な文化がそれぞれどのように形成され、人間にとってどのような意味や機能（はたらき）をこれまでもってきたか、そして現在もっているかを理解し、また人間の心に関する諸問題を理解することを目的とする。 <修得すべき能力> 「文化」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 各種の文化や人間の心について多角的に分析・把握できる能力 (2) 各種の文化や人間の心についての諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力 2. 社会 <教育目的> 「社会」は、社会で生じている様々な問題を社会科学の各学問分野の視点から取り上げることによって、問題の背後にある諸要因やそこに働いている論理を理解するとともに、それら問題が私たち一人ひとりにとって持つ意味を理解することを目的とする。 <修得すべき能力> 「社会」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 社会問題が生じている基本的背景を多面的・総合的に分析・把握できる能力 (2) 社会問題に対する諸見解を批判的に検討し、自分なりの見解を打ち出すことができる能力
--	---

3. 人間と自然 <教育目的> 「人間と自然」は、身の回りの自然科学や、暮らしと関係する科学技術における各分野の視点から、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、専門を深めるうえで必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。 <修得すべき能力> 「人間と自然」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力 (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門的知識に基づく考え方ができる能力 4. 総合科目 <教育目的> 「総合科目」は、諸学問分野の観点から問題を取り上げることによって、学際的な知識や多角的な「ものの見方・考え方」を身につけ、激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「総合科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 多角的・複眼的な視点によって、物事を全体的に把握できる能力 (2) 総合的な判断に基づいて、物事に対して柔軟に対応できる能力 5. 高年次課題科目 <教育目的> 「高年次課題科目」は、専門性を習得しつつある高年次学生（3年生以上）が現代社会の諸問題とりわけ地域社会にある具体的問題の解決に向けて、身につけた専門的知見を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学び、問題解決に必要な総合的判断力を養うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「高年次課題科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 専門分野による観点や方法の違いを理解した上で、異なる	3. 自然&科学技術 <教育目的> 「自然&科学技術」は、身の回りの自然科学や、暮らしと関係する科学技術における各分野の視点から、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、専門を深めるうえで必要な幅広い教養を身につけることを目的とする。 <修得すべき能力> 「自然&科学技術」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力 (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門的知識に基づく考え方ができる能力
---	---

専門分野がいかに協働すべきかを追究できる能力 (2) 多様な人びとともに課題解決に向けた協力体制を組織できるコーディネート能力 (3) 座学で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力 6. 環境教育科目 <教育目的> 「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「環境教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力 (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力 (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力	4. 環境科目 <教育目的> 「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「環境教育科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力 (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力 (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力 5. 地域科目 <教育目的> 「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。 <修得すべき能力> 「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。 (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力 (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力
--	---

平成27年11月11日開催 教養教育センター会議 了承
 平成27年12月16日開催 教育推進機構会議 了承

岩手大学教育推進機構教養教育センター科目委員会に関する申合せ

(趣旨)

第1 この申合せは、岩手大学教育推進機構教養教育センター規則第8条第4項の規定に基づき、岩手大学教養教育センター科目委員会（以下「科目委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(任務)

第2 科目委員会は、次に掲げる事項を任務とし必要な審議を行う。

- 一 授業科目の設定、授業担当者の選考（非常勤講師の選考を含む）、時間割の調整、授業の実施及び単位認定に関すること。
- 二 教育目的、教育目標、成績評価基準及び到達目標に関すること。
- 三 入学手続きのしおり及び履修の手引きに関すること。
- 四 他大学の授業科目履修における単位認定に関すること。
- 五 科目等履修生の受入れ科目の調整に関すること。
- 六 既修得単位認定及び資格試験等による単位認定に関すること。
- 七 教養講座に関すること
- 八 授業改善に関すること
- 九 その他科目委員会が必要と認めた事項に関すること。

(組織)

第3 科目委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 科目委員会委員長
 - 二 科目委員会副委員長
 - 三 科目委員会登録教員
 - 四 教育推進機構教養教育センター主担当専任教員（以下「専任教員」という。）
- 2 科目委員会に科目委員会委員長を置き、岩手大学教育推進機構教養教育センター規則の定めるところにより選出する。
- 3 科目委員会に科目委員会副委員長を置き、専任教員をもって充てる。
- 4 前項の他、必要に応じて科目委員会委員長の指名により科目委員会副委員長を置くことができる。

(科目委員会委員長、科目委員会副委員長及び専任教員)

第4 科目委員長は、科目委員会全般の業務及び運営を統括する。

- 2 前条第3項により科目委員会副委員長を置いた場合、科目委員会副委員長は、科目委員会委員長の職を補佐する。
- 3 専任教員は、前項の他、科目委員会の運営が円滑に行われるよう必要な支援を行う。

(任期)

- 第5 科目委員会委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 第3条第3項により科目委員会副委員長を置いた場合、当該科目委員会副委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(科目委員会への登録)

第6 国立大学法人岩手大学学則第36条第2項及び岩手大学教育推進機構教養教育センター規則第8条第3項の規定に基づき、本学の教員は、いずれかの科目委員会に属し教養教育に従事する。

科目委員会に関する申合せ

- 2 科目委員会への登録は、教員が登録を希望する科目委員会を教養教育センターへ申し出ることにより行う。また、専任教員は、科目委員会の運営が円滑に行われるよう登録に必要な支援を行う。

(担当科目)

- 第7 教養教育として開設する授業科目のうち、各科目委員会が担当する授業科目は、別表1-1のとおりとする。

(議長及び副議長)

- 第8 科目委員会に議長を置き、科目委員会委員長をもって充てる。
 - 2 科目委員長は、必要に応じて科目委員会を招集し、主宰する。
 - 3 科目委員会に副議長を置き、科目委員会副委員長をもって充てる。ただし、科目委員会副委員長が複数名いる場合は、科目委員会副委員長のうちから科目委員会委員長の指名する者をもって充てる。
 - 4 副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

- 第9 科目委員会は、以下のいずれかの条件を満たすことにより成立する。
 - (1) 科目委員会副委員長を含む組織構成員の過半数の出席。
 - (2) 科目委員会副委員長及び科目委員会が担当する授業科目代表者の出席。ただし、外国語科目委員会については、授業科目代表者を語学代表者と読み替えることができる。
- 2 科目委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

平成27年 9月16日開催 教養教育センター会議 了承
平成27年10月 1日開催 教育推進機構会議 了承

別表1-1 (第7関係)

科目委員会が担当する授業科目一覧

科目委員会	履修区分1	履修区分2	履修区分3	科目名
外国語	技法知科目	外国語科目		英語総合Ⅰ(初級)
				英語総合Ⅱ(初級)
				英語総合Ⅰ(中級)
				英語総合Ⅱ(中級)
				英語総合Ⅰ(上級)
				英語総合Ⅱ(上級)
				英語総合Ⅲ
				英語コミュニケーションⅠ(初級)
				英語コミュニケーションⅡ(初級)
				英語コミュニケーションⅠ(中級)
				英語コミュニケーションⅡ(中級)
				英語コミュニケーションⅠ(上級)
				英語コミュニケーションⅡ(上級)
				英語コミュニケーションⅢ
				英語基礎
				英語発展A
				英語発展B
				英語発展C
				英語発展D
				英語発展E
				英語発展F
				英語発展G
				英語発展H
				初級ドイツ語(入門)
				初級ドイツ語(発展)
				中級ドイツ語
				初級フランス語(入門)
				初級フランス語(発展)
				中級フランス語
				初級ロシア語(入門)
				初級ロシア語(発展)
				中級ロシア語
				初級中国語(入門)
				初級中国語(発展)
				中級中国語
				初級韓国語(入門)
				初級韓国語(発展)
				中級韓国語
				上級日本語A
				上級日本語B
				上級日本語C
				上級日本語D
				上級日本語E
				上級日本語F
				上級日本語G
				上級日本語H
健康・スポーツ	技法知科目	健康・スポーツ科目		健康・スポーツA
				健康・スポーツB
				健康・スポーツC(シーズン)
情報	技法知科目	情報科目		情報基礎
文化	学問知科目	文化科目		哲学の世界
				倫理学の世界
				日本の思想と文化
				アジアの思想と文化
				欧米の思想と文化
				日本の歴史と文化
				アジアの歴史と文化
				欧米の歴史と文化
				ジェンダーの歴史と文化
				女性と科学の関係史
				大学の歴史と現在
				岩手大学ミュージアム学
				心の理解
				日本の文学
				言葉の世界
				中国の文学
				欧米の文学
				欧米の言語論
				芸術の世界
				日本語表現技術入門
				図書館への招待
				コミュニケーションの現在
				心と表象
				日本事情A
				日本事情B
				英語で学ぶ日本の文化

科目委員会に関する申合せ

科目委員会	履修区分1	履修区分2	履修区分3	科目名
社会	学問知科目	社会科目		市民生活と法
				憲法
				経済のしくみ
				現代社会と経済
				市民と政治
				現代政治を見る眼
				社会的人間論
				現代社会の社会学
				地域と生活
				地域と社会
				対人関係の心理学
				知的財産入門
				知財ワークショップ
				キャリアを考える
				ボランティアとリーダーシップ
				科学・技術と現代社会
自然	学問知科目	自然&科学技術科目		現代の諸問題
				公共社会
				多文化コミュニケーションA
				多文化コミュニケーションB
				生命のしくみ
				自然のしくみ
				自然と数理
				数理のひろがり
				宇宙のしくみ
				物質の世界
科学技術	学問知科目	自然&科学技術科目		自然と法則
				自然と数理の世界
				自然の科学
環境	学問知科目	環境科目		科学と技術の歴史
				くらしと科学技術
				科学技術
				「環境」を考える
				生活と環境
				都市と環境
				地域の環境保全を考える
				地球環境と社会
				水と環境
				廃棄物と環境
				植物栽培と環境テクノロジー
				森林と環境
				動物と環境
				人の暮らしと生物環境
				環境マネジメントと岩手大学
				環境の科学
地域	学問知科目	地域関連科目	地域科目	現代社会をみる視角
				岩手の研究
				環境マネジメント実践学
				いわて学Ⅰ
				いわて学Ⅱ
				宮沢賢治の世界
				危機管理と復興
				持続可能なコミュニティづくり実践学
				地元の企業に学ぶESD
				地場産業・企業論
				三陸の研究
				自然災害と社会
				東北の歴史
				地域を考える
				地域と国際社会
				海外研修－世界から地域を考える－
—	実践知科目	転換教育科目		基礎ゼミナール
—		地域関連科目		初年次自由ゼミナール
—			地域課題演習	地域課題演習A
—				地域課題演習B
—				地域課題演習C
—				地域課題演習D
—				地域課題演習E
—				地域課題演習F
—				地域課題演習G
—				地域課題演習H

教養教育センター科目委員会名簿

(平成28年 3月31日現在)

外国語科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	齋藤 博次	人文社会科学部
2		秋田 淳子	人文社会科学部
3		大友 展也	人文社会科学部
4		川村 和宏	人文社会科学部
5		北村 一親	人文社会科学部
6		GRAS Alexandre Jean	人文社会科学部
7		後藤 尚人	人文社会科学部
8		小林 葉子	人文社会科学部
9		齋藤 伸治	人文社会科学部
10		Schwamborn, Frank	人文社会科学部
11		中里 まき子	人文社会科学部
12		西田 文信	人文社会科学部
13		橋本 学	人文社会科学部
14		堀口 大樹	人文社会科学部
15		松林 城弘	人文社会科学部
16		山本 昭彦	人文社会科学部
17		横井 雅明	人文社会科学部
18		梁 仁實	人文社会科学部
19		UNHER MICHEL	教育学部
20		犬塚 博彦	教育学部
21		大河原 清	教育学部
22		菊地 悟	教育学部
23		境野 直樹	教育学部
24		HALL JAMES	教育学部
25		山崎 友子	教育学部
26		加藤 大雅	工学部
27		呉（諸） 松竹	工学部
28		鈴木 忠彦	農学部
29		原科 幸爾	農学部
30		尾中 夏美	教育推進機構
31		松岡 洋子	教育推進機構
32		石松 弘幸	国際連携室

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
外国語科目	英語総合Ⅰ（上級）	
	英語総合Ⅱ（上級）	
	英語総合Ⅰ（中級）	
	英語総合Ⅱ（中級）	
	英語総合Ⅰ（初級）	
	英語総合Ⅱ（初級）	
	英語コミュニケーションⅠ（上級）	
	英語コミュニケーションⅡ（上級）	
	英語コミュニケーションⅠ（中級）	
	英語コミュニケーションⅡ（中級）	
	英語コミュニケーションⅠ（初級）	
	英語コミュニケーションⅡ（初級）	
	初級ドイツ語（入門）	
	初級ドイツ語（発展）	
	中級ドイツ語	
	初級フランス語（入門）	
	初級フランス語（発展）	
	中級フランス語	
	初級ロシア語（入門）	
	初級ロシア語（発展）	
	中級ロシア語	
	初級中国語（入門）	
	初級中国語（発展）	
	中級中国語	
	初級韓国語（入門）	
	初級韓国語（発展）	
	中級韓国語	
	上級日本語A	
	上級日本語B	
	上級日本語C	
	上級日本語D	
	上級日本語E	
	上級日本語F	
	上級日本語G	
	上級日本語H	

健康・スポーツ科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	澤村 省逸	教育学部
2		浅沼 道成	人文社会科学部
3		鎌田 安久	教育学部
4		上濱 龍也	教育学部
5		栗林 徹	教育学部
6		清水 茂幸	教育学部
7		清水 将	教育学部
8		大川井 宏明	工学部
9		北條 智彦	工学部
10		立原 聖子	保健管理センター
11		立身 政信	保健管理センター
12		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
健康・スポーツ科目	健康・スポーツA	
	健康・スポーツB	
	健康・スポーツC（シーズン）	集中講義

情報科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	木村 彰男	工学部
2		遠藤 教昭	人文社会科学部
3		五味 壮平	人文社会科学部
4		白倉 孝行	人文社会科学部
5		天木 桂子	教育学部
6		宮川 洋一	教育学部
7		吉田 等明	教育学部
8		明石 卓也	工学部
9		小栗栖 太郎	工学部
10		小山 猛	工学部
11		清水 友治	工学部
12		関本 英弘	工学部
13		出戸 秀明	工学部
14		中谷 直司	工学部
15		平山 貴司	工学部
16		藤本 忠博	工学部
17		本間 尚樹	工学部
18		松山 克胤	工学部
19		山口 明	工学部
20		伊藤 幸男	農学部
21		伊藤 芳明	農学部
22		折笠 貴寛	農学部
23		佐藤 至	農学部
24		鈴木 忠彦	農学部
25		関野 登	農学部
26		立川 史郎	農学部
27		築城 幹典	農学部
28		塚本 知玄	農学部
29		三浦 靖	農学部
30		三宅 諭	農学部
31		今井 潤	地域連携推進機構
32		川村 暁	情報基盤センター
33		中西 貴裕	情報基盤センター

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
情報科目	情報基礎	

文化科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	重野 和彦	教育学部
2		家井 美千子	人文社会科学部
3		池田 成一	人文社会科学部
4		奥野 雅子	人文社会科学部
5		織田 信男	人文社会科学部
6		音喜多 信博	人文社会科学部
7		海妻 徑子	人文社会科学部
8		梶 さやか	人文社会科学部
9		小島 聡子	人文社会科学部
10		中里 まき子	人文社会科学部
11		中村 安宏	人文社会科学部
12		樋口 知志	人文社会科学部
13		開 龍美	人文社会科学部
14		藤本 幸二	人文社会科学部
15		松岡 和生	人文社会科学部
16		山口 浩	人文社会科学部
17		山本 昭彦	人文社会科学部
18		阿久津 洋巳	教育学部
19		我妻 則明	教育学部
20		阿部 裕之	教育学部
21		岩木 信喜	教育学部
22		宇佐美 公生	教育学部
23		牛渡 克之	教育学部
24		大河原 清	教育学部
25		大野 眞男	教育学部
26		金澤 文緒	教育学部
27		川口 明子	教育学部
28		菅野 文夫	教育学部
29		菊地 悟	教育学部
30		木村 直弘	教育学部
31		近藤 克義	教育学部
32		今野 日出晴	教育学部
33		境野 直樹	教育学部
34		佐々木 全	教育学部
35		佐々木 正利	教育学部
36		佐藤 由紀男	教育学部
37		白石 文子	教育学部
38		煤孫 康二	教育学部
39		田中 隆充	教育学部
40		玉澤 友基	教育学部
41		平田 光彦	教育学部
42		本村 健太	教育学部
43		室井 麗子	教育学部
44		安井 もゆる	教育学部
45		藪 敏裕	教育学部

		氏 名	専任担当
46		山崎 浩二	教育学部
47		山本 奨	教育学部
48		藁谷 収	教育学部
49		Anders Carlqvist	教育推進機構
50		江本 理恵	教育推進機構
51		立原 聖子	保健管理センター
52		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	哲学の世界	
	倫理学の世界	
	日本の思想と文化	
	アジアの思想と文化	
	欧米の思想と文化	
	日本の歴史と文化	
	アジアの歴史と文化	
	欧米の歴史と文化	
	ジェンダーの歴史と文化	
	女性と科学の関係史	
	大学の歴史と現在	
	岩手大学ミュージアム学	
	人類の歴史と地球の現在	
	日本事情A	
	日本事情B	
	思想と文化	
	心の理解	
	日本の文学	
	言葉の世界	
	中国の文学	
	欧米の文学	
	欧米の言語論	
	芸術の世界	
	日本語表現技術入門	
	心と表象	

社会科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	藤本 幸二	人文社会科学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		内田 浩	人文社会科学部
4		江原 勝行	人文社会科学部
5		小野澤 章子	人文社会科学部
6		海妻 径子	人文社会科学部
7		河合 壘	人文社会科学部
8		川崎 秀二	人文社会科学部
9		菊池 孝美	人文社会科学部
10		杭田 俊之	人文社会科学部
11		齊藤 彰一	人文社会科学部
12		笹尾 俊明	人文社会科学部
13		島田 佳憲	人文社会科学部
14		鈴木 護	人文社会科学部
15		高橋 宏一	人文社会科学部
16		田口 典男	人文社会科学部
17		竹村 祥子	人文社会科学部
18		塚本 善弘	人文社会科学部
19		中島 清隆	人文社会科学部
20		西牧 正義	人文社会科学部
21		深澤 泰弘	人文社会科学部
22		松岡 勝実	人文社会科学部
23		丸山 仁	人文社会科学部
24		宮本 ともみ	人文社会科学部
25		横山 英信	人文社会科学部
26		遠藤 孝夫	教育学部
27		遠藤 匡俊	教育学部
28		菊地 洋	教育学部
29		佐藤 眞	教育学部
30		滝吉 美知香	教育学部
31		田代 高章	教育学部
32		立花 正男	教育学部
33		塚野 弘明	教育学部
34		土屋 明広	教育学部
35		土屋 直人	教育学部
36		土井 宣夫	教育学部
37		名古屋 恒彦	教育学部
38		新妻 二男	教育学部
39		藤井 知弘	教育学部
40		HALL JAMES	教育学部
41		三井 隆弘	教育学部
42		麦倉 哲	教育学部
43		渡瀬 典子	教育学部
44		小山 猛	工学部
45		平井 寛	工学部

		氏 名	専任担当
46		岡田 啓司	農学部
47		佐藤 和憲	農学部
48		鈴木 忠彦	農学部
49		越野 修三	地域防災研究センター
50		松岡 洋子	教育推進機構
51		脇野 博	教育推進機構
52		喜村 仁詞	入試センター
53		中村 宗宏	教員養成支援センター
54		大川 一毅	評価室
55		堀 久美	男女共同参画推進室

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
人間と社会	市民生活と法	
	憲法	
	経済のしくみ	
	現代社会と経済	
	市民と政治	
	現代政治を見る眼	
	社会的人間論	
	現代社会の社会学	
	地域と生活	
	地域と社会	
	対人関係の心理学	
	知的財産入門	集中講義
	著作権法概論	
	知財ワークショップ	集中講義
	キャリアを考える	
	多文化コミュニケーションA	
	多文化コミュニケーションB	
	持続可能なコミュニティーづくり実践学	
	地元の企業に学ぶESD	
	地場産業・企業論	集中講義
	社会と知的財産	
	ボランティアとリーダーシップ	集中講義
	科学・技術と現代社会	
	公共社会	
	現代の諸問題	

自然科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	西崎 滋	人文社会科学部
2		石垣 剛	人文社会科学部
3		尾臺 喜孝	人文社会科学部
4		川崎 秀二	人文社会科学部
5		北爪 英一	人文社会科学部
6		奈良 光紀	人文社会科学部
7		花見 仁史	人文社会科学部
8		押切 源一	教育学部
9		川田 浩一	教育学部
10		重松 公司	教育学部
11		武井 隆明	教育学部
12		土井 宣夫	教育学部
13		土谷 信高	教育学部
14		中村 好則	教育学部
15		藤井 義久	教育学部
16		本田 卓	教育学部
17		安川 洋生	教育学部
18		山崎 浩二	教育学部
19		吉井 洋二	教育学部
20		荒木 功人	工学部
21		一ノ瀬 充行	工学部
22		宇井 幸一	工学部
23		小笠原 敏記	工学部
24		長田 洋	工学部
25		鎌田 康寛	工学部
26		小林 宏一郎	工学部
27		小林 悟	工学部
28		是永 敏伸	工学部
29		坂田 和実	工学部
30		嶋田 和明	工学部
31		白井 誠之	工学部
32		鈴木 映一	工学部
33		高木 浩一	工学部
34		高橋 克幸	工学部
35		谷口 晴香	工学部
36		田野崎 真司	工学部
37		富田 浩史	工学部
38		内藤 智之	工学部
39		中村 満	工学部
40		成田 晋也	工学部
41		萩原 義裕	工学部
42		北條 智彦	工学部
43		三好 扶	工学部
44		三輪 讓二	工学部
45		向川 政治	工学部

		氏 名	専任担当
46		八代 仁	工学部
47		吉澤 正人	工学部
48		若林 篤光	工学部
49		磯貝 雅道	農学部
50		板垣 匡	農学部
51		上村 松生	農学部
52		内田 直宏	農学部
53		宇塚 雄次	農学部
54		岡村 泰彦	農学部
55		片山 泰章	農学部
56		加藤 一幾	農学部
57		鎌田 洋一	農学部
58		河村 幸男	農学部
59		木村 賢一	農学部
60		黒田 榮喜	農学部
61		小森 貞男	農学部
62		御領 政信	農学部
63		斎藤 靖史	農学部
64		佐川 了	農学部
65		佐々木 淳	農学部
66		佐藤 繁	農学部
67		佐藤 れえ子	農学部
68		佐原 健	農学部
69		澤井 健	農学部
70		下野 裕之	農学部
71		白旗 学	農学部
72		鈴木 忠彦	農学部
73		関 まどか	農学部
74		高橋 透	農学部
75		高橋 正弘	農学部
76		高畑 義人	農学部
77		立澤 文見	農学部
78		立石 貴浩	農学部
79		寺崎 正紀	農学部
80		長澤 孝志	農学部
81		中牟田 信明	農学部
82		西向 めぐみ	農学部
83		西山 賢一	農学部
84		橋爪 力	農学部
85		平田 統一	農学部
86		古市 達哉	農学部
87		松原 和衛	農学部
88		宮崎 雅雄	農学部
89		村上 賢二	農学部
90		村元 隆行	農学部

		氏 名	専任担当
91		山田 美鈴	農学部
92		山田 美和	農学部
93		山本 欣郎	農学部
94		RAHMAN ABIDUR	農学部
95		渡邊 学	農学部
96		落合 謙爾	農学部
97		山崎 朗子	農学部
98		山崎 真大	農学部
99		小川 薫	研究推進機構
100		木村 毅	研究推進機構
101		塚越 英晴	三陸水産研究センター

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	生命のしくみ	
	生物の世界	
	自然のしくみ	
	自然と数理	
	数理のひろがり	
	宇宙のしくみ	
	物質の世界	
	自然と法則	
	自然と数理の世界	

科学技術科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	中西 良樹	工学部
2		山崎 浩二	教育学部
3		會澤 純雄	工学部
4		秋山 雅裕	工学部
5		安倍 正人	工学部
6		叶 榮彬	工学部
7		伊藤 歩	工学部
8		岩崎 正二	工学部
9		上野 和之	工学部
10		内館 道正	工学部
11		瓜生 誠司	工学部
12		大石 好行	工学部
13		大西 弘志	工学部
14		小川 智	工学部
15		小山田 哲也	工学部
16		菊池 弘昭	工学部
17		木村 彰男	工学部
18		金 天海	工学部
19		越谷 信	工学部
20		小林 悟	工学部
21		今野 晃市	工学部
22		佐々木 誠	工学部
23		佐藤 淳	工学部
24		佐藤 宏明	工学部
25		佐藤 信	工学部
26		芝崎 祐二	工学部
27		嶋田 和明	工学部
28		白井 誠之	工学部
29		末永 陽介	工学部
30		関本 英弘	工学部
31		大坊 真洋	工学部
32		竹口 竜弥	工学部
33		谷口 英夫	工学部
34		千葉 則茂	工学部
35		恒川 佳隆	工学部
36		土岐 規仁	工学部
37		永田 仁史	工学部
38		七尾 英孝	工学部
39		成田 晋也	工学部
40		西川 尚宏	工学部
41		西館 数芽	工学部
42		西谷 泰昭	工学部
43		西村 文仁	工学部
44		西山 清	工学部
45		羽原 俊祐	工学部

		氏 名	専任担当
46		晴山 巧	工学部
47		平塚 貞人	工学部
48		平原 英俊	工学部
49		廣瀬 宏一	工学部
50		福江 高志	工学部
51		藤岡 豊太	工学部
52		藤代 博之	工学部
53		藤本 忠博	工学部
54		船崎 健一	工学部
55		松川 倫明	工学部
56		三浦 健司	工学部
57		水野 雅裕	工学部
58		水本 将之	工学部
59		村岡 宏樹	工学部
60		柳岡 英樹	工学部
61		山口 明	工学部
62		山口 勉功	工学部
63		山中 克久	工学部
64		山本 英和	工学部
65		湯川 俊浩	工学部
66		横田 政晶	工学部
67		吉野 泰弘	工学部
68		吉原 信人	工学部
69		吉本 則之	工学部
70		吉森 久	工学部
71		盧 忻	工学部
72		脇 裕之	工学部
73		下飯 仁	農学部
74		武田 純一	農学部
75		山下 哲郎	農学部
76		比屋根 哲	連合農学研究科
77		対馬 正秋	研究推進機構

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	科学と技術の歴史	
	暮らしと科学技術	
	科学技術	

環境科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	中澤 廣	工学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		竹原 明秀	人文社会科学部
4		中島 清隆	人文社会科学部
5		西崎 滋	人文社会科学部
6		開 龍美	人文社会科学部
7		松岡 勝実	人文社会科学部
8		丸山 仁	人文社会科学部
9		宇佐美 公生	教育学部
10		梶原 昌五	教育学部
11		金澤 俊成	教育学部
12		菊地 洋一	教育学部
13		菅原 悦子	教育学部
14		土谷 信高	教育学部
15		長澤 由喜子	教育学部
16		名越 利幸	教育学部
17		三井 隆弘	教育学部
18		山崎 浩二	教育学部
19		石川 奈緒	工学部
20		海田 輝之	工学部
21		大河原 正文	工学部
22		大塚 尚寛	工学部
23		鴨志田 直人	工学部
24		齊藤 貢	工学部
25		白井 誠之	工学部
26		晴山 渉	工学部
27		松林 由里子	工学部
28		南 正昭	工学部
29		青井 俊樹	農学部
30		東 淳樹	農学部
31		安 嬰	農学部
32		伊藤 菊一	農学部
33		井良沢 道也	農学部
34		小田 伸一	農学部
35		金山 素平	農学部
36		鎌田 洋一	農学部
37		木崎 景一郎	農学部
38		喜多 一美	農学部
39		木下 幸雄	農学部
40		國崎 貴嗣	農学部
41		倉島 栄一	農学部
42		小出 章二	農学部
43		小林 沙織	農学部
44		小藤田 久義	農学部
45		颯田 尚哉	農学部

		氏 名	専任担当
46		佐野 宏明	農学部
47		澤口 勇雄	農学部
48		庄野 浩資	農学部
49		関野 登	農学部
50		出口 善隆	農学部
51		濱上 邦彦	農学部
52		廣田 純一	農学部
53		前田 武己	農学部
54		松木 佐和子	農学部
55		松嶋 卯月	農学部
56		三宅 諭	農学部
57		武藤 由子	農学部
58		山本 清龍	農学部
59		山本 信次	農学部
60		山本 清仁	農学部
61		吉川 信幸	農学部

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
環境教育科目	「環境」を考える	
	生活と環境	
	都市と環境	
	地域の環境保全を考える	
	地球環境と社会	
	水と環境	
	廃棄物と環境	
	植物栽培と環境テクノロジー	
	森林と環境	
	動物と環境	
	人の暮らしと生物環境	
	環境マネジメントと岩手大学	

地域科目委員会名簿

		氏 名	専任担当
1	委員長	中島 清隆	人文社会科学部
2		内田 浩	人文社会科学部
3		後藤 尚人	人文社会科学部
4		樋口 知志	人文社会科学部
5		山本 昭彦	人文社会科学部
6		横山 英信	人文社会科学部
7		名古屋 恒彦	教育学部
8		土井 宣夫	教育学部
9		松岡 洋子	教育推進機構
10		尾中 夏美	教育推進機構
11		今井 潤	地域連携推進機構

総合科目

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
総合科目	文化の伝統と現在	
	コミュニケーションの現在	
	現代社会をみる視角	
	岩手の研究	
	これからの健康科学	
	現代職業選択論	
	岩手大学論	
	図書館への招待	
	宮沢賢治の思想と文学	
	環境マネジメント実践学	
	いわて学Ⅰ	集中講義
	いわて学Ⅱ	集中講義
	国際研修－エネルギーと持続可能な社会－	集中講義
	危機管理と復興	集中講義
	総合科目特別講義	

高年次課題科目

全学共通教育科目 開講一覧（H27）

履修区分	授業科目名	備考
高年次課題科目	男女共同参画の実践を学ぶ	集中講義
	都市の自然再生プランニング	
	北上川流域学実習	集中講義
	津波の実際から防災を考える	集中講義
	環境都市盛岡づくりプロジェクト	
	社会のなかの法律問題を考える	
	日本と文化・社会と国際ボランティア	
	異文化理解と実践	
	高年次課題科目特別講義Ⅰ	
	高年次課題科目特別講義Ⅱ	

〈平成27年度検証後〉

分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン

「外国語」分科会

(1) 教育目標

1) 英語

「英語」は、学生の習熟度に応じ、a) 十分な英語力を身につけていない学生に対しては、英文法や基礎的表現の復習を通して、読み書きの基礎的な能力、および簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力を育成し、b) 基礎的な運用能力を身につけている学生に対しては、各学問分野の入門的な書物を十分に読みこなせる読解力、平易な英語を使って正しく書ける作文力、身近な話題について説明したり意見を述べたりすることができる能力を養い、c) 高度な学力を有する学生に対しては、各学問分野のより精緻な英文や時事英語を早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力、さらには自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。また、全ての授業を通して異文化理解の促進を図る。

2) 英語以外の外国語

「英語以外の外国語」は、

- a) 日常生活に必要な簡単な会話ができるようにすること
- b) 外国語の基礎的な文法を習得し、簡単な文章を読むことができるようにすること
- c) 日常生活で使う簡単な文章を書けるようにすること
- d) 外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること

の4点を身につけることを教育目標とする。具体的には、初級では「入門・発展」を修めることにより各語学検定試験の4級程度、また中級では3級程度をマスターしたと認められる程度のレベルをめざす。

3) 日本語

「日本語」は、受講学生（外国人留学生）が既に初中級レベルの日本語をマスターしていることを前提に、上級レベルの会話・読解・作文等の指導を行うこととしております。日本人学生や教師、一般市民等と十分な会話を交わすことができ、日本語の新聞・雑誌・教科書等を概ね読むことができ、作文やレポートも日本人学生にあまり劣らない程度に書くことができるという日本語力を修得させることを教育目標としてめざします。

(2) 授業科目の位置づけと到達目標

1) 英語

- ・英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
 - 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
 - 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
 - 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
 - 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
 - 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
 - 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。

2) 英語以外の外国語

- ・初級ドイツ語（入門）、初級フランス語（入門）、初級ロシア語（入門）、初級中国語（入門）、初級韓国語（入門）
 - それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を養う。
- ・初級ドイツ語（発展）、初級フランス語（発展）、初級ロシア語（発展）、初級中国語（発展）、初級韓国語（発展）
 - それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の4級程度の力を養う。
- ・中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語
 - それぞれの言語において基礎的能力を身に付けた者に対して、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の3級程度の力を養う。

3) 日本語

- ・上級日本語A、上級日本語E
 - 口頭表現（プレゼンテーション、討論、高度な会話）の能力を養う。
- ・上級日本語B、上級日本語F

- アカデミックリーディング（論文、資料読解）の能力を養う。
- ・ 上級日本語C、上級日本語G
 - 文系・理系別専門日本語（基礎専門用語）の能力を養う。
- ・ 上級日本語D、上級日本語H
 - アカデミックライティング（論文、レポート作成）の能力を養う。
- ・ 各授業は技能別に編成され、それぞれ日本語能力試験1級合格以上の知識、技能と基礎的なアカデミックジャパニーズ（専門日本語）の習得を到達目標とする。すなわち、高度の文法・漢字（2,000字以上）、語彙（10,000語以上）を習得し、大学生活を送る上で必要な総合的な日本語の知識・技能を習得させることを到達目標とする。

（3）成績評価基準のガイドライン

1）英語

出席、授業中の言語活動（積極的な参加）、課題、試験（ミニテストなども含む）の結果を総合的に判断し、上級、中級、初級のレベルごとに設定された目標（下記参照）に照らし合わせて成績を付ける。

- ・ 英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
 - 英文法の知識や基礎的表現力が身に付き、基礎的な読み書き能力が身に付く。
- ・ 英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
 - 英語を使って簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力が身に付く。
- ・ 英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
 - 各学問分野の入門的な書物など比較的高いレベルのテキストを読みこなせる読解力があり、また平易な英語を使って正しく書ける作文力がある。
- ・ 英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
 - 英語を使って、身近な話題について説明したり意見を述べたりできる能力がある。
- ・ 英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
 - 各学問分野のより精緻な英文や時事英語などのテキストを早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力が身に付く。
- ・ 英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
 - 英語を使って自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力が身に付く。

2）英語以外の外国語

それぞれの段階で、定期試験、小テスト、出席、それ以外の平常点などの中から2つ以上の基準をもって多角的に判断する。

3) 日本語

出席、授業参加態度、課題の3つの観点から総合的に評価する。教員の意見を一方的に聞くだけでなく、授業に積極的に参加し、課される課題に対して十分に取り組み、成果を示すことに対して評価を行う。

成績評価は以下のように行う。

「秀」：出席の基準を満たし、授業に積極的に関与し、課題に対して授業を通じて得た知識を生かして自らの知見を十分に表現した。

「優」：出席、授業態度が優秀で、授業中に得た知識を十分に活用して課題に取り組んだ。

「良」：出席、授業態度が良好で、授業内容を十分理解し、課題に取り組んだ。

「可」：出席、授業態度に問題がなく、授業内容をある程度理解し、課題に取り組んだ。

「健康・スポーツ」分科会

(1) 教育目標

健康・スポーツ科目は、スポーツの実践を通して、健康と体力の保持増進を図るとともにコミュニケーション能力を高め、スポーツの科学的方法やスポーツ文化についても理解を深め、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

評価方法		割合	評価の観点				評価の具体的な基準
			関心・意欲・態度	知識・理解	技能・表現	志向・判断	
健康・スポーツA	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツB	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツC	平常点	75%	◎	○	○	○	S：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 B：集中講義に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 C：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。

平常点・課題のうち、「D」がある場合は不可とする。

「情報基礎」分科会

(1) 教育目標

「情報基礎」は、高度情報通信社会において主体的に学生生活、社会生活を送る上で必要とされる基礎・基本的な能力を育成するために開設された科目です。

この科目は、情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得することを通して、情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につけること、さらには、情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解して今後の情報社会に参画する上で望ましい態度を身につけることを教育目標としています。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 授業の目的

授業の目的にあたっては、分科会の教育目標に従って、この授業科目を学ぶ目的を、授業を行う側の視点から明記する。

全学共通教育の基礎としての部分で、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得すること」「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な科学的な見方や考え方を身につけること」「今後の情報社会を参画する上で望ましい能力と態度を身につけること」は共通する授業の目的であると考えられる。

しかし、同時に専門教育の基礎として、最終的にどのようなことができるようになって欲しいのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という場面において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して、目的を達成できるようになって欲しいのか、「授業で用いる教材を作成する」という場面において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して目的を達成できるようになって欲しいのか、など）については、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で決定し、明記することとする。

2) 到達目標

授業の目的に沿って、今度は、具体的に「学生が何をできるようになるのかを自分自身で確認できるような形で」到達目標を記述する。授業の目的が、授業をする側（教員側）からの視点で書かれたものであれば、到達目標は、学生側の視点で書かれたものとなる。その意味では、学生自身の自主学習に対する指針ともなるべき部分である。

上記の「授業の目的」と関連して、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得」でどの程度の知識や技能を習得しなければならないのか（ワード、エクセルを使える、UNIXの基本的なコマンドが使える、など）、「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につける」ために、どのような題材を学習し、どこまでできるようにならなければいけないのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という課題において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、「授業で用いる教材を作成する」という課題において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、など）、「情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解」でどのよう

な理解を求めるのか（開発者の立場から人間や社会に及ぼす影響を考えるのか、ユーザ（消費者）の立場から考えるのか、など）など、具体的な到達点として何を要求するのかについては、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で具体的に示すようにする。

情報基礎分科会においては、この「到達目標」を明確にすることが要求されている。少なくとも、同じ学部もしくは学科内では、一定の到達目標を持つ必要がある。

3) 成績評価の方法と基準

○成績評価方法

出席点（授業に出席したことによる点数）は不可だが、平常点として、授業中に実施した課題（指示されたことができたかどうか）による評価を加えることは十分に考えられる。また、実践的な能力を身につけることを目指す意味より、最終テストによる評価だけではなく、できる限り、通常の授業及び授業時間以外に学生が行う課題を評価方法として加えるようにする。

○観点

- ・それぞれの評価方法に対して、複数の観点からの評価を行うことを意識する。
（人間の身体を測定するのに、身長（長さ）を測定したり、体重（重さ）を測定したりするように、できるだけ色々な観点で測定した方が実態に近づける、という考え方に基づく。）
- ・4つの観点（「関心・意欲」「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」）をバランス良く含むこと。
- ・「知識・理解」もしくは「技能・表現」だけに偏らないように配慮すること。
- ・情報基礎では、特に「思考・判断」（自分で選択できる）の観点を取り入れ、そのような実習を行わせるようにする。

○基準

- ・それぞれの「方法」において、具体的に何をどのように評価するのかを明記すること。
- ・それぞれの「方法」において、全体（100%）に対して、どのぐらいの割合（例えば30%など）を占めるものなのかを明記すること。

○秀、優、良、可

設定した到達目標に照らし合わせて、「秀」「優」「良」「可」の基準を明記すること。例えば、「秀：与えられた課題に対して、使うソフトウェアを自分で選択して時間内に解決できる」、「優：与えられた課題に対して、使うソフトウェアの候補を指示すれば、その中から選択して、時間内に解決できる」など、それぞれの「到達目標」に照らし合わせておおよその「像」を示すこと。

特に「可」の学生は最低限どの程度の能力が身についているのかについては、できる限り明記すること。

情報基礎分科会では、「到達目標への達成度を基準とした絶対評価」を行うことを基本とするが、秀、優、良、可のバランスが極端にならないよう（ほぼ全員が秀、ほぼ全員が不可など）、常に到達目標及び評価の基準を見直すこととする。

「思想と文化」分科会

(1) 教育目標

「思想と文化」は、人間と思想・文化との関係を主題とする教養科目です。

すなわち、これは、主として思想・文化・歴史の観点から、人間の生み出す思想と文化およびその歴史をめぐるさまざまな問題を主題として扱う科目です。この科目では、学生の皆さんが現代の思想や文化に特徴的な課題や、それを理解するために必要な歴史的な課題にふれるとともに、あわせて思想・歴史・文化にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- ・学生の皆さんが、思想・文化・歴史にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようになる。
- ・学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、思想・文化・歴史との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことができるようになる。

2) 成績評価基準

(A) 成績評価の方法について

- ・現行のシラバス手引き等にある評価項目をふまえて評価を行うが、個々の授業科目において評価方法の選択の余地が実質的に残されるよう配慮する。
- ・評価項目としては、出席、テスト、レポート、レスポンスカードなど、共通の評価項目を踏まえて評価していく。
- ・各評価項目の重みづけについては、授業担当者が自身で決定できるものとする。

(B) 成績評価の基準について

- ・シラバスで定めた「到達目標」の達成度を基準として成績評価を行う。

評価	基準
秀	所期の「到達目標」にほぼ完全に達しているか、または傑出した水準に達している。
優	やや問題はあるが、所期の「到達目標」に十分に達している。80～89点に対応。
良	誤りや不十分な点があるが、所期の「到達目標」にかなりの程度まで達している。 70～79点に対応。
可	所期の「到達目標」に最低限ではあるが達している。60～69点に対応。
不可	単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。60点未満に対応。

「心と表象」分科会

(1) 教育目標

「心と表象」は、人間の心の世界とその具体的な表れ（表象）としての言葉・文学・芸術の世界を主題とする教養科目です。すなわち、これは心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界の諸相とその背景にある諸問題を主題として扱う科目です。

この科目では、学生の皆さんが、人間の心に関する諸問題と人間の表象（表現）活動としての言葉、文学および芸術の諸相を理解するとともに、あわせて心、言葉、文学、芸術にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- a) 学生の皆さんが、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようにする。
- b) 学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤となっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら養うことができるようにする。

2) 成績評価基準のガイドライン

- a) 科目間の不均衡をさけるため、各授業担当者は、成績評価が（ほぼ全員がAとかDなど）極端に偏らないよう配慮する（この点はシラバス等には記載しない）。
- b) 各授業担当者は、担当科目の成績評価の方法と基準をあらかじめシラバスに明示する。〔シラバスに入力する成績評価の方法と基準は、基本的にアイアシスタントでのシラバス入力の枠組みに準拠する。〕
- c) 評価方法の項目としては、①試験、②レポート、③講義への貢献度（出席回数、課題発表、質疑・討論等）、④その他講義内容に応じ各担当教官が指示した事項、が挙げられるが、これらの中から各授業担当者が授業の内容に応じて、できるだけ複数の評価方法を適宜選択し、シラバスに明示する。

「人間と社会」分科会

(1) 教育目標

「人間と社会」分科会は、単なる個々人の集合ではなく、人と人との関係を含んだ概念である「社会」について、そこで生じている様々な問題を主題として取り上げる科目を担当します。

「人間と社会」分科会は、混沌としているように見える複雑な社会問題について、受講生がその表層部分にのみ注目するのではなく、広い視野をもって個々の社会現象間の連関を認識することを通して、社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を修得し、もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養を身につけることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 成績評価の方法

成績評価は出席点（授業に出席したことによる点数）のみでは行わない。最終試験・最終レポートだけではなく、出席状況やレスポンスカードの内容、中間試験・中間レポートなども評価の対象とする。

2) 成績評価の基準

- ・秀 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果がとくに高い水準に達している（100点～90点）。
- ・優 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が高い水準に達している（89点～80点）。
- ・良 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が一定程度の水準に達している（79点～70点）。
- ・可 — 授業の内容をだいたいにおいて理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が合格水準を超えている（69点～60点）。

「生物の世界」分科会

(1) 教育目標

「生物の世界」は現代社会に生きている人、すなわちこれから社会にでて生きていこうとしている理科系、文科系を問わず全ての学生に教養としての現代生物学あるいは生命科学を様々な角度から複眼的、鳥瞰的かつ総合的に概説することによって、学生が生命のしくみを日常生活と関連づけて理解し、いのちのあり方を見つめ、改めて自分を知ることができるような講義内容とし、科学的な生命観を養うことを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「生物の世界」の分科会は以下に示した成績評価基準と成績評価方法を採用。本分科会の教育目標に従い、生命のしくみに対する科学的な「ものの見方・考え方」の習得を測定するために多様な評価方法を採用。

1) ガイドライン

秀：生命のしくみについて十分に理解し、自分なりの観点で生命現象を科学的に分析し、十分に理解する能力を身につけていること。(90点)

優：生命のしくみについて十分に理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(80点)

良：生命のしくみについて理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(70点)

可：生命のしくみについて理解し、科学的に思考する能力を身につけていること。(60点)

不可：上記「可」の到達目標を達していない。

2) 成績評価法

平常点、小テスト、レポート、期末試験等により評価する。これらの成績評価の比重については、担当教員の総合判断による。

「自然と数理の世界」分科会

(1) 教育目標

「自然と数理の世界」分科会は、自然科学的な自然認識の到達点を踏まえつつ、自然科学における各学問分野、とりわけ、数学・物理学・化学の分野を中心として、それぞれの学問分野に特有な基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解を図り、論理的な思考力を養成することを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「自然と数理の世界」分科会は、以下に示した範囲内で成績評価基準と成績評価方法を作成する。本分科会の教育目標に照らし、基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解や論理的な思考力を測定するために多様な評価方法を採るものとする。

- ※ 到達目標に対応した基準を設定する。どのような到達目標に到達すれば、「秀」、「優」、「良」、「可」なのかを明記する。
- ※ 成績評価の方法を示す。平常点、小テスト、レポート、期末試験など。
- ※ 複数の方法で評価する場合には、それぞれの方法でどのような基準で判定し、およそどのくらいの割合で集計するかを明示する。

「科学技術」分科会

(1) 教育目標

科学技術と人間社会の関わりをテーマに、現代社会の繁栄を担う様々な科学技術開発の歴史と現状そして将来を、社会や経済との関連も含めて理解し、幅広い教養とものの見方・考え方を習得することを目指します。

(2) 成績評価基準のガイドライン

- 1) 到達目標……中世・近世以降の科学と技術の歴史と、先端科学技術（例えば、ロボット、コンピュータ、エレクトロニクス、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、新材料など）の現状を、講義と自宅学習を通じて理解する。さらに、人間社会との関わりの中から科学技術の将来のあるべき姿について、自らの考えをまとめることが出来る能力を習得する。

2) 成績評価の基準

本分科会では以下に示す評価基準で評価する。

- ・これまでの科学と技術の歴史と、先端科学技術のいくつかの分野の歴史と現状を理解出来ているか。（「可」、「良」の評価基準とする）
- ・科学技術の歴史と現状の理解に基づき、将来のあるべき姿について自らの考えをまとめることが出来るか。（「優」、「秀」の評価基準とする）
- ・成績は平常点（レスポンスカードの提出や授業中の発言など）20%、レポートや期末テスト80%で総合評価する。
- ・関連する内容に関する書籍や論文を自ら読んでまとめるレポートを課し、評価に加える。

「環境」分科会

(1) 教育目標

「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられる教育科目です。

この科目では、教育科目全体としての上記の教育目標に沿い、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことをめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) ガイドライン

秀：到達目標（各教官が定める）のほぼすべてにおいて特に高い水準に達している。（90点）

優：到達目標のほぼすべてにおいて高い水準に達している。（80点）

良：到達目標をある程度達成している。（70点）

可：到達目標の一部を達成しているが、学習成果が十分でない。（60点）

不可：到達目標を達成していない。

2) 成績評価方法

平常点 20%

レスポンスカード 40%

学期末試験 40%

なお、教員の判断により、レポートを課し、レスポンスカードの得点に含めても良い

平成20年3月3日

「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン

(1) 教育目標

多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を学生が自ら培うことを支援する。（『履修の手引き』より）

(2) 成績評価のガイドライン

1) 授業科目の目的

上記の「総合科目」全体の教育目標を踏まえて、授業科目ごとに目的を設定する。

2) 授業科目の到達目標

授業の目的に沿って、「具体的に何を出来るようになるのかを学生自らが確認できる形で」到達目標を記述する。言い換えれば、教員が設定した目的に対して学生は何か出来れば到達したことになるのかを具体的に記述して、自主的な学習の指針を与える。

3) 成績評価の方法と基準

- ・到達目標を踏まえた絶対評価とする。
- ・期末試験だけでなく、複数の方法で評価する。
- ・平常点については出席回数だけではなく、レスポンスカード、iカード等も利用する。
- ・レポートやテストなども複数の観点（関心・意欲、知識・理解、技能・表現、思考・判断など）から評価する。
- ・上記の評価方法について何（平常点、テストなど）をどの程度の割合（例えば平常点30%など）で評価するかを明示する。

4) 授業担当者間の確認

オムニバス形式授業科目では「オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン」を踏まえて、成績評価についても一つの授業科目としての統一を図れるよう成績評価基準等を確認する。

平成20年3月3日

オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン

複数の教員が一つの授業科目を担当するいわゆるオムニバス授業は、多角的・学際的視野を学生に提供できるなど長所が多い反面、一つの授業科目としての統一性に欠けるという欠点も指摘されてきた。事実、各講義担当者が自分の担当分以外には無関心で、受講者の立場からすると前後に脈絡のないバラバラな話を聞かされたという印象しか残らない授業科目も皆無ではなかったと思われる。

こうした反省を踏まえて、平成17年に大学教育センター全学共通教育企画・実施部門では、総合科目担当者を対象にしたアンケート調査や当時の「総合科目分科会」の検討を経て、「オムニバス方式の学際的な授業科目における講義間の密接な連携について」（平成17年9月）を策定し、総合科目の授業方法の改善に活用してきた。

以下に箇条書きされている新たなガイドラインは、旧「総合科目分科会」に替る「総合科目企画・実施委員会」が従来の指針を再検討するとともに、課題として残された点にも検討を加えて策定したものであり、平成20年度開講科目から活用することとする。

- 1 オムニバス方式授業科目の講義間の連携は以下のような方法で当該科目の代表者を通じて達成を図る。
 - (1) 各授業科目の担当代表者は科目の責任者及びコーディネーターの役割を担い、各科目は、原則として、一人の担当者による通常の科目と同じように担当代表者の科目として扱う。なお、代表者及び授業担当者の教育貢献度等については別途検討する。
 - (2) 担当代表者は授業の目的・到達目標・授業の概要・成績評価基準などについて講義担当者間で共通理解を図り、シラバス記載や成績提出等に責任を持つ。
 - (3) 担当代表者は初回のオリエンテーション等により受講者に対して授業の目的等について周知を図る。
 - (4) 担当代表者は原則として2回程度講義担当者全員を招集して授業の趣旨・内容等について検討会など（授業に組み入れることも可）を開催し、講義担当者全員が授業科目全体の把握に努める。講義担当者に学外者がいる場合も何らかの方法で相互理解を図る。
 - (5) その他、担当代表者は可能な範囲内で他の担当者の講義に出席するなど連携に必要なと思われる措置を講ずる。
- 2 各講義担当者は上記の役割を担う代表者に協力するとともに、以下の点に留意する。
 - (1) 各講義担当者は授業科目全体における自分の担当分の位置と意義を十分理解する。
 - (2) アイアシスタントなどの有効活用により、講義内容や学生への配付資料等を担当者間で共有する。
 - (3) その他連携に必要なと思われる措置を講じる。
- 3 大学教育総合センターは担当代表者が円滑に役割を果たせるように協力する。
 - (1) 大学教育総合センターは「総合科目企画・実施委員会」を通じてオムニバス方式授業の実施状況を把握する。
 - (2) その他連携に必要なと思われる措置を講じる。

平成27年度 全学共通教育「学生による授業アンケート」実施状況報告

平成27年度は、前期は基礎ゼミナールと新規開講科目、実施希望科目、後期はすべての開講科目を対象とした授業アンケートの実施でした。実際の状況は以下の通りです。

平成27年度 授業アンケート実施率

【前期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	10	10	100%
人間と社会	11	11	100%
人間と自然	7	7	100%
高年次課題科目	1	1	100%
健康・スポーツ	2	2	100%
情報基礎	3	3	100%
外国語（英語）	6	7	86%
外国語（英語以外）	10	10	100%
基礎ゼミナール	47	52	90%

【後期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	18	19	95%
人間と社会	16	22	73%
人間と自然	8	9	89%
総合	6	6	100%
環境	11	12	92%
高年次課題科目	2	2	100%
健康・スポーツ	6	6	100%
外国語（英語）	72	74	97%
外国語（英語以外）	43	51	84%
初年次自由ゼミナール	4	5	80%

平成27年度前期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
指定(指導)されたから	2.6%	15.2%	2.1%	96.5%	80.9%	7.8%
単位がとりやすそうだったから	19.7%	19.7%	20.0%	0.7%	1.0%	4.7%
自分の専門と関係がなさそうだから	4.1%	7.6%	7.0%	0.0%	0.0%	1.4%
先輩などからすすめられたから	21.7%	7.6%	18.9%	0.7%	2.0%	10.8%
他にやりたい外国語がなかったから	9.2%	9.1%	9.8%	0.0%	2.5%	14.7%
シラバスを読んで興味を持ったから	24.9%	23.8%	27.7%	0.0%	3.5%	23.3%
友達が選択するから	8.0%	7.9%	7.9%	0.7%	0.5%	6.1%
自分の専門に関係が深そうだから	7.9%	5.6%	4.9%	1.4%	3.5%	16.9%
他の外国語で人数制限を受けたから	0.8%	1.4%	0.6%	0.0%	0.0%	1.9%
その他(具体的に:)	1.2%	2.1%	1.2%	0.0%	6.0%	12.5%
合計(集計枚数)	885	1704	1732	141	199	361

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
0回	62.0%	63.4%	67.2%	83.0%	73.3%	60.2%
1回	18.8%	20.2%	19.5%	11.1%	11.8%	22.3%
2回	11.5%	8.7%	8.0%	4.4%	5.9%	8.7%
3回以上	7.7%	7.8%	5.3%	1.5%	9.1%	8.7%
合計(回答数)	584	1224	1092	135	187	264

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
わかった	16.4%	21.8%	22.3%	22.1%	18.7%	21.8%
だいたいわかった	59.8%	56.0%	54.9%	33.1%	31.6%	39.7%
あまりわからなかった	11.9%	7.6%	7.4%	4.4%	3.7%	9.2%
わからなかった	0.3%	0.9%	0.7%	0.0%	0.5%	1.1%
読まなかった	11.6%	13.8%	14.6%	40.4%	45.5%	28.2%
合計(回答数)	587	1235	1103	136	187	262

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
ほとんどしなかった	67.1%	77.1%	80.4%	72.6%	38.8%	22.1%
30分ぐらい	25.6%	17.4%	15.2%	24.4%	44.7%	57.8%
1時間ぐらい	5.3%	4.1%	3.4%	1.5%	16.0%	17.9%
2時間ぐらい	1.5%	1.1%	0.2%	1.5%	0.5%	1.5%
3時間ぐらい	0.3%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%
4時間以上	0.2%	0.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
合計(回答数)	589	1238	1104	135	188	263

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
よく利用した	3.1%	13.7%	11.7%	46.3%	2.1%	8.3%
たまに利用した	20.1%	14.7%	14.6%	11.0%	17.0%	17.8%
ほとんど利用しなかった	21.3%	18.5%	17.0%	5.9%	14.9%	20.1%
まったく利用しなかった	55.6%	53.1%	56.8%	36.8%	66.0%	53.8%
合計(回答数)	588	1241	1106	136	188	264

- e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
授業記録	63.8%	30.4%	34.3%	15.6%	44.9%	59.4%
i カード	4.1%	33.3%	30.5%	74.0%	2.9%	2.3%
課題・レポート	12.2%	20.3%	21.2%	7.3%	14.5%	16.4%
学習記録	12.5%	5.8%	7.3%	0.0%	23.2%	14.1%
その他()	7.4%	10.2%	6.8%	3.1%	14.5%	7.8%
合計(回答数)	271	675	591	96	69	128

- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	41.6%	31.9%	42.0%	67.6%	44.7%	50.6%
すこしそう思う	38.7%	34.9%	25.6%	25.0%	39.4%	34.2%
あまりそう思わない	8.7%	11.7%	5.7%	1.5%	4.8%	4.9%
そう思わない	1.2%	4.4%	2.6%	0.0%	1.1%	1.9%
機会がなかった	9.9%	17.2%	24.1%	5.9%	10.1%	8.4%
合計(回答数)	587	1239	1101	136	188	263

- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	36.1%	17.3%	25.4%	52.2%	37.2%	32.2%
すこしそう思う	38.7%	20.3%	20.7%	36.8%	37.8%	35.6%
あまりそう思わない	12.9%	9.7%	8.0%	5.1%	11.7%	6.4%
そう思わない	2.0%	2.7%	2.0%	0.0%	2.7%	1.9%
機会がなかった	10.2%	50.1%	44.0%	5.9%	10.6%	23.9%
合計(回答数)	587	1240	1103	136	188	264

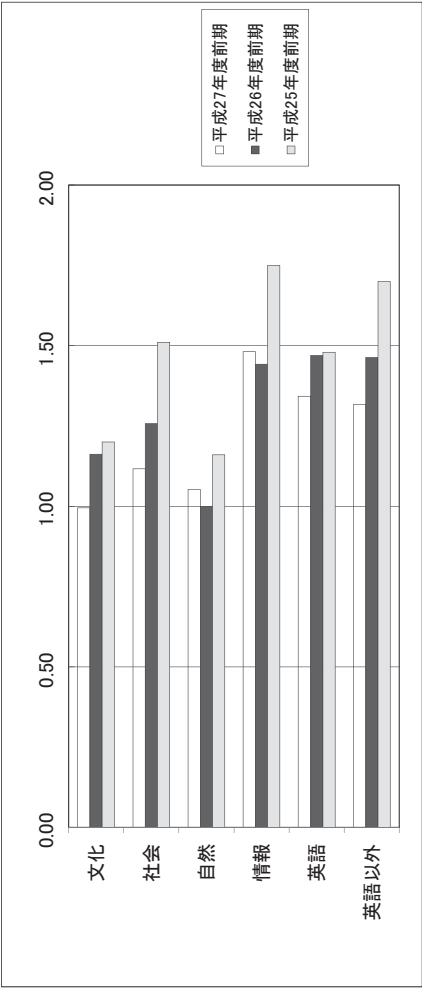
- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	26.0%	26.9%	38.1%	54.4%	47.3%	40.5%
すこしそう思う	50.3%	46.5%	44.9%	43.4%	44.1%	42.8%
あまりそう思わない	20.2%	21.5%	13.5%	2.2%	5.9%	13.3%
そう思わない	3.4%	5.0%	3.5%	0.0%	2.7%	3.4%
合計(回答数)	588	1240	1105	136	188	264

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

		文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
a.	教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.23	1.40	1.26	1.73	1.63	1.48
b.	この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.31	1.42	1.36	1.77	1.62	1.55
c.	教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.34	1.41	1.29	1.70	1.65	1.47
d.	この授業の内容、進捗は、おおよそラパスに沿ったものでしたか？	1.45	1.43	1.44	1.68	1.49	1.47
e.	授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.21	1.47	1.40	1.65	1.72	1.44
f.	板書・ビデオ・プロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.30	1.25	1.37	1.72	1.57	1.40
g.	教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.20	1.37	1.32	1.37	1.67	1.75
h.	教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	1.09	1.16	1.20	1.78	1.58	1.61
i.	授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	0.34	0.51	0.56	1.66	1.43	1.66
j.	教員は、学生の疑問点や意図をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.43	1.18	1.07	1.26	1.34	1.49
k.	この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	0.96	0.76	0.88	1.50	1.50	1.36
l.	この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.31	-0.17	-0.14	0.81	-0.40	-0.48
m.	この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.22	0.13	-0.50	-0.33	-0.56	-0.62
n.	授業開始時間・終了時間とも守られていましたか？	1.59	1.68	1.58	1.88	1.51	1.70
o.	授業はよく準備されていると思いますか？	1.54	1.60	1.61	1.83	1.72	1.68
p.	授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.43	1.55	1.53	1.63	1.75	1.76
q.	授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか？	1.14	0.81	0.81	1.54		
r.	授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.10	1.12	1.29	1.28		
s.	授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか？	0.84	0.86	0.82	1.21		
t.	この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.08	1.47	1.19	1.83	1.64	1.57
u.	この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	0.86	1.04	0.96	1.59	1.31	1.42
	平均	1.00	1.12	1.05	1.48	1.34	1.32

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？



平成27年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.00	1.12	1.05	1.48	1.34	1.32

平成26年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.16	1.26	1.00	1.44	1.47	1.46

平成25年度前期

文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.20	1.51	1.16	1.75	1.48	1.70

平成27年度前期 全学共通教育授業アンケート(基礎ゼミナール)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体	人社	教育	工	農
0回	86.3%	79.9%	80.1%	90.6%	90.0%
1回	10.0%	14.6%	13.7%	6.8%	8.1%
2回	3.2%	5.0%	6.2%	1.7%	1.4%
3回以上	0.6%	0.5%	0.0%	1.0%	0.5%
合計(回答数)	1034	199	211	413	211

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体	人社	教育	工	農
わかった	19.2%	39.2%	11.6%	15.9%	14.6%
だいたいわかった	43.4%	53.3%	43.7%	35.7%	49.1%
あまりわからなかった	9.5%	6.5%	10.7%	11.1%	8.0%
わからなかった	1.0%	0.0%	0.9%	1.4%	0.9%
読まなかった	26.9%	1.0%	33.0%	35.9%	27.4%
合計(回答数)	1041	199	215	415	212

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体	人社	教育	工	農
ほとんどしなかった	52.4%	28.1%	53.3%	58.3%	62.7%
30分ぐらい	20.9%	31.2%	15.9%	17.3%	23.1%
1時間ぐらい	16.3%	23.1%	17.8%	15.2%	10.8%
2時間ぐらい	6.5%	9.5%	7.5%	6.3%	3.3%
3時間ぐらい	1.6%	4.0%	1.9%	1.2%	0.0%
4時間以上	2.2%	4.0%	3.7%	1.7%	0.0%
合計(回答数)	1040	199	214	415	212

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体	人社	教育	工	農
よく利用した	9.4%	6.7%	6.0%	4.8%	24.1%
たまに利用した	13.9%	24.4%	11.2%	11.8%	11.3%
ほとんど利用しなかった	19.3%	16.6%	14.0%	21.2%	23.6%
まったく利用しなかった	57.4%	52.3%	68.8%	62.3%	41.0%
合計(回答数)	1036	193	215	416	212

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
授業記録	38.5%	46.5%	30.1%	41.5%	33.6%
i カード	10.6%	14.1%	15.1%	4.7%	13.1%
課題・レポート	25.8%	15.2%	23.3%	36.8%	21.2%
学習記録	7.7%	10.1%	6.8%	8.2%	5.8%
その他()	17.3%	14.1%	24.7%	8.8%	26.3%
合計(回答数)	480	99	73	171	137

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体	人社	教育	工	農
とても役に立った	10.3%	18.1%	10.2%	9.1%	5.2%
役に立った	23.5%	36.2%	28.8%	18.5%	16.1%
少し役に立った	32.5%	24.1%	34.0%	34.3%	35.5%
役に立たなかった	4.7%	2.5%	7.4%	4.3%	4.7%
使わなかった	29.0%	19.1%	19.5%	33.8%	38.4%
合計(回答数)	1042	199	215	417	211

- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	65.1%	55.3%	48.8%	63.9%	93.4%
なかった	27.0%	40.2%	41.4%	24.9%	4.3%
はっきり憶えていない	7.9%	4.5%	9.8%	11.2%	2.4%
合計(回答数)	1043	199	215	418	211

- h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	54.0%	59.3%	47.9%	40.1%	82.5%
なかった	33.9%	33.7%	42.3%	40.6%	12.3%
はっきり憶えていない	12.1%	7.0%	9.8%	19.2%	5.2%
合計(回答数)	1042	199	215	416	212

- i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	55.3%	77.9%	68.9%	51.3%	28.3%
なかった	22.5%	13.1%	16.5%	23.7%	34.9%
はっきり憶えていない	22.2%	9.0%	14.6%	24.9%	36.8%
合計(回答数)	1040	199	212	417	212

- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	82.1%	96.5%	88.3%	74.2%	77.8%
なかった	7.4%	1.0%	5.6%	11.2%	7.5%
はっきり憶えていない	10.5%	2.5%	6.1%	14.6%	14.6%
合計(回答数)	1043	199	214	418	212

- k. 班活動を行う機会がありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会がありましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
班活動を行う機会があった	53.4%	43.7%	50.3%	53.5%	65.9%
発表する機会があった	44.0%	55.9%	48.0%	41.8%	32.8%
両方ともなかった	1.5%	0.4%	1.7%	2.2%	1.0%
はっきり憶えていない	1.1%	0.0%	0.0%	2.5%	0.3%
合計(回答数)	1460	279	298	593	290

- l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	45.9%	54.3%	55.3%	37.6%	44.8%
すこしそう思う	28.8%	23.6%	20.0%	31.6%	37.3%
あまりそう思わない	4.2%	2.0%	4.7%	5.0%	4.2%
そう思う思わない	1.5%	1.0%	0.9%	2.4%	0.9%
機会がなかった	19.5%	19.1%	19.1%	23.4%	12.7%
合計(回答数)	1044	199	215	418	212

- m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	37.4%	46.2%	47.9%	31.7%	29.7%
すこしそう思う	43.4%	41.2%	38.6%	44.4%	48.6%
あまりそう思わない	9.0%	4.5%	6.0%	11.3%	11.8%
そう思う思わない	1.9%	0.0%	0.5%	2.9%	3.3%
機会がなかった	8.2%	8.0%	7.0%	9.8%	6.6%
合計(回答数)	1043	199	215	417	212

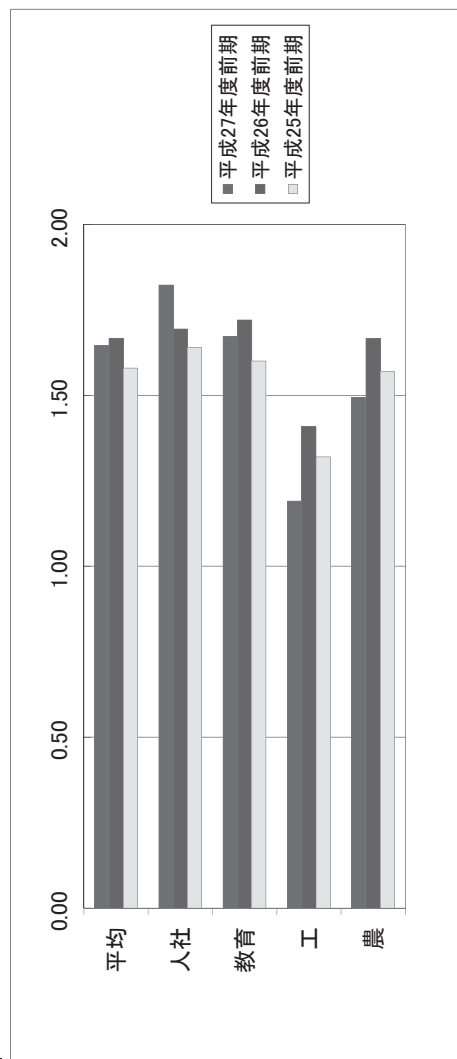
- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	44.5%	64.3%	55.8%	35.4%	32.5%
すこしそう思う	44.5%	30.2%	37.2%	48.6%	57.5%
あまりそう思わない	8.4%	5.0%	5.1%	12.9%	6.1%
そう思う思わない	2.5%	0.5%	1.9%	3.1%	3.8%
合計(回答数)	1044	199	215	418	212

C この授業に関して、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均	人 社	教 育	工	農
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.39	1.61	1.32	1.17	1.18
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.54	1.75	1.49	1.24	1.39
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	0.75	1.11	0.43	0.64	0.87
d. この授業の内容、進修は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	1.35	1.71	1.07	1.10	1.48
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.59	1.74	1.51	1.37	1.60
f. 板書・ビデオ・プロジェクト等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.41	1.42	1.39	1.33	1.53
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.36	1.59	1.38	0.80	1.17
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	1.78	1.87	1.82	1.51	1.69
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿習・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	1.44	1.60	1.48	1.14	1.14
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.48	-0.42	-0.58	-0.49	-0.23
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	0.53	0.52	0.50	0.49	0.71
l. 授業中及び授業時間外の学習中で、あなたが考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	1.58	1.83	1.55	1.30	1.18
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.46	1.66	1.44	1.00	1.37
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さがありましたか？	1.39	1.62	1.34	1.03	1.22
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.63	1.82	1.58	1.35	1.53
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.24	1.43	1.22	0.86	1.11
平均	1.25	1.43	1.18	0.99	1.18

D 結果として、この授業を履修してよかったですか？



平成27年度前期 全学共通教育授業アンケート(健康・スポーツ科目) 学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	62.2%
経験のない種目だったから	6.7%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	2.8%
他にやりたい種目がなかったから	6.9%
先輩などからすすめられたから	0.2%
友達が選択するから	13.4%
他の種目で人数制限を受けたから	3.7%
その他(具体的に:)	4.1%
合計(回収枚数)	492

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

0回	78.2%
1回	13.6%
2回	6.5%
3回以上	1.7%
合計	354

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？

はい	94.8%
いいえ	5.2%
合計	347

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？

そう思う	60.5%
少しそう思う	21.8%
あまりそう思わない	14.1%
そう思わない	3.7%
合計	354

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？
その内容はわかりましたか？

わかった	18.0%
だいたいわかった	27.9%
あまりわからなかった	4.2%
わからなかった	0.3%
読まなかった	49.6%
合計	355

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらい
アイアシスタントを利用しましたか？

よく利用した	2.0%
たまに利用した	3.4%
ほとんど利用しなかった	16.4%
まったく利用しなかった	78.2%
合計	354

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて
予習・復習をしましたか？

ほとんどしなかった	93.2%
30分ぐらい	1.7%
1時間ぐらい	2.3%
2時間ぐらい	0.6%
3時間ぐらい	0.3%
4時間以上	2.0%
合計	353

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明があり
ましたか？

あった	46.5%
あったと思う	39.4%
なかったと思う	9.6%
なかった	4.5%
合計	355

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できる
ものだと思いますか？

そう思う	66.2%
すこしそう思う	29.0%
あまりそう思わない	3.9%
そう思わない	0.8%
合計	355

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んでください。

a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.53
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだったと思いますか？	1.58
c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.32
d. 授業の内容、進行は、おおそシラバスに沿ったものでしたか？	1.42
e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？	1.59
f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？	1.35
g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？	0.57
h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？	1.09
i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？	1.52
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応をしていましたか？	1.28
k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.81
l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.70
m. 授業開始時間・終了時間は守られていましたか？	1.79
n. 授業はよく準備されていたと思いますか？	1.57
o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？	1.59
p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.45
q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？	1.36
平均	1.15

平成27年度後期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
必修科目/指定(指導)されたから	1.9%	1.2%	2.1%	1.5%	31.4%	81.0%	29.3%
単位がとりやすそうだったから	26.4%	17.6%	22.2%	26.7%	10.8%	1.4%	7.1%
自分の専門と関係がなさそうだから	7.9%	8.9%	7.7%	7.3%	4.2%	0.3%	1.6%
先輩などからすすめられたから	10.2%	5.7%	10.3%	4.4%	8.1%	0.5%	7.0%
他にやりたい外国語がなかったから	7.6%	11.2%	12.4%	8.0%	4.9%	7.0%	16.3%
シラバスを読んで興味を持ったから	30.1%	35.2%	28.1%	34.7%	22.3%	2.2%	19.6%
友達が選択するから	9.8%	10.2%	10.5%	12.6%	8.0%	0.4%	3.1%
自分の専門に関係が深そうだから	3.9%	6.7%	4.9%	2.9%	6.7%	4.6%	10.1%
他の外国語で人数制限を受けたから	1.2%	1.7%	1.6%	0.5%	1.6%	0.1%	0.5%
その他(具体的に:)	1.0%	1.4%	0.4%	1.5%	2.1%	2.5%	5.3%
合計(集計枚数)	2108	1446	1267	412	1438	2357	1294

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
0回	61.9%	54.2%	54.2%	53.4%	66.2%	65.8%	57.5%
1回	21.4%	22.0%	21.5%	24.5%	18.7%	18.9%	20.6%
2回	9.7%	14.0%	13.6%	15.5%	8.6%	8.9%	10.8%
3回以上	7.0%	9.8%	10.7%	6.6%	6.4%	6.4%	11.1%
合計(回答数)	1455	1036	875	290	983	2128	994

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
わかった	32.3%	27.5%	23.0%	30.1%	24.6%	24.1%	27.8%
だいたいわかった	53.0%	58.0%	56.6%	60.9%	54.2%	39.5%	41.9%
あまりわからなかった	4.4%	5.8%	10.3%	5.0%	7.2%	6.7%	4.6%
わからなかった	0.3%	0.4%	1.6%	0.3%	0.6%	0.6%	1.2%
読まなかった	9.9%	8.3%	8.5%	3.7%	13.4%	29.1%	24.5%
合計(回答数)	1480	1060	892	299	989	2157	1002

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
ほとんどしなかった	80.8%	75.0%	83.1%	88.9%	83.2%	27.8%	36.4%
30分ぐらい	16.7%	20.6%	14.8%	10.4%	14.7%	38.4%	42.4%
1時間ぐらい	1.6%	3.4%	1.9%	0.3%	1.7%	22.2%	18.2%
2時間ぐらい	0.4%	0.8%	0.1%	0.0%	0.1%	8.0%	2.8%
3時間ぐらい	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.2%
4時間以上	0.3%	0.1%	0.1%	0.3%	0.3%	1.9%	0.0%
合計(回答数)	1486	1058	894	298	988	2161	1005

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
よく利用した	11.4%	19.4%	3.7%	4.0%	7.6%	11.7%	3.5%
たまに利用した	18.7%	19.5%	18.5%	21.7%	32.1%	11.8%	13.1%
ほとんど利用しなかった	16.4%	13.0%	19.6%	24.1%	17.5%	14.7%	11.4%
まったく利用しなかった	53.6%	48.1%	58.2%	50.2%	42.9%	61.8%	72.0%
合計(回答数)	1486	1059	893	299	989	2162	939

- e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
授業記録	44.0%	29.9%	49.9%	29.9%	47.4%	50.6%	57.5%
i カード	18.0%	47.7%	6.4%	19.5%	16.3%	2.8%	3.6%
課題・レポート	19.9%	11.9%	28.1%	39.6%	17.9%	20.7%	13.9%
学習記録	7.8%	5.0%	7.7%	5.2%	6.4%	10.2%	16.8%
その他()	10.2%	5.5%	8.0%	5.8%	12.0%	15.7%	8.2%
合計(回答数)	732	616	377	154	643	890	280

- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	44.6%	37.1%	42.8%	46.1%	49.7%	51.3%	41.0%
すこしそう思う	27.9%	33.5%	38.9%	41.4%	36.2%	31.9%	33.4%
あまりそう思わない	5.5%	7.8%	8.7%	8.8%	6.8%	5.5%	6.5%
そう思わない	1.6%	1.9%	2.0%	0.3%	1.5%	1.9%	2.4%
機会がなかった	20.4%	19.7%	7.7%	3.4%	5.8%	9.4%	16.7%
合計(回答数)	1484	1056	888	297	989	2162	940

- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	31.3%	32.4%	34.0%	29.2%	23.2%	46.1%	28.2%
すこしそう思う	25.3%	35.3%	35.5%	33.6%	29.8%	39.9%	31.1%
あまりそう思わない	6.5%	8.5%	11.5%	8.4%	10.1%	7.0%	7.7%
そう思わない	2.0%	2.1%	3.4%	1.7%	2.7%	2.2%	2.5%
機会がなかった	35.0%	21.8%	15.7%	27.2%	34.2%	4.8%	30.6%
合計(回答数)	1487	1060	894	298	991	2166	1004

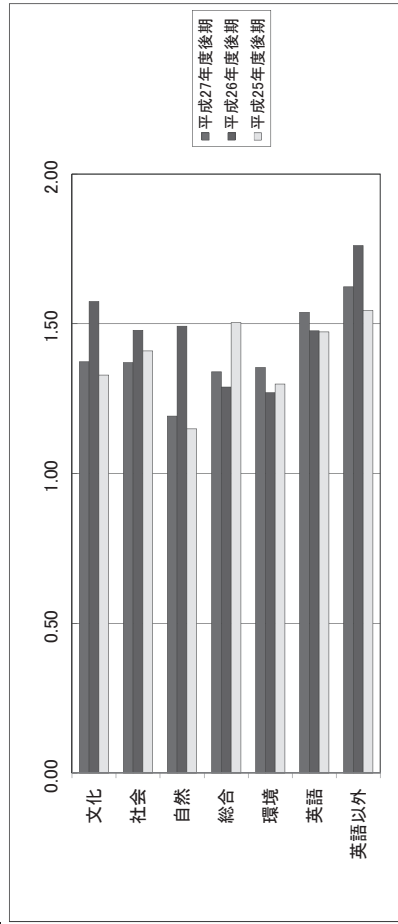
- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	37.2%	31.8%	25.6%	37.0%	27.7%	42.0%	40.9%
すこしそう思う	45.8%	50.4%	46.2%	49.5%	55.1%	46.3%	42.4%
あまりそう思わない	13.7%	13.8%	23.5%	11.8%	14.1%	9.6%	13.2%
そう思わない	3.2%	4.1%	4.7%	1.7%	3.0%	2.1%	3.5%
合計(回答数)	1484	1060	894	297	991	2164	1007

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
a. 教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.35	1.38	1.11	1.15	1.23	1.49	1.51
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.39	1.43	1.18	1.23	1.33	1.53	1.57
c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.35	1.44	1.26	1.15	1.35	1.49	1.53
d. この授業の内容、進修は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	1.51	1.47	1.40	1.47	1.48	1.42	1.49
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.42	1.39	1.11	1.18	1.34	1.45	1.52
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.32	1.26	1.08	0.72	0.81	1.40	1.48
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.34	1.42	1.29	1.06	1.21	1.34	1.72
h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	1.20	1.28	1.06	1.50	1.45	1.30	1.58
i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？	0.35	0.40	0.12	1.41	1.43	1.64	1.59
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.78	0.93	0.69	-0.61	0.01	1.27	1.42
k. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていきましたか？	0.90	1.19	0.99	0.28	1.23	1.51	1.35
l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていきましたか？	-0.42	0.14	-0.47	0.75	0.74	-0.34	-0.69
m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.59	0.25	0.16	1.26	1.18	-0.25	-0.53
n. 授業開始時間・終了時間も守られていましたか？	1.51	1.48	1.60	0.83	0.94	1.62	1.70
o. 授業はよく準備されていると思いますか？	1.55	1.62	1.50	1.24	1.35	1.58	1.67
p. 授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.57	1.57	1.36	0.89	0.86	1.64	1.70
q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	0.76	0.99	0.82				
r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.16	1.09	1.07				
s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さがありましたか？	0.74	0.94	0.74				
t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.12	1.39	1.00			1.54	1.52
u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	0.82	0.97	0.68			1.23	1.29
平均	1.01	1.14	0.94	0.97	1.12	1.27	1.30

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？



平成27年度後期

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.37	1.37	1.19	1.34	1.35	1.54	1.62

平成26年度後期

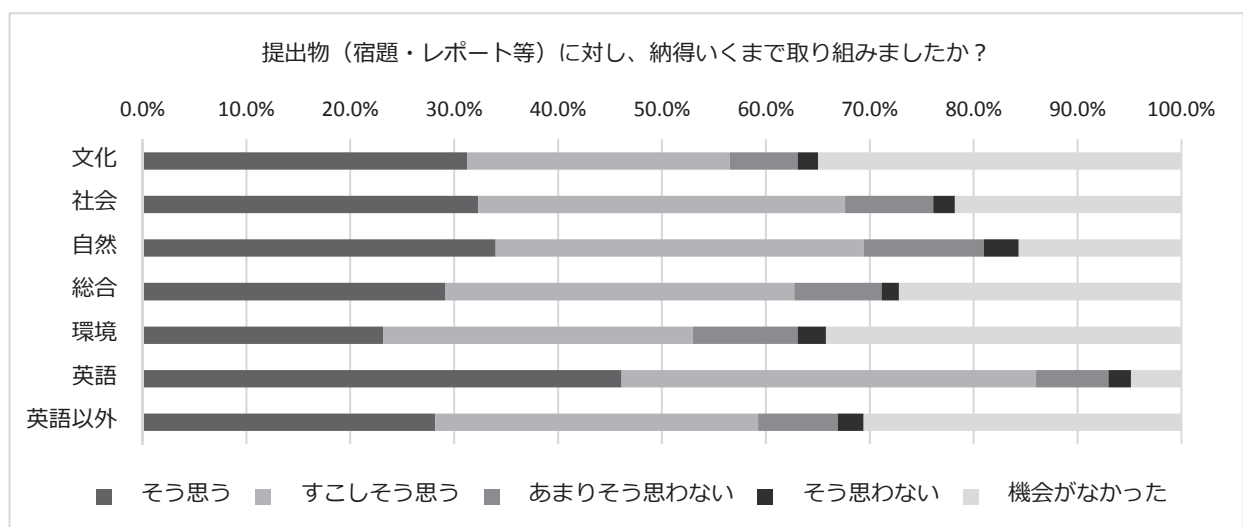
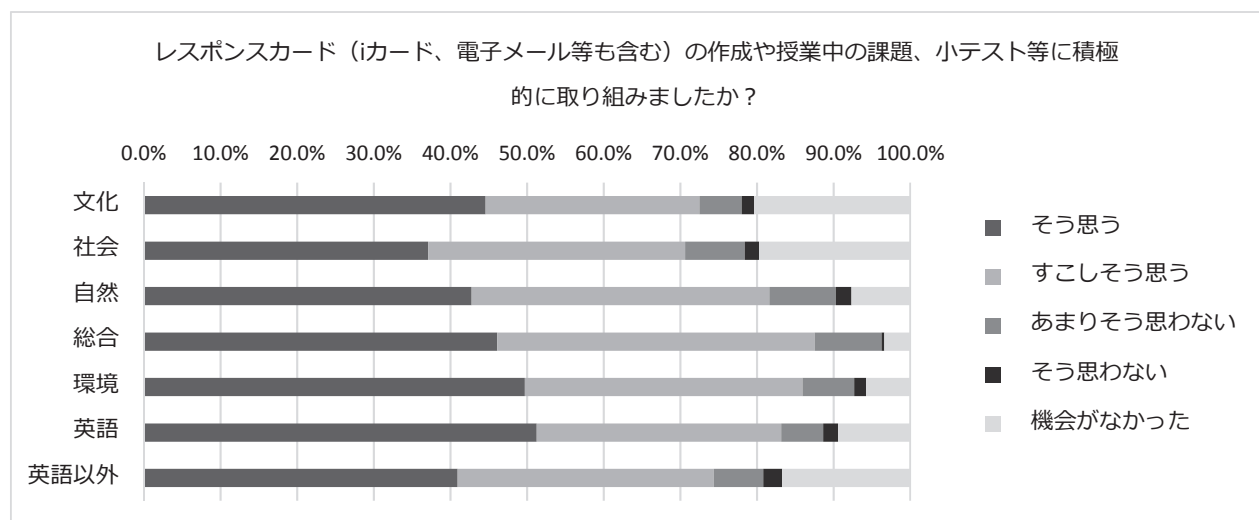
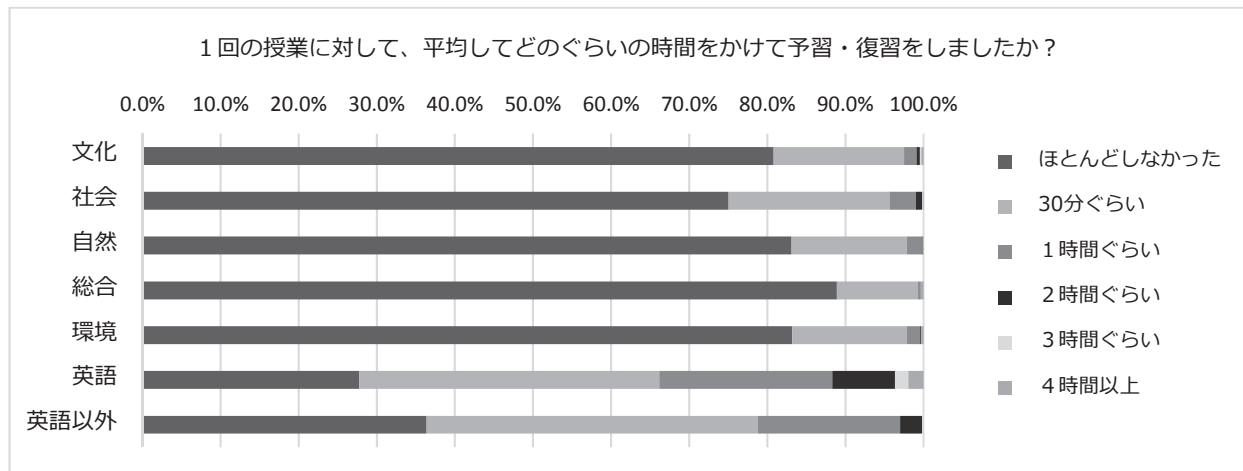
文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.57	1.48	1.49	1.29	1.27	1.48	1.76

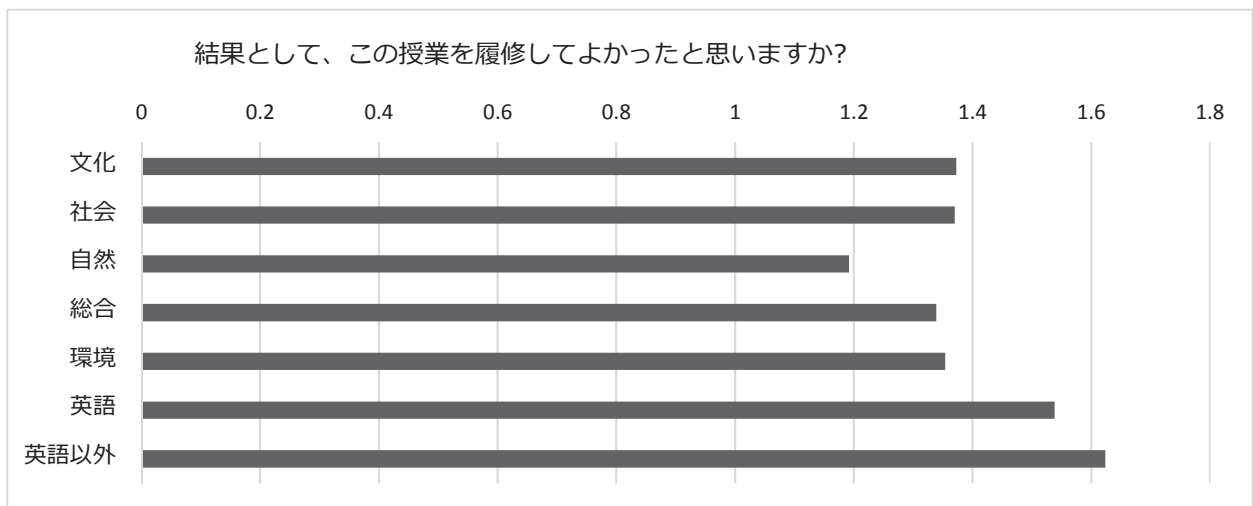
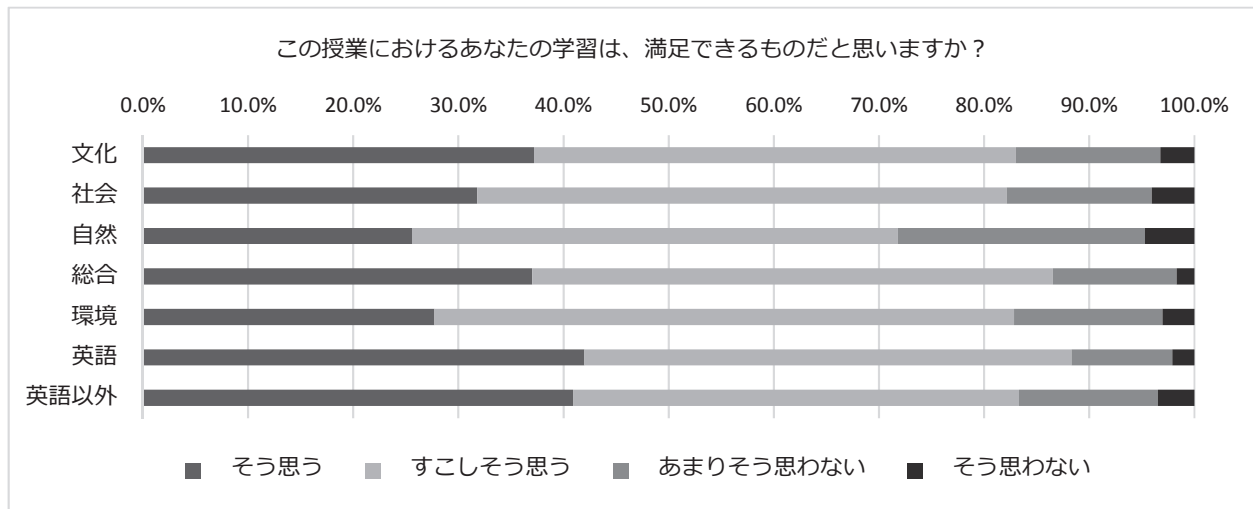
平成25年度後期

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.33	1.41	1.15	1.50	1.30	1.47	1.54

平成27年度後期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

一部抜粋





平成27年度後期 全学共通教育授業アンケート(初年次自由ゼミナール)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体
0回	93.8%
1回	6.3%
2回	0.0%
3回以上	0.0%
合計(回答数)	16

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体
わかった	75.0%
だいたいわかった	25.0%
あまりわからなかった	0.0%
わからなかった	0.0%
読まなかった	0.0%
合計(回答数)	16

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体
ほとんどしなかった	12.5%
30分ぐらい	50.0%
1時間ぐらい	18.8%
2時間ぐらい	12.5%
3時間ぐらい	6.3%
4時間以上	0.0%
合計(回答数)	16

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体
よく利用した	37.5%
たまに利用した	0.0%
ほとんど利用しなかった	18.8%
まったく利用しなかった	43.8%
合計(回答数)	16

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体
授業記録	25.0%
i カード	41.7%
課題・レポート	25.0%
学習記録	0.0%
その他()	8.3%
合計(回答数)	12

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体
とても役に立った	37.5%
役に立った	0.0%
少し役に立った	12.5%
役に立たなかった	0.0%
使わなかった	50.0%
合計(回答数)	16

- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会はありましたか？

	全体
あった	25.0%
なかった	75.0%
はっきり憶えていない	0.0%
合計(回答数)	16

- h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体
あった	12.5%
なかった	81.3%
はっきり憶えていない	6.3%
合計(回答数)	16

- i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会はありましたか？

	全体
あった	68.8%
なかった	25.0%
はっきり憶えていない	6.3%
合計(回答数)	16

- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会はありましたか？

	全体
あった	93.8%
なかった	0.0%
はっきり憶えていない	6.3%
合計(回答数)	16

- k. 班活動を行う機会はありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会はありましたか？(複数回答可)

	全体
班活動を行う機会があった	47.6%
発表する機会があった	52.4%
両方ともなかった	0.0%
はっきり憶えていない	0.0%
合計(回答数)	21

- l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体
そう思う	68.8%
すこしそう思う	18.8%
あまりそう思わない	0.0%
そう思う思わない	0.0%
機会がなかった	12.5%
合計(回答数)	16

- m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体
そう思う	56.3%
すこしそう思う	37.5%
あまりそう思わない	6.3%
そう思う思わない	0.0%
機会がなかった	0.0%
合計(回答数)	16

- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体
そう思う	87.5%
すこしそう思う	12.5%
あまりそう思わない	0.0%
そう思う思わない	0.0%
合計(回答数)	16

c この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.92
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.92
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	1.72
d. この授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	2.00
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.92
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.92
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.83
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？	2.00
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていたか？	1.92
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.03
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	1.00
l. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	2.00
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.83
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？	1.75
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.92
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.83
平均	1.71

平成27年度後期 全学共通教育授業アンケート(健康・スポーツ科目)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	61.4%
経験のない種目だったから	7.4%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	3.9%
他にやりたい種目がなかったから	6.5%
先輩などからすすめられたから	0.3%
友達が選択するから	13.7%
他の種目で人数制限を受けたから	3.5%
その他(具体的に:)	3.2%
合計(回収枚数)	1224

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

0回	72.6%
1回	17.6%
2回	6.4%
3回以上	3.4%
合計	972

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？

はい	91.0%
いいえ	9.0%
合計	932

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？

そう思う	52.6%
少しそう思う	27.2%
あまりそう思わない	15.2%
そう思わない	5.0%
合計	972

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？
その内容はわかりましたか？

わかった	22.6%
だいたいわかった	28.4%
あまりわからなかった	2.6%
わからなかった	0.4%
読まなかった	46.1%
合計	966

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらい
アイアシスタントを利用しましたか？

よく利用した	3.9%
たまに利用した	4.3%
ほとんど利用しなかった	10.8%
まったく利用しなかった	81.0%
合計	967

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて
予習・復習をしましたか？

ほとんどしなかった	94.7%
30分ぐらい	3.3%
1時間ぐらい	0.4%
2時間ぐらい	0.2%
3時間ぐらい	0.4%
4時間以上	0.9%
合計	950

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明があり
ましたか？

あった	51.9%
あったと思う	39.0%
なかったと思う	6.4%
なかった	2.8%
合計	973

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できる
ものだと思いますか？

そう思う	63.2%
すこしそう思う	30.7%
あまりそう思わない	5.2%
そう思わない	0.9%
合計	972

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んでください。

a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.61
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだったと思いますか？	1.65
c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.45
d. 授業の内容、進捗は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.49
e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？	1.65
f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？	1.54
g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？	1.09
h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？	1.32
i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？	1.57
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応をしていましたか？	1.46
k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.55
l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.47
m. 授業開始時間・終了時間は守られていましたか？	1.71
n. 授業はよく準備されていたと思いますか？	1.52
o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？	1.66
p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.55
q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？	1.34
平均	1.27

優秀授業選出方針(平成27年度)

教育推進機構
教養教育センター

■優秀授業選出方針

- 1：アンケート実施授業科目を対象として、授業科目区分ごとに「優秀授業」を決定します。
- 2：履修人数の少ない授業科目については対象から外します。授業科目区分毎に履修登録人数の平均を出し、明らかに履修登録人数が少ない授業（履修登録人数の平均の30%以下）については、対象から外します。
- 3：履修登録人数に比べて、アンケート回答者（回収枚数）が少ない授業科目については、対象から外します。回答者数が履修登録人数の70%未満の授業科目については、対象から外します。
- 4：各授業科目区分での優秀授業対象科目（アンケートを実施している、履修者数が規定を満たしている、回収率が70%以上）の20%の科目数（四捨五入）が選出されることを基準とします。ただし、区切りとなる科目の集計値とそれ以前、もしくは以降の集計値に差があまりない場合には、対象科目数の15%（四捨五入）～25%（四捨五入）範囲内の科目で、集計値の区切りの良いところまでを選出することとします。また、対象科目数が5科目未満の場合は、その区分からは選出しないこととします。
- 5：設問Dの各項目について、評点を定め、平均値を算出します。選択肢の「そう思う」を2点、「まあそう思う」を1点、「あまりそう思わない」を-1点、「全くそう思わない」を-2点と評点を決めました。これを、各項目について、 $(\text{「そう思う」と回答した人数} \times 2 + \text{「まあそう思う」と回答した人数} \times 1 + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} \times -1 + \text{「全くそう思わない」と回答した人数} \times -2) \div (\text{「そう思う」と回答した人数} + \text{「まあそう思う」と回答した人数} + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} + \text{「全くそう思わない」と回答した人数})$ という式にあてはめ、点数を計算します。
- 6：5で算出した設問Dの各項目の値の平均をとります。
ここでいくつかの項目を集計よりはずしました。集計除外項目（候補）とその理由は裏面の通りです。
- 7：設問Eについても、5の方法で評定値を算出します。
- 8：6で出した値と7で出した値とを合計します。
- 9：8で算出した値について、上位から並べ、実施授業科目数の20%を基準とし、15%～25%の範囲以内に収まる範囲で「上位群」を判定し、それらの科目を抽出します。
- 10：1～9で抽出された授業科目を「優秀授業科目」候補科目とします。その後、自由記述項目等を加味して、全学共通教育部門会議での審議の結果、「優秀授業科目」を決定します。

集計除外項目

f. 板書、ビデオ、プロジェクター等で指示されたものは、わかりやすいものでしたか？

→板書やビデオ、プロジェクターは、「わかりやすい解説」を行うための「手段」であったり、もしくは教室の「環境」に左右されたりするので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

g. 教科書や参考書、配付資料は、学習の助けになりましたか？

→教科書や参考書、配布資料は、「わかりやすい解説」を行うための「手段」の1つなので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？

→「学生が参加して活動するような機会」がある授業が好ましい授業形態の1つであることは確かですが、履修人数等の関係上、「やりたくてもできない」場合もあるので、参考情報の1つとして扱いました。（健康・スポーツ科目：i）

l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？

→アイアシスタント関連項目はデータ収集を目的に導入された項目なので、今回は、参考情報の1つとして扱います。（健康・スポーツ科目：k）

m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？

→上記はGPの成果測定のためのデータ収集を目的に導入された項目なので、参考情報の1つとして扱います。（健康・スポーツ科目：l）

q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？

→問題解決活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「問題解決活動」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？

→教養教育の目標の1つでもある、常識・通念を問い直すことができたかどうかについての項目です。今後、これらの目標を達成することも目指すべき授業の1つですが、授業の題材などにもよるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会があったと思いますか？

→課題探求活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「課題探求」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？

→授業科目によっては、必ずしも「学生が役に立つと思う授業」＝「いい授業」ではないので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：q）（健康・スポーツ科目：p）

u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？

→その授業科目で扱う題材や履修学生の所属学部などによって今後に対する意識も変わってくるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：r）（健康・スポーツ科目：q）



平成27年度後期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目の選出

教養教育センターでは、全学共通教育（教養教育）科目を対象に2年に1回のペースで学生による「授業アンケート」を実施しています。この授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、センター会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を選出しています。

平成27年度後期の優秀授業科目は以下の通りです。

平成28年7月24日には、教養教育（全学共通教育）優秀授業科目の表彰状の授与を行いました。（江本理恵）

平成27年度後期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

人間と文化

0008	心の理解	立原聖子
0006	心の理解	松岡和生
0015	芸術の世界	煤孫康二
0002	倫理の世界	宇佐美公生

人間と社会

0029	経済のしくみ	杭田俊之
0044	対人関係の心理学	川原正広

人間と自然

0058	物質の世界	寺崎正紀
0055	生命のしくみ	松原和衛

外国語科目（英語総合）

0322	英語総合Ⅱ（初級）	Asano Robert Ken
0319	英語総合Ⅱ（中級）	伊東栄志郎
0356	英語総合Ⅱ（上級）	Blair Benjamin Reed
0303	英語総合Ⅰ（中級）	FARR Alan
0340	英語総合Ⅱ（初級）	三浦勲夫
0337	英語総合Ⅱ（上級）	松林城弘

外国語科目（英語コミュニケーション）

0313	英語コミュニケーションⅡ（上級）	Blair Benjamin Reed
0309	英語コミュニケーションⅠ（上級）	Gavin Young
0312	英語コミュニケーションⅠ（初級）	Blair Benjamin Reed
0330	英語コミュニケーションⅡ（初級）	Hareyama James Franciscus
0349	英語コミュニケーションⅡ（上級）	Blair Benjamin Reed

0310 英語コミュニケーションⅠ（中級） Ishikawa Peggy Marrie

0366 英語コミュニケーションⅡ（上級） Ishikawa Peggy Marrie

外国語科目（英語以外）

0445	中級フランス語	中里まき子
0460	初級中国語（発展）	呉慧敏
0465	中級中国語	呉慧敏
0447	中級フランス語	横井雅明
0477	上級日本語E	松岡洋子
0411	初級ドイツ語（発展）	遠藤スサンネ
0448	中級フランス語	グラアレクサンドル
0452	中級ロシア語	KOROBov DMITRY

環境教育科目

0066	「環境」を考える	開龍美
0067	生活と環境	小出章二

総合科目

0062	これからの健康科学	澤村省逸
------	-----------	------

健康・スポーツ科目

01050	バドミントン	清水将
01052	バスケットボール	岩井恵理
01060	テニス・体力づくり	鎌田安久
01022	卓球・テニス	本多好郎
01011	体力トレーニング	澤村省逸
01053	バレーボール	鈴木大地



平成27年度 後期全学共通教育科目優秀授業表彰式にて



平成27年度 後期全学共通教育科目優秀授業表彰式にて

(平成27年度 前期 基礎ゼミナール)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、教室設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。
該当する項目のマーク（①、⑤など）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A この授業科目のコード番号を記入して下さい。（黒板参照）

--	--	--	--

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？
 ① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？
 ① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？
 ① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- e. （上記の回答が①～③の場合）アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？（複数回答可）
 ① 授業記録 ② i カード ③ 課題・レポート ④ 学習記録 ⑤ その他（ ）
- f. 基礎ゼミナール用のテキスト『大学における「学び」のはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？
 ① とても役に立った ② 役に立った ③ 少し役に立った ④ 役に立たなかった ⑤ 使わなかった
- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- h. 授業の中で、図書館の使い方（本の借り方、蔵書の検索方法など）を学ぶ機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- i. 授業の中で、大学での授業の受け方（講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など）を学ぶ機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- k. 班活動を行う機会がありましたか？また、（班活動に限らず）何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会がありましたか？（複数回答可）
 ① 班活動を行う機会があった ② 発表する機会があった ③ 両方ともなかった ④ はっきり憶えていない
- l. レスポンスカード（iカード、電子メール等も含む）の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- m. 提出物（宿題・レポート等）に対し、納得いくまで取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

裏面に続く

C この授業全般に関する質問です。下記の事項の回答として、下の①～④の4段階の中から最もあてはまるものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

- ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	①	②	③	④
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	①	②	③	④
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	①	②	③	④
d. この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	①	②	③	④
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	①	②	③	④
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	①	②	③	④
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	①	②	③	④
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	①	②	③	④
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていたか？	①	②	③	④
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていたか？	①	②	③	④
k. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	①	②	③	④
l. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	①	②	③	④
m. 授業中及び授業時間以外の学習で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	①	②	③	④
n. 授業中及び授業時間以外の学習で、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？	①	②	③	④
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	①	②	③	④
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	①	②	③	④

D 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？
あてはまる番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

- ① ② ③ ④

E この授業での自分自身の学習を振り返り、授業で学んだことの中で特に印象に残ったことをできるだけ具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました

(平成27年度 後期 共通)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、教室設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。
該当する項目のマーク（①、①など）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A

(1) この授業科目のコード番号を記入して下さい。（黑板参照）

--	--	--	--

(2) 所属学部・入学年度について、該当するマークを塗りつぶして下さい。

- | | |
|-----------|------------|
| ① 人文社会科学部 | ① 平成27年度入学 |
| ② 教育学部 | ② 平成26年度入学 |
| ③ 工学部 | ③ 平成25年度入学 |
| ④ 農学部 | ④ それ以前 |

B

この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークして下さい。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 必修科目だから | ① シラバスを読んで興味を持ったから |
| ② 単位がとりやすそうだったから | ② 友達が選択するから |
| ③ 自分の専門と違う分野だから | ③ 自分の専門に関係が深そうだから |
| ④ 先輩などからすすめられたから | ④ 他の授業で人数制限を受けたから |
| ⑤ 他にやりたい科目がなかったから | ⑤ その他(具体的に:) |

C

この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークして下さい。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？
 ① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？
 ① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？
 ① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- e. (上記の回答が①～③の場合) アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？（複数回答可）
 ① 授業記録 ② i カード ③ 課題・レポート ④ 学習記録 ⑤ その他()
- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

裏面に続く

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| a. 教員は、この授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| d. この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| k. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| n. 授業開始時間・終了時間とも守られていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| o. 授業はよく準備されていると思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| p. 授業に対する教員の熱意を感じますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？
あてはまる番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

F この授業での自分自身の学習を振り返り、授業で学んだことの中で特に印象に残ったことを、できるだけ具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました

(平成27年度 後期 初年次自由ゼミナール)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、教室設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。
該当する項目のマーク（①、⑤など）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A この授業科目のコード番号を記入して下さい。（黒板参照）

--	--	--	--

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？
 ① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？
 ① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？
 ① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- e. （上記の回答が①～③の場合）アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？（複数回答可）
 ① 授業記録 ② i カード ③ 課題・レポート ④ 学習記録 ⑤ その他（ ）
- f. 基礎ゼミナール用のテキスト『大学における「学び」のはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？
 ① とても役に立った ② 役に立った ③ 少し役に立った ④ 役に立たなかった ⑤ 使わなかった
- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- h. 授業の中で、図書館の使い方（本の借り方、蔵書の検索方法など）を学ぶ機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- i. 授業の中で、大学での授業の受け方（講義の聴き方、ノートを取り方、レポートの書き方など）を学ぶ機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会がありましたか？
 ① あった ② なかった ③ はっきり憶えていない
- k. 班活動を行う機会がありましたか？また、（班活動に限らず）何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会がありましたか？（複数回答可）
 ① 班活動を行う機会があった ② 発表する機会があった ③ 両方ともなかった ④ はっきり憶えていない
- l. レスポンスカード（iカード、電子メール等も含む）の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- m. 提出物（宿題・レポート等）に対し、納得いくまで取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

裏面に続く

C この授業全般に関する質問です。下記の事項の回答として、下の①～④の4段階の中から最もあてはまるものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| d. この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| k. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| l. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| m. 授業中及び授業時間以外の学習で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| n. 授業中及び授業時間以外の学習で、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |

D 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？
あてはまる番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

① ② ③ ④

E この授業での自分自身の学習を振り返り、授業で学んだことの中で特に印象に残ったことをできるだけ具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました

(平成27年度 後期 健康・スポーツ)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、施設設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。
該当する項目のマーク(①、②など)を、鉛筆で黒く塗りつぶして(●)ください。

A (1) この授業科目のコード番号を記入して下さい。

--	--	--	--	--

(2) 履修したスポーツの種目名を記入してください。

(3) 所属学部・入学年度について、該当するマークを塗りつぶしてしてください。

- | | | | | | | | |
|-----------|--------|-------|-------|------------|------------|------------|--------|
| ① 人文社会科学部 | ② 教育学部 | ③ 工学部 | ④ 農学部 | ⑤ 平成27年度入学 | ⑥ 平成26年度入学 | ⑦ 平成25年度入学 | ⑧ それ以前 |
|-----------|--------|-------|-------|------------|------------|------------|--------|

B この種目を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

- | | | | | | | | |
|------------------|----------------|-------------------------|-------------------|------------------|-------------|-------------------|---------------|
| ① 楽しそうな種目だと思ったから | ② 経験のない種目だったから | ③ あまり動かなくてもすみそうな種目だったから | ④ 他にやりたい種目がなかったから | ⑤ 先輩などからすすめられたから | ⑥ 友達が選択するから | ⑦ 他の種目で人数制限を受けたから | ⑧ その他(具体的に:) |
|------------------|----------------|-------------------------|-------------------|------------------|-------------|-------------------|---------------|

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は何回ですか？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？ ① はい ② いいえ
- c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？ ① そう思う ② 少しそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない
- d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？ ① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- e. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？ ① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？ ① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明がありましたか？ ① あった ② あったと思う ③ なかったと思う ④ なかった
- h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できるものだと思いますか？ ① そう思う ② 少しそう思う ③ あまりそう思わない ④ 全くそう思わない

裏面に続く

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| d. 授業の内容、進行は、おおそシラバスに沿ったものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応をしていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| m. 授業開始時間・終了時間ともに守られていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| n. 授業はよく準備されていると思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？
あてはまる番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

① ② ③ ④

F この授業での自分自身の学習を振り返り、授業で学んだことの中で特に印象に残ったことを、できるだけ具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました

(平成27年度 後期 外国語)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、教室設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。
該当する項目のマーク（①、④など）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A (1) この授業科目のコード番号を記入して下さい。 (黒板参照)

--	--	--	--

(2) 所属学部・入学年度について、該当するマークを塗りつぶして下さい。

- | | |
|-----------|------------|
| ① 人文社会科学部 | ④ 平成27年度入学 |
| ② 教育学部 | ⑤ 平成26年度入学 |
| ③ 工学部 | ⑥ 平成25年度入学 |
| ④ 農学部 | ⑦ それ以前 |

B この外国語を選択した理由を、下記の中から3つ以内で選んで番号にマークして下さい。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ① 指定(指導)されたから | ④ シラバスを読んで興味を持ったから |
| ② 単位がとりやすそうだったから | ⑤ 友達が選択するから |
| ③ 自分の専門と関係がなさそうだから | ⑥ 自分の専門に関係が深そうだから |
| ④ 先輩などからすすめられたから | ⑦ 他の外国語で人数制限を受けたから |
| ⑤ 他にやりたい外国語がなかったから | ⑧ その他(具体的に:) |

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークして下さい。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？
 ① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？
 ① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？
 ① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- e. (上記の回答が①～③の場合) アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)
 ① 授業記録 ② i カード ③ 課題・レポート ④ 学習記録 ⑤ その他()
- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？
 ① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

裏面に続く

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

① そう思う	② すこしそう思う	③ あまりそう思わない	④ そう思わない
--------	-----------	-------------	----------

a. 教員は、この授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	①	②	③	④
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	①	②	③	④
c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	①	②	③	④
d. この授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	①	②	③	④
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	①	②	③	④
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	①	②	③	④
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	①	②	③	④
h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	①	②	③	④
i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	①	②	③	④
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	①	②	③	④
k. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	①	②	③	④
l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	①	②	③	④
m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	①	②	③	④
n. 授業開始時間・終了時間とも守られていましたか？	①	②	③	④
o. 授業はよく準備されていると思いますか？	①	②	③	④
p. 授業に対する教員の熱意を感じますか？	①	②	③	④
q. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	①	②	③	④
r. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	①	②	③	④

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？
あてはまる番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

F この授業での自分自身の学習を振り返り、授業で学んだことの中で特に印象に残ったことを、できるだけ具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました

(平成27年度 後期 総合・環境)

全学共通教育科目 授業アンケート

岩手大学教養教育センター

この調査は、みなさんに授業を振り返っていただき、学習状況や授業内容等について回答してもらうことを通して、今後の授業内容やカリキュラム、教室設備等の見直しに役立たせるために行っているものです。ご協力をお願いします。

該当する項目のマーク（①、①Aなど）を、鉛筆で黒く塗りつぶして（●）ください。

A (1) この授業科目のコード番号を記入して下さい。（黒板参照）

(2) 所属学部・入学年度について、該当するマークを塗りつぶして下さい。

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 人文社会科学部 | ①A 平成27年度入学 |
| ② 教育学部 | ①B 平成26年度入学 |
| ③ 工学部 | ①C 平成25年度入学 |
| ④ 農学部 | ①D それ以前 |

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークして下さい。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ①A 必修科目だから | ①F シラバスを読んで興味を持ったから |
| ①B 単位がとりやすそうだったから | ①G 友達が選択するから |
| ①C 自分の専門と違う分野だから | ①H 自分の専門に関係が深そうだから |
| ①D 先輩などからすすめられたから | ①I 他の授業で人数制限を受けたから |
| ①E 他にやりたい科目がなかったから | ①J その他(具体的に:) |

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークして下さい。

- a. あなたがこの授業を休んだ回数は？ ① 0回 ② 1回 ③ 2回 ④ 3回以上
- b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？
① わかった ② だいたいわかった ③ あまりわからなかった ④ わからなかった ⑤ 読まなかった
- c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？
① ほとんどしなかった ② 30分ぐらい ③ 1時間ぐらい ④ 2時間ぐらい ⑤ 3時間ぐらい ⑥ 4時間以上
- d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？
① よく利用した ② たまに利用した ③ ほとんど利用しなかった ④ まったく利用しなかった
- e. (上記の回答が①～③の場合) アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？（複数回答可）
① 授業記録 ② i カード ③ 課題・レポート ④ 学習記録 ⑤ その他()
- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？
① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？
① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない ⑤ 機会がなかった
- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？
① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

裏面に続く

D この授業全般に関する質問です。下記の事項の回答として、右の4段階の中から最も近いものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

① そう思う ② すこしそう思う ③ あまりそう思わない ④ まったくそう思わない

- | | | | | |
|--|---|---|---|---|
| a. この授業の目的や到達目標について、説明がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| c. この授業の成績評価の方法や基準などについて、説明がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| d. 授業の内容、進行は、およそシラバスに沿ったものでしたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| e. 各回の担当教員は、自分の授業において学ぶべきポイントを示していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| f. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| g. 各回の担当教員は、前後の授業内容との関連性や今後の進み方について、わかりやすく説明していましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| h. 授業全体として、共通のテーマがあったと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| i. 今回、複数の教員から講義を受けられてよかったですか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| k. この授業では、授業中や授業時間以外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| l. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫して、問題を解決する機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| m. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| <hr/> | | | | |
| o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |
| p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？ | ① | ② | ③ | ④ |

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？最もあてはまると思う番号をマーク(●)し、その理由を下記に書いてください。

F この授業での自分自身の学習を振り返り、各回(各担当教員)の授業で学んだことの中で、特に印象に残ったことなどがあれば、できるだけ具体的に書いてください。

テーマまたは担当教員名：
テーマまたは担当教員名：
テーマまたは担当教員名：

ご協力ありがとうございました

岩手大学の授業を見てみませんか？

平成27年度

「全学共通教育科目 授業公開ご案内」

岩手大学では、下記の期間中、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。この授業公開は、広く一般市民の方々に授業をご参観いただき、岩手大学の全学共通教育へのご理解を深めていただくとともに、今後さらに授業を良くするためのご意見やご助言をいただく機会になればと、実施するものです。

お忙しいこととは存じますが、この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、全学共通教育の授業をご参観くださいますようお願い申し上げます。

記

期 間：【前期】 6月 8日（月） ～ 6月12日（金）

【後期】 11月 9日（月） ～ 11月13日（金）

対 象 者：一般市民（制約はありません）

参観方法：期間中、全学共通教育科目の授業科目を自由にご参観いただけます。

事前登録は必要ありません。お好きな時間に授業をご参観ください。

期間中は、学生センターA棟1階の受付にお立ち寄りください。

以上

■連絡先

教育推進機構 （10時～17時受付）

TEL：019-621-6554 / FAX：019-621-6928 / e-mail：uec@iwate-u.ac.jp



交通案内（盛岡駅から）

- バス利用
（盛岡駅前バスターミナル11番のりば）
 - ・岩手県交通バス上田線
乗車—「松園バスターミナル行き」
下車—「岩手大学前」
 - ・岩手県交通バス桜台団地線
乗車—「桜台団地行き」
下車—「岩手大学前」
- タクシー利用
盛岡駅から約2km 約10分
- 徒歩
盛岡駅から約25分
- 自家用車
入り口にて「授業公開」にいらしたことを教えてください。

平成27年4月7日

保護者 各位

教育推進機構

機構長 丸山 仁

授業モニター登録のお願い

「全学共通教育科目 授業公開ご案内」の通り、岩手大学では、下記の日程で、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。

【前期： 6月 8日（月）～ 6月12日（金）】

【後期：11月 9日（月）～ 11月13日（金）】

例年、保護者の方々には、授業改善の観点から、教育推進機構へ忌憚のないご意見をお寄せいただく「授業モニター」（ボランティア）を募集しております。

このモニターは大学が認定するもので、正規の登録証を発行するほか、お引き受け頂ける授業モニターの方々とは、昼食会なども予定しております。

< 授業モニターの業務 >

- * 時間のとれる可能な曜日・時間で授業をご覧いただく
- * その授業について、モニター用アンケートにお答えいただく

といった簡単なものです。それ以外の義務・負担などはありません。

モニターの方々も一般の方々と同じように授業をご参観していただくことになりますが、ご参観後に、モニターとして様々なご意見・ご感想をお聞かせ願うという点が一般の方々とは異なります。

皆さまのご意見・ご感想を今後の授業改善へ役立てたいと思いますので、ぜひ授業モニターへご登録いただきますよう、よろしくお願いします。

【授業モニター登録】

***登録方法：** 教育推進機構（10時～17時受付）にお電話いただくか、ご芳名、ご連絡先、在学生の所属学部をご記入いただき、FAX、e-mail でお申込みください。

電話 （019-621-6554）

FAX （019-621-6928）

e-mail（uec@iwate-u.ac.jp）

***締め切り：**

<前期モニター> 平成27年 5月29日（金）

<後期モニター> 平成27年10月30日（金）



平成27度前期 全学共通教育科目授業公開実施報告

2015年7月23日

教育推進機構

■実施日程

平成27年6月8日（月）～6月12日（金）

■参加者数

※受付通過した、延べ人数（実質合計推定値 モニター3人・一般50人）

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	1	2	0	0	3
一般	24	10	20	17	9	80

《内訳》	延べ	実質（推定）
在校生の家族	12	12
一般人	7	2
卒業生	6	3
元高等学校教員	6	2
盛岡市民	5	3
附属中学校在校生の家族	4	4
附属中学校在校生の家族の知人	4	1
近隣住民	3	2
専門学校生	2	2
ボランティア（岩手大学ミュージアムの？）	2	1
放送大学教養学部全科履修生	2	1
科目等履修生・公開授業講座受講生・放送大学岩手学習センター・「啄木・賢治の人間学」の読者・卒業生家族・会社員	各1	各1
その他（詳細不明）	14	11
無回答	2	2
アンケート未提出	8	*
	83	*

■授業公開を何で知ったか

	延べ	実質（推定）
チラシ	14	8
《チラシ内訳》		
市立図書館	7	3
盛岡駅	3	1
岩手大学内・中央公民館・折り込み	各1	各1
詳細不明	1	1
ポスター	13	6
《ポスター内訳》		
岩手大学図書館	6	3
岩手大学内	5	1
詳細不明	2	2
新聞、テレビなどのマスコミ	11	7
《マスコミ内訳》		
情報紙 游悠	5	2
情報紙 マシェリ	2	2
情報冊子 広報たきざわ	1	1
詳細不明	3	2
岩手大学のwebページ	8	6
入学式で配布されたちらし	7	7
附属中学校からの案内	7	4
岩手大学から送付された案内	6	6
岩手大学図書館	4	2
友人から聞いた	1	1
無回答	4	4
アンケート未提出	8	*
総計	83	*

■科目別参観人数 ※アンケート提出者数延べ75人の集計

	科目名	人数
月1・2	現代社会と経済	3
	心の理解	1
月3・4	宇宙のしくみ	3
	日本の文学	3
	憲法	1
	現代社会と経済	1
	心の理解	1
	【人社】日本語学特講Ⅳ	2
月5・6	初級ドイツ語（入門）	1
	初級フランス語（入門・発展）	1
	初級韓国語（入門・発展）	1
	初級中国語（入門）	1
	【工学】社会環境工学概論	1
	【人社】欧米史講義Ⅴ	2
月7・8	【人社】放射線環境論	1
	初級フランス語（入門）	2
	英語総合Ⅰ（上級）	1
	初級ドイツ語（入門）	1
	初級ロシア語（入門）	1
	初級韓国語（入門）	1
月9・10	【人社】ロシア文学講義Ⅱ	1
	社会的人間論	1
	対人関係の心理学	1
月	日本の文学	1
	詳細無回答	1
火1・2	英語総合Ⅰ（上級）	1
	現代社会の社会学	1
	市民生活と法	1
火3・4	現代社会の社会学	1
	言葉の世界	1
	哲学の世界	1
	【工学】コンピュータアーキテクチャ	1
	【人社】民法（債権総論）Ⅰ	1
火5・6	欧米の思想と文化	2
	憲法（人権）Ⅰ	1
	【人社】総合科学論Ⅰ（情報）	1
火7・8	【人社】社会学概論	1
	【人社】日本文学特講Ⅳ	1
火9・10	【人社】総合科学論Ⅱ（合理性と非合理性）	1

	科目名	人数
水1・2	生命のしくみ	3
	自然のしくみ	2
	哲学の世界	1
	物質の世界	1
	【人社】労働法Ⅰ	1
水3・4	英語コミュニケーションⅠ（初級）	2
	英語コミュニケーションⅠ（中級）	1
	英語総合Ⅱ（中級）	1
	【人社】環境経済論Ⅰ	2
	【人社】日本思想史講義ⅡA	2
水5・6	【人社】ロシア語作文Ⅰ	1
	【人社】法律学基礎	1
	初級ドイツ語（入門・発展）	2
	英語コミュニケーション発展Ⅰ	1
	初級フランス語（入門・発展）	1
水7・8	初級ロシア語（入門・発展）	1
	初級中国語（入門・発展）	1
	【人社】行動科学概論Ⅱ	1
	【人社】日本史特講ⅠA	1
	【人社】表象文化論Ⅰ	1
水9・10	情報基礎	1
	【人社】言語コミュニケーション論概論Ⅰ	2
水	【人社】理論経済学Ⅰ	1
	大学の歴史と現在	2
	欧米の言語論	1
木1・2	現代の諸問題	1
	詳細無回答	1
木3・4	憲法	1
	自然と法則	1
	数理のひろがり	1
	【人社】英米文学講義Ⅰ	1
木5・6	心の理解	3
	現代の諸問題	2
	市民生活と法	2
	芸術の世界	1
木7・8	初級ドイツ語（入門）	1
	初級フランス語（入門・発展）	1
	上級日本語C	1
	【人社】国際経済論A	1
木9・10	【人社】法学外書講読A	1
	詳細無回答	2
金1・2	初級フランス語（入門）	1
	【人社】環境基礎化学	1
金3・4	【工学】数値計算法	2
	【人社】言語習得論Ⅰ	1
金5・6	詳細無回答	1
	【工学】確立統計学	1
金7・8	【人社】比較文学論Ⅲ	1
	【工学】情報システムソフトパス工学通論	1
金9・10	【人社】社会保障論Ⅰ	1
	【人社】文化記号論Ⅰ	1
【人社】スポーツ行動論		1
		116

■授業についての感想等

【月曜日】

◎ 現代社会と経済（月1・2）

- ・先生の講義は、とても上手で、初めての私でも、良く理解できました。
- ・わかりやすいお話でした。やさしそうな先生でよかった。現代社会と経済についてリアルなお話でした。ありがとうございます。
- ・農業経済が専門ということで、食品についての講義だった。テキストを中心に講義は進んだ。テキストそのものに疑問点が多あったが、質問の場が少なかった。講義者と学生の意見の交換の場（時間）がもっとあった方が、お互いに理解が深まると思った。

◎ 日本の文学（月3・4）

- ・語り部から一冊の本にまとめられていく出版の歴史それがまた崩されて様な表現法に変わっていくさまが興味深い。本日の講義も感銘深かった。学生も熱心で感心しました。

◎ 日本の文学（月3・4）／初級フランス語（入門・発展）（月5・6）／初級フランス語（入門）（月7・8）

- ・わかりやすいお話でした。やさしそうな先生でよかった。

◎ 憲法（月3・4）

- ・様々な学部在籍する学生さんたちが受講（男子学生が多く）しており、静かな授業の中にもまじめに取り組んでいる雰囲気でした。
エピソードごとに、テキスト（ポケット六法）と照らし合わせて、確認する方法や、時折学生さんの意見を求めるというスタイルで、学習内容の定着によいと思いました。

◎ 現代社会と経済（月3・4）

- ・G7 サミット国の世界 GDP に占める割合が、56%から 36%に減ったという事実（中国等の台等）は驚き！ IMF の成り立ち、しくみ、へえ～～と思いながら、聞きました。経済はまったくわかりませんが、少し TV のニュースを見る時に、わかったフリができるでしょうか・・・
学生サン達もまじめに聞いている人の多いけれど、そうでない人も…もったいないですね。

◎ 心の理解（月3・4）

- ・本日は人格障害のお話で医学的な感じかなと思いましたがプリントでの説明だったので分かりやすかったです。自分や回りの人の性格などつい分析してしまう様な授業でした！

◎ 【人社】日本語学特講Ⅳ（月3・4）

- ・県外出身で盛岡に住んで7年、地方の言葉について興味があったので面白かったです。普段から感じる事、初めて意識する事、つい最近5歳の子供としあさってについて理解し合えなかった事を、納得出来て良かったです。（富山出身）
- ・日常的に触れる方言を系統的に経済の視点から分析された実に興味深い講義でした。

◎ 初級中国語（入門）（月5・6）

- ・久しぶりで、中国語の授業を参観させて頂き、有難うございます。

◎ 初級ドイツ語（入門）（月 5・6）

- ・とても丁寧に教えていらして、皆楽しくほどよい緊張感をもって授業を受けていました。このような指導をうけて、どんどん学び数年後には深い知識を得て社会に巣立つことを思い心から応援したいと思いました。

◎ 【人社】欧米史講義Ⅴ（月 5・6）

- ・現代国際情勢がテーマでとてもタメになりました。

◎ 【人社】放射線環境論（月 5・6）

- ・公開授業講座で「宇宙のしくみ」を受けていますので、興味を持っていました。来年の授業を考えていましたが、基礎知識を学んでの準備が必要と感じました。

◎ 英語総合Ⅰ（上級）（月 7・8）

- ・ごめんなさい。参観していません。扉越しに聞いていただけですから。

◎ 対人関係の心理学（月 9・10）

- ・悪い集団と世間的に見られている不良グループは、集団の結束力は強く、規範も役割分担もあり、身動きできなくなっているように思うが、生産性は低く目標達成の可能性も低いと思う。
このような集団の視点からのアプローチも聞いてみたいと思った。

◎ 月曜の科目（詳細無回答）

- ・大変参考になりました。

【火曜日】

◎ 英語総合Ⅰ（上級）（火 1・2）

- ・グループごとにプレゼンテーションをする授業でした。それぞれ、工夫した資料を使って、プレゼンテーションする学生さん達の姿が印象的でした。

◎ 市民生活と法（火 1・2）

- ・憲法は私たちを絞る厳しいものではなく、むしろ、国家権力から私たちを守ってくれるものだと、改めて認識できました。
法学は、用語・考え方など、なじみのないものも多く、初心者からすると、言葉をもう少し整理・選別しながら話をしていただけると、よりわかりやすかったように感じます。

◎ 言葉の世界（火 3・4）

- ・言語のリズムについての認識のお話がとても興味深かったです。音節の方とらえの違いが、言語の聞き取りの困難の原因となっていることや、それがそのまま発音にも反映しているなど、外国人（英語圏）の日本語の話し方に違和感を持つ理由のひとつだったのだと改めて気づき、新鮮でした。
中国語を勉強中なのですが、その獲得には音程（声調）が重要なのを身をもって体験しているところで、言語の意味をとらえる上では強弱を重要視する英語との対比もお話があり、よくわかりました。

◎ 現代社会の社会学（火 3・4）

- ・学生の態度が上ついていなくて、とても好印象でした。

◎ 【人社】民法（債権総論）Ⅰ（火 3・4）

- ・事例をあげて解説することで、すごく分かりやすかったです。

◎ 欧米の思想と文化（火 5・6）

- ・哲学の授業も面白そう。又聞いてみたい。ありがとうございました。

◎ 憲法（人権）Ⅰ（火 5・6）／【人社】総合科学論Ⅰ（情報）（火 5・6）／【人社】社会学概論（火 7・8）

- ・参観した3つともそれぞれ特徴があり聞いて有意義でした。

◎ 【人社】総合科学論Ⅱ（合理性と非合理性）（火 9・10）

- ・自然科学に近い話かと思ってましたが全く新しい概念である講義でした。仕事をしていると今後重要な役割をする内容と思いました。楽しく聞かせていただきました。

◎ 【人社】日本文学特講Ⅳ（火 7・8）

- ・小説を読むことが好きなので軽い興味で参加しました。小説一つにしても、全体の構図を全体的に見たり、ある部分を取り上げて詳しく読解していく読み方があることが分かりました。深く読むことは、作者の葛藤であったり、心情の動きが、想像できるのだなぁと思いました。難しい言葉がたくさんでてきて、とても読みすすめるだけでも一つ一つ自分の頭の中で整理しながら読んでいきました。日本文学は、普段読む現代小説と違って、スラスラ読むというよりは、一つ一つ意味を考えながら読みすすめるなければ、難しいものなんだと思った。

【水曜日】

◎ 生命のしくみ（水 1・2）

- ・高校生物の内容と同じであったため理解できた。わかりやすく聞きやすかった。／青いチョークは見にくい。／生徒の授業態度も皆真剣でまじめで良い。 【モニター回答】
- ・とても、素晴らしい授業でした。どうも、ありがとうございました。
- ・説明がていねいで、パワーポイントを使いわかり易く解説していただいた。ただし面白みに欠けている気がした。

◎ 自然のしくみ（水 1・2）

- ・「物理は公式と計算でわかりにくい！」と高校以来思っていた考えが、図や言葉で、表現を解き明かす方法を聞くことができて、少し「わかった」になりました。在学中に、先生の授業を受講しておけば良かったです・・・。

◎ 物質の世界（水 1・2）

- ・冒頭において学生の私語がひどくて授業の成立が危ぶまれたものの、開始後はこれが止み、危惧解消されたのは良かった。

- ◎ 哲学の世界（水 1・2）
 - ・わかりやすかった。
- ◎ 【人社】労働法Ⅰ（水 1・2）
 - ・労働問題の基本的なことが良くまとめられたプリントですごくためになった。
- ◎ 英語コミュニケーションⅠ（初級）（水 3・4）
 - ・ネイティブの講師なるも日本語力堪能で、学生の短所を踏まえた指導ぶりが印象的でした。
それにしても、●●向き合う学生の●●に積極性が欲しい。 【●●箇所は解読不能】
- ◎ 英語コミュニケーションⅠ（中級）（水 3・4）
 - ・先生が日本語・英語と MIX で話されるので、頭が混乱しました。簡単な説明は英語だけで良いような気がしました。慣れもあるのかもしれません。
- ◎ 英語総合Ⅱ（中級）（水 3・4）
 - ・相互評価の基準が明確に書かれていて、わかりやすい。評価した人の名前が発表者に分からないようになっているのは、良いと思いました。【モニター回答】
- ◎ 【人社】日本思想史講義ⅡA（水 3・4）／【人社】行動科学概論Ⅱ（水 5・6）
 - ・日本思想史は物事の原理（中世社会の成り立ちなど）を説かれ、行動科学は心理学の原理と今日的活用の実態を説かれ、双方共興味深く受講した。各教授共熱意あふれ、受ける学生もまた熱心なのに感動した。
- ◎ 【人社】ロシア語作文Ⅰ（水 3・4）
 - ・丁寧なかつ質・量の豊かな教材（プーシキンの詩の紹介・朗読も含めて）で和やかな雰囲気の中で授業展開がなされました。1.リスニング（ロシア語音声学・発音・読解）練習、2.1)文法（●●【←解読不能】）2)語法（時の品詞）3)単語（衣類、●●【←解読不能】）
- ◎ 【人社】法律学基礎（水 3・4）
 - ・初めて参加しました。講師の方の説明がわかりやすくて良かったです。具体的な例を挙げていました。きちんとノートにまとめている学生がいる一方、スマホを使用している学生がいたのが残念です。子供がどのように講義を受けているかを見ることが出来、非常に満足しています。
- ◎ 初級ドイツ語（入門・発展）（水 5・6）
 - ・大変わかりやすい授業でした。
- ◎ 英語コミュニケーション発展Ⅰ（水 5・6）／【人社】言語コミュニケーション論概論Ⅰ（水 7・8）／大学の歴史と現在（水 9・10）
 - ・受講 3 科目どれも興味深く聞けた。
- ◎ 初級フランス語（入門・発展）（水 5・6）
 - ・わかりやすかった。

◎ 初級ロシア語（入門・発展）（水 5・6）

- ・ G4-F の教室内で口型（長方形）の机の並びに学生さんが座って学習して、先生は全員の学生の氏名を覚えていて、指名しても全ての学生が正しく答えられるのには、びっくりしました。週 4 回ロシア語を学習すれば上達も早いし、又、岩大専任の若い教え方の上手な先生から教えられれば、どんどん進歩している様子に感動しました。

◎ 初級中国語（入門・発展）（水 5・6）

- ・ 対象が初心者であることを的確に踏まえて教えぶり（発音の要領等）が良かった。

◎ 【人社】日本史特講ⅠA（水 5・6）

- ・ 授業の仕方が様変わりして、漢文の勉強しているのかなと思いました（歴史・日本史）。出雲に行ってきたので楽しく聞きました。

◎ 【人社】理論経済学Ⅰ（水 7・8）

- ・ ケインズの考えやハイエクの考え方の基本がおさえられていた。

◎ 欧米の言語論（水 9・10）

- ・ ●●←解読不能

【木曜日】

◎ 自然と法則（木 1・2）

- ・ 酸性雨が発生する原理が良く理解できました。

◎ 数理のひろがり（木 1・2）

- ・ 前回授業を受けていなくて、教科書がないと授業がおもしろくないとわかった。
授業概要には、お知らせとして載せるべき→教科書が必要 or プリントで対応など

◎ 心の理解（木 3・4）

- ・ ユングの性格で外向、内向型の類型を知り得ることになり、その種別に思考、感情、直感を知り得ました。
- ・ 先生のゆったりした口調がわかりやすかったです。45 年ぶりの大学の雰囲気を感じました。ユングのお話しなど、とても興味がわきました。後期、また受講したいです。
- ・ 学生の中に入って、とても新鮮な気分になりました。

◎ 現代の諸問題（木 3・4）

- ・ 非正規労働者の現状を詳しく聞かせていただきました。息子の将来が不安になる一方でした。（がんばれ若者！！）労働組合に入っている方が良いと思うが難しそうだ。

◎ 市民生活と法（木 3・4）

- ・ 興味深い内容でした。

◎ 芸術の世界（木 3・4）

- ・ 知らなかったことを知ることができた。音楽記号の解釈の違いや時代背景によって、同じ楽譜でも演奏方法に違いが生じる。現代の解釈では作者の意図した演奏にならないということは興味深かった。

◎ 初級フランス語（入門・発展）（木 5・6）

- ・ むずかしかった！！でも大変興味深く面白かったです。次の授業にも参加したいくらいですが・・・。
仏語での授業は大変楽しかったです！！ありがとうございました！！

◎ 【人社】国際経済論 A（木 5・6）

- ・ 本日も熱意をこめた講義に接し、楽しく学びました。ことに生徒に問題を出させその答えを得る方法は教室に緊張感を招き、すばらしいと思った。前 2 日は人文系の授業だったので女子学生が多く、岩大は女子大なりやと錯覚したが、本日政経系の授業で男女比が逆転、安心しました。変な感想ながら。

◎ 木曜の科目（詳細無回答）

- ・ ひとつひとつの問題提起で学生に考える時間を与えたり、発言する機会を与えたりすることで、積極的に授業に参加できるようにしているのが良いと思いました。
授業の中で考えをめぐらせ、思考を深めて、順番に提示されるテーマに効率よく取り組むことができるので、私としてはあまり学んだことの少ない分野でしたが、とても興味深かったです。

【金曜】

◎ 初級フランス語（入門）（金 1・2）

- ・ わかりやすかったです ありがとうございます

◎ 【人社】環境基礎化学（金 1・2） / 【人社】比較文学論Ⅲ（金 5・6） / 【人社】文化記号論Ⅰ（金 7・8）

- ・ 三つ科目とも大学での授業状況が知れて、日本の高等教育の今後の在り方を考える上でいい資料になりました。

◎ 【人社】言語習得論Ⅰ（金 3・4）

- ・ 言語習得（特に第 2 言語）のメカニズムについて興味があり、お話を拝聴しました。現在の指導基準とされているような DVD も見ることができ、実際の授業の様子も想像することができたので、興味深かったです。工作上、学校外での生徒のサポートをしているので、参考にしたいと思います。

◎ 【人社】社会保障論Ⅰ（金 7・8）

- ・ 最初の 30 分は前回の講義を受けた人が出した質問に対する返答でした。今回が初めてでしたが、最初の 30 分間の返答を含め、日本と海外の社会保障制度の違いが分かりました。また、各国でどのような制度が出来るのかということについて、国民の考え方が与える影響が大きいと感じました。私は、社会保障についてまだまだ浅学ですが、今回の講義を受けて書く制度の歴史をたどることの必要性を感じました。

■その他ご意見、ご感想等

- ・風にゆれるブラインドの音がうるさく、リスニングの音が聞こえなかった。 【モニター回答】
- ・もっと教授形式ではなくて対話（学生との）をとり入れた方が、議論が深まると思った。
- ・大学の講義というのは、講義者の一方的しゃべりまくりで、学生が疑問をもってどんどん講義が流れていくので、講義者と学生との意見交換の場をもう少しもうけた方がよいと思った。
- ・講師が対応に窮するほどに向学熱心な受講態度を見られなかったのは残念です（おとなしい授業態度！）
ー全授業共通
- ・授業内容・方法が知れ、いろいろ参考になった。
- ・座席が前の方が空いているのはもったいないと思います。
- ・授業に 30 分以上遅れてくる人がいたのは残念でした。
- ・大学で学ぶという楽しさを感じることができました。在学中には気づけなかったであろう発見があったり、自分で調べるだけでは見つけられない視点に出会えました。
- ・郷土出身の啄木・賢治についての講義だったので興味深く聴くことができました。今回は公開講座だったのに中間にテストの時間が入ったので、講義時間が短くなったので残念だった。
- ・外部の方のお話もいいものですね
- ・先生のコンセプトを拝聴し、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・昨日は、数人いた参観者にプリントが配布されたあと、何人が学生にわたらなくなってしまい、大変申し訳ありませんでした。テキストがないのでどうにもなりませんでした。
- ・G44 の教室が満杯になる位の学生さん達の授業に、熱気やらを感じました。
- ・4 月から盛岡市で 1 人暮らしを始めた息子の様子や岩手大学の雰囲気を知りたくて来校しました。大学構内を妻と二人でぶらぶらと散策しましたが、学生の笑顔、笑い声が印象に残りました。安心しました。
- ・敷地内が整備されていて、とても良い環境だと思いました。
- ・このような企画をして頂きありがとうございました。おもしろかったです。
- ・私は今、公務員試験対策をする専門学校に在籍していますが、大学に編入学し、社会保障についてもっと勉強したいと考えていたので、今回の公開講義は非常にありがたかったです。このような機会がある時は、積極的に参加したいです。
- ・学ぶことは楽しいので、公開授業が時々あれば嬉しいです。講義中や講義後に学生から教授への質問が全くないことに驚きました。（カードで質問をとっていることもあるとは思いますが）
- ・この様な公開授業を、もっと、多く開いてほしい。
- ・もっと何度も開講して欲しい。／もっと講義の一般公開を多くして欲しい。／もっと一般人に授業公開をして欲しいと思う。【同一人物の回答】
- ・無料はありがたい。期間限定でいいので有料で一般社会人に聴講制度があればうれしい。単発ではなく通して学びたい人もいます。
- ・有料でもいいので、もっと増やしてほしい。おもしろそうな授業が沢山で一週間では受講しきれない。
- ・また来ます
- ・又、他の講義も聞いてみたいと思いました。
- ・（高等学校教員）次回も是非参加したいと思います。 農学部や教育学部の専門科目を授業公開をする予定はないのでしょうか？（回答済み） 【モニター回答】
- ・2 週間あるといいですね
- ・後期も参観したいと思います。

- また後期も参観させていただこうと考えています。1 週間いろいろありがとうございました。
- このような授業公開に、秋にやるものにも参加したい。
- 情報基礎とは何ぞや。授業概要が欲しい。情報化時代と言われて久しいが、新聞・テレビ・雑誌・ウェブなど情報の先端とその弊害を伝える授業は現代学生にも必要と思うが、そうしたダイナミックな授業は岩大でもあるのでしょうか。(情報基礎の授業概要に関して、回答済み)
- ミュージアムボランティアの全員に周知して、要望のある人には積極的に参加をつのっても良いのではないのでしょうか。ミュージアムボランティアのスキルアップ講座にも入れてボランティア全員で共有したい。(●●【※多分記入者の名前】)
- 公開授業講座をここ数年受講しているが、講座数を増やしてもらわないと選択できる講座が狭まりますし、全体として公開枠をもっと広げて欲しいです。授業公開で公開授業講座のリストにない授業に触れ、上記の感想を強く持ちます。
- 公開講座だけでなく、社会人を対象にした常設的な社会人講座はないのでしょうか。週1で3カ月とか1カ月通しとか。昔はあったと思うのですが。(回答済み)
- 6月9日に配布の「人文社会科学部専門科目授業公開講義質ご案内」で、表記の科目の一部が実施されていないようです。ご確認お願い致します。(回答済み)
- 授業のお邪魔をしないようにしますので、また、このような機会を企画して頂きたい。但し、見学を迷惑と思われる教授は、見学を最初から許可しないような方法も考えて下さい。(授業公開の時間割から外しておいてください。)

平成27度後期 全学共通教育科目授業公開実施報告

2015年12月16日

教育推進機構

■実施日程 平成27年11月9日（月）～11月13日（金）

■参加者数

	月	火	水	木	金	計
モニター	0	0	0	0	0	0
一般[延べ]	16	8	20	16	11	71
アンケート回収数	15	7	17	16	11	66

《内訳》	延べ	実質
在校生の家族	13	10
卒業生	9	7
高校生	4	4
一般人	3	3
市民	3	3
無職	3	1
滝沢市民	2	2
図書館【原文のまま】	2	1
岩大志願者の親・卒業生の家族・大学関係者・大学生・ 放送大学在学中・大学の近所・中国語サークル・会社員・ 岩手県職員兼非常勤顧問教授（農業大学校）	各1	各1
その他（詳細無回答）	15	5
無回答	3	3
総計	66	48

■授業公開を何で知ったか

	延べ	実質
チラシ	15	13
《内訳》 岩手大学オープンキャンパス	3	3
放送大学	3	3
岩手県立図書館	3	2
盛岡市立図書館（高松）	2	1
岩手大学図書館・岩手大学その他（詳細不明）・ 地区自治会の回覧板・知人からチラシをもらって。	各1	各1
岩手大学のwebページ	14	10
前回の授業公開でのお知らせ	13	6
新聞、テレビなどの記事	11	9
《内訳》 記事（広報たきざわ）	6	4
マシエリ・アキュート・記事（友人の紹介で）・ “三陸復興展→10/28防災講演→チラシ”【原文】・詳細無回答	各1	各1
岩手大学から送付された案内	10	9
《内訳》 七友会だより	4	3
農学部	1	1
詳細無回答	5	5
ポスター	5	3
《内訳》 岩手大学正門掲示板	4	2
工学部掲示板	1	1
入学式で配布された案内	4	4
ポスターかチラシ（岩手大図書館）	1	1
無回答	1	1
総計	74	56

■科目別参観人数

月1・2	憲法	2	水5・6	中級ロシア語	3
	地域と社会	1		初級フランス語（入門・発展）	1
月3・4	【農学部】獣医細胞生物学	1		【人社】環境経済論Ⅱ	1
	現代政治を見る眼	2		【人社】民法（家族法）Ⅱ	1
	言葉の世界	2		【工学】分離工学	1
	【人社】環境政策論Ⅰ	1	水7・8	【人社】理論経済学Ⅱ	2
月5・6	【人社】国際文化研究	1		【人社】環境文化論Ⅱ	1
	初級フランス語（入門・発展）	1	水9・10	宮沢賢治の思想と文学	3
	初級韓国語（発展）	1		社会的人間論	1
	【人社】日本文学講義Ⅱ	1	木1・2	自然のしくみ	2
月7・8	英語総合Ⅰ（中級）	2		物質の世界	1
	英語総合Ⅰ（初級）	1	木3・4	現代政治を見る眼	2
	【人社】社会文化論特講Ⅱ	1		異文化理解と実践	1
	【人社】中国語学講義ⅡB	1		岩手の研究	1
月9・10	欧米の思想と文化	1		植物栽培と環境テクノロジー	1
	心の理解	1		図書館への招待	1
	日本の文学	1		生活と環境・水と環境	1
火1・2	【人社】民法（相続法）	1	木5・6	日本の歴史と文化	2
	科学と技術の歴史	2		【人社】民法（物権）Ⅱ	2
火3・4	哲学の世界	1		初級中国語（入門・発展）	1
	【人社】行動科学統計法Ⅱ	1		中級ロシア語	1
	【人社】認知心理学特講	1		倫理学の世界	1
	【人社】民法（総則）Ⅱ	1		【人社】フランス語コミュニケーション応用Ⅱ	1
火5・6	【人社】環境統計学Ⅰ	1	木7・8	【人社】刑事政策	2
	【人社】商法（商取引法）	1		【人社】文化論コロキウムⅡ	2
火7・8	【人社】行政法（救済法）Ⅱ	1	金1・2	初級ドイツ語（発展）	2
水1・2	日本の文学	2		中級韓国語	2
	宇宙のしくみ	1	金3・4	英語総合Ⅱ（初級）	1
	心の理解	1		中級中国語	1
	総合英語Ⅱ	1		【人社】フランス語作文Ⅰ	1
	【人社】家族社会学特講Ⅱ	1		【人社】社会文化思想論Ⅳ	1
	英語コミュニケーションⅡ（上級）	2		【人社】犯罪社会心理学	1
水3・4	英語総合Ⅱ（初級）	1	金5・6	【人社】簿記論Ⅱ	1
	【人社】資源エネルギー論	1	金7・8	【人社】社会保障論Ⅱ	2
					計 89

■授業についての感想等

【月曜日】

◎憲法（月1・2）

- すべての講義はとてもわかりやすく、知識がないものでも楽しく聞かせていただきました。特に会社法はとても楽しかったので、もっと授業を受けてみたいとなりました。
- 充実した90分でした。内容がむずかしくなかったので私にもよく理解出来ました。

◎言葉の世界（月3・4）

- 前回の授業公開で、「言葉の世界」を受講し、大変興味深かったので、今回こちらの方も出席してみました。その良さが改めて注目されている「方言」についての内容で、普段何気なく使っている言葉に意識的に向き合うと、驚くようなことがたくさん詰まっていることに気づき、90分があっという間でした。

◎現代政治を見る眼（月3・4）

- ・配布された資料で地域紛争、民族紛争の数の多さに驚かされました。もっと世界情勢に目をむけるべきと、痛感しました。
- ・最近の国内外の動向を踏まえながら歴史的背景等が分かりやすく説明されて理解が深まりました。資料は持ち帰り、キチンと学習したいと思います。

◎【人社】国際文化研究（月3・4）

- ・ためになりました。

◎初級韓国語（発展）（月5・6）

- ・先生の説明大変良かったです。但し、生徒（学生）に活気がないのが残念。

◎【人社】中国語学講義ⅡB（月7・8）

- ・講義内容が比較的高度で発展的、語学学習者にとって興味を刺激されるものであった。（配布されたレジュメ4枚も貴重な内容）講師が折角双方向的に講義を進めようとしているのに学生の反応が貧しいのは残念。

◎心の理解（月9・10）

- ・エゴグラムによる性格判断はぜひ家族でやってみて、評価し合ったらおもしろいと思いました。交流分析では、対人との会話のパターンをどのタイプの交流であるか考えてみると、上手いかわなくなった時の修復の仕方を見つけられそうだと思います。

【火曜日】

◎科学と技術の歴史（火3・4）

- ・細かい内容まで資料をいただいたので、理解する上で助けになりました。真空ポンプで半球内の空気を抜き、大気圧を実感する実験もあり、文字だけでなく、目で見てもよくわかる楽しい授業でした。

◎哲学の世界（火3・4）

- ・哲学者エンペドクレスが原子レゴブロックに例えたところがおもしろく、その部分の教科書「ソフィーの世界」を読み進めたいと思いました。今回は、5世紀頃の哲学者（自然）の読義でしたが、次の時代の哲学者の講義を聞いてみたいと思いました。

◎科学と技術の歴史（火3・4）

- ・高校までの科学の復習ができたように思い、有意義でした。

◎【人社】認知心理学特講（火3・4）

- ・睡眠時のイメージ体験、いわゆる、夢の研究の内容でしたが、研究の起源の話から現代の最近研究の話が大変興味深かったです。

◎【人社】行動科学統計法Ⅱ（火3・4）

- ・与えられる知識だけでは、理解できない、予習や以前の講義から復習が必要。すぐに答えを教えない、（答えが、一つでない場合もあるから？）自分で学ぶこと。が大事。

教科書でじっくり深める部分と、自分で考える部分があり、メリハリがあって緊張感もあり、良い授業でうらやましく思いました。学生の皆さんが、真剣に取り組んでいる様子で安心した。

◎【人社】環境統計学Ⅰ（火5・6）

- ・授業内容は統計学の範囲だったので、復習になった。ただし、「環境」統計学の「環境」の話がきけなかったのは残念だった。

【水曜日】

◎日本の文学（水1・2）

- ・一般に知られている浦島太郎とは、又、別のものがあったと興味深かった。グループごとのすすめ方も、私としては入りやすくよかったです。ありがとうございました。
- ・誰でも知っている、「浦島太郎」のお話でしたが、時代と共に話の中身がかわってきているとか・・・深くほりさげた話を伺い、目からウロコでした。先生の明るい歯切れの良いお話しぶりに好感がもてました。

◎心の理解（水1・2）

- ・自分は自己開示が苦手な人間である事がわかりました。

◎宇宙のしくみ（水1・2）

- ・星の一生についての体系的な説明がよくわかりました。可視光だけでなく、様々な方法での観測が天文学の進化を支えているのだと思いました。比較的早目に講義が終了しましたが、もう少し時間いっぱいお話を聞きたかったな、と思いました。

◎総合英語Ⅱ（水1・2）

- ・素晴らしい授業でした。

◎【人社】家族社会学特講Ⅱ（水1・2）

- ・東京物語と家族のビデオで1953年と2013年の社会と家族の関係を理解させる手法が参考になった。

◎英語総合Ⅱ（初級）（水3・4）

- ・学生が作った英文をすぐに校正して、先生の会話力が高いことがよくわかります。

◎英語コミュニケーションⅡ（上級）（水3・4）

- ・授業に参加させられて、ぐったり疲れた。内容の濃い英語だと思いました。
- ・質の高い授業内容でした。にこやかに楽しそうでした。（グループ授業が）

◎【人社】資源エネルギー論（水3・4）

- ・資源エネルギー論は再生可能エネルギーの話を拝聴し、レスポンスカードに思う所を述べさせて頂いた。

◎中級ロシア語（水 5・6）

- ・講義形式を想像していましたが、少人数で教授と学生がやりとりをしながら行う授業だったので語学に合った形式だと思いました。
中級ということで、学生のみなさんいろいろな答えは頭に浮かんでいるのだと思いますが、なかなか積極的に発言する人が少ないのが自分が学生だったころと変わらないなあ と思いました。
- ・久しぶりに大好きなロシア語の授業を受けることができて、とても楽しかったです。途中でブレイクタイム的に数字の復習など取り入れているところが語学講座ぽかったです。ただテキストと向き合っている時間が長く、眠くなりました。
- ・初級も公開語学講座（ロシア語）増やして欲しい。

◎【人社】民法（家族法）Ⅱ（水 5・6）

- ・民法の授業は先日引き続き 2 回目でしたが、先生のお話がとても楽しく、わかりやすい言葉で説明して下さるので理解しやすいと感じました。

◎【人社】環境経済論Ⅱ（水 5・6）

- ・まだCO₂が温室効果ガスの認識が続いているのであろうか？資源エネルギー論ではH₂O/IR 等他にも言及されていたが。ただ各国の動きが分かって有意義であった。

◎【工学】分離工学（水 5・6）

- ・すばらしい授業でした。

◎【人社】理論経済学Ⅱ（水 7・8）

- ・内容が内容を図で説明されていたので、わかりやすかったと思います。ありがとうございました。

◎【人社】環境文化論Ⅱ（水 7・8）

- ・ヒトと自然とカミの関係をマタギと熊を通し分り易く説明いただき大変参考になった。

◎社会的人間論（水 9・10）

- ・授業を見学するだけかと思っていたので、授業のタイトルだけでなんとなく参加してしまいました。が、結果とても面白かった。授業内容を理解したとは言い難いが、用地な疑問点が次々出てきて、質問したくなかったが、選択している学生さんに申し訳ないので、清聴した。強制的な授業じゃないので大学は楽しいと思った。

◎宮沢賢治の思想と文学（水 9・10）

- ・違う面からの賢治を学びました。これが大学の講座なのだと思います。
- ・“宮沢賢治”について放送大学の面接授業で一度学んだことはありましたが、今回思想と文学についてのテーマに興味をもって。内容について：賢治の書き方、言葉の使い方を学びました。

【木曜日】

◎物質の世界（木 1・2）

- ・専門的な内容でしたが日頃目にしたり耳にしたりしている大切な問題でした 土壌の汚染とか。本当に聴講してよかったと思います。

◎自然のしくみ（木 1・2）

- ・高校知識の復習となってよかった。
- ・各先生の真摯な講義に感銘しました。私も見習いたいと思います。又期会が有りましたなら、おじゃましたいと思います。

◎植物栽培と環境テクノロジー（木 3・4）

- ・アイアシスタントはいい仕組みだと思う。寝ている学生も安心か？板書はしないのですね。

◎現代政治を見る眼（木 3・4）

- ・市民講演会のようでタメになった。
- ・普天間飛行場の辺野古への移設問題という、真に今新聞紙上でもさかんに報じられている内容についての講義で、興味深かったです。沖縄と米軍基地の問題は長い間にわたって存在しているので、時系列的に流れを追う、という進め方で概略を把握するのには適した90分でしたが、「現代政治を見る」というのは理解した上で、自ら考えることも含まれると思うので、若い学生を相手にするのならば、もっと深く考察できるよう時間を多くとってみるのもいいのではないか、と感じました。

◎生活と環境・水と環境（木 3・4）

- ・“virtual water（仮想水）”のところで日本で牛丼一杯を作るための食糧を輸入すると何トンの水が必要か？というところがおかしかったです。
- ・生活と環境の講義であるのに、イソップ童話や日本の昔話が例としてでてきたりしたので、分かりやすく楽しく聞く事ができました。環境に関して、「なるほどなあ」と考えさせられる内容が多かったです。

◎岩手の研究（木 3・4）／初級中国語（入門・発展）（木 5・6）

- ・各先生の真摯な講義に感銘しました。私も見習いたいと思います。又期会が有りましたなら、おじゃましたいと思います。

◎異文化理解と実践（木 3・4）

- ・異文化理解と実践は、英語で授業が進められるので、とてもレベルが高い授業だと感じました。内容は、ビデオを見ながら進められるので、分かりやすくとても興味深いものでした。

◎日本の歴史と文化（木 5・6）

- ・資料を用意したり、パソコン（パワーポイント）を使うなど、分かりやすい授業にしようとする意識が感じられていいのですが、もう少し楽しい内容にできたら良いと思いました。

◎中級ロシア語（木 5・6）

- ・大変参考になりました。

◎倫理学の世界（木 5・6）

- ・倫理～知っていること初めて聞くことがあり、教授も楽しく、参加できおもしろかったです。90分は長いと思っていましたが、苦なく、あっという間に終わりました。他の科目も参観したいと思いました。

◎【人社】民法(物権)Ⅱ(木5・6)

- ・民法(物権)Ⅱは、具体的な身近な事例をあげて説明して下さるので、難しい内容も理解しやすいと感じました。ありがとうございました。

◎【人社】文化論コロキウムⅡ(木7・8)

- ・〈主夫について〉メリットデメリット 学生同士の討論が中心でおもしろかったです。

◎【人社】刑事政策(木7・8)

- ・大学の授業は30年以上ぶり(34年ぶり)でしたので、新鮮な気持ちで受けさせていただきました。しかも今の生活、仕事ではほとんど触れることのない専門的な内容でしたので、有意義な時間となりました。90分の授業があつという間でした。

【金曜】

◎初級ドイツ語(発展)(金1・2)

- ・学生の反応が悪く、活気が感じられなかった。先生は一生懸命、問いかけているのに、yes,noもなく、残念…。理解できているのか、そうでないのかも分からず先生が困っていて気の毒でした。ドイツ語難しそうなので 分からないのも仕方ないとは思いますが…せめて返事ぐらいはしてほしい、しなさいと我が子にも言うておきます。

◎初級ドイツ語(発展)(金1・2)

- ・受付で説明を受けてから教室に向かいましたが、教室が狭くとても入れませんでした。そのあと、人文社会科学部の人間科学概論 G2 大教室にいったのですが、入口が教室の前で学生さんがみなさんこちらを向いてらしたので入室できませんでした。

◎中級韓国語(金3・4)

- ・講義の内容がよくわかり楽しい90分でした。韓国語を勉強したくなりました。
- ・参考になりました。

◎中級中国語(金3・4)

- ・とても和やかで良かった。生徒の方々も予習をしている様で授業の進みが、スムーズでした。もちろん先生の指導も良く、生徒に自信を持たせながら中国語のマスターをうながしている感じを受けました。

◎英語総合Ⅱ(初級)(金3・4)

- ・ありがとうございました。わかりやすい説明でした。初級・中級・上級とクラス分けをしているのは、よいことだと思います。

◎【人社】犯罪社会心理学(金3・4)

- ・大学時代に学んだ時からどのように進歩・変様・発展したかを知りたくて学びたくて受講。普段受けない刺激をもらい、脳の活性化になった。興味深くおもしろくためになった。ありがとうございました。(サイコパス・シリアルキラーの話も聞きたい)

◎【人社】社会文化思想論Ⅳ（金 3・4）

- ・資料が配布されないため、板書するのが大変でしたが盛りだくさんの内容で集中して受講できました。後半は、性犯罪についての内容でしたが、あまり重い印象を受けずに聞くことができました。「特別な心理学」を受講しているというよりは、生活してゆく上で他者とのかかわりを持って生きる上での解釈の仕方という印象を持ちました。

◎【人社】簿記論Ⅱ（金 5・6）

- ・図を見ながらの説明がわかりやすかったと思います。

◎【人社】社会保障論Ⅱ（金 7・8）

- ・グループワークなどをやりながら、アットホーム感じの授業でした。

■その他ご意見、ご感想等

- ・高校の子供と一緒に来たかったのですが、平日しかないので残念でした。
- ・文系といえども数学は大事、必要と感じた。教科書を見せていただいたり普段いない私が、いたりで、ご迷惑をおかけしてしまいました。申し訳ありません。でも楽しかったです
- ・来年また来たいです。 学内がきれいでいい。
- ・〇〇科目は、市民の語学学習需要を踏まえると、市民対象〇開講することも一案と思われる。是非検討願いたい。【※〇は解説できず】
- ・60年前を思い出し、楽しい一日でした。これからも参加したいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・一講座のみの受講となります。はじめてでしたが、大変有意義でした。また次回に参観させていただきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・岩手大学の授業風景を初めて拝見させていただきました。なかなか大学の平日の授業を見ることはできないので、とてもよい体験になりました。ホームページに人文社会学部の授業も掲載していただきたいです。
- ・グループに分かれての発表会に参加させてもらい、聞くだけでしたが、生徒さんたちのとても勉強を深くして、レポートを完成させている姿にうたれました。
生徒さんたちの礼儀正しさとか、私たちにとても親切でフレンドリーでした。ぜひ、又来たいです。
- ・月曜日から毎日興味のある授業を聞かせていただきましたが どの授業も難しい内容ですが先生方のお話がとても楽しく、いい雰囲気が進められているのが、とても印象的でした。また機会がありましたら是非参加したいと思います。ありがとうございました。
- ・講義の最後に4年生の学生が、アンケートの協力をお願いしていました。本校の学生の研究内容を追究する真剣さに感心しました。
- ・講義の前に公開授業の参加者を講師の先生にお伝えしていた方が想定外のことに事前に対処できるのではと思いました。また、テキストの有無など受講者が入りやすい情報もあると良いかと考えます。
- ・今後も公開授業は続けて頂きたい。開かれた大学でいて欲しいです。
- ・自分の学生時代と比べて、講義内容がとてもいいにわかりやすく学生に伝えられる努力がされている、という感想を持ちました。
講義の最後に、講義内容の小テストをレスポンスと兼ねてよく行われていますが、いたれりつくせりと

いった感を受けました。自分の専攻以外の内容を学んでいる場合も多いので有難いことだと思いますが、もう少し学生の自主性にまかせてもよいのでは、と思うところもあります。

- 授業公開を楽しみにしています。休みが取れば今後も来たいと思っています。
小教室の授業の場合、もう少し入り易くなればと思います。
- 授業公開講座の案内が左記の時間ではなく、7・8校時目の14:45～16:15になっていた。
その結果、GB32 室で数学の授業を先生にお願いして参観させていただいた。
- 授業と直接関係ではありませんが、授業公開のチラシでは11/11の時間割と内容は違っているのでびっくりしました。希望する授業は7・8校時（14:45～16:15）なので、教室に入りましたが希望する授業は9・10校時（16:30～18:00）となっていたこと。それ前の工学部専門教育科目（数学）の中の参観者でした。数学の時間を参観しました。
- 授業の移動が15分間で間に合わず、教室入口ドアが閉じられており入れない授業あり残念です。
又、途中からの入室も同じく入れず、一つのみの参観で残念でした。なかなか入りづらいです。
- 諸用と重なり、学びたい授業が全ては受講できなくて、また来年度も利用したいと思っている。
大変良い企画なので、ずっと続けて欲しい。中高年に学びの場を！！（少し寒かった）。
女の子達がつるんで座るのが多いようで、席を替わる様強要されていい気持ではなかった。大人が座っていたら今の時期は譲るように指導をお願いできればありがたい。
- 全体の受付で農学部のことを何もご存知なかったのも、全ての受付をしているところでは、全学部の内容を書いた書類を一括してもっていてもよいのではと思いました。
- 全体を通して農業大学校の授業にも参考となる参観内容であった。感謝します。
- 出来れば、この様な機会を複数回（年度）増やしてもらいたい。
- 初めて、大学の授業をみました。少人数での授業だったり、学生が進めていく授業形態が高校と大きく違って新鮮でした。
- 本屋さんの店頭で立ち読みした、養老院より大学院（内館牧子）に“しげき”されて、今回参加したのですが、孫と同年代の方と一緒に教室で講義をきくことが幸せでした。向学心をかきたてられました。
今後も又参加したいと思います。ありがとうございました。
- まだ会社勤務なので月曜日しか参観できないのが残念です。短時間でレスポンスカードを書く学生の皆さんに圧倒されました。
- また機会がありましたら受講させていただきたいと思います。
- もっと講義を増やして欲しいです。
- もっと何度も開講して欲しい。
- 若い学生さん達との会話もたのしく、一生けんめいさが伝わってくる感じがしました。私もあらためて、うらしまたろうや遠野物語もよんでみたいと思いました。
- 私自身も大学生なのですが、新鮮な気持ちで講義を受けました。自分の専攻とは違う学部・専攻の講義を受け、普段考えることのない観点、考え方に触れることができたと思います。今日受けられなかった講義の中にも、関心があるものがあったので、機会があればぜひ受講してみたいです。



グローバル教育センター

グローバル教育センター会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
センター長	藪 敏 裕	教育学部
副センター長／専任教員	松 岡 洋 子	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	Anders Carlqvist	教育推進機構
	平 井 華 代	教育推進機構
各学部の国際交流委員会委員 又は教務（学務）委員会委員 から選出された教員	家 井 美千子	人文社会科学部
	藁 谷 収	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	木 崎 景一郎	農学部
国際課長	斎 藤 幸 代	学務部



活動報告

センター長 藪 敏裕

1. グローバル教育センター会議

第1回 平成27年6月29日（月）

議 題

1. グローバル教育センターの審議事項について
2. グローバル教育センター設置に伴う規則の一部改正について
3. グローバル教育センター事業計画と役割分担について
4. 副議長の選出について
5. 平成27年度年度計画（国際課関係）について
6. 平成27年10月グローバル教育センター所属予定留学生の受入について
7. その他

第2回 平成27年7月28日（火）

議 題

1. グローバル教育推進プランについて
 - （1）グローバル人材育成プログラムの整備について
 - （2）グローバル教育センター取り組みの実施スケジュール
2. その他

第3回平成27年10月29日（木）

議 題

1. 国際交流会館等の入居に関する諸規則改正案について
2. 平成27年度後期グローバル教育センター所属留学生の受入について
3. デ・ラ・サール大学（フィリピン）との協定について
4. その他

第4回 平成28年2月5日（金）

議 題

1. 国際交流科目名称変更に伴う規則の改正について
 - （1）国立大学法人岩手大学学則の一部改正（案）
 - （2）岩手大学における国際交流科目に関する要項の一部改正（案）
 - （3）岩手大学教育推進機構グローバル教育センター短期留学特別プログラムに関する要項の一部改正（案）

(4) 岩手大学国際交流科目、日本語研修コース及び日本語・日本文化研修コース非常勤講師採用に関する申合せの一部改正(案)

2. 学部改組に伴う規則の改正について

・奨学金支給期間満了予定国費外国人留学生(研究留学生等)の延長申請者に対する推薦順位決定に関する申合せの一部改正(案)

3. 平成28年度グローバル教育センター非常勤講師の採用計画について

4. 平成28年度前期グローバル教育センター所属留学生の受入について

5. グローバル教育センターが関係する海外大学等との協定・覚書に関する対応方針について

6. その他

第5回 平成28年3月22日(火)

1. 平成27年度年度計画の達成状況について

2. イーハトウ`基金設立に伴う規則等の改正等について

3. グローバル教育センターにおける平成28年度国際広報活動計画について

4. その他

2. 留学生のためのイベント

○ガーデンパーティー

平成27年7月11日(土) 大学生協中央食堂前に於いて「留学生と市民のガーデンパーティー～世界の屋台村～」開催

○着物体験・生け花体験

平成27年5月19日(火) 着物体験開催

平成27年12月7日(月) 生け花体験開催

○フィールドスタディ in 平泉

平成27年8月4日(火)、8月5日(水) 事前講義及び平泉世界遺産見学



フィールドスタディ in 平泉

○フィールドスタディ スキーin安比

平成28年1月5日（火）～6日（水）安比高原スキー場



フィールドスタディ スキーin安比

○フィールドスタディ in三陸ジオパーク

平成28年2月24日（水）～25日（木）被災後の三陸地域見学

3. 学生の留学・国際交流サポート

○国際教育プログラムの充実

平成26年度新設の英語の語学研修プログラムを、フィリピンのデ・ラ・サル大学で実施。

○「SCIP」短期研修プログラム

「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとし、平成27年9月にアイスランド、スウェーデンで研修

○トビタテ！留学JAPAN サポート

第1期2名、第2期1名、第3期1名 採択

○留学相談・オリエンテーション・帰国報告会開催

平成27年10月31日（土）～11月30日（日）岩手大学国際月間

岩手大学留学生数(平成27年5月1日現在)
()は女子で内数

《種別》

【学部所属】

学 部	正規生			小計	非正規生						小計	合計
	学部生				研究生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部		1 (1)	16 (4)	17 (5)				5 (5)	8 (4)		13 (9)	30 (14)
教育学部			1 (1)	1 (1)					12 (9)		12 (9)	13 (10)
工学部		1 (1)	26 (3)	27 (4)				1	3 (1)		4 (1)	31 (5)
農学部								4 (1)			4 (1)	4 (1)
合 計		2 (2)	43 (8)	45 (10)				10 (6)	23 (14)		33 (20)	78 (30)

【大学院所属】

大 学 院	正規生			小計	非正規生						小計	合計	
					研究生			教員研修留学生	特別聴講学生	特別研究学生			科目等履修生
	国費	政府	私費		国費	政府	私費	国費	私費	私費			私費
人文社会科学研究科			4 (1)	4 (1)									4 (1)
教育学研究科	1 (1)		13 (11)	14 (12)				3 (3)	4 (3)			7 (6)	21 (18)
工学研究科(M)	2		23 (7)	25 (7)					2			2	27 (7)
工学研究科(D)	2	1	17 (9)	20 (9)									20 (9)
農学研究科(M)			4 (4)	4 (4)	2				1 (1)			3 (1)	7 (5)
連合農学研究科	13 (5)		25 (10)	38 (15)									38 (15)
合 計	18 (6)	1	86 (42)	105 (48)	2			3 (3)	7 (4)			12 (7)	117 (55)

【グローバル教育センター所属】

グローバル教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計		2 (1)	2 (1)		4 (2)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費		政 府		県費		私 費		合 計	
正 規 生	18	(6)	3	(2)			129	(50)	150	(58)
非 正 規 生	7	(4)					42	(25)	49	(29)
合 計	25	(10)	3	(2)			171	(75)	199	(87)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

(岩手大学12名、他大学配属26名)

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩 手 大 学	5 (1)		7 (3)	12 (4)
帯広畜産大学	3 (2)		12 (6)	15 (8)
弘 前 大 学			3 (1)	3 (1)
山 形 大 学	4 (1)		4 (1)	8 (2)
合 計	12 (4)		26 (11)	38 (15)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	2	1	1	4

(国籍別:アフガニスタン1、エジプト1、
バングラデシュ1、韓国1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

173 (76)

21ヶ国 1地域 199 人

《国籍別》

アジア 14カ国1地域 183(76)人					アフリカ 1カ国 1(1)人		欧州 3カ国 9(7)人		
インドネシア	5 (2)	バングラデシュ	9 (2)	パキスタン	1	ウガンダ	1 (1)	アイスランド	2 (1)
韓国	15 (3)	ベトナム	9 (3)	フィリピン	2 (1)			フランス	4 (3)
インド	1	マレーシア	3 (3)	ラオス	1 (1)	北米 2カ国 5(2)人		ロシア	3 (3)
タイ	7	モンゴル	4 (3)			アメリカ	4 (1)		
台湾	4 (2)	ミャンマー	2 (1)			カナダ	1 (1)	中南米 1カ国 1(1)人	
中国	119 (55)	ネパール	1					エルサルバドル	1 (1)

岩手大学留学生数(平成27年11月1日現在)

()は女子で内数

《種別》

【学部所属】

学 部	正 規 生			小 計	非 正 規 生						小 計	合 計
	学部生				研 究 生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部		1 (1)	16 (4)	17 (5)				4 (4)	9 (5)		13 (9)	30 (14)
教育学部			1 (1)	1 (1)				3 (2)	16 (13)		19 (15)	20 (16)
工 学 部		1 (1)	26 (3)	27 (4)				7	5 (1)		12 (1)	39 (5)
農 学 部								2 (1)			2 (1)	2 (1)
合 計		2 (2)	43 (8)	45 (10)				16 (7)	30 (19)		46 (26)	91 (36)

【大学院所属】

大 学 院	正 規 生			小 計	非正 規 生						小 計	合 計	
					研 究 生			教員研修留学生	特別聴講学生	特別研究学生			科目等履修生
	国費	政府	私費		国費	政府	私費	国費	私費	私費			私費
人文社会科学研究科			6 (3)	6 (3)									6 (3)
教育学研究科	1 (1)		11 (9)	12 (10)				4 (2)	4 (3)			8 (5)	20 (15)
工学研究科(M)	2		24 (9)	26 (9)	1							1	27 (9)
工学研究科(D)	2	1	16 (7)	19 (7)									19 (7)
農学研究科(M)			7 (6)	7 (6)	1				3 (3)			4 (3)	11 (9)
連合農学研究科	14 (5)		26 (11)	40 (16)									40 (16)
合 計	19 (6)	1	90 (45)	110 (51)	2			4 (2)	7 (6)			13 (8)	123 (59)

【グローバル教育センター所属】

グローバル教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計		3 (2)	2 (1)		5 (3)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費		政 府		県費		私 費		合 計	
正 規 生	19	(6)	3	(2)			133	(53)	155	(61)
非 正 規 生	9	(4)					55	(33)	64	(37)
合 計	28	(10)	3	(2)			188	(86)	219	(98)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

(岩手大学9名、他大学配属31名)

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩手大学	5 (1)		4 (2)	9 (3)
帯広畜産大学	4 (3)		12 (6)	16 (9)
弘前大学			7 (2)	7 (2)
山形大学	5 (1)		3 (1)	8 (2)
合 計	14 (5)		26 (11)	40 (16)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	1	1	2	4

(国籍別: バングラデシュ1、エジプト1、韓国1、タイ1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

188 (85)22ヶ国 1地域 219 人

《国籍別》

アジア 13カ国1地域 196(80)人						アフリカ 1カ国 1(1)人		欧州 4カ国16(10)人	
インドネシア	6 (2)	中国	129 (55)	ミャンマー	2 (1)	ウガンダ	1 (1)	アイスランド	4 (2)
韓国	15 (3)	ネパール	1	モンゴル	4 (3)	北米 2カ国 4(2)人		イタリア	2 (2)
シンガポール	1 (1)	バングラデシュ	10 (2)			アメリカ	3 (1)	キルギス	2 (1)
スリランカ	1 (1)	フィリピン	2 (1)			カナダ	1 (1)	フランス	4 (3)
タイ	7 (1)	ベトナム	10 (3)			中南米 1カ国 2(1)人		ロシア	4 (3)
台湾	5 (4)	マレーシア	3 (3)			エルサルバドル	2 (1)		

岩手大学と海外大学との交流協定締結状況

大学間交流協定（7カ国・1地域 19大学）（2015年10月現在）

国・地域名	大学名	初締結年月日	学術交流	学生交流
アイスランド	アイスランド大学	2011.02.16	○	○(全学)
アメリカ合衆国	オーバン大学	1998.11.06	○	
	アーラム大学	2003.08.11	○	○(全学)
	テキサス大学オースティン校	2004.10.20	○	○(全学)
	マサチューセッツ大学ローウェル校	2012.02.15	○	○(全学)
	セント・メアリーズ大学	2003.07.31	○	○(全学)
カナダ	サスカチュワン大学	2013.03.01	○	連合農学研究科・デジタルイグリー 工学研究科：研究インターンシップ
タイ王国	サイアム大学	2002.07.02	○	○(教育)
大韓民国	明知大学校	2004.07.13	○	○(全学)
	国立Hanbat大学校	2006.08.22	○	
	全南大学校	2009.09.01	○	○(農学)
台湾	国立高雄師範大学	2011.07.08	○	○(全学)
中華人民共和国	曲阜師範大学	2002.09.25	○	○(教育)
	北京大学・石河子大学	2003.12.05	○	
	西北大学	2003.12.09	○	○(教育、人社)
	大連理工大學	2005.05.23	○	○(全学)
	吉林農業大学	2006.10.03	○	○(農学)
ロシア連邦	寧波大学	2006.10.28	○	○(教育、人社)
	サンクト・ペテルブルグ国立文化芸術大学	2000.03.28	○	○(全学)

岩手大学と海外大学との交流協定締結状況

部局間交流協定（12カ国・地域24大学等）（2015年10月現在）

国・地域名	大学等名	初締結年月日	学術交流	学生交流	部局名
大韓民国 	群山大学校	2011.01.20	○	○	人文社会科学部
フランス共和国 	ボルドー・モンテニユ	2007.07.06	○	○	
中華人民共和国 	電子科技大学	2014.10.14	○		
中華人民共和国 	北京大学 芸術学系、哲学系、宗教学系	1998.08.21	○		教育学部
	清華大学中文系	2000.12.15	○	○	
	山東工芸美術学院 国際交流与合作処	2006.05.24	○	○	
イタリア共和国 	カララ大学	2005.10.05	○	○	
カナダ 	ブリティッシュ・コロンビア大学 教育学部	2001.07.17	○		農学部
アメリカ合衆国 	ノース・セントラル・カレッジ	2002.09.06	○	○	
アメリカ合衆国 	パデュー大学農学部	1996.04.04	○	○	
ドイツ 	ロッテンブルク大学	2013.11.06	○		連合農学研究科
モンゴル国 	モンゴル生命科学大学	2014.02.24	○		
バングラデシュ人民共和国 	ダッカ大学生命科学部	2014.11.26	○		

国・地域名	大学等名	初締結年月日	学術交流	学生交流	部局名
タイ王国	チュラロンコン大学理学部	2002.01.10	○		工学部
	キングモンクット工科大学ラドカバン校理学部	2014.11.18	○		
	タマサート大学工学部	2014.12.11	○		
マレーシア	マレーシアパハパン大学研究イノベーション部門	2010.12.01	○		
大韓民国	忠南大学校グリーンエネルギー技術専門大学院	2013.04.08	○		
モンゴル国	モンゴル国立大学	2007.09.14	○		
	数学とコンピュータサイエンス学院				
	モンゴル科学技術大学	2007.12.18	○	○	
中華人民共和国	新疆農業大学	2003.11.10	○	○	
	華南理工大學	2004.07.06	○		
	西北農林科技大學信息工程学院	2006.08.23	○	○	
	西安科技大学計算機科学与技術学院	2010.09.08	○		
バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ工科大学工学部	2003.12.23	○	○	
フランス共和国	ピエール・マリール・キュリー大学化学部	1997.04.19	○		
キルギス共和国	キルギス・トルコ マナス大学工学部	2009.10.22	○	○	
	キルギス・ロシア スラヴ大学工学部	2010.12.01	○	○	

＜用語解説 ①＞

大学間交流協定と部局間交流協定とは？

大学間交流協定とは岩手大学全体として相手方の大学と結んだ協定であり、一方、部局間交流協定とは一部の部局(例：工学部)だけが相手方大学(または相手方大学の一部局)と結んだ協定のことを指します。

＜用語解説 ②＞

学術交流と学生交流とは？

結んだ協定の中身を表す言葉です。学術交流の協定とは、お互いの教員・研究者や学生が交流し、共同研究等を行うと定める包括的な協定です。一方、学生交流の協定とは、双方の学生が互いの大学へ交換留学するために、単位互換や授業料といった詳細な条件を取り決めるものです。

平成27年度 海外交流状況

派遣

地域	国名等	教職員の派遣	学生の交換留学
アジア	タイ	28	
	マレーシア	10	
	シンガポール	5	
	インドネシア	7	
	フィリピン	1	
	韓国	29	1
	モンゴル	13	
	ベトナム	3	
	中国	31	5
	台湾	4	
	インド	3	
	ミャンマー	3	
	ブータン	3	
中近東	オマーン	1	
	カタール	1	
	トルコ	3	
ヨーロッパ	アイスランド	2	
	フィンランド	1	
	スウェーデン	1	
	アルメニア	1	
	ウクライナ	1	
	イギリス	9	
	ベルギー	2	
	オランダ	4	
	ドイツ	12	
	フランス	15	3
	スペイン	5	
	ポルトガル	1	
	イタリア	7	1
	ジョージア	1	
	オーストリア	6	
	スイス	2	
	ブルガリア	1	
	ポーランド	4	
	ハンガリー	3	
	ロシア	1	1
	ラトビア	2	
	リトアニア	1	
北米	カナダ	24	
	アメリカ合衆国	53	5
中南米	メキシコ	1	
	ブラジル	1	
オセアニア	オーストラリア	4	
アフリカ	ケニア	1	
	タンザニア	1	
合計	45ヶ国・地域	312	16

受入

地域	国名等	教職員の受入	学生の交換留学
アジア	タイ	6	1
	マレーシア	3	
	韓国	12	3
	モンゴル	1	
	中国	26	18
	台湾		4
	インド	1	
	バングラデシュ	2	
中近東	カタール	1	
ヨーロッパ	アイスランド		3
	ドイツ	1	
	フランス		2
	スペイン	2	
	ロシア		1
	イタリア		2
	キルギス		2
北米	カナダ	3	1
	アメリカ合衆国	1	2
オセアニア	オーストラリア	2	
合計	19ヶ国・地域	61	39



教育推進連携部門

教育推進連携部門会議委員名簿

(平成 27 年 4 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 川 倫 明	工学部
副部門長／兼務教員	阿久津 洋 巳	教育学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
各学部 of 教務関係委員会から 選出された教員	中 村 安 宏	人文社会科学部
	川 口 明 子	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	國 崎 貴 嗣	農学部
各学部 of F D 又は教育評価を担当 する委員会から選出された教員	中 島 清 隆	人文社会科学部
	山 本 奨	教育学部
	大 坊 真 洋	工学部
	立 澤 文 見	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部

活動報告

部門長 松川 倫明

1. 全学FD研修の実施について

平成26年度末に全学の学部教員を対象に全学FD研修についてのアンケート調査を実施した。教員の意向調査の結果を踏まえて、今年度は学内でPBL型教育に関するFD研修を行い、教員の教育力向上を図った。以下に実施したプログラムを記載する。

日時：2015年9月4日（金）10：00～15：30

場所：教育学部1号館2階 北桐ホール

午前／講演 10：00～12：00

演 題「大学教育へのPBL導入の考え方と方法」

講 師 盛岡大学教授 市川洋子先生

主な内容：PBLとは何か、その概要。PBLの手法を具体的にわかりやすく説明する。

午後／講演 13：30～15：30

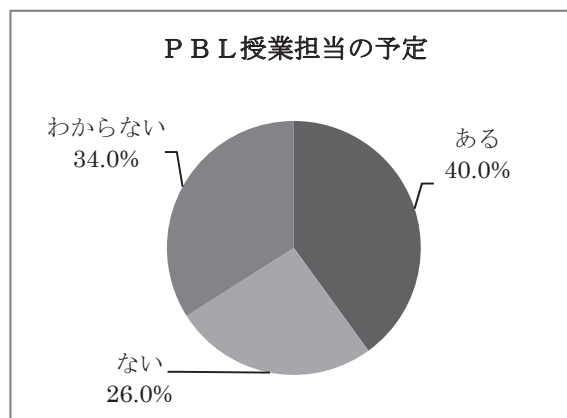
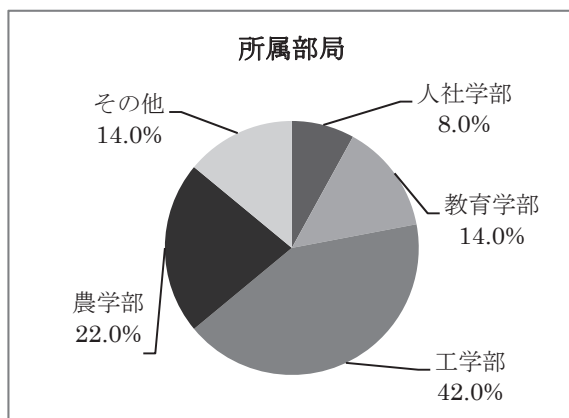
演 題「PBLを基軸とした工学教育プログラム」

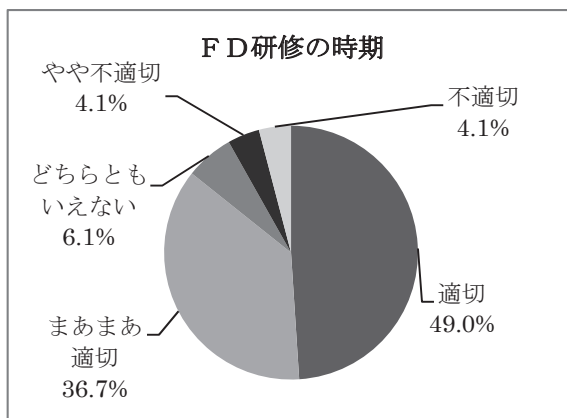
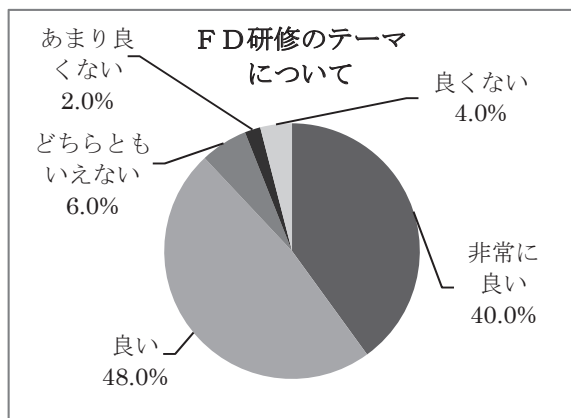
講 師 九州工業大学教授 中尾 基先生

主な内容：教育GPにおける工学分野のPBLの取り組みについて。

全学共通教育科目では来年度から高年次地域課題関連科目（実践知科目）においてPBL型の授業を導入することや改組後の理工学部では1年次後期に転換教育に接続する形でPBL型の演習科目を必修化するなど、岩手大学においてもPBL教育の重要性が高まっており、今回のFDのテーマは適当な設定であったと理解される。実際に、FD研修の参加者数は、午前の部50名、午後の部44名であり、延べ100名に近い教員が出席した。PBLについては主に課題解決型学修（医薬系で発展）とプロジェクト型学修（工学系で発展）あり、午前の講演は前者にものを中心に事例報告を、午後の講演は後者のPBL学修を中心に事例を紹介していただいた。

午前のFD参加者のアンケート結果の一部を以下に紹介する。



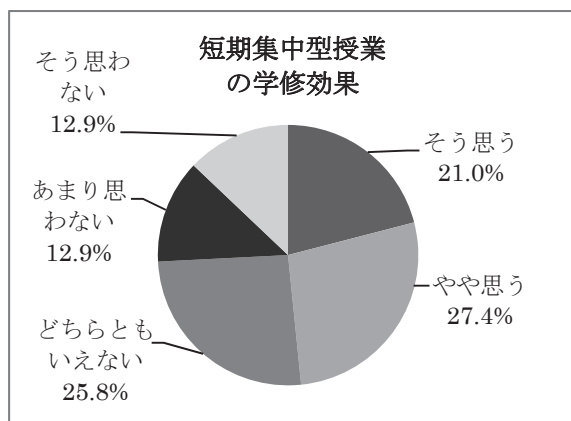


2. 学事暦の柔軟化の検討とクォータ科目の試行

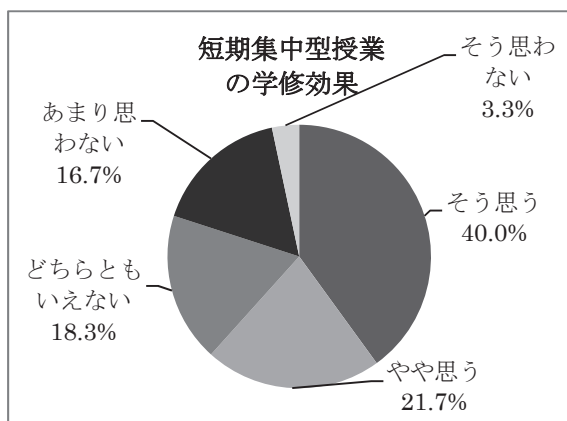
平成28年度から、教育学部を除き前期・後期とも16回の授業実施回数を確保できる学事暦に変更した。なお、授業回数の確保が困難である場合には、授業時間の見直しを検討していただきたい旨の意見も出されており、今後検討の余地も残されている。

工学部マテリアル工学科は、平成27年度から一部の専門科目（5科目）をクォータ科目に変更して、平成28年度本格実施に向けた試行を行った。平成28年度改組後、理工学部は全学科開講の専門基礎科目微分積分学Ⅰにてクォータ科目の導入予定であり、農学部は森林科学科3年前期木材工学演習・森林化学演習で導入予定である。

学生による授業アンケートの結果を一部紹介する。以下のあるように、短期集中型（週二回月・木または火・金開講）の授業方式により、学生による学修効果の評価は、5割～6割が肯定的な意見であった。また、教員による成績評価も若干であるが向上しているとのことであった。ただし、一部の学生からは、授業の速さに対応できないという意見もあり、科目の内容によっては、従来のセメスター科目が適当な場合もあると思われる。



第一クォータ科目 ベクトル解析
(2年・前期4・5月実施 62名回答)



第二クォータ科目 電磁気学Ⅰ
(2年・前期6・7月実施 60名回答)

3. 科目ナンバリングの全学導入について

理工学および農学部については、平成28年度に科目ナンバリングの導入を決定した。

人文学部および教育学部については、平成29年度導入に向けて検討する。

4. GPA制度の全学導入について

本部門にGPAワーキンググループを設置して、GPA制度の全学導入について検討を行った。その検討結果をもとに、教育推進連携部門会議および教育推進機構会議において、平成28年度から全学部でGPAを導入することで了承された。特に、2年次以降の在学生に対する周知する方策が求められる。

今後、学生の成績通知書に学期毎と通算のGPAの数値を記入し、学生の学力が数値化され、履修指導等に活用する予定である。さらに、GPAの活用方法の検討に加え、国際通用性のあるGPAを検討する。

5. 授業実施回数の調査について

授業回数の確保は 学生の教室外学修時間の確保とともに、単位制の前提条件と考えられる。工学部を除き授業実施回数（補講や期末試験を含む）の調査はこれまで行われていないので、後期授業実施状況の調査を、各学部の部門の委員にお願いして実施し、年度末の会議で報告をしていただいた。

調査の手法については、教員による数値の直接入力とともにアイアシスタントの利用も検討した。

6. 工学部・農学部専門基礎教育の充実に向けた取り組み

○数学プレースメントテストの実施

工学部5学科および農学部共生環境課程の新入生を対象に、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、数学Ⅲの履修状況及び学力を把握する目的で、試験時間1時間（問題数27問）の筆記試験を実施した。実施した試験結果を工学部・農学部教務委員及び専門基礎・数学担当教員に報告し、補強教育の対象者の抽出や数学関連授業科目の履修指導に活用した。

・実施日時：平成27年4月6日（月）15時30分～17時（TOEIC試験終了後に実施）

付録：全学FD講演会資料、全学FD研修アンケート、クォータ科目学生アンケート、数学プレースメントテスト実施結果

○全学FD講演会資料

（1）講演



「午前」

講演：10：00～12：00

演題：「大学教育へのPBL導入の考え方と方法」

講師：盛岡大学教授 市川洋子先生



「午後」

講演：13：30～15：30

演題：「PBLを基軸とした工学教育プログラム」

講師：九州工業大学教授 中尾 基先生

(2) 講演資料

大学教育への PBL導入の考え方と方法

盛岡大学文学部 市川洋子

本日の内容

1. PBLとは
2. PBLのプロセス
3. 何をどう評価するか
4. アドバイザーとしての教員
5. いかに導入するか
 - (1) 演習科目に
 - (2) 講義・演習科目に
 - (3) PBLを核とする大学カリキュラムの在り方

アクティブラーニング

◇Bonwell & Eison(1991)

"Active learning involves students in doing things and thinking about the things they are doing."

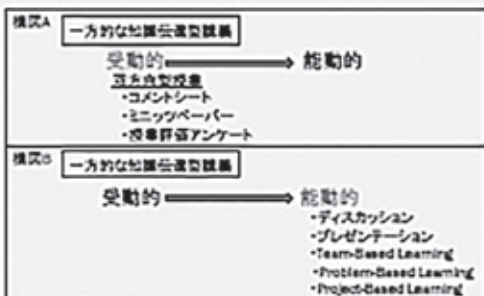
◇中央教育審議会答申(2012)

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称

◇清上慎一(京都大学、2015)

一方的な知識伝達型講義を越く(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与など、そこで生じる認知プロセスの外化を行う

アクティブラーニングの2つの構図 清上(2008)



1. PBLとは

PBLのレベル

1. Project is curriculum controlled
2. Project is part of a class and teacher directed
3. Project is interdisciplinary and teacher directed
4. Project is authentic and created with the teacher
5. Project is authentic and self-directed

PBL

第千大学
工学部

PBLを基軸とする工学教育プログラム

平成27年9月4日

国立大学法人九州工業大学
工学研究院

中尾 基

PBL

工学部背景

1. 科学技術の発展
(高度発達・複雑化した産業)
2. 工学部入学志願者減少傾向
(10年間で4割減)
3. 熟練エンジニア大量退職

大学・大学院教育
大学・工学部教育の役割の増大

大学教育 ↔ 社会(企業)
大学・企業間の連携

高校までの学校教育
学力低下

ゆとり教育
過剰

従来の座学中心の
工学教育(講義・実験) → Project-Based Learning
PBL
質的変革

PBL

Project-Based Learning

和訳「問題解決型学習」

従来の:
「講義」と「実験・演習」の組み合わせ
(詰め込み型教育、系統的教育)

企業: 新入社員教育でのOJT(On the Job Training)

院訓: 1960年代から70年代に北米で実施された工学教育
背景: 生物医学的知見が日進月歩で急速に拡大・革新
⇒ 臨床医学の発展

急速な産業(工学)進展下
詰め込み型教育 → 専門分野を網羅不可能
学生の目的意識低下

知識や技術の伝授 → 学生個々人の方法論獲得

PBL

Project-Based Learning

- ・ 学生は1グループ4名程度のチームを構成
- ・ チームごとにプロジェクトに取り組み
- ・ プロジェクトテーマは、解決方法が知られていないオープンなものを設定
- ・ フレームワークの設定、実施計画立案、プロジェクト実行を学生が自ら実施

他の成績・卒業科目の履修性を担保(学習動機付け)
実践力を養育
(課題解決能力、プレゼンテーション能力、読解力思考力、英語力、IT能力...)

大学1年(教養科目履修→試験、学生実験→心組)
大学2年(教養/専門科目履修→試験、学生実験→心組)
大学3年(専門科目履修→試験、学生実験→心組)

大学4年(卒業研究→卒業論文)
研究が試みられていない分野についていらい問題を解く!

PBL

PBL基軸教育 工学部 総合システム工学科

平成20年度新設

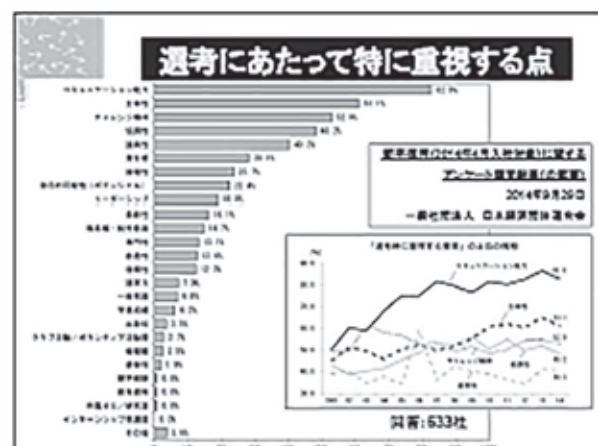
いざ社会へ

卒業研究

実験 → 演習 → PBL

専門科目講義
基礎科目講義

社会からの要望

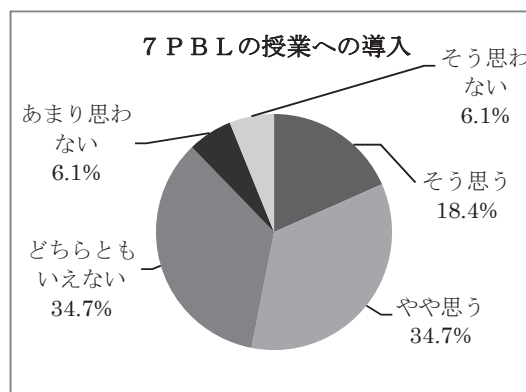
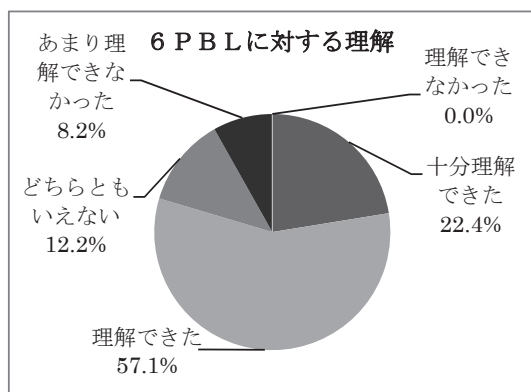
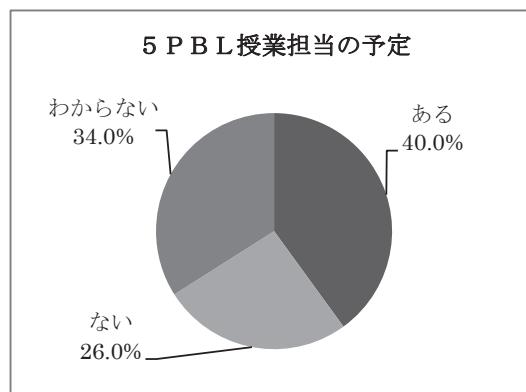
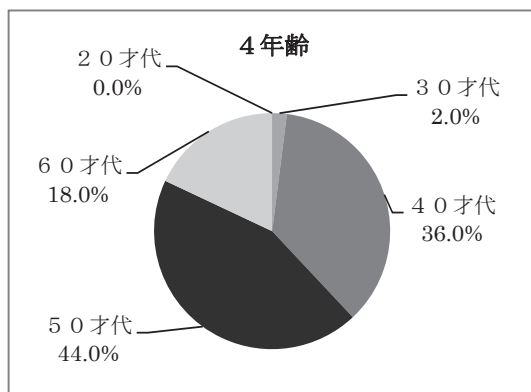
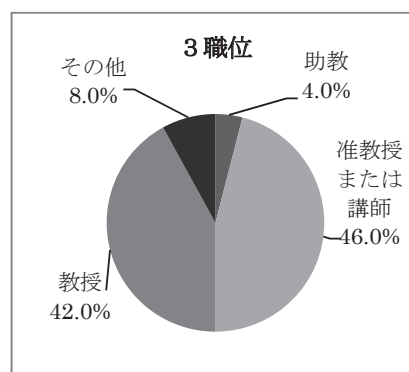
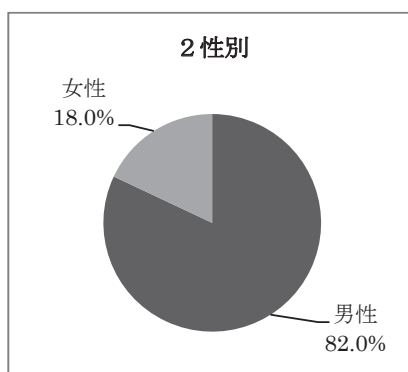
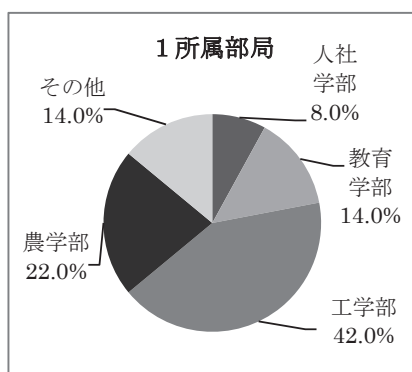


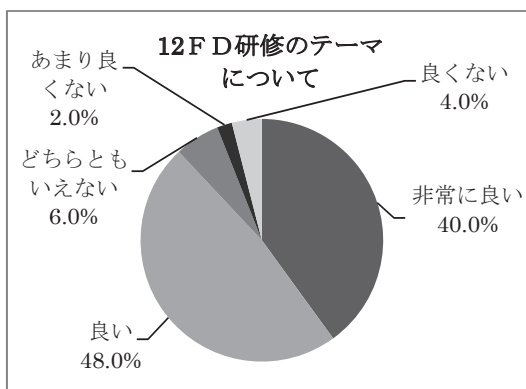
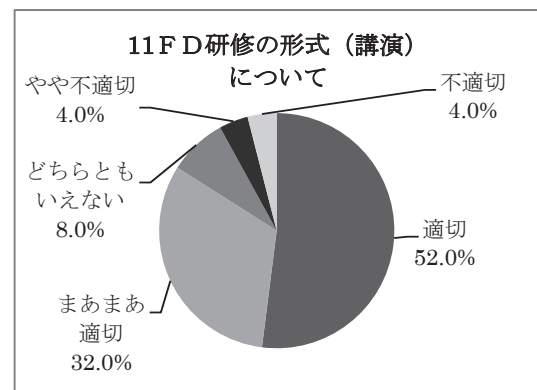
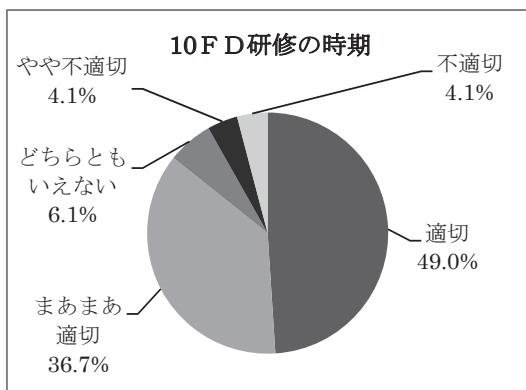
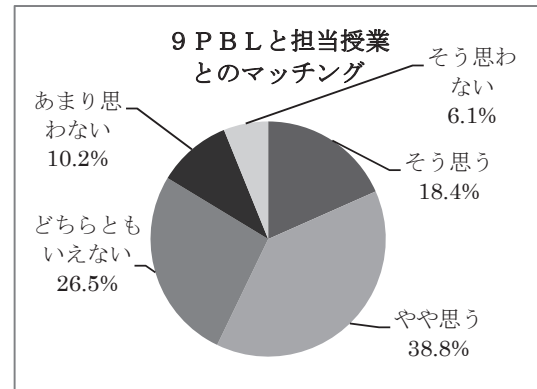
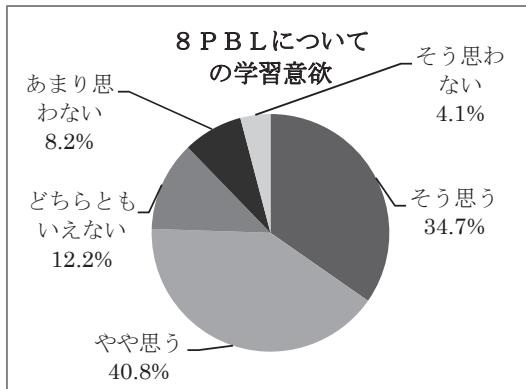
○全学FD研修アンケート

(1) FD研修のアンケート結果(午前)

1 所属部局

	度 数	相対度数 (%)	累積度数	累積相対度数 (%)
人 社 学 部	4	8.0	4	8.0
教 育 学 部	7	14.0	11	22.0
工 学 部	21	42.0	32	64.0
農 学 部	11	22.0	43	86.0
そ の 他	7	14.0	50	100.0
不 明	0	0.0	50	100.0
計	50	100.0		

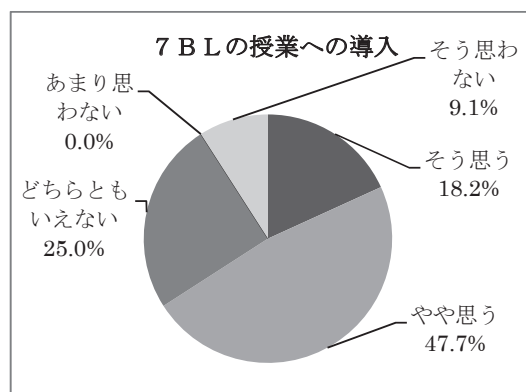
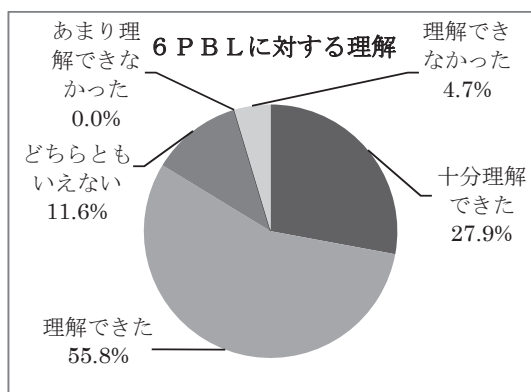
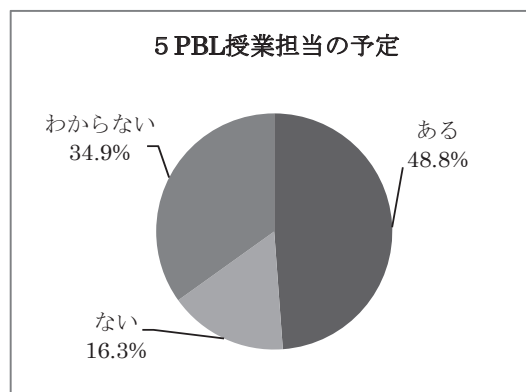
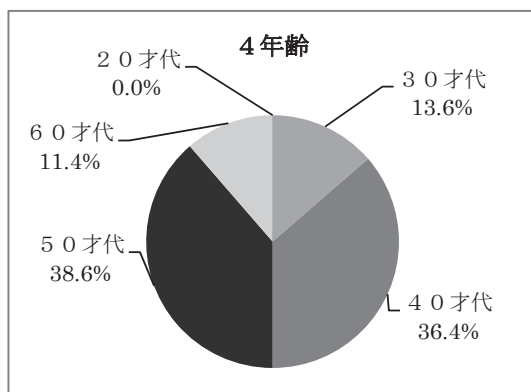
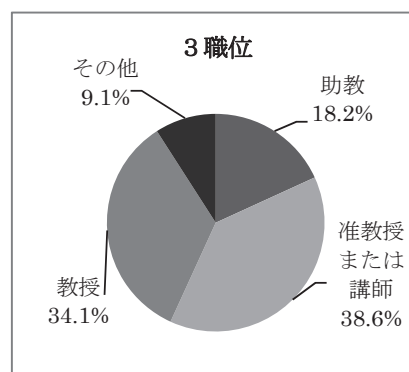
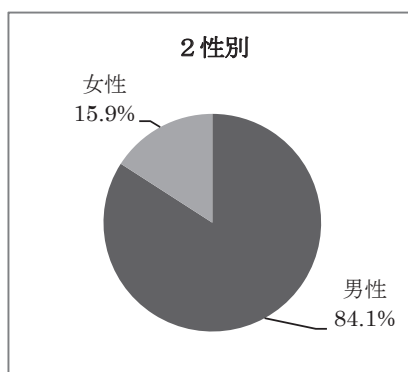
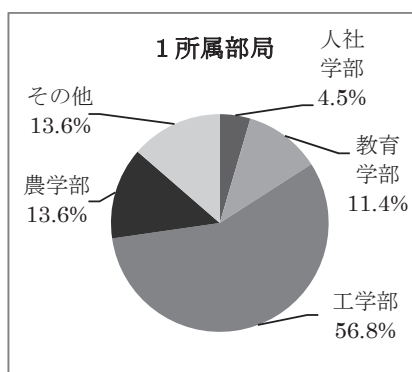


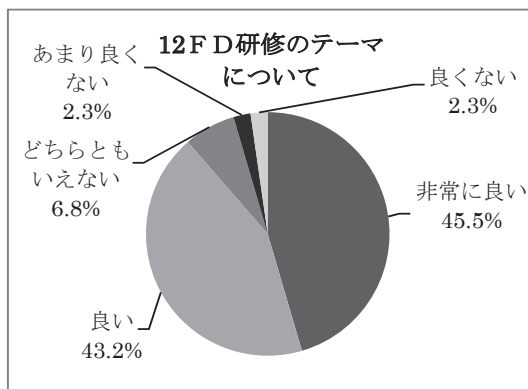
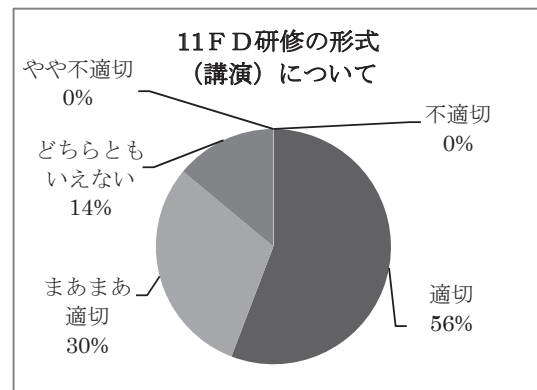
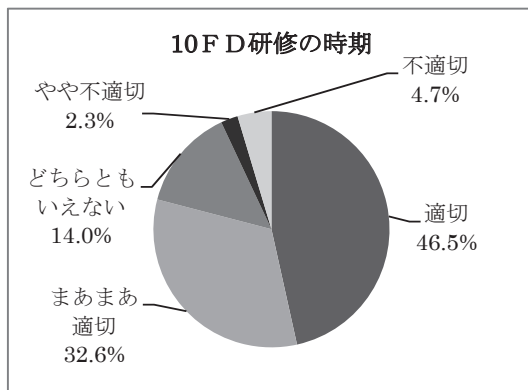
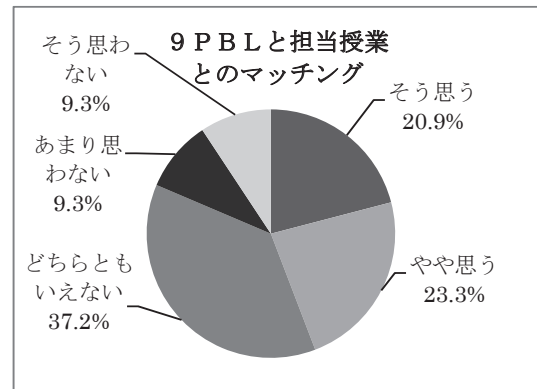
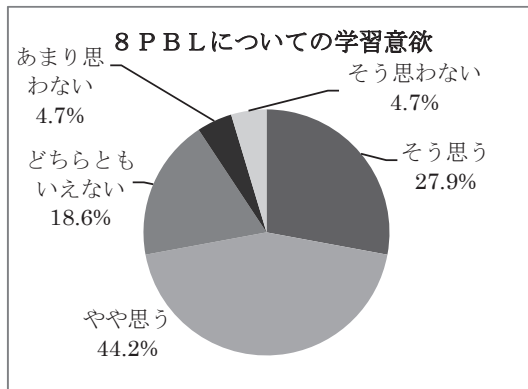


(2) FD研修のアンケート結果 (午後)

1 所属部局

	度 数	相対度数 (%)	累積度数	累積相対度数 (%)
人 社 学 部	2	4.5	2	4.5
教 育 学 部	5	11.4	7	15.9
工 学 部	25	56.8	32	72.7
農 学 部	6	13.6	38	86.3
そ の 他	6	13.6	44	100.0
不 明	0	0.0	44	100.0
計	44	100.0		





(3) FD研修のアンケートの自由記載欄（午前）

- ・もう少しPBLの研修テーマをつづけてほしい
- ・PBLの指導スタイルは、卒論研究、修論研究の指導スタイルとほぼ同様であり、理系の教育においては特に目新しい教育方法とは思えなかった。
- ・専門科目（1～3年次）へのPBLの導入は難しいのではないかな。
- ・専門基礎が十分に身についていないと問題解決の方策を提案することはできない
- ・テーマはよかったのですが、内容は高等教育のためのPBLであったのかは判断が難しいところです。教職課程における「PBLとは何か」の授業のようでした。初等中等教育むけのPBLレッスンのあり方のような……。もしかしたら岩大の先生のPBLレベルはすでにずっとずっと高いように思います。

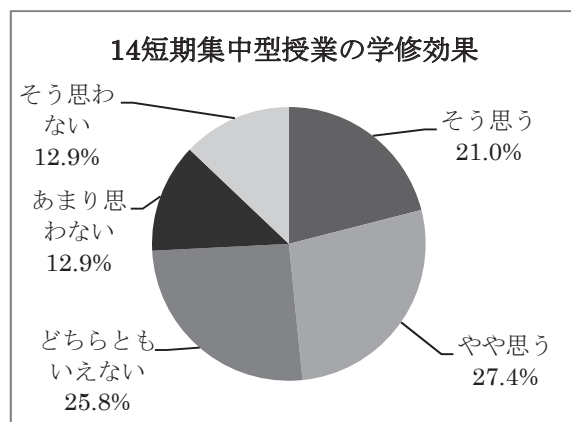
- ・質疑において、「卒研でもプロジェクトを学生に考えさせる」という点があったかつ、これは理数系では実現が難しいと考える。卒業研究着手までに十分にPBLに取り組み、卒業研究ではproblem-basedにシフトするのが良いと考える。→学生の柔軟な発想は取り入れていく。
- ・企画ありがとうございました。よい学びができました。
- ・学内で実施されたので参加する気になった。参加のハードルは低い方がよい。FDに参加すると、教員評価のポイントがつく（この部分のここに該当する）ことを事前にアピールしておくとういと思う。参加率を少しでも上げる手段の一つになると思う。
- ・ヨーロッパ（特にイギリス）でのPBLではない教育方法を是非紹介してほしい。
- ・PBLの導入にあたり、カリキュラムや大学のポリシー、経費、環境、評価の標準化と共有などしつかりを設計する必要性を感じた。また、導入の課題も見えてきました。とても内容深い講演をありがとうございました。
- ・問7については、講義には取り入れづらいが、演習なら取り入れてみたいので「どちらともいえない」としました。問5は、今年度で退職なので。
- ・農学部では卒論がPBLに相当すると思います。PBLばかりだと自分が考える基となる基礎知識が不足します実学の分野では知識を効率よく修得する座学が重要です。本当は世の中をリードする者には広い教養が必要だと思います。PBLばかりだと狭い分野はよく考えられるが広い視野を十分持てるかは疑問です。知識は重要です。最近の学生に知識が不足しています。卒論の課題を学生に理解させるには「PBL」は有効だと思います。

（４）FD研修のアンケートの自由記載欄（午後）

- ・PBLの授業事例の詳しい紹介をお願いします。PBLについて集中的にやってほしい。
- ・PBLを実施したときの経験談（具体的な失敗例・成功例）の話が聞けたことは大変貴重だった。
- ・具体的な事例がたくさん紹介されており、実際にカリキュラムを組むときにイメージがしやすくなった。ありがとうございました。
- ・お世話いただきありがとうございます。
- ・PBL以外の教育スタイルも紹介してほしい。
- ・現実的なPBL効果の一端がよくわかった。
- ・午後の講演は何が言いたいのか全くわからなかった。PBLと何か関係あるのか。研究はやらなくてもよいのでしょうか。
- ・午前中より中尾先生のほうが理解しやすかった。もっと具体例を知りたい。

○2015年度 マテリアル工学科 クォータ科目 学生の授業アンケート結果及び成績について

(1) 第一クォータ科目 ベクトル解析 (2年・前期 62名回答)



☆自由記載欄 (短期集中型に関連するものを抜粋)

- ・週二回開講でとても早く進んでいった。しかし、教員の丁寧な対応のおかげでしっかりと学ぶことができた。
- ・授業スピードが速すぎました。
- ・進度が速く、授業についていくのが大変だった。
- ・試験対策の時間が少なくなるのは残念である。

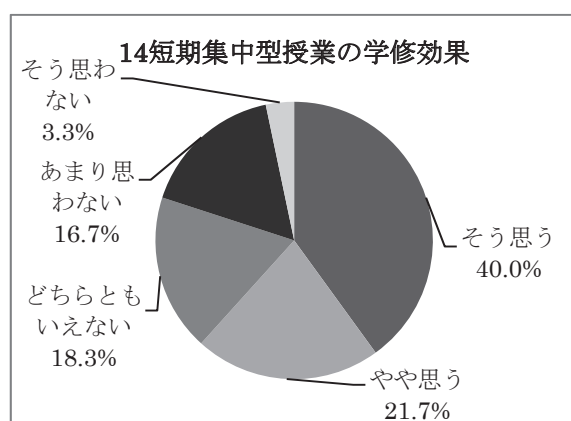
☆授業担当教員のコメント

短期集中型の効果に関しては、微分積分学Ⅰほど際立って出ていませんが、試験結果は

	平均	標準偏差	max	min
2014	68.1	18.0	100	29
2015	71.3	17.8	100	23

となっております。また、試験は昨年より設問数は増加、難易度は若干難化しています。

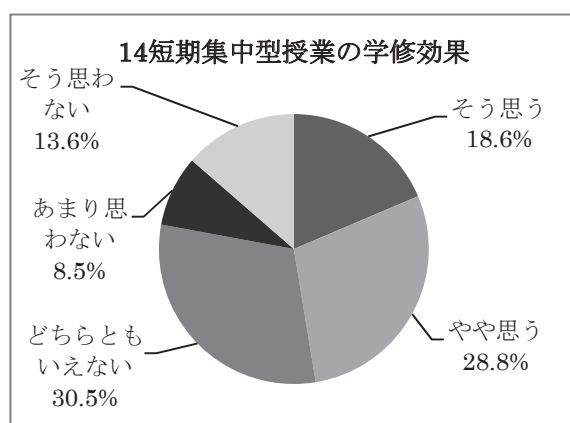
(2) 第二クォータ科目 電磁気学Ⅰ (2年・前期 60名回答)



☆自由記載欄

- ・ベクトルを先に習ったことで、電磁気の式の内容をすんなりと想像することができた。
- ・クォーター制の授業で先にベクトル解析の講義を受講していたのでベクトルの基本的な知識が身についた状態で始められたので非常に良かったと思う。
- ・ベクトル解析→電磁気学と内容がつながっているならいいが、それ以外はわからない。
- ・短期集中型サイコー　めしうま！！
- ・集中型良いと思います。
- ・ペースが早く、復習時間がとれないので、クォーター制より普通がいい。
- ・授業の速さがちょうどよくてよかった。

(3) 微分積分学Ⅰ（1年・前期 59名回答）



☆授業担当教員のコメント

微積Ⅰの問題の難易度は前年度の方が高かったですが、年度ごとのクラス平均の比較をしてみました。3クラス（マテ、社環、応化）同一問題です。

毎回前回の復習からはじめるので、短期集中型の方がスムーズに行きます。実際、マテリアルの14コマ分は、他の2クラスでは15コマかかっています（マテリアルの15回目が統一試験となりました）。前年度に比べ平均点は10点程度アップ、他学科の数値は前年度に対して微増

《微分積分学Ⅰ》

○2014年度	○2015年度（定期試験得点）	
マテ 63名	マテ 63名	応化 84名
aver 53.4	aver 63.8	aver 58.1
stdev 15.8	stdev 20.0	stdev 17.9
max 88	max 100	max 94
min 8	min 6	min 6
社環 67名	社環 70名	
aver 61.1	aver 63.7	
stdev 13.1	stdev 17.4	
max 86	max 96	
min 8	min 6	

平成27年度教育推進機構主催研修会 (FD) 等

■新規採用教員研修会（春・秋）

日 時：平成27年4月3日 10:00～17:00（春）

場 所：G32教室（学生センターA棟3F・エアコン有）

対象者：平成26年10月2日～平成27年4月1日に採用された教員

日 時：平成27年10月6日 13:30～17:00（秋）

場 所：G32教室（学生センターA棟3F・エアコン有）

対象者：平成27年4月2日～平成27年10月1日に採用された教員

内 容：岩手大学の教育システムの仕組み及び学務部、図書館などの教育を行う上で必要となる部署の紹介を行います。

■岩手医科大学全学教育推進機構FDワークショップ（初級編）

日 時：平成27年7月3日～4日 3日11:30～ 4日12:40

場 所：雫石プリンスホテル

対象者：平成26年度以降に採用された助教、参加を希望する教員

内 容：効果的・効率的な授業のデザイン方法と授業方法を学ぶ

■東北大学新任教員プログラム

日 時：平成27年7月18日（土）、9月10日（木）、11月18日（水）、11月19日（木）、
12月18日（金）

場 所：東北大学、東北工業大学

対象者：平成22年4月以降採用の教員（概ね40歳以下）

内 容：大学教員に求められる能力や知識を実践的に学ぶ

■3つのポリシー策定勉強会

日 時：平成27年8月7日（金）13:30～15:00

場 所：G32教室（学生センターA棟3F・エアコン有）

対象者：学位授与の方針、教育課程編成実施の方針等の策定担当者

内 容：学位授与の方針、教育課程編成実施の方針の考え方を説明し、認識を共有した後、各教育プログラムにおける3つのポリシーの作成方針について意見交換を行います。

■ナンバリング勉強会

日 時：平成27年8月7日（金）15:30～17:00

場 所：G32教室（学生センターA棟3F・エアコン有）

対象者：ナンバリング策定担当者

内 容：ナンバリングの概要を説明し、認識を共有した後、各教育プログラムにふさわしいナンバリングの方針について意見交換を行います。

■新規採用教員と学長との意見交換会及び懇談会

日 時：平成27年8月10日（月）

内 容：最近（3～5年以内）に採用された先生方と学長との意見交換会。「第3期中期目標・中期計画」について理解を深めていただき、達成に向けての事業等を考案していただくワークショップを企画しています。

■学士力・学位授与の方針等学生調査結果説明会 ※評価室と共催

日 時：平成27年8月21日（金）13：30～15：00

場 所：G32教室（学生センターA棟3F・エアコン有）

対象者：年度計画／第2期中期目標・中期計画評価書作成担当者

内 容：年度計画達成及び第2期の評価書作成に使うために平成26年度末に実施した調査データについて、概要を説明し、年度計画達成に向けて、どのような方針でデータを利用するかについて意見交換を行います。

■成績評価のガイドライン作成のための説明会

日 時：平成27年9月30日（水）午後

場 所：学生センターB棟1階多目的室

対象者：新カリキュラムの成績評価のガイドラインの策定担当者

内 容：新カリキュラムの「成績評価のガイドライン」の策定にあたって、「成績評価のガイドライン」について意見交換を行い、各学部で認識を1つにして策定にあたれるようにすることを目指します。

■3つのポリシー・ブラッシュアップ・ワークショップ

日 時：平成27年11月24日（火）13：00～15：00

場 所：学生センターB棟1階多目的室

対象者：3つのポリシー策定担当者

内 容：それぞれが作成中のポリシーを持ち寄り、確認する活動を通して、わかりやすくて整合性のあるポリシー作成にむけてのブラッシュアップを行います。

■ナンバリング・ブラッシュアップ・ワークショップ

日 時：平成27年11月24日（火）15：30～17：30

場 所：学生センターB棟1階多目的室

対象者：ナンバリング担当者

内 容：それぞれが作成中のナンバリングを持ち寄り、確認する活動を通して、わかりやすくて整合性のあるナンバリングにむけてのブラッシュアップを行います。

平成27年度 卒業生・修了生アンケート 集計結果

教育推進機構

※斜線箇所：該当する質問項目なし

		人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科学研究科	教育学研究科	工学研究科	農学研究科	
※斜線箇所: 該当する質問項目なし										
基本情報項目	アンケート回答者数		181	221	409	171	8	26	174	46
	(卒業人数)		(218)	(256)	(428)	(206)	(11)	(33)	(196)	(55)
	A 性別	男性	69	90	358	88	4	15	165	26
		女性	112	131	51	82	4	11	9	20
	B 入学年度	H28	1	0	0	0	0	0	0	0
		H27	0	0	1	0	0	0	0	0
		H26	10	0	10	1	7	23	162	40
		H25	0	0	0	0	1	2	6	4
		H24	162	212	362	135	0	1	1	1
		H23	3	6	20	5	0	0	0	0
		H22	1	0	4	27	0	0	1	0
		それ以前	0	1	5	0	0	0	0	0
	C 入学形態	推薦	34	68	88	22			34	0
		一般前期	98	108	238	118	7	19	135	45
		一般後期	30	42	62	25				
		編入(一般)	9	14						
		編入(推薦)			1	編入 5				
		編入(社会人)	1							
		社会人	1				1		0	1
		その他(AO、外国人など)	9	2	3	0	0	7	3	0
	F 卒業後の進路	民間企業	83	60	154	60	2	5	161	26
		公務員	61	32	40	59	4	0	3	9
		教員	5	62	1	2	0	11	0	2
		自営業(実家など)	1	2	1	2	0	0	0	0
		フリー(独立)の専門職	1	1	1	1	0	1	0	0
		大学院	13	19	188	32	0	0	2	4
		研究生	0	2	3	0	0	0	0	0
		専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	7	11	1	6	0	2	1	2	
	未定(わからない)	10	32	20	9	2	7	7	3	
全学共通教育について	QA1: 全学共通教育の必要取得単位数についてどのように考えますか。	少なすぎる	0	0	4	1				
		少し少ない	8	15	22	6				
		ちょうどいい	138	174	294	117				
		少し多い	28	29	59	38				
		多すぎる	7	3	29	8				
	QA2: 受講した全学共通教育科目の内容をトータルにみたとき、どの程度満足していますか？	満足	29	29	36	16				
		やや満足	101	82	139	65				
		ちょうどいい	34	81	153	47				
	少し多い	15	22	54	34					
	多すぎる	1	7	26	8					
専門教育について	QB1: 「学科／課程／コース／専攻」では入学時に期待していた通りの教育を受けられましたか。	そう思う	71	74	84	59	8	19	88	23
		少しそう思う	83	85	160	80	0	6	59	15
		どちらとも言えない	20	38	93	19	0	1	21	5
		あまりそう思わない	7	18	62	10	0	0	3	2
		そう思わない	0	6	9	2	0	0	2	0
	QB2: 他の「学科／課程／コース」(工学部は他学部も)に進路を変更したいと思ったことはありましたか。	そう思う	4	14	53	10				
		少しそう思う	25	38	92	18				
		どちらとも言えない	14	19	54	12				
		あまりそう思わない	35	40	77	22				
		そう思わない	103	110	133	108				
	QB3: 「学科／課程／コース／専攻」での教員の教育に対する姿勢／研究指導について、どの程度満足していますか。	満足	106	65	63	61	7	21	95	23
		やや満足	63	88	176	79	1	4	56	18
		どちらとも言えない	10	48	115	22	0	0	16	3
		やや不満	2	18	44	7	0	1	1	1
		不満	0	2	9	1	0	0	5	1
	QB4: 「学科／課程／コース／専攻」の授業の成績評価について、どの程度満足していますか。	満足	100	74	57	62	7	19	81	19
		やや満足	69	103	187	76	1	6	72	18
		どちらとも言えない	11	34	126	25	0	1	19	7
		やや不満	0	9	31	5	0	0	1	1
		不満	0	1	8	0	0	0	0	1
QB5: 「学科／課程／コース／専攻」の教員と学生の関係について、どのように思っていますか。	いろいろと接触することが多く、親密である	113	102	69	99	7	23	98	29	
	接触はあるが、親密ではない	53	99	218	60	0	2	60	13	
	接触はあまりない	12	9	112	8	1	1	12	1	
	その他	3	8	10	2	0	0	3	2	

		人文社会 科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科 学研究科	教育学 研究科	工学 研究科	農学 研究科	
進路について	QB6: 「学科／課程／コース／専攻」 の学生間の関係について、どの ように思っていますか。	いろいろと接触することが多く、親 密である	100	144	201	110	7	21	109	29
		接触はあるが、親密ではない	62	62	155	47	1	3	47	6
		接触はあまりない	16	11	46	8	0	2	16	8
		その他	3	4	7	5	0	0	2	3
	QB7: 「学科／課程／コース／専攻」 で開講されている授業科目のバ リエーションについてどう思いま	十分な選択肢が用意されている	131	133	220	94	5	16	94	20
		やや少ない	48	83	166	68	3	10	73	24
		大いに少ない	1	5	21	7	0	0	7	2
	QB8: 「学科／課程／コース／専攻」 で受けた教育を全体としてみた とき、どの程度満足しています か。	満足	88	61	56	57	7	16	52	17
		やや満足	82	108	187	87	1	10	85	23
		どちらとも言えない	9	37	104	21	0	0	28	4
		やや不満	2	14	50	4	0	0	7	2
		不満	0	1	10	1	0	0	2	0
	QC1: 「学科／課程／コース／専攻」で 学んだ内容はあなたの卒業／修 了後の進路にどの程度関連があ ると思いますか。	強く関連している	38	102	182	93	5	17	61	21
		少し関連がある	62	75	145	39	1	4	85	13
		関連はない	56	33	52	24	2	1	25	9
		どちらとも言えない/わからない	24	11	30	13	0	4	3	3
	QC2: 「学部／大学院／研究科」の就 職や進学に関する支援にはどの 程度満足していますか。	満足	31	39	66	38	4	10	65	11
		やや満足	66	64	130	48	2	12	51	8
		どちらとも言えない	72	71	155	63	2	3	43	21
		やや不満	11	35	34	13	0	1	9	4
	不満	1	10	24	5	0	0	6	2	
大学生活全般について	QC3: 希望する進路(就職先、進学先) はいつ頃決めましたか。	入学前から	22	46	39	18	修士課程入学前から			
		1～2年次	18	20	30	11	3	12	21	11
		3年次	55	84	154	66	修士課程1年次			
		4年次	76	63	170	51	2	4	61	15
		5年次(獣医のみ)				7	修士課程2年次			
		6年次(獣医のみ)				11	3	7	89	17
		その他	5	8	15	4	その他			
						0	3	3	3	3
	QC4: 進路の準備(就職活動、進学す るための勉強)はいつ頃から始 めましたか。	入学前から	4	6	6	1	修士課程入学前から			
		1～2年次	8	8	15	9	2	7	5	4
		3年次	122	145	175	88	修士課程1年次			
		4年次	40	52	193	45	3	8	110	29
		5年次(獣医のみ)				10	修士課程2年次			
		6年次(獣医のみ)				12	3	9	54	12
		その他	1	10	19	4	その他			
						0	2	5	1	1
	QC5: 決定した進路(就職先、進学先 等)に対してどの程度満足して いますか。	満足	76	100	154	99	4	12	93	22
	やや満足	59	56	130	39	2	9	62	12	
	どちらとも言えない	32	50	93	29	2	3	17	9	
	やや不満	4	5	22	2	0	0	1	2	
	不満	2	6	7	0	0	1	0	0	
大学生活全般について	QD1: どの程度学業を重視したと思 いますか。	重視した	50	65	82	56	6	20	67	25
		少し重視した	91	106	174	64	2	5	77	18
		あまり重視しなかった	35	45	129	43	0	1	23	3
		重視しなかった	2	5	24	6	0	0	7	0
	QD2: どの程度サークル活動を重視し たと思いますか。	重視した	72	76	94	51	1	6	17	1
		少し重視した	36	49	87	34	3	5	26	0
		あまり重視しなかった	30	35	104	38	1	3	40	10
		重視しなかった	18	41	64	21	1	6	37	13
		サークルには入らなかった	21	20	60	25	2	6	54	22
	QD3: 大学事務のサービスについて、 どの程度満足していますか。	満足	17	27	48	12	4	14	27	8
		やや満足	87	94	123	62	3	9	55	18
		どちらとも言えない	49	61	153	64	1	3	76	15
		やや不満	19	27	53	19	0	0	14	2
		不満	6	12	32	11	0	0	2	3
	QD4: 教室、研究室の施設など、学習 環境について、どの程度満足し ていますか。	満足	26	44	78	36	5	15	49	8
		やや満足	92	91	150	67	1	10	69	19
	どちらとも言えない	27	39	94	28	1	1	36	10	
	やや不満	29	34	63	30	1	0	16	7	
	不満	4	10	24	8	0	0	4	2	
大学生活全般について	QD5: 図書館について、どの程度満足 していますか。	満足	52	61	94	44	4	12	48	14
		やや満足	91	95	150	64	2	9	48	14
		どちらとも言えない	18	34	103	30	1	3	70	14
		やや不満	15	22	41	19	1	2	5	4
		不満	1	9	21	12	0	0	3	0

		人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科学部 学際研究科	教育学部 研究科	工学部 研究科	農学部 研究科	
	QD6: 学食、生協について、どの程度満足していますか。	満足	32	35	73	31	4	12	34	8
		やや満足	87	98	167	56	2	8	60	21
		どちらとも言えない	33	51	83	25	2	3	39	10
		やや不満	19	25	56	40	0	3	33	6
		不満	6	11	30	16	0	0	7	1
	QD7: 大学／大学院生活全般についてどう感じていますか。	とても充実していた	70	73	71	49	5	15	46	17
		充実していた	95	104	222	90	2	9	101	24
		どちらとも言えない	9	35	87	24	1	0	15	5
		あまり充実していなかった	3	5	24	4	0	1	10	0
		充実していなかった	1	2	5	2	0	0	2	0
学部・研究科について（工学研究科を除く）	QH1: (人文社会科学部対象)研究科での学習・研究でどの程度努力しましたか。	とても努力した	28	35			3	9		
		努力した	127	146			4	15		
		どちらとも言えない	13	28			1	1		
	(それ以外)この「学部／研究科」の授業科目の単位を習得するためにどの程度努力しましたか。	あまり努力しなかった	9	10			0	1		
		努力しなかった	1	2			0	0		
	QH2: この「学部／研究科」で幅広く学べたと思いますか。	そう思う	77	60			6	17		
		少しそう思う	91	124			2	8		
		どちらとも言えない	6	20			0	0		
		あまりそう思わない	4	14			0	1		
		そう思わない	0	3			0	0		
	QH3: この「学部／研究科」で専門的な勉強・研究ができたと思いますか。	そう思う	85	105			7	21		
		少しそう思う	77	91			1	5		
		どちらとも言えない	9	17			0	0		
		あまりそう思わない	7	7			0	0		
		そう思わない	0	1			0	0		
	QH4: 副専攻制度には総合的な視野を育むという意味で効果があると思いますか。	効果あり	50							
		少し効果あり	75							
		どちらとも言えない	32							
		あまり効果はない	17							
		効果なし	3							
	QH5: (人文社会科学部対象)講義「総合科学論」で、／(人文社会科学部対象)研究科で、総合的な視野を身につけられたと思いますか。	そう思う	29				6			
		少しそう思う	62				2			
		どちらとも言えない	51				0			
		あまりそう思わない	25				0			
		そう思わない	11				0			
	QH6: この「学部／研究科」で学び、自分の専門分野を学問全体の中で相対的に位置づけることができるようになったと思いますか。	そう思う	38				6			
		少しそう思う	98				1			
		どちらとも言えない	32				1			
		あまりそう思わない	10				0			
		そう思わない	0				0			
	QH7: この「学部／研究科」は今後も「総合的な教育・研究を行う学部／研究科」であって欲しいと思いますか。	そう思う	91				7			
		少しそう思う	61				1			
		どちらとも言えない	11				0			
		あまりそう思わない	11				0			
		そう思わない	2				0			
	QH8: この「学部／研究科」で学んで良かったと思いますか。	そう思う	131	136			8	24	87	
		少しそう思う	43	61			0	2	64	
		どちらとも言えない	4	20			0	0	19	
		あまりそう思わない	0	3			0	0	3	
		そう思わない	0	1			0	0	1	
					そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	
工学研究科専門質問	QH1: この「研究科」で専門的な研究ができたと思いますか。				107	57	8	0	2	
	QH2: この「研究科」で専門的な勉強ができたと思いますか。				89	74	5	2	3	
	QH3: この「研究科」で学んだことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が向上したと思いますか。				89	67	10	7	1	
	QH4: この「研究科」で学んだことで、社会に対する関心が高まったと思いますか。				56	71	29	13	4	
	QH5: この「研究科」で学んだことで、社会貢献する意欲が高まったと思いますか。				40	73	42	11	8	
	QH7: 博士前期課程は、あなたにとって有意義でしたか。				98	56	13	4	3	

【意見・要望】

<人文社会科学部>

- お世話になりました！
- この課程は今後、分裂するわけですが、「環境」という分野に関して、様々な方面から考えることのできるこの課程は、総合的学習が可能な、よい課程であったと思います。
- 環境科学課程で学ぶことができ、非常に満足しています。環境をなくさないでください！
- 研究室がほしかった。

平成27年度卒業生・修了生アンケート集計結果

- 行動科学はずっと残っていてほしい。もしもの時は僕が守ります。
- 人は教養の一番大切な部分を学ぶことのできる、とても素晴らしい学部だと思っています。文系学部に対して否定的な意見なんて反映させず、この良さを持ち続けてほしいです。課程、コースに対しての内容ではなくってしまい、すみません。
- 人社も24h入れるようにしてほしい。特殊・卒論の時期に困る。
- 人文社会科学部を「何でも学部」にしないでください。
- 他学部と同等に扱って頂きたい。

<教育学部>

- 4階、生涯の演習室を教員養成の国語科の一部の学生が使用していて生涯の学生が使用できず大変不満。
- ありがとうございます。
- アルバイトで学んだ経験の方が充実していた。学部で学んだことも確かにあるがもう少し実践を全体で取り入れることが求められるように思う。
- お世話になりました！
- この4年【原文ここで終了】
- この4年間、楽しく、充実した生活を送っていました。ありがとうございました。
- ごみ箱が少ないです。
- シャワーを使わせて下さい
- 英語科以外のサブコースの人たちにも、もっと英語に触れる機会を増やしてほしいです。
- 教員が少なくなってきたので(家庭サブコース)、後輩たちのために、増員を検討して下さいがあればありがたいです。
- 教職実践演習の時期だけでもかなりませんか…。
- 研究室のPCを新しくしてほしい。
- 研究室の部屋を確立してほしい。
- 研究室決定は、もっと学生の意志に沿うようにして欲しかった。
- 国語科の学生の居場所(全学年)がほしい。(学習、休み時間の居場所)
- 実践的な内容が増えると良いです。
- 実践的な内容の授業や体験、実習のようなものを早い段階でもう少し経験できるといいなと思います。
- 所属する研究室以外の専門科目を受けやすくしてほしい。(希望する人があきらめるということを減らしてほしい)
- 図書館24時間開けてほしいです。
- 生涯教育課程は実践的な授業が少なく、教育学部のおまけ課程のような扱いが残念でした。
- 選択科目が選びづらかった。
- 全学共通科目の選択必修が多かったと思いました。1年次からもっと自分の専門科目の授業を履修したかったです。
- 大変お世話になりました。
- 特にありませんが、副勉の履習に関する相談で、あいまいな返答しかされなかったので、もう少し、学務の方と連携をとりながら、これから頑張っていたきたいです。

<工学部>

- ○図書館まで、大きくなくていいが、工学部側にも勉強できる場所がほしい。○工学部側にゆうちよ作ってほしかった。
- ・テスト勉強で飲食店を利用することで苦情がよくきていると思いますが、どこの教室が何時から空いているのか、何時まで利用可能なのかをもっと学生全体に理解させるため1枚プリントを作成して渡すなど、一手間あるだけで大学外の一般の方々に迷惑なく、勉学に励むことができるのではないかと思います。・その際暖房や冷房も、あまり高すぎず、低すぎずの温度で良いので積極的に利用することが可能であれば良いと思います。(図書館だけではあきらかに席が足りないのと、工学部からは少し遠いため)・大学外の方に迷惑をかけないという点から喫煙所の設置は必要であると思います。(非喫煙者から見て、明らかに見栄えが悪い。ポイ捨てもOにならない)
- ・喫煙所を各学部施設内に作ってほしいです。・外の喫煙率の高い所に灰皿を設置すれば、ポイ捨てする人が減ると思います。
- ・図書館に機械工学系の本をもっと置いて欲しい。・工学部の食堂を土曜日も営業させて欲しい。・研究室にクーラーが欲しい。
- 1、2年の大事な時期に座学が多く実習が少ない上、その実習がどのように就職した時活用されるかイメージできなかった。学生と学生、教員間のコミュニケーションも他学科、学部と比べて希薄であると考えます。
- 17番教室サムい大学事務員の態度が悪い(学生センター)3号館脇の木が景観の邪魔なので切ってほしい。(高すぎる)
- 1年生の頃は学生がつまずきそうな所をよく考えて教えることで学生にもっと知りたいという感情が出てくるように促してほしかった。
- 3号館の新設早くやってしまった方がいかなと思います。
- 3年次で研究室配属をするべきだと感じた。
- あまり意味がない共通科目をキャンセルしたほうが良いと思います。そのかわりに、専門科目を重視したほうが、大切である。たくさんの共通科目の授業内容はあまり、意味がなく、逆に、専門科目のレポートや宿題をやる学生さんが多いではないですか？？
- アンケートの内容を反映してほしい。
- インターネットセキュリティに関する講義を必修として加えるべきだと思う。教授陣の推薦図書を定期的にまとめて欲しい(古典でも新書でも、小説でも論文でも良い)
- エコ大学でも良いが、冬は上着を着ても寒い授業が、大変だった。
- おかわりください。
- コアタイムの格差が大きすぎる。10:00~14:00の所あれば8:00~21:00の所もある。学部で統一するべきだ。ルールを守らない研究室にペナルティを課す仕組みも必要。

- もう少し、様々な面で大学からの支援等が欲しい。対応がよくない。
- もっと早くから、金属系と物性コースを分けて欲しかった。
- 挨拶ができない教員が多く悲しいです。
- 一年次前期の履修登録期間が短すぎると思う。3月末に一度学科説明会をやり、アイアシスタントの登録を済ませるべきだと思う。
- 一般教養にあまり必要を感じない講義が多い
- 夏は暑く、冬は寒い。エアコンをもっと使うべき。
- 学校の施設をもう少し開放してほしい。→学生が自宅外で勉強できるスペース、時間が限られているため、飲食店等でしかたなく勉強するケースが多い。
- 学食、生協は、物が高いと思います。
- 学食の価格を安くして欲しい。
- 学食を安くしてほしい！
- 校内各箇所に置かれたご意見箱やこのようなアンケートの結果がどの程度影響しているか、どんな意見があってこのように対処したというようなプリントか何かを掲示板に貼って欲しい。
- 学務課や保健管理センターの支所(?)を工学部に作って欲しかったです。
- 喫煙所を工学部キャンパス内に建ててほしい
- 掲示板とアイアシスタントがもっと連動していて自分に関連するニュースが分かりやすい様に通知などが来たらもっと良かったです。アイアシスタントのアプリの様なものがあれば嬉しいです。
- 建物を綺麗にしてほしいです。(3号館)
- 研究室にクーラーを設置してほしい。
- 研究室に空調がないので夏が非常に辛い。
- 工学部4号館も新しくして下さい。
- 工学部は6年間にしてくれるとありがたい。4年間では短い。見かけだけのインターンをやめて長期のインターンにすべき。
- 工学部購買を広くしてほしい。
- 工学部北門と東門のタバコの吸いながらが大量に散らばっていて見苦しい。灰皿を設置してはどうでしょうか。携帯灰皿の中身を捨てるゴミ箱も必要ではないでしょうか
- 受けれる専門科目の種類が少ない
- 授業で習ったことを実際に目で見たり、体験したりする機会をもっと増やしてほしいです。研究室によって設備に差があるところも気になったので改善したらもっといいと思います。
- 授業評価方法をシラバスと異なった方法で行っていた教員がいてびっくりした。抗議しに行った時も「君達の立場を考えなさい」など意味不明なこと言われた。教員が間違いを認めないのはどうかと思う。ちなみにこの評価方法がシラバスと異なっている教科は「ロボティクス工学」である。他にもよく分からない教科があるのでちゃんと発見してほしいし、教授陣の中では、社会人としてなっていない人もいるので、注意していただきたい。
- 情報システムコースの講義でネットワーク系が少ない。学べるプログラミング言語も少ない
- 図書館の文庫本が探しにくい
- 専門表現セミナーのビジネスマナー講座は不要。行うにしても4年次に行うべきでない。
- 他学科のように仮配属でもよいので研究室に配属して欲しい。就職を考えている人にとって、研究室の先輩や先生の情報はとても重要だと思った。
- 大学に対して大学運営能力の向上を願っています。
- 廃液回収する場所を工学部につくってほしい。
- 廃液回収を工学部をお願いします。
- 毎年、テスト期間になると、飲食店での学生の勉強が騒がれます。確かに、飲食店での勉強は問題ですが、それは下級生の子たちに、大学で勉強する場が無いからでしょう。毎度、注意喚起だけで、図書館の開館時間の延長や、土日の教室の開放など、やれることがたくさんあると思います。事実、他大学では、図書館を24時間開けているところもあります。もし、エコ大学が関係しているのであれば、本末転倒ではないでしょうか。学生の質、勉強をさまたげているのですから。エコ大学は学生に何のメリットも無いと、四年間感じてしまいました。
- 夜間勉強できる場所があればよかったと思う。
- 様々な分野のサイエンスに関する講義がある点では、吸収できることが多く良いと思ったが、多すぎて学びきれない。

<農学部>

- 「大動物に強い岩手大学」というスタンスはそのまま、より今後は色々な分野にも力を入れて指導していただけるとありがたいです。獣医学科は6年と長い分、学生が将来について考える時間も必然と多くなり、そんな時岩手大学が学生に良い影響を与えられる存在でいてください。6年間お世話になりました。
- ・教員の言動がきつく感じるがあった。・形がいい化してはいないか 演習林報告が形がいい化してはいないか(書く者が偏ってはいないか)毎年同じ人ばかり書いていないか？
- ・研究室の暖房が17時にはきれるため、もう少し長くつけてほしい。・3年後期の研究室配属人数は全研究室統一で2～4人とするのではなく、各研究室の人数状況に基づいて毎年教員同士が話し合っ、各研究室の定員を決めてほしい。研究室ごとで学生の人数の偏りが酷すぎる。
- エキゾチックアニマルにもふれる機会があるとなお良かったです。
- 夏場の教室にクーラーをつけて頂きたいです。盛岡の夏場の気温は非常に高く、且つ受講生の人数が多いと、暑くて集中できませんでした。
- 夏場の授業の際は、クーラーを付けていただきたいです。
- 学生同士の会話で、「1年生の頃から専門教科を受講したかった。一般教養科目が多く、1～2年生の間にだれてしまった。3～4年生の科目がキツすぎる」という話題がよくでました。
- 工学部の方で授業をするのはやめてほしい。(移動が面倒なので)冷房つけてください
- 大学院進学(に興味がある人)を増やしたいのであれば、もう少し院生(と大学院の実状など)をよく知ることができるようなもの(交流)があってもよいのではないのでしょうか。

平成27年度卒業生・修了生アンケート集計結果

- 他の学部 of 授業を少しは受けてみたかったと思いました。
- 炭焼き体験、林業従事者（公務員以外）と話をする機会がもっと欲しいと感じました。
- 暖房、施設の使用時間など、学生の勉強に対する貢げんが弱すぎる
- 農学生命課程では、コース配属の段階で配属できる研究室がコース毎に制限されてしまう。2年次に研究室のことまで考えるのは、難しいように思った。そのため、要望があればコースの異なる研究室にも配属されるシステムがあると、よいと感じた。
- 農学部棟のトイレは、ドアが閉まらなかったり、音姫の電池が切れていたりして環境が劣悪です。

<人文社会科学研究科>

- 図書館から借りた本について、もう少し長く借りれるようにしてほしい。

<教育学研究科>

- ありがとうございます。
- 楽しい大学院生活でした。
- 実践専攻ではあるが、実践的な授業はほとんどなくて、申し訳程度に教職専門実地研究があるだけだった。
- 小学校の他教科については自分で勉強するしかないというのは修士のカリキュラムとしてどうなのかなあ～とは思っていた。ただ、自分の研究には集中できる環境であったと思う。

<工学研究科>

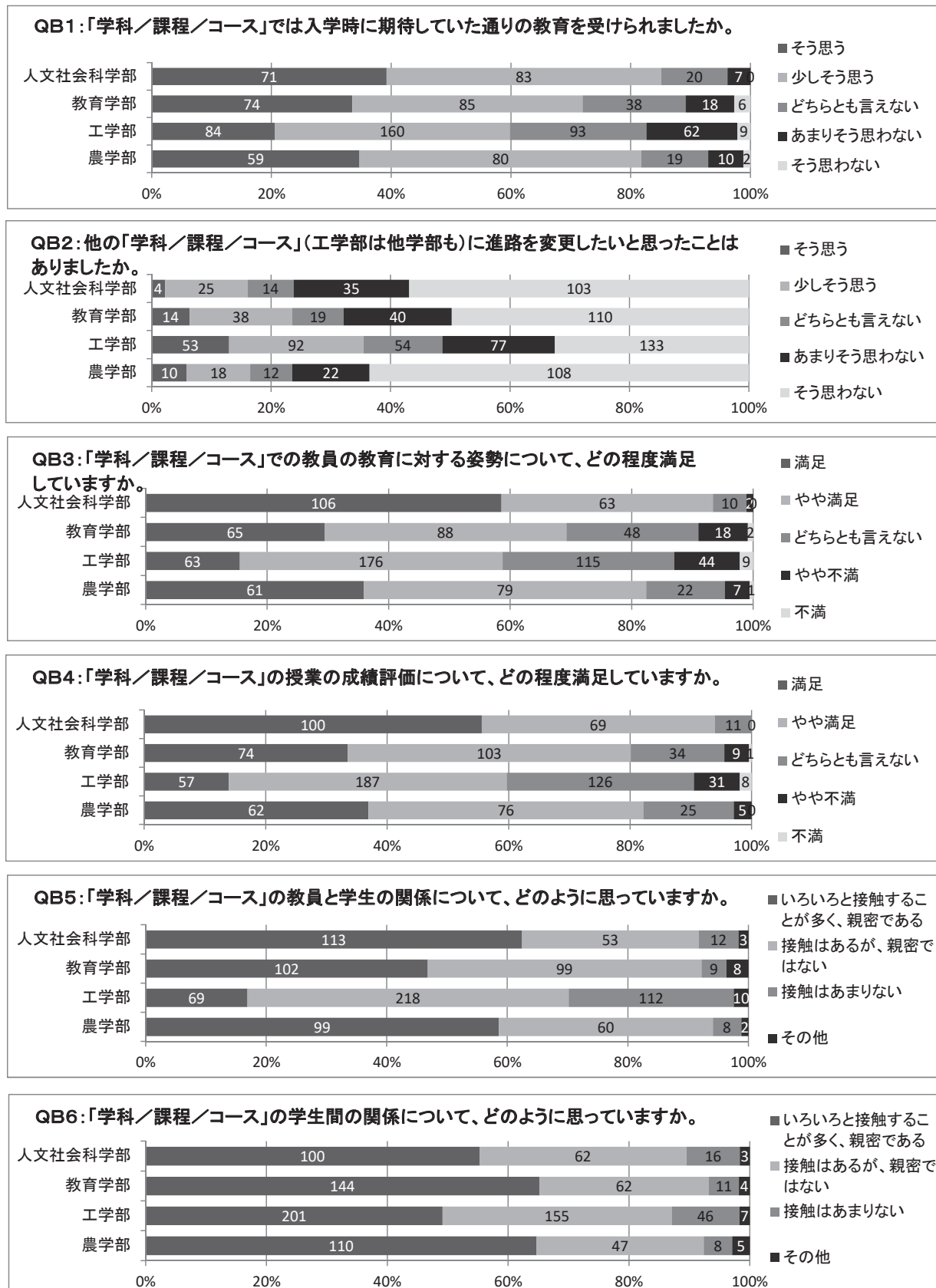
- 空調を整えてほしい、名前をころろ変えないでほしい
- 研究費がもっと欲しかった
- 工食前の駐輪場のマナーが悪いので、指導を強化して欲しい。（ここに限った話ではないが）
- 就職活動の推薦調査の時期の見直し、企業説明会に参加してから、推薦の有無を決めたかったです。
- 振動工学や機械力学特論など振動論の講義があったらきつと受けていました
- 図書館では英字の参考書（専門書）をもっと充実させてほしい。
- 生命系に興味のない私からすると、化学と生命は分けて欲しかった。生命系の勉強に割いた時間を化学に費やしたかった。
- 大学院の生活は、満足という言葉だけでは言い表せないほど、充実していました。携わっている全ての方々に感謝しています。
- 長期インターンシップにおいて大学側がほとんど介入せず、企業に任せているのは本来の教育ではないと思う。授業料を大学が一方的に搾取しているプログラムだと思う。

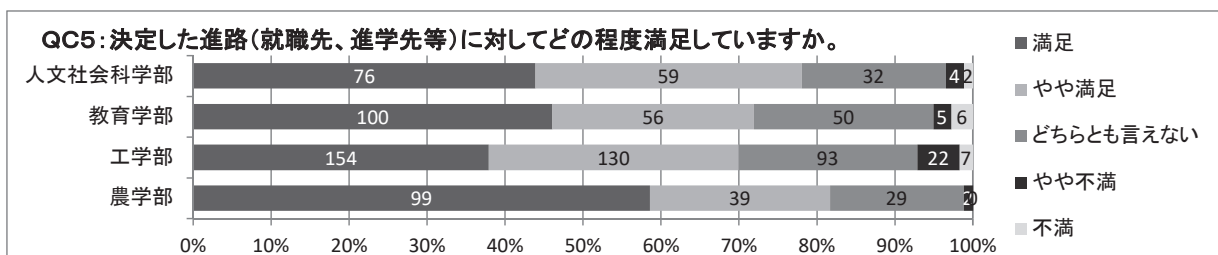
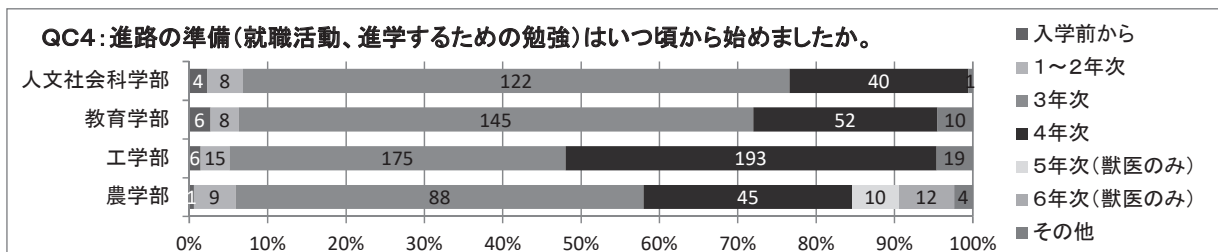
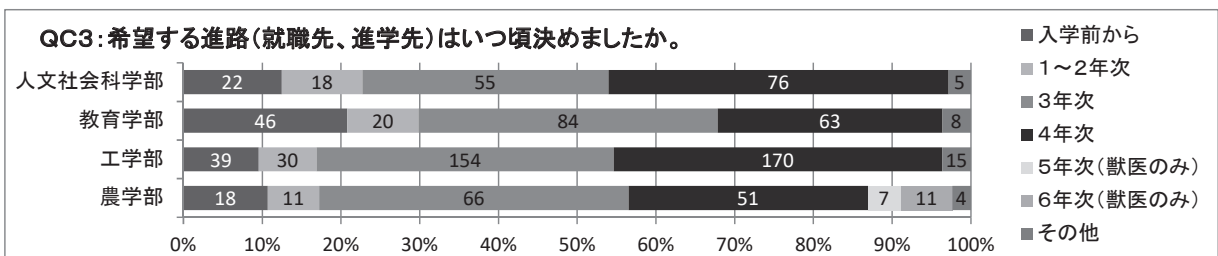
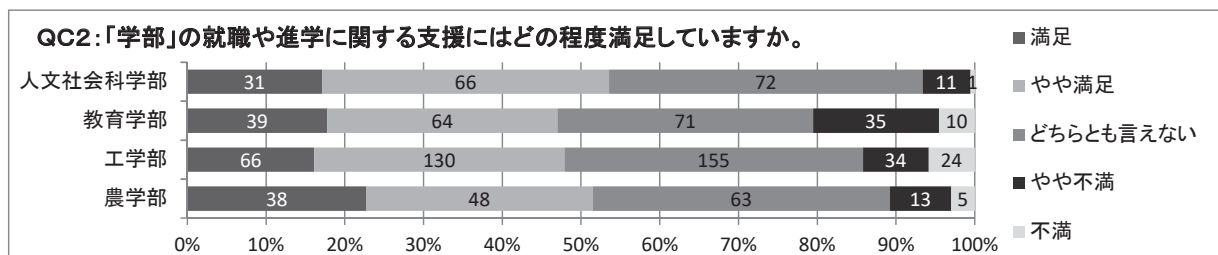
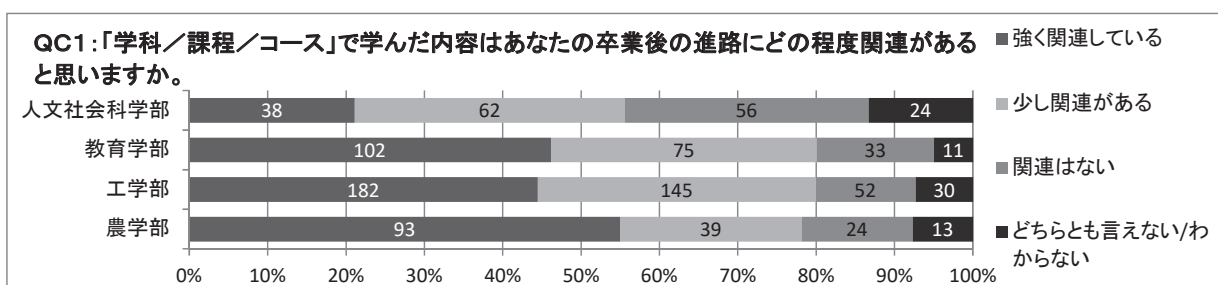
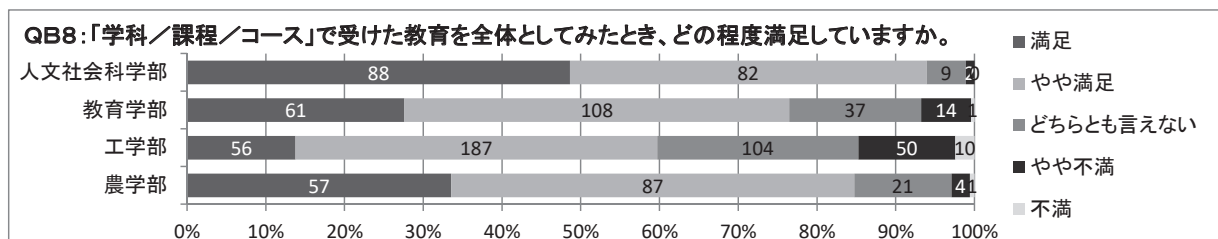
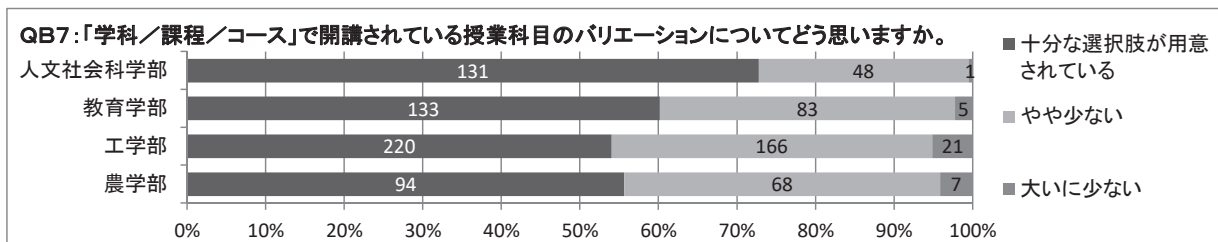
<農学研究科>

- 4号館のコーールドルームについて、1月中旬から故障で使用できず、非常に不便です。金銭面や工事の関係で修理できないのは仕方がないことだと思うのですが、それ以上に学生に今どういう状況でいつ頃から使用できそうなのか情報が入ってきません。研究内容によってはスケジュールを立てるのも難しいと思います。説明不足だと思います。
- 学振とデュアル・ディグリーの併用ができない現状のシステムを今後見直すことはあるのだろうか…
- 教員の評価制度をもっと厳密に設けてほしい。修了に関する条件がゆるい気がします。研究室によって修士論文の出来が違いすぎて、研究室によっては見るに耐えないようなものまであります。いられても困るみたいな理由でだれでも修了させるのはやめましょう。
- 修士論文の形式が専攻内で統一されてないのは如何なものだろうか？最低限の統一はすべきであるし、不公平である。単位認定が甘いと思う。これは修士課程だけではなく、学部についても同様であるが、今のままでは講義に出席せずとも単位が取れてしまうような状況である。真面目にやっている学生が損をし、適当に生きている学生ともいえないような輩が得をする今の状態はおかしい。このような根本には、教授陣のめんどろな学生を早く卒業、修了させたいという利己的な考えがあると思う。これは最早、ある種の職務放棄ではないですか？早急に改善して下さい。最後に修士は学生であり、教授のアシスタントではないことを周知して下さい。
- 他研究室（同コース内、他コースなど）の研究内容について知りたいので、中間報告会を実施したり、修士発表会の日時をずらす等して頂きたい。
- 大学施設の技術職および、教員以外の管理職に関して、十二分な人格、技術、知識をテストした上で、採用（雇用）していただきたいと思います。

平成27年度 卒業生アンケート集計結果(一部抜粋／グラフ)

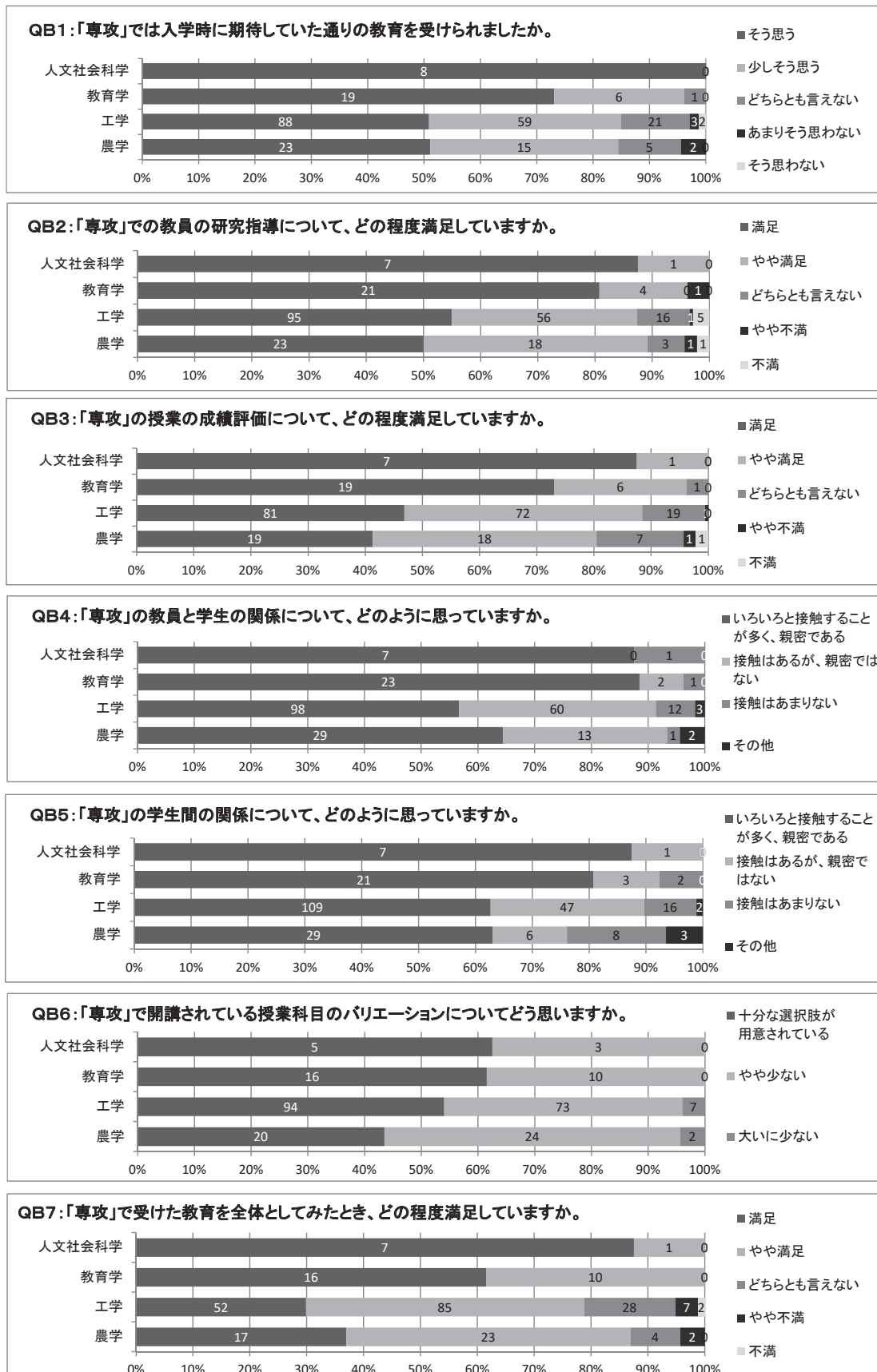
教育推進機構

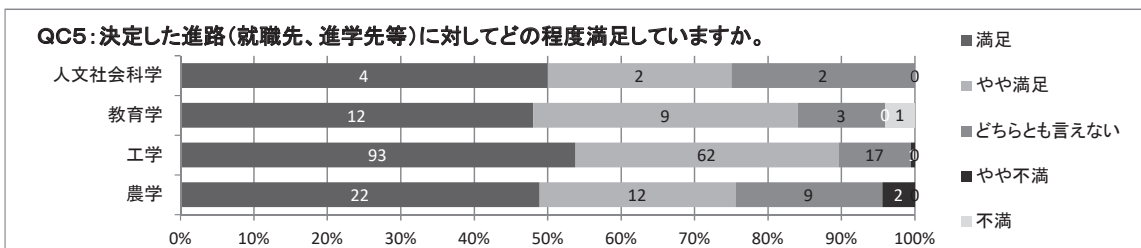
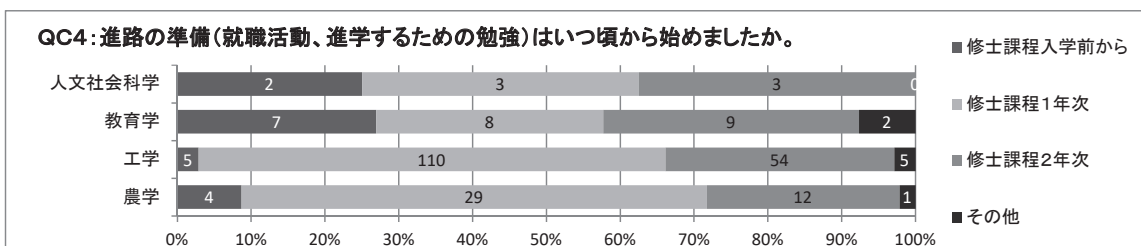
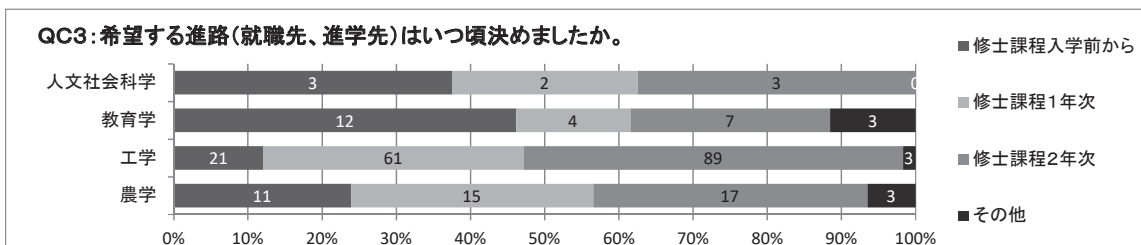
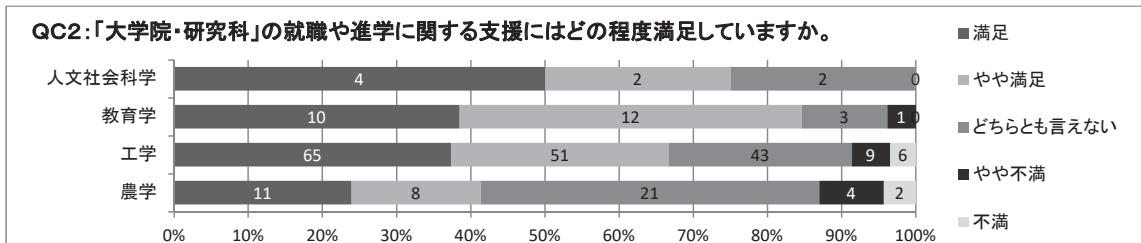
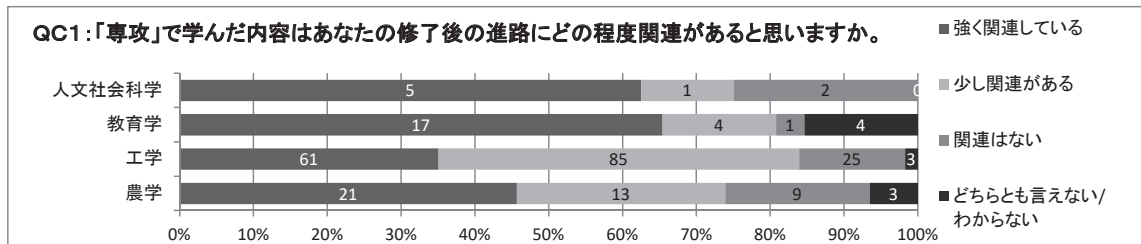




平成27年度 修了生アンケート集計結果(一部抜粋／グラフ)

教育推進機構







学生支援部門

学生支援部門会議委員名簿

(平成 27 年 12 月 18 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	栗 林 徹	教育学部
専任教員	Anders Carlqvist	教育推進機構
	早 坂 浩 志	教育推進機構
兼務教員	菊 池 孝 美	人文社会科学部
	宇佐美 公 生	教育学部
	西 村 文 仁	工学部
	武 藤 由 子	農学部
各学部から選出された教員	山 本 昭 彦	人文社会科学部
	鎌 田 安 久	教育学部
	海 田 輝 之	工学部
	下 飯 仁	農学部
学生支援課長	今 野 和 男	学務部

活動報告

部門長 栗林 徹

東日本大震災被災学生への経済支援を実施

東日本大震災で被災した学生の皆さんの修学支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、寄宿料の免除、岩手大学独自の奨学金の給付などの経済支援を行いました。

入学料免除者は24名、授業料免除者は97名、寄宿料免除者は2名となりました。

駐輪指導の実施

構内環境整備と交通ルールの周知を図るために、平成27年度も春（4月20日（月）～24日（金）まで）と秋（10月5日（月）～9日（金）まで）の2回駐輪指導を行いました。学生支援部門の委員と学生支援課職員の他、学部の学生委員、財務委員、更に盛岡東警察署及び盛岡市交通指導員にも協力いただき、学生議会運営委員会委員と協働で行い、マナーの向上に努めました。また、今年度も引き続き、自転車登録（平成25年度に登録制度を導入）の広報活動に努め、積極的に登録を奨励しました。この制度により自転車の放置や盗難防止に効果が上がることを期待しております。

第58回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の実施

第58回盛岡・つなぎ間ロードレース大会（太田橋脇～ホテル紫苑までの約12km）を、5月23日（土）に開催しました。団体の部では教育学部が、サークル対抗の部では陸上競技部が優勝し、それぞれ4連覇を果たしました。

参加者：学生187名、教職員4名



Let'sびぎんプロジェクトの実施

Let'sびぎんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1件あたり50万円を上限に経費を支援しています。

平成27年度は、審査の結果、2件の地域貢献事業を含む5件を採択し支援を行いました。

平成27年度成績優秀者の授業料免除交付式

平成27年7月31日（金）に、今年度初めて制定された制度で、各学部から選出された12名の学生に対し、成績優秀者授業料免除交付証を授与しました。

保健管理センター教員と担任教員との連絡会

大学における学生の実験・実習中の事故の防止、発達障害学生の修学指導の留意点、障害者差別解消法施行に伴う大学教育の変化について、保健管理センター教員と担任教員との間で情報交換を行いました。

日時：平成27年11月11日（水）15:00～16:30

場所：学生センターB棟多目的室

障がい学生への修学支援に関する学習会の実施

教職員を対象に、障害者差別解消法の施行に伴う対応要領や、障がいのある学生への支援と合理的配慮提供に向けた体制整備について学ぶ機会として、外部の講師を招き学習会を開催しました。学習会には、他大学からも多くの参加があり、今後の支援の参考になる有意義な学習会となりました。

日時：平成27年12月10日（木）15:00～17:00

場所：総合教育研究棟（教育系）北桐ホール

演題1：高等教育段階における障害のある学生支援について

講師：文部科学省高等教育局学生・留学生課 庄司祐介 氏

高橋菜穂子 氏

演題2：大学における障害学生支援と合理的配慮

講師：東京大学先端科学技術研究センター 近藤武夫 氏



文部科学省高等教育局学生・留学生課
庄司祐介氏の講演



東京大学先端科学技術研究センター
近藤武夫氏の講演

ガンチョンタイムの開催

学生議会実行委員会が主催する会食会で、毎回テーマを設定し、そのテーマに沿ったゲストをお呼びして意見交換を行いました。

○第1回：テーマは「キャリア支援課の人と話そう」

日時：平成27年6月1日（月）12:10～12:50

場所：学生センターB棟多目的室

参加者：教職員3名、学生23名、合計26名

○第2回：テーマは「本・新聞と恋人になろう」

日時：平成27年12月16日（水）12:10～12:50

場所：学生センターA棟エントランスホール

参加者：教職員3名、学生15名、合計18名



第2回ガンチョンタイムの様子

学生指導担当教職員研修会・課外活動サークルリーダーシップセミナーの実施

平成27年12月12日（土）に学生センターA棟を会場として、学生及び教職員がそれぞれのプログラムに参加する形式で実施しました。

また、プログラム終了後には教職員と学生とが一堂に会して交流会を開催しました。

参加者：教職員23名 学生45名 合計68名

○課外活動サークルリーダーシップセミナーの内容：

①講演1（教職員と一緒に受講）

「学生生活に関する諸問題」

講師：盛岡東警察署生活安全課長 板澤裕之 氏

②演習とディスカッション

「コミュニケーション講座 ～円滑なサークル運営のために～」

講師：学務部キャリア支援課 高屋敷順子 氏



盛岡東警察署生活安全課長
板澤裕之氏の講演

○学生指導担当教職員研修会の内容：

①講演1（学生と一緒に受講）

②講演

「自転車利用者に対する安全指導について」

講師：盛岡東警察署交通課課長代理 阿部 正 氏

③討議

「学生生活におけるトラブルの現状と対策について」

進行：学生支援部門長 栗林 徹



コミュニケーション講座の様子

寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成27年度は、前期の6月24日（水）に自啓・同袍寮、6月30日（火）に北謳・紅梅寮、後期の12月8日（火）に自啓・同袍寮、12月11日（金）に北謳・紅梅寮のそれぞれ代表者と学生指導担当教職員とが寮運営の在り方等について意見交換を行い、双方の思いが共有できた有意義な機会とな

りました。また、快適な寮生活の実現に向けて大学側と寮生側とも目指すところは同じであり、今後も年2回この懇談会を開催することを確認しました。

上田地域活動推進会と学生との懇談会

平成28年1月13日（水）に、今年度も上田地域活動推進会の皆さまと学生代表（学生4団体、環境マネジメント、学生寮、留学生、吹奏楽部）とが意見交換を行いました。

推進会からは、留学生及び一般学生のゴミ出しルールの厳守や町内活動への参加について要望が出されました。

学生議会から、通常議会でゴミ問題について話し合ったこと。国際課においては、留学生へゴミの捨て方についてオリエンテーションを実施し留学生へ指導していることの報告がありました。また、丸山理事からは、地域住民と学生の交流は非常に大切であり、積極的に取り組んで行きたい旨の話がありました。双方にとって有意義な懇談会となりました。



懇談会の様子

学長と学生との懇談会の開催

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生19名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選んだ理由、改善して欲しいこと、岩手大学に期待すること」として開催しました。

日時：平成28年3月8日（火）16:00～17:30

場所：学生センターB棟多目的室

参加教職員

：学長、理事・副学長、学部長若しくは
副学部長、学生支援部門長、総務企画
部長、財務部長、学務部長等



学生表彰の実施

学生または学生団体（学生が任意に組織したサークル等のグループを含む）が研究活動、課外活

動、社会活動等において、特に顕著な業績を挙げた場合にその学生及び学生団体を学長が表彰しております。

平成27年度の学生表彰は3月18日（金）に行われ、学長賞は個人15名、団体0団体、奨励賞は個人48名、団体8団体に授与しました。



平成27年度 岩手大学学生表彰者名簿

○学長賞(個人)

番号	受 賞 者				指導教員・顧問	受 賞 理 由
	氏 名	学部・研究科	学科・課程	学年		
1	清水 栄作	農学研究科	応用生物化学専攻	2	農学部 教授 木村 賢一	①日本農芸化学会2015年度大会 トピックス賞
2	開 勇人	農学研究科	バイオフィロンティア専攻	2	農学部 准教授 河村 幸男	①10th International Plant Cold Hardiness Seminar : POSTER WINNER AWARD ②第60回低温生物工学会年会 ベストプレゼンテーション賞
3	沢里 克宏	農学研究科	バイオフィロンティア専攻	1	農学部 教授 西山 賢一	①第12回 21世紀大腸菌研究会 口頭発表賞(修士部門)
4	遠藤 友理	工学研究科	フロンティア材料機能工学専攻	2	工学部 教授 藤代 博之	①14th International Union of Materials Research Societies-International Conference on Advanced Materials (IUMRS-ICAM 2015) : Best Poster Award
5	野田 裕介	工学研究科	フロンティア材料機能工学専攻	2		①14th International Union of Materials Research Societies-International Conference on Advanced Materials (IUMRS-ICAM 2015) : Best Poster Award
6	水野 州	工学研究科	フロンティア材料機能工学専攻	2		①14th International Union of Materials Research Societies-International Conference on Advanced Materials (IUMRS-ICAM 2015) : Best Poster Award
7	沼倉 彬雄	工学研究科	電気電子・情報システム工学専攻	1	工学部 准教授 金 天海	①情報処理学会第77回全国大会 学生奨励賞
8	佐藤 和幸	工学研究科	機械システム工学専攻	1	工学部 准教授 三好 扶	①2015年「海の日」懸賞論文 優秀賞
9	齊藤 康明	工学研究科	社会環境工学専攻	1	工学部 准教授 大河原正文	①第50回地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞
10	王 澤鵬	工学研究科	デザイン・メディア工学専攻	4	工学研究科 教授 今野 晃市	①NICOGRAPH 2015 優秀論文賞
11	佐藤 友紀	連合農学研究科	生物資源科学専攻	2	農学部 教授 長澤 孝志	①日本過酸化脂質・抗酸化物質学会第23回年会 若手奨励賞 ②日本アミノ酸学会第9回学術大会 優秀ポスター賞
12	梅川 結	連合農学研究科	寒冷圏生命システム学専攻	2	農学部 教授 伊藤 菊一	①BMB2015(第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会 合同大会) 若手優秀発表賞
13	弗田 彩心	農学部	応用生物化学課程	4	農学部 准教授 宮崎 雅雄	①BMB2015(第38回日本分子生物学会年会、第88回日本生化学会 合同大会) 若手優秀発表賞
14	藤森 一伎	工学部	応用化学・生命工学科	4	ラクロス部顧問 教育学部 准教授 岩木 信喜	①第7回APLUアジア・パシフィック選手権大会 優勝
15	佐藤 洸彬	教育学部	学校教育課程学校教育	2	スケート同好会顧問 人文社会科学部 教授 浅沼道成	①2015年アジアフィギュア杯 第3位 ②第88回日本学生氷上競技選手権大会フィギュア部門 第7位

○奨励賞(団体)

番号	団 体 名	指導教員・顧問	受 賞 理 由
1	弓道部	弓道部顧問 工学部 准教授 向川政治	①第19回東北学生弓道新人戦 優勝
2	バスケットボール部(男子)	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第16回東北大学バスケットボールリーグ 優勝
3	ラクロス部(男子)	ラクロス部顧問 教育学部 准教授 岩木信喜	①第22回東北地区ラクロスリーグ戦 準優勝
4	ラクロス部(女子)	ラクロス部顧問 教育学部 准教授 岩木信喜	①第22回東北地区ラクロスリーグ戦 準優勝
5	競技舞踏部	競技舞踏部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第89回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体総合優勝 ②第39回全東北学生競技ダンスラテン4種目戦並びに第42回全東北学生競技ダンススタンダード4種目戦 団体優勝
6	吹奏楽部	吹奏楽部顧問 人文社会科学部 教授 宮本ともみ	①全日本吹奏楽コンクール第58回東北大会 銀賞
7	岩手大学環境マネジメント学生委員会(EMSC)	環境マネジメント推進室 室長 小川 智	①学内外における環境教育等の環境保全活動
8	岩手大学三陸復興サポート学生委員会	三陸復興推進機構 生活支援部門ボランティア班 班長 名古屋 恒彦	①東日本大震災被災地における復興支援活動

○奨励賞(個人)

番号	受 賞 者				指導教員・顧問	受 賞 理 由
	氏 名	学部・研究科	学科・課程	学年		
1	菊池 研太	工学研究科	フロンティア材料機能工学専攻	1	工学部 准教授 宇井 幸一	①電気化学会東北支部 第28回東北若手の会 優秀発表賞
2	松橋 望	工学研究科	フロンティア材料機能工学専攻	1	工学部 教授 竹口 竜弥	①電気化学会東北支部 第28回東北若手の会 優秀発表賞
3	佐々木 耀一	工学研究科	電気電子・情報システム工学専攻	2	工学部 准教授 大坊 真洋	①平成26年度電気学会 優秀論文発表賞
4	高橋 亮太	工学研究科	電気電子・情報システム工学専攻	2	工学部 准教授 本間 尚樹	①電気情報通信学会東北支部 学生優秀論文賞
5	日下部 文亮	工学研究科	機械システム工学専攻	1	工学部 助教 福江 高志	①第15回日本伝熱学会東北支部学生発表会 優秀プレゼンテーション賞
6	吉野 貴尋	工学研究科	社会環境工学専攻	1	工学部 准教授 大河原 正文	①土木学会東北支部 研究奨励賞
7	藤原 優	教育学研究科	教科教育専攻	2	教育学部 教授 名越 利幸	①日本理科教育学会東北支部東北理科教育賞 院生研究奨励賞
8	鶴巻 啓一	連合農学研究科	生物資源科学専攻	2	農学部 准教授 笹沼 恒男	①第10回東北育種研究集会 優秀ポスター賞
9	小川 慶也	農学部	獣医学課程	6	農学部 准教授 片山 泰章	①平成27年度獣医学術東北地区学会 獣医学術東北地区学会長賞
10	堤 弘夏	農学部	獣医学課程	6	農学部 教授 山崎 真大	①平成27年度獣医学術東北地区学会 獣医学術東北地区学会長賞
11	小山 峻弘	農学部	獣医学課程	5	農学部 教授 佐藤 れえ子	①平成27年度獣医学術東北地区学会 獣医学術東北地区学会奨励賞
12	塚田 滉巳	農学部	獣医学課程	6	農学部 教授 鎌田 洋一	①平成27年度獣医学術東北地区学会 獣医学術東北地区学会奨励賞
13	田畑 優希	教育学部	学校教育課程学校教育	4	教育学部 教授 安川洋生	①第2回日本水環境学会東北支部会 学生部門 優秀発表賞
14	森 隼人	工学研究科	機械システム工学専攻	2	工学部 准教授 三好 扶	①堀川エコロボットコンテスト2015 名古屋工業大学学長賞(最優秀賞)、エコハイク賞、ハイク賞 受賞 ②第1回沖縄海洋ロボットコンテスト ROV部門 敢闘賞(第3位)
15	安田 敬	農学部	農学生命課程	4	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携推進課長 早川 浩之	①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(DL:ディフェンスライン) 選出
16	山下 陽平	農学部	農学生命課程	3		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(OL:オフェンスライン) 選出
17	原田 良	農学部	共生環境課程	3		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(CB:コーナーバック) 選出
18	石松 朝輝	農学部	動物科学課程	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(TE:タイトエンド) 選出
19	菊谷 恭平	工学部	マテリアル工学科	3		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(OL:オフェンスライン) 選出
20	光成 芳	教育学部	学校教育課程学校教育	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(LB:ラインバッカー) 選出
21	江口 拓麻	教育学部	生涯教育課程スポーツ	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ 敢闘賞 ②第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(RB:ランニングバック) 選出
22	加藤 武尊	人文社会科学部	法学・経済課程	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ 最優秀オフェンスライン(OL)
23	佐野 真澄	農学部	農学生命課程	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(MG:マネージャー) 選出
24	菅原 麻美	農学部	共生環境課程	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(MG:マネージャー) 選出
25	橋本 広祐	教育学部	学校教育課程学校教育	4	弓道部顧問 工学部 准教授 向川政治	①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(MG:マネージャー) 選出
26	米田 晋市	教育学部	学校教育課程学校教育	4		①第40回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(MG:マネージャー) 選出
27	高原 夏海	農学部	農学生命課程	3		①第54回東北学生弓道大会女子の部 優勝
28	桃井 秋義	工学部	電気電子・情報システム工学科	3		①第54回東北学生弓道大会男子の部 優勝

平成27年度岩手大学学生表彰者名簿(個人・団体)

番号	受賞者				指導教員・顧問	受賞理由
	氏名	学部・研究科	学科・課程	学年		
29	石原 拓巳	農学部	共生環境課程	3	競技スキー部顧問 工学部 准教授 吉野泰弘	①第1回世界学生スキーオリエンテーリング選手権大会 日本代表選出
30	小山 珠実	農学部	動物科学課程	3	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①全日本学生少林寺拳法連盟設立50周年記念第48回少林寺拳法東北学生大会 男子初段の部 第1位
33	大出 祐友	工学部	社会環境工学科	3		①全日本学生少林寺拳法連盟設立50周年記念第48回少林寺拳法東北学生大会 女子茶帯の部 第1位
31	舟山 紗和	農学部	動物科学課程	2		①全日本学生少林寺拳法連盟設立50周年記念第49回少林寺拳法全日本学生大会 男子茶帯の部 第6位
34	五十嶋 綾乃	教育学部	芸術文化課程 美術	2		
32	久保 勝也	工学部	電気電子・情報システム工学科	2		
35	衣川 鴻佑	人文社会科学部	法学・経済課程	2		
36	細澤 めぐみ	農学部	共生環境課程	3	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤れえ子	①第51回北日本学生馬術大会 馬場馬術競技A4課目 優勝
37	栗原 雅子	農学部	共同獣医学科	1		①第55回北日本学生馬場馬術定期新人戦 各馬賞
38	工藤 正寿	工学部	応用化学・生命工学科	4	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第16回東北大学バスケットボールリーグ 優秀賞
39	柳澤 洸太	教育学部	生涯教育課程スポーツ	4		①第16回東北大学バスケットボールリーグ 最優秀選手賞 ②第16回東北大学バスケットボールリーグ アシスト王
40	中野 有斗	教育学部	生涯教育課程スポーツ	3		①第16回東北大学バスケットボールリーグ 優秀賞 ②第16回東北大学バスケットボールリーグ リバウンド王
41	阿部 慎太郎	教育学部	生涯教育課程スポーツ	2		①第39回東北大学バスケットボール新人大会 敢闘賞
42	海沼 遼祐	教育学部	生涯教育課程スポーツ	2		①第39回東北大学バスケットボール新人大会 優秀選手賞
43	齊藤 絢子	教育学部	生涯教育課程スポーツ	2	バレーボール部顧問 教育学部 教授 菊地 洋一	①第39回東北大学バスケットボール新人大会 敢闘賞
44	菅野 遥華	教育学部	生涯教育課程スポーツ	1		①第39回東北大学バスケットボール新人大会 優秀選手賞
45	花坂 郁也	教育学部	学校教育課程学校教育	4		①第70回国民体育大会バレーボール競技成年男子岩手県代表第7位 ②平成27年度公益財団法人盛岡市体育協会 優秀選手賞
46	馬場 孝輔	工学部	社会環境工学科	1	ボクシング部顧問 工学系技術部 工学系第三技術室 技術室長 赤谷 隆一	①第36回国立大学ボクシング大会 優秀新人賞
47	成瀬 真実	教育学部	芸術文化課程 美術	4	動画研究会顧問 教育学部 教授 本村 健太	①東北映像フェア2015 学生部門 大賞
48	皆川 泰亮	人文社会科学部	人間科学課程	4	落語研究会顧問 人文社会科学部 准教授 五味 壮平	①発掘！おもしろ東北人！2015 最優秀賞



キャリア支援部門

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成 27 年 4 月 1 日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	関 野 登	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
兼務教員	竹 村 祥 子	人文社会科学部
	上 濱 龍 也	教育学部
	水 野 雅 裕	工学部
	佐 野 宏 明	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部
部門長が必要と認めた者	遠 藤 雅 子	C O C 特任准教授

活動報告

部門長 関野 登

I キャリア支援部門会議

第1回 日 時：平成27年5月18日（月）9：00～

会 場：農学部2号会議室（農学部2号館1階）

議 題

- （1）副議長の選出について
- （2）平成27年度への引継事項について
- （3）平成27年度キャリア形成支援事業計画について
- （4）岩手大学におけるキャリア教育について（継続審議）
- （5）第3期中期目標・中期計画について
- （6）学生への岩手県内事業所に関するアンケートの実施について
- （7）その他

報 告

- （1）各学部就職委員会等報告
- （2）平成26年度卒業・修了者の進路決定状況について
- （3）平成26年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- （4）平成27年6月13日の合同就職説明会について
- （5）COC+事業について
- （6）その他

第2回 日 時：平成27年7月29（水）10：30～

会 場：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- （1）岩手大学のキャリア教育の理念について（継続審議）
- （2）岩手大学におけるインターンシップの現状と今後の在り方について
- （3）進路届の提出について
- （4）オープンキャンパスでの「保護者向け就職説明会」の開催について
- （5）岩手県内事業所見学バスツアーの実施について
- （6）「道の駅」就労体験型実習の実施に関する基本協定の締結について
- （7）その他

報 告

- （1）各学部就職委員会等報告
- （2）平成27年度キャリア形成支援事業の実施状況について

- (3) 岩手大学合同就職説明会実施報告
- (4) 岩手県内事業所に関するアンケート結果について
- (5) 東北地区大学間連携インターンシップの状況について
- (6) ジョブシャドウの状況について
- (7) C O C 事業の状況について
- (8) C O C + 事業について
- (9) 平成27年度卒業・修了予定者向けキャリア支援相談状況について
- (10) その他

第3回 日 時：平成27年9月14日（月）15：00～

会 場：農学部2号会議室（農学部2号館1階）

議 題

- (1) 岩手大学のキャリア教育の理念について（継続審議）
- (2) 卒業・修了者及び就職先事業所向けアンケートの実施について
- (3) オープンキャンパスにおける「保護者と入学希望者向け就職説明会」の実施について
- (4) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) キャリア支援相談状況について
- (3) オープンキャンパスにおける「保護者と入学希望者向け就職説明会」実施報告
- (4) 「岩手県内事業所見学バスツアー」実施報告
- (5) 後期開講のキャリア教育科目について
- (6) C O C 事業の進捗状況について
- (7) その他

第4回 日 時：平成27年9月17日（木）～25日（金）※メール会議

議 題

- (1) 岩手大学のキャリア教育の理念について（継続審議）

第5回 日 時：平成27年11月26日（木）9：00～

場 所：教育学部第2会議室（総合教育研究棟（教育系）3階）

議 題

- (1) 岩手大学のキャリア教育の理念について（継続審議）
- (2) 第3期中期目標について
- (3) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告

- (2) キャリア支援相談状況について
- (3) オープンキャンパスにおける「保護者と入学希望者向け就職説明会」実施報告
- (4) 平成27年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (5) 平成27年度キャリア形成支援事業の実施状況について
- (6) ジョブシャドウの状況について
- (7) C O C 事業の進捗状況について
- (8) その他
 - ①平成27年度東北地区大学間連携インターンシップ学生アンケート結果
 - ②平成27年度就職・採用活動時期の変更に関する調査に対する岩手大学における調査結果

第6回 日 時：平成27年12月10日（木）～11日（金）※メール会議
議 題

- (1) キャリア教育の理念の検討に関する今後の進め方について

第7回 日 時：平成28年1月29日（金）10：30～
場 所：教育学部第2会議室（総合教育研究棟（教育系）3階）
議 題

- (1) 第3期中期目標及び中期計画について
- (2) 岩手大学のキャリア教育について
- (3) 岩手大学合同就職説明会の開催について
- (4) 平成28年度新入生向け学部オリエンテーション等でのキャリア形成支援に関する広報並びに新入生等へのキャリアカウンセリングの実施について
- (5) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 平成28年度における就職活動スケジュール等の変更について
- (3) 卒業生・修了生アンケート並びに就業先事業所アンケートについて
- (4) 平成27年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (5) 平成27年度キャリア形成支援事業の実施状況について
- (6) 久慈市内事業所見学バスツアーアンケート結果について
- (7) 東北地区大学間連携インターンシップ受入事業所アンケート結果について
- (8) キャリア支援相談状況について
- (9) 「C O C 事業」及び「C O C + 事業」の進捗状況について
- (10) その他

第8回 日 時：平成28年3月11日（金）10：30～

場 所：人文社会科学部1号館第2会議室（2階）

議 題

- （1）平成27年度の総括
- （2）平成28年度キャリア形成支援事業計画（案）について
- （3）平成28年度への引継事項について
- （4）その他

報 告

- （1）各学部就職委員会等報告
- （2）青少年の雇用の促進等に関する法律の周知について
- （3）岩手大学卒業生・修了生調査報告等について
- （4）平成27年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- （5）平成27年度キャリア形成支援事業の実施状況について
- （6）キャリア相談状況について
- （7）「COC事業」及び「COC＋事業」の進捗状況について
- （8）その他

II キャリア形成支援事業

1 キャリア教育科目の実施

- （1）全学共通教育科目の「キャリアを考える」

前期：履修生47名、後期25名

- （2）全学共通教育科目の「地場産業・企業論」

岩手県立大学との共同開講

履修生岩手大学28名、岩手県立大学3名

2 キャリアガイダンス

- （1）平成27年4月実施

- ・集団面接実践練習講座、参加者17名
- ・グループディスカッション実践練習講座、参加者18名
- ・集団面接実践練習講座、参加者20名
- ・グループディスカッション実践練習講座、参加者14名
- ・集団面接実践練習講座、参加者17名
- ・グループディスカッション実践練習講座、参加者17名

- （2）平成27年5月実施

- ・集団面接実践練習講座、参加者7名
- ・【オリエンテーション】進路を考えるガイダンス、参加者167名



- ・グループディスカッション実践練習講座、参加者4名
- ・集団面接実践練習講座、参加者1名
- ・グループディスカッション実践練習講座、参加者2名
- ・【自分を知るガイダンス】自己理解とセルフブランディング、参加者28名

(3) 平成27年6月実施

- ・工学研究科就職活動スタートガイダンス、参加者44名
- ・工学部就職活動スタートガイダンス、参加者46名
- ・キャリアガイダンス「働く」を考える、参加者10名
- ・農学就職活動スタートガイダンス、参加者23名
- ・人文社会科学部及び教育学部就職活動スタートガイダンス、参加者63名
- ・就職活動スタートガイダンス【全学部未参加者対象】、参加者39名
- ・合同就職説明会【平成27年度卒業・修了者予定者対象】、参加者68名 80企業
- ・自己分析対策ガイダンス、参加者68名
- ・自己分析対策ガイダンス、参加者72名

(4) 平成27年7月実施

- ・業界研究ガイダンス、参加者52名
- ・業界研究ガイダンス、参加者58名
- ・業界・企業研究実践講座【岩手県内企業】、参加者16名



- ・業界・企業研究実践講座【岩手県内企業】、参加者17名
- ・業界・企業研究続編：優良企業の見つけ方ガイダンス、参加者41名
- ・業界・企業研究続編：優良企業の見つけ方ガイダンス、参加者44名
- ・事業所見学バスツアー参加者（学生向け）事前説明会、参加者35名

（５）平成27年８月実施

- ・岩手県内事業所見学バスツアー【滝沢市】、参加者22名
- ・岩手県内事業所見学バスツアー【一関市】、参加者17名

（６）平成27年９月実施

- ・岩手県内事業所見学バスツアー【北上市】、参加者16名



- ・岩手県内事業所見学バスツアー【奥州市】、参加者15名

（７）平成27年10月実施

- ・就職活動リスタートガイダンス、参加者17名
- ・営業職・事務職業務理解ガイダンス、参加者21名
- ・営業職・事務職業務理解ガイダンス、参加者15名
- ・コミュニケーション講座～第一印象の磨き方～、参加者11名



- ・職務適性テスト受検会、参加者59名
- ・職務適性テスト受検会、参加者57名
- ・久慈市バスツアー参加者への事前説明会、参加者2名

(8) 平成27年11月実施

- ・職務適性テスト結果解説会、参加者62名
- ・職務適性テスト結果解説会、参加者54名
- ・筆記試験対策ガイダンス、参加者59名
- ・筆記試験対策ガイダンス、参加者48名
- ・岩手県内事業所見学バスツアー【久慈市】、参加者29名
- ・エントリーシート対策ガイダンス、参加者94名
- ・エントリーシート対策ガイダンス、参加者64名

(9) 平成27年12月実施

- ・面接対策ガイダンス、参加者76名
- ・面接対策ガイダンス、参加者81名
- ・農学部就職ガイダンス、参加者41名
- ・キャリアカフェ☆内定者編、参加者82名



- ・エントリーシート記入実践講座、参加者31名
- ・エントリーシート記入実践講座、参加者28名
- ・就職活動準備総復習（総まとめ）ガイダンス、参加者91名
- ・就職活動準備総復習（総まとめ）ガイダンス、参加者84名

(10) 平成28年1月実施

- ・キャリアカフェ☆マスコミ・金融・インフラ編、参加者31名

(11) 平成28年2月実施

- ・キャリアカフェ☆官公庁・公告・メーカー編、参加者27名
- ・企業合同説明会対策ガイダンス、参加者67名
- ・企業合同説明会対策ガイダンス、参加者83名
- ・ワーク・デザイン・カフェ（公務員編）、参加者31名

(12) 平成28年3月実施

- ・ 集団面接実践練習講座、参加者16名
- ・ グループディスカッション実践練習講座、参加者16名
- ・ 集団面接実践練習講座、参加者18名
- ・ グループディスカッション実践練習講座、参加者18名

3 大学主催学内合同就職説明会

- ・ 平成27年6月13日、参加事業所80、参加学生68名
- ・ 平成28年3月1日～3日、参加事業所331、参加学生2,524名



4 保護者及び入学希望者向け就職説明会

- ・ 平成27年8月6日、参加者38名
- ・ 平成27年10月17日、参加者15名



5 インターンシップ及びジョブシャドウ

(1) 東北地区大学間連携インターンシップ

インターンシップ参加者62名、受入事業所34箇所

事前指導Ⅰ：平成27年5月12日、参加者94名

マッチング後説明会：平成27年6月8日、参加者43名

事前指導Ⅱ：平成27年6月16日、参加者77名

(2) 工学部インターンシップ

参加者101名

(4) 農学部インターンシップ

参加者85名

(5) ジョブシャドウ

ジョブシャドウ参加者43名、受入事業所20箇所

説明会：平成27年7月2日、7日、参加者90名

事前勉強会：平成27年7月18日、21日、参加者44名

PROG事後検査：平成27年7月18日、21日、参加者44名



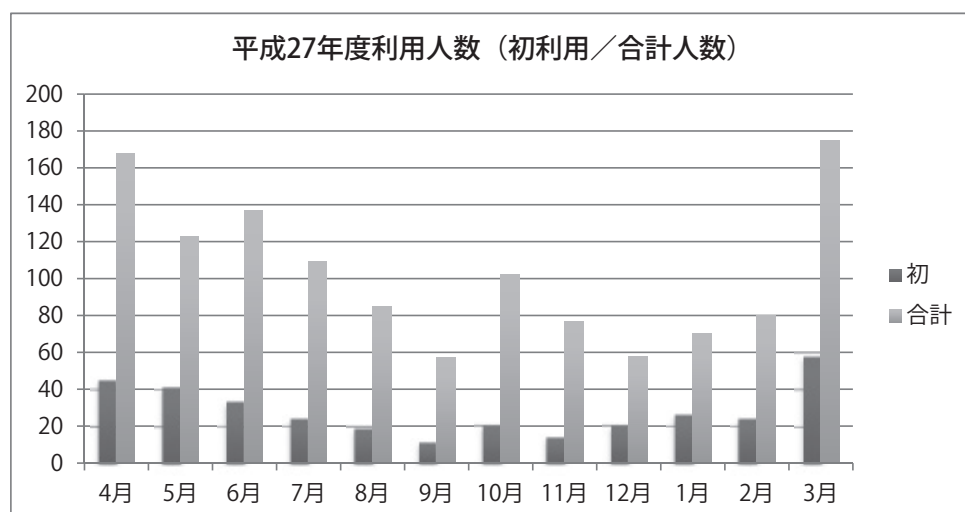
プレゼン基礎講座：平成27年9月30日、参加者35名

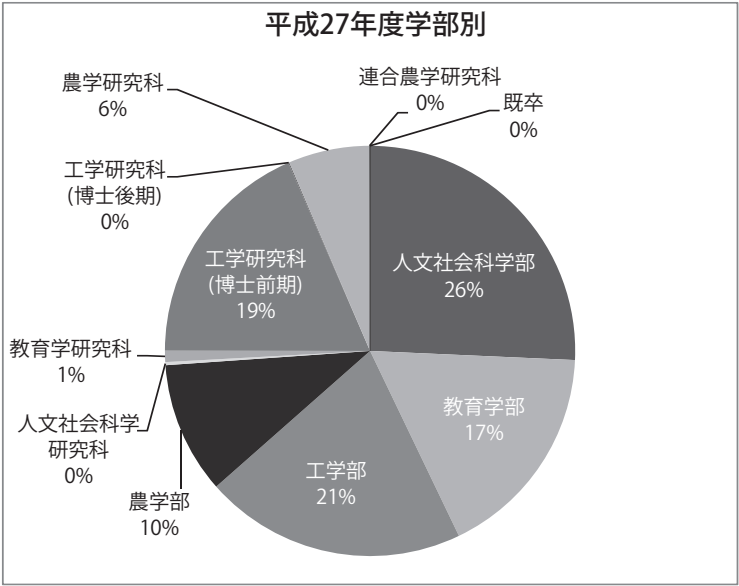
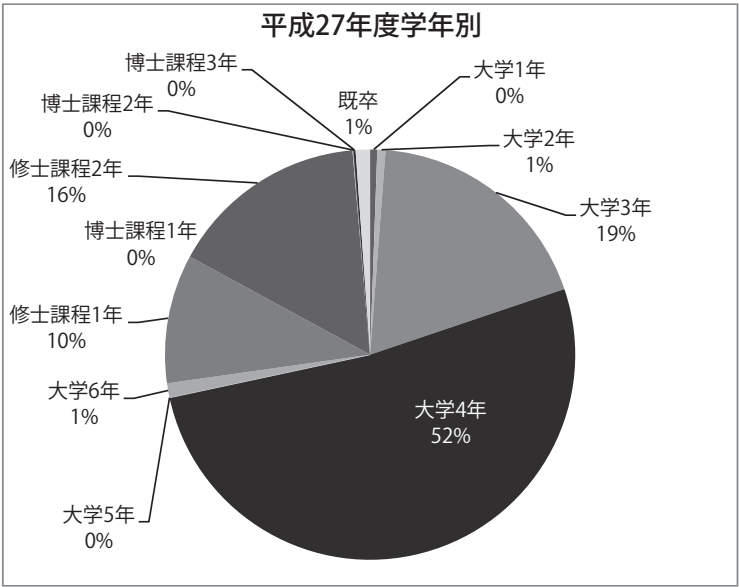
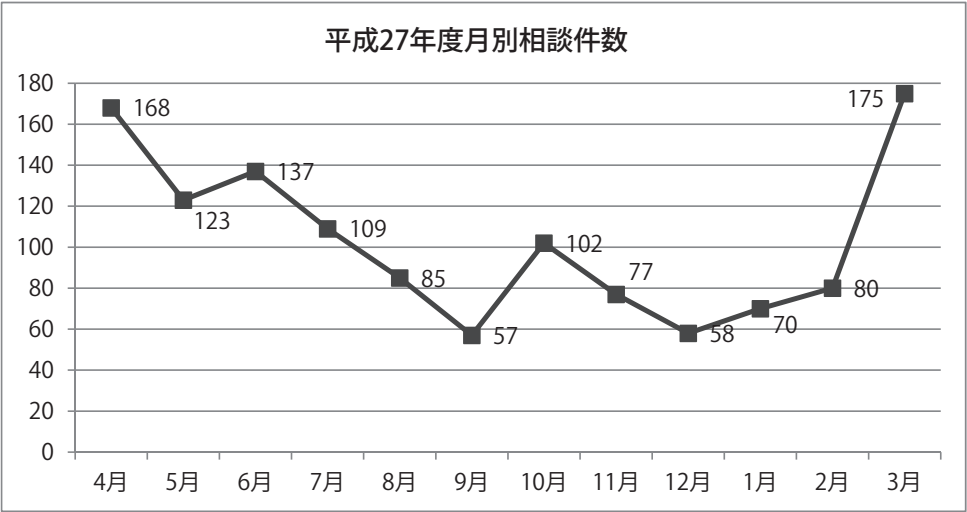
事後報告会：平成27年10月31日、参加者70名

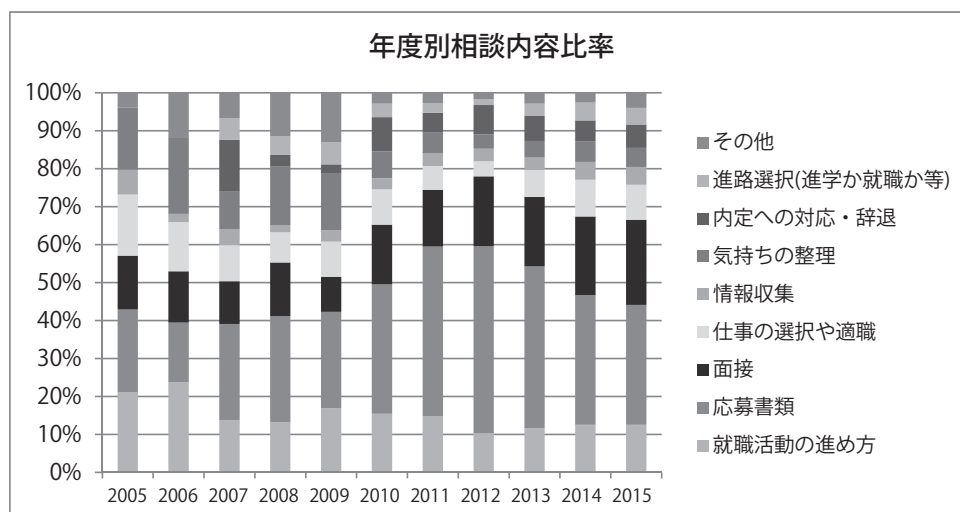
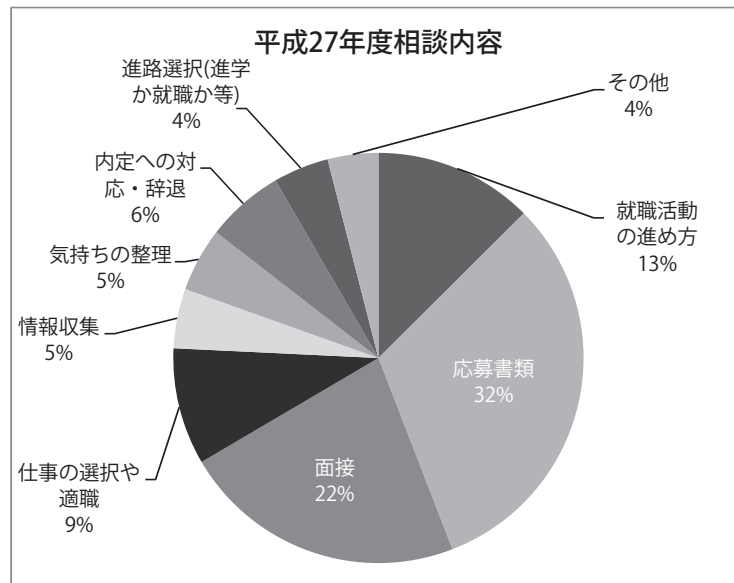
フォローアップ研修：平成27年10月31日、参加者38名

PROG事後検査：平成28年1月21日、参加者37名

Ⅲ キャリア相談









その他（委員会等）

平成27年度入学前教育実施及び小委員会の設置について

教育推進機構

□実施の経緯

教育推進機構（旧・大学教育総合センター）では、平成18年度に入学前教育の試行を行い、平成19年度から運営委員会の基に入学前教育実施小委員会を設置し、全学的体制で入学前教育を実施しています。これは、AO、推薦入試など、従来の「入試」以外の方法で早い時期に入学が決まる生徒が増えてきたことに伴い、それらの生徒の（合格後、実際に入学するまでに3、4ヶ月あることによる）学習意欲の低下、学力の不足といった問題が指摘されていることを受け、生徒の学習意欲の低下、学力の不足を補うための取り組みの1つとして検討し、実施しているものです。平成19年度の提出率は約65%でしたが、その後、各学部のご協力もいただき、平成21年度の提出率は約99%、平成24年度には100%となりました。

また、全学体制になり、多様な専門の教員が選ぶことで、課題図書のパリエーションも増え、対象生徒に多様な選択肢を与えることが可能になりました。平成20年度より各課題図書を推薦した教員の学部がわかるようになっておりますが、必ずしも進学予定学部の教員が推薦した本を選ぶわけではなく、「（進学予定）学部の教授のおすすめの本をあえて選ばなかったことで、逆に視野が広がったと思う。」のように総合大学に進学するメリットを享受している生徒もいます。

この間、対象生徒へのアンケート、及び、対象高校へのアンケートも実施しており、この取り組みについて好意的な評価をいただいています。

これらの経緯を経て、平成24年度第11回大学教育総合センター運営委員会（3月6日）の審議了承により、平成25年度からは、運営委員会の下に常設の入学前教育実施小委員会を設置し、全学的な取り組みとして入学前教育に取り組むこととなりました。

□入学前教育の目的と内容

前述の通り、一般的に、入学前教育を実施する目的として、大きく2つが考えられます。1つは「学習意欲の低下を防ぐ」、もう1つは「学力の不足を補う」です。この場合の「学習意欲の低下」は、合格直後は高かった学習意欲が、実際に入学するまでの間に3、4ヶ月の間があることにより、低下してしまう現象を指します。

教育推進機構では、「全学体制」で実施する入学前教育では、前者の「学習意欲の低下を防ぐ」ことを主な目的とし、どの学部に進学する生徒にも共通で必要となる「文書作成能力」（＝「指定された文献を丁寧に読み、指示に従って正確に文書としてまとめる」）の向上を目標とした課題を提案しました。これは、「学力の不足を補う」ための「学力の不足」が具体的に何なのか、それが各学部学科課程によって異なることが想定され、「全学共通」としての課題設定が難しい（実施するとすれば、各学部ごととなり、学部にかなりの負担が生じてしまう）ことが理由として挙げられます。

さらに、推薦入試合格者への対応は高等学校により大きく異なり、大学からの「入学前教育」の実施について、歓迎する声から生徒への過度な負担を心配する声まであり、教育推進機構では、あくまでも「高校教育」には抵触しない範囲、また、生徒（及び高校教員）への負担が重くならない範囲での実施を考えました。入学が決まった大学からの「大学の学習のほんのわずかな先取り」の働きかけにより、「大学生になる」ことに対しての生徒の期待感をふくらませ、学習意欲を向上させて、高校での学習にも身を入れてもらうことを狙っています。

これらの検討によって、「指定された課題図書の中から1冊を選んで読み、指示に従ってレポートを作成する」という現在の入学前教育としての「読書レポート」の作成が開発され、現在に至っています。生徒から提出されたレポートについては、各学部の教員のご協力のもと、300文字程

度のコメントを作成して生徒に返送しています。余裕のある生徒は、コメントを読んだ上でレポートを改善し、再提出しています。

ただし、「学力の不足を補う」ことも将来的には検討する必要があると考え、教育推進機構では、教員に負担をかけずに実施できるe-ラーニングの利用について検討を進めてきました。これまでも高校までの数学の範囲を効率よく学ぶための数学教材や、総合的な英語力を測定できる英語教材の提供等を行ってきており、今後も、各学部からの要望を取り入れ、必要な教材の提供する予定です。平成25年度は、工学部から数学、英語のe-ラーニングの必修化の要望があり、教材の準備や対象生徒への情報提供に努めてきました。

同時に、各学部独自で入学前教育を実施するのであれば、その実施を支援することも委員を通して伝えており、例えば、教育学部が実施している推薦入試合格者向けの「レポート課題」の資料を同封して対象者に送付していますし、工学部に進学予定者の所属高校長あてには工学部長からの文書を送付しています。また、前述のように、工学部進学予定者に対する数学と英語のe-Learningの実施に協力しています。

また、AO入試の合格者に対しては、読書レポートとe-Learning 教材学習以外に、入試センターの専任教員が主担当となって別途、入学前課題を実施していますが、今年度からAO入試合格者対象の入学前課題においてもプレ・アイアシスタントでの運用を検討しており、全学的な入学前教育の実施にあたっては入試センターとも連携・協力しつつ行う方向です。

□実施上の工夫

入学前教育を実施するにあたって難しい点は、対象となる生徒への連絡方法（コミュニケーション方法）です。平成18年度より試行錯誤しながら、以下の工夫を行いました。

・入学手続き時の住所シール

現在、推薦入試合格者への合格通知等は、受験生が試験時に記入した住所シールを利用しており、大学（入試課）では、受験生の住所等を管理していません。そこで、以前は、機構のスタッフが入学手続き時に提出される誓約書に書かれている住所を入力して住所情報を作成していました。これは、入学手続き時（12月15日頃）から年内発送（12月25日頃）までの期間が非常に短く、負担が大きい業務でした。平成23年度からは、入学手続き時に入学前教育用の住所シールへの住所記入を依頼することになりましたので、住所情報作成にかかる負担を減らすことができました。

・プレ・アイアシスタントの運用

対象生徒との連絡方法は郵送が大原則ですが、それだけでは不十分だと考え、対象生徒とのコミュニケーションの場として、入学前教育専用Webシステム「プレ・アイアシスタント」を開発・運用しています。レポートの提出・コメントの返却の他、様々なメッセージを発信したり、質問を受け付けたりしています。また、これは「レポート提出状況管理システム」としても重宝しており、〆切後すぐに提出状況をご連絡できる体制を整えることができました。

・本の入手方法の改善

対象生徒より「読みたい本が売っていなかった（手に入らなかった）」という意見がよせられたので、大学生協と連携して、FAXで申し込めば本が購入できるような体制をとっています。また、生協の書籍コーナー（ワゴン）で扱う他、推薦入試合格者向けのイベント等の時にも課題図書を販売しています。

・コメントの作成方法

コメントの作成は、「推薦した図書に対する読書レポートは推薦した学部が担当する」を基本ルールにしています。特定の図書に偏りが発生し、特定の学部には負担がかかる場合には、負担割合を調整しますが、機構をふくめた5部局でコメント作成を担当しています。また、作成されたコメントについては、機構の専任教員がチェックし、誤字脱字等の簡単な修正を加えて、コメント作成者によるばらつきを押さえる工夫をしています。

入学前教育実施委員名簿

(平成 27 年 11 月 1 日)

	氏 名	所 属	任 期
委員長	松 林 城 弘	人文社会科学部 maruba (6743)	H26.4.1 ~ H28.3.31
専任教員	江 本 理 恵	教育推進機構 riemt (6924)	
各学部選出委員	秋 田 淳 子	人文社会科学部 junko (6746)	H26.4.1 ~ H28.3.31
	岩 木 信 喜	教育学部 iwaki (6663)	H27.4.1 ~ H29.3.31
	脇 裕 之	工学部 waki (6408)	H27.11.1 ~ H29.3.31
	山 本 清 仁	農学部 yama3 (6198)	H26.4.1 ~ H28.3.31

平成27年12月25日

「読書レポート」の作成と提出について

岩手大学教育推進機構

1. 「読書レポート」の目的

この「読書レポート」の作成は、図書を1つの情報資料として読み込み、そこから適切な情報を取り出して、簡潔でわかりやすい文章としてまとめることを通して、本を読むことで「自分の考えを深める」ことのできる力を養うことを目的としています。この力を養うためには、問題関心を深めていくことが重要です。問題関心が深まることによって情報が持っている意味や重要性が的確に捉えられるようになります。

2. 「読書レポート」の作成の仕方

- (1) 課題図書の中から1冊を選び、下記の手順に従って、レポートをまとめます。
- (2) 第1章には、その課題図書を選んだ理由を200字程度にまとめます。
- (3) 第2章には、本の各章ごとの要約文を作ります。以下の手順でまとめてみましょう。
(全体で2,000字程度になるようにまとめます)

- ①本の各章ごとに、キーワードを3つ以内で選びます。
- ②そのキーワードを基に、その章の内容を要約します。

【アドバイス1】選んだ課題図書によって「章」と明記されていないものもあります。目次を見て、「最も大きなくくり」を「章」としてとらえてみてください。また、「小説」のように「大きなくくり」が明確でないものは、内容の区切りの良いところで「章」を区切ってください。

【アドバイス2】第2章は、選んだ本の「章」に相当する複数の「節」から構成されます。レポートの構成を意識して、見た目にもわかりやすく書いてください。

(例：ウェブ進化論)

第1章 「ウェブ進化論」を選んだ理由

.....文章.....

第2章

1. 序章 ウェブ社会

キーワード：チープ革命、ネット社会、リアル社会

.....文章.....

2. 第1章 「革命」であることの真の意味

キーワード：オープンソース、三大潮流、シリコンバレー

.....文章.....

.....

.....

第3章

.....文章.....

第4章

.....文章.....

第5章

.....文章.....

- (4) 第3章では、その本の内容全体から得られた知識や考え方を総括的にまとめます(400字程度)。ここはあくまでも「本の内容」に沿ってまとめてください。
- (5) 第4章では、著者の主張(本の中で繰り返し書かれている著者の考え方)に対する自分の考えをまとめます(400字程度)。ここは、「自分の考え」を書いてください。
- (6) 最後の章では、次に読んでみたい本の題名や分野を挙げ、その理由をまとめます(200字程度)。理由を書くときには、今回読んだ本との関係を示すのがポイントです。

3. 「読書レポート」作成上のアドバイス

- (1) レポートは、A4版のレポート用紙を使って作成します。原稿用紙でもかまいませんが、枚数が増えてしまいますので、「自分で判断して」選んでください。
- (2) レポートには、「選んだ図書名」「レポートのタイトル」「入学予定学部」「受験番号」「名前」を明記した表紙をつけてください。
- (3) レポートの最初には、「レポートのタイトル」「受験番号」「名前」を明記してください。本文は、章分けをし、小見出しを付け、適宜段落分けをして、丁寧な字で読みやすく作成してください。
- (4) 電子ファイルで作成する場合は、ワープロソフト（ワード、もしくは、一太郎）で作成してください。同じように、(2)の表紙をつけ、(3)の小見出し等をつけて読みやすいレポートを作成してください。
- (5) レポートの各項目について、文字数の目安が指定されています。それよりも極端に長く／短くならないように注意してまとめてください。目安として、2割以内と言われています（1,000字の場合は800～1,200字の範囲内）。
- (6) 上記レポートをまとめるにあたって、「批判的に本を読む」ことを意識してください。本に書かれていることは常に正しいとは限りません。具体的には、以下の手順で考えてみましょう。
 - ①書いてあることの中で、どれが情報の提示で、どこが著者の意見なのかを区別してみましょう。
 - ②提示されている情報（事実）が確かかどうか、確かめる方法を考えます。本やインターネット等を利用して実際に確かめてみましょう。
 - ③著者の考えが踏まえられた事実（根拠）と矛盾していないか、考えてみましょう。
- (7) 1冊の本について「読書レポート」を作成し、提出したら、他の本にも挑戦してみましょう。期限内に提出されたレポートは、何冊分でも受け取ります。
- (8) プレ・アイアシスタント（別紙参照）にアクセスすると、レポート作成のアドバイス等が参照できます。機会があれば、アクセスしてみましょう。

4. 提出期限と提出方法

以下の2つの方法より、都合のよい方を選択して提出してください。提出方法によって提出締め切り日が変わりますが、扱いが変わることはありません。

■方法1：プレ・アイアシスタント（別紙参照）を利用して提出

岩手大学が用意した入学前の生徒専用のe-Learningサイト（<http://pre-ia.iwate-u.ac.jp/>）にアクセスして、ワープロソフト（Word、一太郎等）を用いて作成したレポートを提出してください。この「プレ・アイアシスタント」には、岩手大学の教員によるレポート作成に関するアドバイスや図書の紹介などが随時掲載されていきます。ぜひ、積極的にアクセスし、読書レポートの作成に役立ててください。

提出期限：平成28年2月15日（月） 23：00

■方法2：郵送で提出

郵送で提出する場合には、レポートを下記の宛先まで送ってください。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34
岩手大学 教育推進機構

※「読書レポート在中」と封筒の表面に赤字で記入すること。

提出期限：平成28年2月12日（金） （消印有効）

入学前教育専用サイト プレ・アイアシスタントについて

岩手大学教育推進機構

岩手大学では、AO・推薦入試で合格した生徒専用のe-Learningサイト「プレ・アイアシスタント」を用意しました。このサイトからは、岩手大学の教員からの読書レポート作成上のアドバイス「課題図書一覧」や、高校生の間にぜひ読んでおいてもらいたい本の紹介「おすすめの本」などの情報が提供されます。英語や数学のe-Learning教材も提供されます。また、同じく推薦入試で合格した生徒同士で読んだ本を紹介する「図書紹介カード」もあります。さらに、岩手大学で開講されている科目のシラバス（授業計画）も閲覧することができます。

ぜひ、このプレ・アイアシスタントを積極的に活用して、入学式までの限られた期間を有益に過ごしてください。

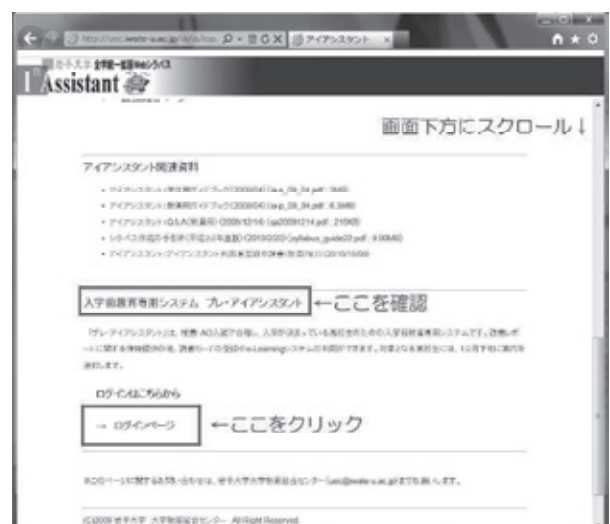
■ログイン方法

- (1) インターネットに接続されたパソコンのブラウザ（インターネット・エクスプローラーなど）を開いて、岩手大学のホームページ（<http://www.iwate-u.ac.jp/>）にアクセスします。画面右側の下の方に、「アイアシスタント」のロゴがあるので、そこをクリックします。



- (2) ロゴをクリックすると、「アイアシスタント」のページが表示されます。このページをスクロールした下の方に、入学前教育専用システム「プレ・アイアシスタント」への紹介部分があるので、その「ログインページ」をクリックします。

「アイアシスタント」へのリンクをクリックしてもログインできません。注意してください。



- (3) 右のようなログイン画面が表示されます。別紙に記載されているログイン名、パスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



※お使いのパソコンの設定等によって、上記とは違う画面表示になる場合があります。

ログイン時には大文字・小文字・全角・半角に注意しましょう！

- (4) ログイン後、わからないことがあったら、タイトルの横にある？マークをクリックしてみましょう。解説が表示されます。また、入学前教育の課題の内容等に関することについては、「質問カード」を使って質問することもできます。ただし、入学後の諸手続（学生寮、奨学金、各種手続きに必要な書類等）に関する問い合わせは、担当部署へお願いします。

■読書レポート提出手順

- (1) 「プレ・アイアシスタント」にログインしたら、課題一覧の中から、自分が選択した本の名称をクリックします。

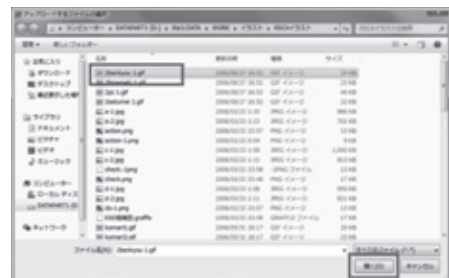
※画面例は「フィンランド豊かさのメソッド」で作成してありますが、ご自分が選択した課題図書のパージから提出してください。間違えて提出した場合、コメントを返すことができない場合があります。ご了承ください。



- (2) 課題図書別ページの下の方に、提出欄があります。提出欄の【参照】ボタンをクリックしてください。



- (3) ファイル選択のための画面が開きますので、提出するファイルを選択して、【開く】ボタンをクリックしてください。このとき、レポートをワープロソフトで作成した場合は、完全にソフトを終了させてください。



- (4) ファイル名が表示されたら、①【アップロード】ボタンをクリックし、その後、②【提出】ボタンをクリックします。この【提出】ボタンをクリックしないと、「未提出」扱いになりますので、ご注意ください。



(5) 提出できた場合、トップ画面の課題一覧の欄にピンク色の○が表示されます。ピンクの○が表示されているのをご確認ください。



※レポートに対するコメント等もこの欄から返却します。レポート提出後も、時々アクセスしてください。

入学前教育についてのお問い合わせは、こちらへ。

〒020-8550

岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 教育推進機構（受付窓口）

TEL:019-621-6554/FAX: 019-621-6928

※受付時間：平日10:00～17:00

（12:00～13:00は昼休み、12/28～1/1は冬期休業期間）

入学前教育課題図書一覧

『日本人はなぜ「さようなら」と言って別れるのか』(ちくま新書) 竹内整一(著)

【内容紹介】

日本語の「さようなら」は、英語では” Good-byl”、ドイツ語では” Auf Wiedersehen!”と翻訳されるのが通例であるが、それらはそれぞれの国でお別れの挨拶を交わす場面で使用する表現への置き換えに過ぎず、意味内容そのものは決して同じではない。では、「さようなら」は、本当はどのようなことを意味しているのだろうか。著者竹内整一は、日本人の固有の精神性として「かなしみ」を分析し、日本思想史研究に新たな境地を開いた人である。この研究の一環として、本書では「さようなら」を考察する。この言葉の語源を辿るならば、もとは「さらば」あるいは「しからば」であり、また「そうならなければならないのなら」という表現に行き着き、その基層には、日本人に固有な生死観を読み取ることができる。本書はこうして日本思想の奥行きを教えてくれるだけでなく、死生学(生と死を通して人間のあり方を捉え直す総合的な研究・教育領域)への良き導きともなる。(人文社会科学部教員)

『タテ社会の人間関係―単一社会の理論』(講談社現代新書) 中根千枝(著)

【内容紹介】

「日本論」の不朽の名著。出版から半世紀近く、現代の日本は欧米化が進んだといわれるが、今読んでも全く古くは感じられない。それは「単一性」という社会の特徴が根本的なところではあまり変化していないからだろう。先輩・後輩関係、場による集団帰属意識(「ウチ」)、「ヨソ」との関わり方から政治家・学者らの非論理的・感情的発言まで、様々な問題が幅広く取り上げられており、現代日本社会に興味のある人には必読の教養書といえる。(人文社会科学部教員)

『憲法主義』(PHP文庫) 内山奈月・南野森(著)

【内容紹介】

憲法学と憲法の一般向け入門書。九州大学法学部の南野森教授が先生、元AKB48の内山奈月さんが生徒となって行った授業を、紙上で再現したもの。日本国憲法は様々な議論の対象となっているが、本書は議論そのものに踏み込むのではなく、読者に、憲法というものそれ自体に対する基本的な理解を育むことを目的としている。法学への関心の有無を問わず、現代社会の成り立ちや構造を知る上では最適の入門書であると言える。(人文社会科学部教員)

『データはウソをつく―科学的な社会調査の方法―』(ちくまプリマー新書) 谷岡一郎(著)

【内容紹介】

現代社会では膨大な情報(データ)が駆け巡っているが、そのほとんどは「ゴミ」である。情報をうまく使いこなすためには、基礎となる教養、リサーチ・リテラシー(事実や数字を正しく読むための能力)、セレンディピティ(ゴミの中から本物をかき分ける能力)が必要である。本書は、他人にだまされない、他人のウソを見破るために必要なリサーチ・リテラシーやセレンディピティについて、具体的な例を用いて平易に解説した好著である。また、科学的(特に社会科学的)考え方や方法論を学ぶための格好の入門書でもある。(人文社会科学部教員)

『民主主義という不思議な仕組み』(ちくまプリマー新書) 佐々木毅(著)

【内容紹介】

「民主主義って当たり前！」と思う人が多いかもしれないが、古代ギリシアで誕生したポリスの民主政と近代、現代の民主主義ではその仕組みは大きく異なることはおわかりだろうか。この書籍では、古代から現代に至る歴史的背景を平易でわかりやすく解説した後、現代の代表制にもとづく民主制を「みなしの積み重ね」という著者独自の切り口で語り、現在の政治課題も分析がなされている。学部如何を問わず、日本の政治に興味のある学生には入門書として是非とも読んでいただきたい書籍である。(教育学部教員)

『美しく怒れ』(角川oneテーマ21) 岡本太郎(著)

【内容紹介】

「芸術は爆発だ！」という鮮烈な言葉、そして1970年の大阪万博における「太陽の塔」で有名な芸術家・故岡本太郎による個性的な日本(人)論である。本書は、1998年初版の『眼 美しく怒れ』(ちくま秀版社)を元に改題して新書化されたもので、過去に書かれた岡本太郎による著作の複数をまとめたものである。これらは、戦後日本における前衛芸術運動を牽引してきた岡本太郎が、芸術家としての独自の視点から展開した当時の日本(人)批判として捉えられる。また、養女であり、実質的な妻であった岡本敏子による解説「太郎の眼」も収録されている。(教育学部教員)

※各書籍紹介末尾の()には各図書を推薦した教員の専任担当学部等が書かれています。これらの情報も参考に、みなさんは、進学予定学部にかかわらず、自由に「読みたい」と思った本を選んでください。

『バナッハ・タルスキーのパラドックス』(岩波科学ライブラリー) 砂田利一(著)

【内容紹介】

ゲーデルの「不完全性定理」と並ぶ20世紀の摩訶不思議な定理。それがバナッハ・タルスキーの定理である。あまりに奇妙なために、パラドックス呼ばわりされているが、数学のれっきとした定理である。面積とは、体積とは何かを根本から問う。「無限」概念と格闘しつづけた現代数学。その中心に位置する話題をわかりやすく紹介する。(教育学部教員)

『学校って何だろう』(ちくま文庫) 荻谷剛彦(著)

【内容紹介】

「どうして勉強しなければいけないの?」「なぜ毎日学校へ通わなければいけないの?」こうした疑問には、大人になった今でもなかなか答えづらい。他にも、どうして校則でソックスの色まで決められてるの?とか「教科書ってほんとに必要なの?」など、生徒たちの疑問は尽きない。これらに対する答えはひとつではない。これまで考えられてきた学校や勉強についての「常識」を複眼的に問いなおし、「学ぶことの意味」をふたたび掘りとるための基本図書。(教育学部教員)

『日本人になった祖先たち DNAから解明するその多元的構造』(NHKブックス) 篠田謙一(著)

【内容紹介】

最新の分子生物学の成果に基づいてDNAにより明らかになった現代人類(ホモ・サピエンス)の世界拡散の潮流、そしてその中で日本人の成立の過程について解説されている興味深い図書です。(理工学部教員)

『炭素文明論「元素の王者」が歴史を動かす』(新潮選書) 佐藤健太郎(著)

【内容紹介】

農耕開始から世界大戦まで、人類は地上にわずか〇. 〇八%しか存在しない炭素をめぐり、激しい争奪戦を繰り広げてきた。そしてエネルギー危機が迫る現在、新たな「炭素戦争」が勃発する。「炭素史観」とも言うべき斬新な視点から人類の歴史を描き直す、読み応えのある本です。(理工学部教員)

『南海トラフ巨大地震—歴史・科学・社会(叢書震災と社会)』(岩波書店) 石橋克彦(著)

【内容紹介】

必ず来る「西日本大震災」にどう備えるか。大災害を繰り返してきた南海トラフ巨大地震の歴史記録を徹底検証し、その発生機構に独自の視点で迫る。都市型震災の脅威を『大地動乱の時代』で予見し、自ら造語した「原発震災」の警鐘を鳴らし続けてきた地震学者が「地震に強い社会」を根底から問う。(理工学部教員)

『科学者という仕事 — 独創性はどのように生まれるか』(中公新書) 酒井邦嘉(著)

【内容紹介】

大学に進学しても、研究を職業とする人はごく少数の限られた人だと思います。しかし本書は、研究のプロになりたいと思う人はもちろん、そうでなくても社会で充実した人生を送りたい人にとって、独創性がいかに重要かについて大学で学ぶための重要な提言を論理的に述べています。感情のみが支配する社会ではなく、論理性が今後は益々重要視されると思いますので、文系、理系を問わず必読の1冊と思います。(農学部教員)

『キリマンジャロの雪が消えていく — アフリカ環境報告』(岩波新書) 石 弘之(著)

【内容紹介】

はるか昔、人類の祖先はアフリカ大陸で生まれたという。そして現在、豊かな自然の多様性を誇っていたアフリカが、解決の決定打がない貧困や環境破壊に苦しみ続けている。爆発的な人口増加、世界経済に翻弄される農業生産、不安定な政治情勢や温暖化による環境変化もさらなる悪化に追い打ちをかける。長年国際環境問題に関わってきた著者は、アフリカ大陸が抱える問題は将来人類が向き合う課題でもあると語りかける。野生動物の保護や国際協力・援助のあり方についても考えさせられる。(農学部教員)

『科学は誰のものか — 社会の側から問い直す』(NHK出版生活人新書) 平川秀幸(著)

【内容紹介】

遺伝子組み換え、クローン、そしてiPS細胞。今や私たちは、食べ物から医療に至るまで、「生命」観を変える可能性を持つ画期的な科学技術を目の前にしている。科学とは何か? 科学的思考とは何か? 私たちの暮らしに深く関わる科学技術の問題にこれからどう冷静に向き合っていくのか? 専門家の知識と一般市民の知性をつなぐ科学技術社会論の入門となる1冊である。(農学部教員)

入学前教育用 e-Learning教材紹介

教育推進機構

入学前教育では、読書レポートの他に数学と英語のe-Learning教材を用意しました。これらの教材は、受験のためではなく、入学後の大学での学びに必要な内容で構成されています。環境が整えば、ぜひ、挑戦してみてください。もちろん、手持ちの参考書等で学習を進めていただいてもかまいません。大学に入学したら勉強が終わるわけではないので、入学後に備えて、学習を続けるように心がけてください。

これらのe-Learning教材へは、入学前教育専用サイト「プレ・アイアシスタント」の左側のメニュー「教科学習」の各項目からアクセスすることができます。ID、パスワードは、「プレ・アイアシスタント」と同じです。

■もう一度数学

◇特徴

高校数学で学ぶ単元から、大学各分野で要求される計算力を養うために作成された、完全自習用教材です。学生が「理解できる」「計算できる」を主眼において作られているため、定理や公式の証明が丁寧に説明されています。「問題集」もついていますので、自身の学習の成果を確認しながら進めることができます。手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かして問題を解きながらチャレンジしてみましょう。**理工学部入学予定生徒は必修です。**必ず取り組んでください。

■アルク・ネットアカデミー2「スタンダード・コース」

◇特徴

英語学修のうちの「聞く（リスニング）」と「読む（リーディング）」を初級者から上級者まで徹底的にトレーニングするためのe-Learning教材です。最初にレベル診断テストを受けて、その診断結果に従って、レベルを選んで学習を進めていきましょう。

（平成28年1月12日より使えるようになりますが、大学の授業で利用している時間帯には動作が遅くなる場合があります。その際には、時間帯をずらしてご利用ください。）

■アルク・ネットアカデミー2「TOEIC®テスト演習2000コース」

◇特徴

実際のTOEICに近い形で模擬テストを受けられるコースです。実際のTOEICのテストとほぼ同等の問題数200問/120分のフルスケール、1/2スケール（100問/60分）、1/4スケール（50問/30分）の3つの受験パターンを選択することができます。

みなさんは、入学式の前日に英語のクラス分け試験を受験しますが、そのテストがこのTOEICになります。クラス分け試験の点数が一定レベルに達しない場合には、英語の補習クラスを受講していただくことになりますので、この教材を使って、しっかり準備をしてクラス分け試験に臨んでください。

（平成28年1月12日より使えるようになりますが、大学の授業で利用している時間帯には動作が遅くなる場合があります。その際には、時間帯をずらしてご利用ください。）

■これでどうだっ、英文法！（理工学部入学予定者のみ）

◇特徴

「覚えすぎない英文法」をテーマに、基本的な英文法を厳選し、易しい内容から難しい内容へと確実に学べるように作られた教材です。文法の解説に加えて、英文解釈、英文法、発音、ディクテーション等の練習ができるようになっているので、手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かし、発音して確認しながらチャレンジしてみましょう。**この教材は理工学部入学予定生徒のみで、必修です。**（平成28年1月12日より使えるようになります。）

※上記は金沢電子出版が提供する教材を使っています。

平成27年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧

2016/2/17時点
入学前教育実施小委員会

	課 題 図 書	人文社会科学部	教育学部	理工学部	農学部	AO	合計
人文社会科学部	日本人はなぜ「さようなら」と言って別れるのか	21	1	0	0	3	25
	タテ社会の人間関係	14	0	1	0	1	16
	憲法主義	10	0	0	0	1	11
	データはウソをつく	5	0	3	1	0	9
教育学部	民主主義という不思議な仕組み	0	1	0	0	1	2
	美しく怒れ	3	7	1	1	1	13
	バナッハ・タルスキーのパラドックス	0	1	1	0	1	3
	学校って何だろう	4	33	3	2	0	42
	日本人になった祖先たち	1	0	9	1	0	11
工学部	炭素文明論	0	0	34	2	0	36
	南海トラフ巨大地震	0	0	22	0	0	22
	科学者という仕事	0	1	4	4	0	9
農学部	キリマンジャロの雪が消えていく	0	0	1	12	1	14
	科学は誰のものか	0	0	1	11	0	12
合計(通)		58	44	80	34	9	225
対象者(人数)		57	45	80	33	10	225
提出者(人数)		56	44	80	33	9	222
提出率		98%	98%	100%	100%	90%	99%

平成27年度入学前教育 「読書レポート」アンケート集計結果

2016/5/10

教育推進機構

「入学前教育」対象者に対し、下記の通り「読書レポート」アンケートを実施・集計しましたので、結果を報告します。

※小数点以下四捨五入

1. 入学予定学部

	人文社会科学部	教育学部	理工学部	農学部	学部不明	計
回答者数（人）	40	26	69	23	4	162
割合	60%	58%	86%	70%	-	72%
対象者数（人）	67	45	80	33	-	225

2. 「読書レポート」の目的は、読んでわかりましたか？

※これ以降「割合」は設問1.回答者数合計数に対するものとする。

	a.十分わかった	b.ほぼわかった	c.わかりにくかった	d.その他
回答者数（人）	90	68	3	1
割合	56%	42%	2%	1%

d.その他

（理工学部）

- なんとなく。

3. 「読書レポート」の作成の仕方はわかりやすかったですか？

	a.十分にわかりやすかった	b.わかりやすかった	c.迷うところがあった	d.その他
回答者数（人）	60	88	12	1
割合	37%	54%	7%	1%
割合（昨年）	35%	57%	7%	0%
割合（一昨年）	43%	50%	7%	0%
割合（一昨々年）	40%	52%	7%	0%

※無回答者1名

c. 迷うところがあった：例

（人文社会科学部）

- キーワードを入れること
- 文字数（トータルで2000文字なのか、違うのか）

（理工学部）

- 添削の内容に「タイトルや小見出しは指示通りにつけましょう」とありましたが、作成方法通りに自分はやったつもりだったので、どう直せばよいのか分からなかった。
- 専門的な分野での知識の吸収
- 表紙の作り方
- 見だし
- 提出（ネット）の場所が分かりづらい
- 表紙について

4. 課題図書についてどう感じましたか？

	a.いずれも興味を引いた	b.興味を引くものがあった	c.興味を引くものがなかった	d.その他
回答者数（人）	33	125	4	0
割合	20%	77%	2%	0%
割合（昨年）	14%	84%	1%	0%
割合（一昨年）	9%	89%	1%	0%
割合（一昨々年）	17%	80%	2%	0%

※1 名コメントあり （理工学部）● 工学系、機械関係の本があればよかった。

5. 「読書レポート」の作成は順調に進みましたか？

	a.順調にまとめられた	b.少し苦労をした	c.大変だった	d.その他
回答者数（人）	42	87	33	0
割合	26%	54%	20%	0%
割合（昨年）	25%	51%	23%	1%
割合（一昨年）	24%	55%	20%	1%
割合（一昨々年）	15%	64%	20%	0%

6. 「読書レポート」は大学の学びを知る上で役立ちましたか？

	a.大いに役立った	b.役立つものがあった	c.あまり役立つものがなかった	d.その他
回答者数（人）	71	9	2	0
割合	44%	55%	1%	0%
割合（昨年）	34%	61%	4%	0%
割合（一昨年）	39%	58%	3%	0%
割合（一昨々年）	33%	62%	2%	1%

7. 「読書レポート」を作成しての感想や新たに学んだ点など、気づいた点を自由に書いてください。

（人文社会科学部）

- 筆者の意見を自身の言葉で表現すること、さらに論を発展させることは、困難で時間もかかることだと感じた。
- レポートを書く機会があまりなかったため、入学前に書くことができてよかったと思う。
- 大学では、レポートや論文を提出する機会が多々あると思うので、そこに向けた良い練習になった。今回の「読書レポート」を通し、自分には長めの作文を短時間で仕上げる為の「集中力」と「スピード」が欠けていることが分かった。推敲に力を注ぎ、レポートの質を高めていく為にも、基礎となる文章の組み立てをスピーディーに行いたい。そして、今後はより多角的な視野をもって、テーマに向き合いたい。
- 文章を読んで要点をまとめるという大変なところがあったが、とてもよい経験となった。
- これからの大学での作業を経験できて、良かった。 まだ、自分なりに文章の書き方として、よろしくない点があったので、これからのレポート作成やレジュメ作成時に意識し、改善していきたい。
- 要約をすることを意識して読むと筆者の言いたいことが想像できたり、自分の意見も考えることができたりすることがわかった。接続詞をもっと上手に使わなければいけないと気がついた。
- 普段は読まない分野の本に触れ考えを深めることができたから。大変勉強になりました。
- 大変でしたが、もうすこし本を読んでみたくなりました。
- 憲法についての本を読んで、憲法を始め、政治・法学の様々な知識を身に付けることができました。批判的に読んで、それを実際に書いてまとめる力もつきました。本を読んで、それを整理することで、その本に対する理解が深まるので、積極的にやっていきたいです。

- 入学する前にレポート作成の仕方を学ぶことができ、とても良い機会を頂くことができたと思います。
- 大学生活にレポート作成は必要なので、練習することができて良かった。
- 日本と外国では文化や慣習が違っただけでなく、物事に対しての考え方も違って留学してみたいという気持ちが高まった。
- これまでは読書として、本の中の理論を素直に受け入れていたが、ただ読んでそれを知識とするのではなく、自分の意見をもてるように読解していくことが必要なんだと気づけた。
- レポートという形で本格的に作成したのは初めてだったので、形式や文章に慣れない部分があったけど、コメントでこれからレポートを書く時に役立つアドバイスをしてもらえて良かった。
- レポートの書き方がよく分かったし、文章のまとめ方も学習できた。
- 自分が知らなかったことや、自分にはなかった考えを得られることの楽しさに気づきました。
- 本を読むことで、自分に新たな、知識、観点などが生まれ、レポートを書くことで、自分自身はどう考えるかを客観的にみつめることができるいい機会となりました。
- パソコンの操作が難しかった。表紙の作成やフォントの設定など、細かいところが何もわからなくて、入学前にこうしたつらい課題に取り組めてよかったと思った。もしこれが入学後にいきなりレポート課題としてぼんと出されたら大変だと考えた。
- 自分では読んでこなかったジャンルの新書に出会い、要点をしぼり、じっくりとその本について考えることができてとても面白かった。添削をしていただくことにより、新たな課題や継続する点も見つけることができたので、次につなげていきたい。また、自分の考えの範囲がどんどん広がっていくのを感じられて成長できたと思う。
- 事前にレポートの書き方などを学べて良かったと思います。
- 自分が本から理解したことを文章で人に伝えるというのは結構難しかった。
- 新書なども読んだことがなかったし、レポートも書いたことがなかったので最初は苦労しましたが、読むだけでなくまとめることでより本の内容が理解できて、その大切さが分かりました。
- アフリカの環境について考えさせられた。
- 自分の考えを新たに見直すことができました。
- 作成前は最後まで完成させられる自信がなく、厳しい課題だと感じましたが、書き始めると目安の文字数をオーバーしている事が多くキーワードに沿って言葉をまとめて文字数をへらす作業をしなければならぬ程、集中して文章を考えることができました。書き終えた後の達成感も味わうことができ、良い経験になりました。
- ただ文章に対して賛成するだけでなく、反対することも考える力をつける上で必要だということが分かった。
- レポートを書くことには慣れていなかったが、良い練習になったし、本からも多くの知識を得られた。
- 高校までの読書感想文とは違い、それぞれの章での大切な部分がよく分かりました。
- 私がこれから学んでいく分野を理解する本を読むことで、これからの学びにより興味が湧きました。
- 自分の興味のある本を買い、読んだことによって、普段は本を読まないけれど、読んでみるとおもしろいですし、知識が得られたり、考える力が養われるなと思いました。

(教育学部)

- 今まで感想文を書いてきたので初めてレポートに取り組んでみて、作成の仕方を学ぶと同時に、本を読む大切さも学ぶことができました。
- 今回書いたレポートの題である著者の内容の要約に苦労した。さまざまな文から情報を引き出し、どうまとめるかを考えさせられる著者でした。
- 要約をする機会が今まであまり無かったので大変さが分かった。さらに自分なりに要約の仕方も分かった。著者の考えに反論するという力も大切だと分かった。大学でも頑張りたい。
- 要約して自分の考えを書くことで本をより深く理解することができたと共に、多くの知識を得ることができた。
- 深く読み込むことで様々なことを学べ、吸収できた。
- 自分の考えを要約してまとめることが大変だった。
- カリキュラムの中でも表には出ない隠れたカリキュラムがあるということがわかり、それについてもっと深く学びたいと感じた。
- これからのレポート作成に役立つ経験ができました。入学前に一度経験しておく事で、おおまかな構成をイメージしやすくなると思います。

- 本を読んだだけで終わるのではなく、筆者の伝えたいことは何であるのか、それに対して自分はどうか考えたのか的大事であることが分かりました。
- 文庫本なのでとても分量が多く、その中から自分の言葉でまとめるということが大変難しく感じました。そして、自分の語彙の少なさや文章表現が未熟であることにも気づかされました。他の人のレポートなども読み、自分のレポートとも見比べてみたいなあと思いました。
- 私は「学校って何だろう」について読書レポートを作成しましたが、読んでとてもよかったと思いました。教師になるために様々な疑問を自分なりに考えることができました。要約するのはとても苦労しましたが、作成して、自分でまとめるということをしてよかったと思います。
- レポートを作成することで、大学の学びを知りアドバイスを頂き、自分の弱点を見つけることができました。
- レポート練習ができてよかった。
- 正直、要約をするのがとても大変でした。しかしだんだんコツをつかみ、まとめることができたので、自分の力になったと思います。
- 時間をかければ良いものができそうと思った。
- 読書レポートを作成して、本に書いていることを疑いながら読むということを学びました。事実なのか確認するためにたくさんの本を読み、比較するということが大事だと感じました。
- 作成にあたって、著者の主張がはっきりと示せなかった。興味深い内容であった一方、自分の表現力の少なさなど力の不足を感じた。
- 読書レポートを作成してみて、改めて自分の言葉でまとめる要約の難しさを感じました。また、レポートへのコメントが的確で分かりやすかったため、自分のレポートの悪かった点を考えながら書き直すことができました。今回学んだことを今後に生かしていきたいと思います。
- 初めてのことで難しかったが勉強になった。
- 今まで深く考えながら本を読むことが少なかった。しかし、レポートに取り組んだことをきっかけに筆者の考えを理解しようとつとめながら読むようになりました。
- 教育に関することだけではなく、長い文章を要約する力も身に付いたと思う。
- 今まで、このようなレポートを書いたことがなかったので、レポートの書き方や漢字・平仮名の使い分けがよく分かりました。
- 初めて、メモをとりながら本を読んで、自分の中で内容を整理しながら考えを深めることができました。今までにも要約をする機会はあったけれど、キーワードを選択してから要約をしたら、今までよりまとめやすくなりました。これから文章を読む際にも、筆者の最も伝えたいキーワードに注目して、内容を理解していくようにしたいです。
- 今回、この課題に取り組み、自分の弱点を発見できました。私は以前からレポートを作成することに苦手意識を持っていた、自信を持つことができませんでした。しかし、今回評価をいただき自分の改善点を見つけることができました。これからのレポート作成に役立てていきたいです。

(理工学部)

- 自分に文章を要約する力がないことを感じさせられた。
- 初めてレポートを作成したので大変でしたが、構成の組み方が分かったので良かったです。
- レポートというのは学校で今までだされてきていた課題と違いある程度の指示があったらそれによって個人それぞれ自由で作ることができるんだと思った。
- 自分の言葉でまとめるのは想像以上に難しいことがわかった
- 本を読むだけで終ることなく、そこから自分で考えをまとめることができて、良い経験になった。
- 今後も本を読もうと思った。
- 興味のある分野でも知らないことが多かったし、読んでまとめるという作業をすることで自分の中で理解を深めることができた。
- レポートの書き方を皆より早く取り組めたのは良かった。文字数の制限をもう少し増やして欲しい。
- 学問をする上での心構え、情報に対する向き合い方を知ることができたことで、今後の学習に活きるものが大いにあったと思う。
- 自分自身で読書レポートを作成し、レポートを作成する上での難しさや重要な点がわかった。

- 自分の思いを簡潔にまとめるのは、とても難しいと思いました。大学に入学してからレポートの書く機会も増えるので早くレポートに慣れたいです。
- 読んでの感想だけでなく要約も書くことになり、国語力がきたえられた気がする。
- 文章の中で最も大事な所をぬきだして要約するのが少し大変でした。まとめる時は、文章中の言葉を用いるのではなく、自分の言葉に変えて書く必要があることを学びました。
- 感想文を書くのとは違った感じがして苦労しましたが、今後の役立つような文章の要約や組み立ての仕方が学べたと思いました。
- 日頃から本を読むことの大切さを痛感させられました。
- 改めて自分の文章力のなさを感じた。より伝わりやすい文書を書けるよう努力していきたい。
- 新たな知識が増えてよかった。読書を続けようと思った。
- 本の内容について深く考えることができた。
- 大学側から指摘されたように、文の要約の際に、文の抜き出しを多用してしまう傾向があると知ることができた。大学のレポート作成で活かせるようにしたい。
- 一冊の本の内容についてをたった数枚のレポートとしてまとめあげることがどれだけ難しいのかを知ることができた。
- レポートを書く練習として、良いものだったと思った。
- レポートを書く練習になった。
- 自分の意見を限られた字数の中で他の人にも理解してもらえるように工夫してまとめることの難しさをとても感じられた。今後のレポートなどに今回の経験を生かしていきたい。
- ページ数が多く、かなりの時間がかかって大変だった。
- レポートとしてまとめることで、内容を自分自身で確認し理解をより深めることができた。キーワードを3つ出すことも、再確認に役立った。
- 今まで書き慣れた構成から新しく「レポート」を作成してみてまだまだ不慣れだと感じた。次回はより分かりやすくまとめたい。
- ただ本を読むだけではなく、レポートにまとめることで内容の理解が深まって良かったです。
- 文字制限があり、長い文をいかに短くまとめられるかで、キーとなる文を見つけるのに特に接続詞の関係を気を付けながらまとめた。この作業には、本文内容を理解する上での国語力が身に付くと思った。
- レポート作りがとても難しかった
- 被災地の復興について新しい知識を得た。
- 大学のレポート課題に向けたいい経験になった。
- 大学ではレポートを書く機会が多いと思うので頑張りたい
- 多くの情報から、要点だけを取り、それを一つのまとめた文章にすることが難しかった。
- レポートを書く機会が少なく、不安でしたが、書き方をくわしく書かれている紙があったので助かりました。
- 自分の考えを持つことの重要さを痛感しました。
- 文章を要領よくまとめるのが大変だったので、これからもっと練習して良い文章を書けるようにがんばりたいと思う。
- 若者の意見を批判的に見ることによって、自らの考えをより明確にすることも学んだ
- 自分の意見をまとめるのは難しい。
- 長い文章の中から、大切な部分を要約することは大事で、筆者の主張を理解するという点でも重要だと思った。
- レポートの書き方がわからなかった。パソコンに慣れる良い機会だった。
- 論理だてて文章をまとめることの難しさ
- 自分の意見ではなく、あくまで筆者の言葉をきめられた字数内でまとめるのは、難しいと感じた。
- 本の中身を理解するのに時間がかかってしまったが、レポートの提出期限が長かったので、納得いくものができた。

(農学部)

- 自分の学んだ事を活かすには様々な面と協力する必要があるという点
- 各章の要約を200字以内に収めるために必要な事項を選別することで章全体を表現するということの難儀さを学んだ。
- 大学での勉学を頑張ろう、という気持ちが強くなった。
- 筆者の意見がしっかりと書かれていない文献をまとめるのは初めてだったので、少々まとめるのに苦労した。しかし、

グラフを読み取ったり、疑問点を見つけたりする良い練習になったと思う。

- 本の読み方に気を配ることができてよかった。
- 読書感想文と読書レポートの違いを理解できた
- これからのレポート提出の雰囲気がつかめたと感じます。また、添削を受けることで、自分の文章力の改善点が明確に示されて、新たに文章の脈略のつながりを意識して書いていくことを学ぶことができました。
- 一冊の本をここまで深く読むことはめったになかったのも、とてもいい機会になりました。また、本を読み自分の考えをより深めていく楽しさも感じることができました。
- 読書レポートを1つ作成する為にかかる時間と労力の多さを身をもって感じました。今後も気を抜かず、丁寧に取り組みます。
- 章ごとにまとめを作成するため、内容理解がしやすかった。
- 高校や中学校の読書感想文とは違った形式の文章を学ぶことができた。
- 読書レポートへのコメントがいつ届くのか、分からず、本当に提出されているかどうかドキドキしたので、だいたいいつ頃届くか示してほしい。読書レポートに関しては、普段敬遠しがちな新書と向きあえたので、よい機会だったと思う。
- 高校ではあまり体験していなかった「自分の中に取り込んだ情報に、自分の見方もプラスして外に出す」という行為に少々手間取った。だが、大学生活のなかでこれよりもレベルの高いレポート作成をしていかななくてはならないことを考えると、手始めとしてはピッタリだと感じた。
- 本を読むことで自分の知識を増やすことができた。また、その本の論点に対し、自分の考えを持つことができた。
- 自分の知識が広がった。今まで深く考えたことがないことで悩んだことも多かったが、良い経験となった。
- 本の内容をよく理解した上で、簡潔にまとめることの難しさが分かりました。
- “筆者の考えに批判的に読む”というのは予想以上に難しかったが、自分の考えをもつことがいかに大切かということも実感できた。

(学部不明)

- 全体的に分かりやすかったのも、このままでいいと感じた。
- 今回、初めて読書レポートに苦戦してしまったので、大学生活を通して、簡潔でわかりやすいレポートを作成できるよう努力したいと思いました。

平成27 年度入学前教育 「プレ・アイアシスタント」アンケート集計結果

2016/5/10

教育推進機構

「入学前教育」対象者に対し、下記の通り「プレ・アイアシスタント」（入学前教育専用サイト：数学・英語の e-Learning 教材含む）のアンケートを実施・集計しましたので結果を報告します。

※アンケート提出者数 162 名（読書レポートアンケート提出者と同様） ※小数点以下四捨五入

1. 「プレ・アイアシスタント」にログインしましたか？

	a.ログインした	b.ログインしなかった
回答者数（人）	154	7
割合	95%	4%

※無回答者 1 名

「b. ログインしなかった」理由を教えてください。

（人文社会科学部）

- ネット環境が整っていなかったため。
- ログインの為の環境がなかった。 ログインの必要性を感じなかった。

（教育学部）

- 自宅にパソコンが無いため。
- やり方が分からなかった。

（農学部）

- パソコンが使える環境にないため

（学部不明）

- インターネットが使えなかった
- パソコンを持っていなかったから

2. 「プレ・アイアシスタント」の使い方でもわかりにくかったところがありますか？

	a.あった	b.なかった
回答者数（人）	16	140
割合	10%	86%

※無回答者 6 名

「a. あった」場合、具体的にどこがわかりにくかったですか？

（人文社会科学部）

- 学習の手順がよくわからなかった。
- 分かりにくい所が少しあった。
- 英語の勉強がうけられなかった。
- e-Learning 英語の進め方がわかりにくかった。

（教育学部）

- プレ・アイアシスタントとアイアシスタントの入場が少し分かりにくかった。
- ログイン
- 最初、「アルク・ネットアカデミー」の使い方が分からなかったです。

（理工学部）

- テストの採点などで少してまどった。
- パスワードの、1（エル）と1（いち）
- ログインのパスワードがわかりにくかった
- 英語の課題において、一度最後まで学習する事で課題を終えたことになるのか、正答率を 100%にする事で課題を終えたことになるのか分からなかった。
- パスワードの「1（エル）」の部分が分かりにくかった。

- 数学はテンキーじゃないと正解にならなかった。

(農学部)

- 「もう一度数学」で、「次の教材へ進む」のボタンが表示される場合とされない場合があった。
- 英語の教材の文字が見にくい
- e-Learning 英語の使い方が分からず、取り組みなかった。

3. 入学前教育のシステムとして、「プレ・アイアシスタント」があつてよかったと思いますか？

	a.とてもよかった	b.よかった	c.あつてもなくてもよい	d.なくてもよかった	e.ないほうがよかった
回答者数(人)	34	102	18	1	1
割合	21%	63%	11%	1%	1%
割合(昨年)	24%	57%	14%	1%	0%
割合(一昨年)	31%	52%	9%	3%	1%
割合(一昨々年)	24%	59%	12%	1%	0%

※無回答者 6 名

上記を選んだ理由を教えてください。

a. とてもよかった

(人文社会科学部)

- 情報が入ってくるし、入学までの日付けの表示が緊張感をもたせるから。勉強がはかどるから。
- 入学前にどう学習しておいたら良いか、その学習法がみつかったから。
- 読書レポートの作成で自分の視野を広げ、パソコンの使い方にも慣れたのでとても良かった。
- TOEIC の演習ができたのでよかった

(教育学部)

- TOEIC 対策として英語の勉強を気軽に行うことができたため。
- 課題に関することが書いてある上、英数の勉強ができたから。
- 自分が提出した課題を把握できたため。

(理工学部)

- 高校時代に学んだ事の復習ができたから。
- パソコンを使った学習に少しでも慣れることができたと思うから。
- 大学で学習をする前に高校の内容を復習できたところや読書レポートをパソコンから提出できること。
- 入学前に学習習慣をなくさず、入学後につなげられるように感じたから。
- 高校の復習がスムーズにできたから。
- 入学までの期間が長かったため、学習から遠ざかってしまいそうだったから。
- 入学が決まってしまうと、どうしても怠けてしまうので、課題があることで学問を継続することができるから。
- 高校で学んだ事を復習するための良い機会となったから。
- 基本を再確認できたから
- 高校時代に習ったことを復習できたから。 また、初めてのレポートで腕だめしができたから。
- アドバイスなどがあったから。
- 高校教育の総復習として、とても役に立ったから。
- 復習に役立ちました。

(農学部)

- e-Learning を利用することで、学習へのきっかけを多くつかむことができたので。
- 受験が終わると、何の勉強を軸にしていけばよいかわからない不安な時期があるので、そこでの学習として丁度良かった。

b. よかった

(人文社会科学部)

- 良かったけど、機械トラブルや、デジタルで分からない所がある時に困ったから。
- 課題提出に便利さを感じたから。

- パソコンで簡単に行うことができたし、TOEIC 対策や数学の学習をすることができたから。
- アイアシスタントを活用するイメージができたから。
- 不安が解消されたから
- 読書レポートを提出しやすかったから。
- 課題提出の確認が見やすかったから。
- レポート作成の手助けとなったため
- わからないことがあれば、アクセスして、様々な情報を得ることができたため。
- 私は読書レポートを郵送で提出したため、特に必要性を感じなかったが、サイトを開くたびに入学までのカウントダウンが減っていて、何となく実感が湧いた。
- 他の人がどのくらい学習を行っているかが見れて、やる気につながったから。
- どの課題がいつまでに提出しなければいけないのか、一目で分かるシステムになっていたこと。
- TOEIC の学習ができるから。
- ログインしているかしていないか分かるため、緊張感を持って学習に取り組むことができた。
- 大学のサポートがあって何もわからない新入生にとって便利だったから。
- 読書レポートの作成がしやすかったからです。また、提出も簡単にできてよかったです。

（教育学部）

- 課題の提出が楽だったから。
- 数学でどんな勉強をすればよいか困らなかった。
- 読書レポートの提出がやりやすくなった。
- 学習しやすい環境が整っていたから
- 課題をすんなり提出できたから。
- 課題レポートの情報やお知らせなど役立ちました。
- 情報を得られたから。
- e-Learning と課題図書提出状況を知るとき便利だった。
- 自分だけではなかなか勉強をする気が起きないが、「プレ・アイアシスタント」のおかげで、勉強ができた。
- なにを勉強すべきか分からなかったため、あってよかったと思ったから。
- 受験後、勉強を怠ってしまいましたが、プレ・アイアシスタントのおかげで勉強時間を確保できたからです。

（理工学部）

- 分かりやすかった。
- 結構基本的な例題ばかりでいい感じに復習ができたと思うから。
- 学習意欲の低下を防ぐことになったから。
- 入学前に最初から数学や英語にふれあえたのがよかった。
- プレ・アイアシスタントに取り組み、高校の数学、英語の復習をすることができ、自分の弱点に気づくことができたから。
- 課題の提出と、自分の課題の提出状況を知ることができたから。
- e-Learning で数・英と勉強できたし、「入学まで残り〇日」というので そろそろ大学生になるということが実感できた。
- 復習をすることができたし、自分の苦手な部分も把握できたから。
- 高校の学習の復習ができるから。
- 英語、数学を改めて勉強し直すよいきっかけとなった。
- この時期何をやるべきなのか不安だったから。
- 質のよい学習ができたから。
- 読んだことのない本と出会えたので、新しい考えが学ぶことができた。また、地震について深く考える機会を持てたから。
- 復習という意味ではよかったが引っ越しの準備等の理由で時間があまりとれない人にとっては好ましいとはいえない
- 高校卒業後も、怠けることがなかったから。
- 復習がしっかりできた
- 受験が終わり、忘れていた部分があったことを理解したから。
- 受験のときの意識を忘れずにいられるから。

- 高校の復習ができた。
- シラバス等に直接リンクできるため、大学のことを調べるには、使いやすかったと思う。
- 春休みは誰も勉強が衰えてしまうからいいとおもう。しかし内容が簡単すぎる問題があったのでそこはいらないうと思う。
- 久しぶりにやる問題もあったから。
- 復習方法があまり分からなかったのが指針的なものであったから。
- パソコンに慣れることができるから。
- 入学前に高校の復習ができてよかった
- 高校授業の総復習のための教材として役立ったから
- 高校で学んだことの復習ができた。
- 高校の学習の振り返りができるから。
- 合格後にたまることなく勉強が出来たから
- レポートを直接輸送やeメールで送るより、プレ・アイアシスタントを通した方が安心できたから。

(農学部)

- 事前の学習の内容が明確でやりやすかった。
- インターネットを利用できる場所ならどこでも手軽に利用できるため、時間を有効に使うことが出来たため。
- 簡単にいつでもログインできて、気軽に勉強しやすかったからです。
- レポートの提出が郵送より楽にできたから。入学後、実際に使用するアイアシスタントがどのようなものかイメージできたから。
- 高校で数学Ⅲをとっていなかったが、「もう一度数学」は教科書よりも比較的易しく、図やグラフが動いてくれるので分かりやすかったから。
- 事前にどのレベルの講義があるのかを知ることができた。
- スマホやパソコンから入学前でも大学の情報を知ったり、勉強することがいつでもできるから。
- 復習する良い機会になった。
- 事前勉強として良かった。

(学部不明)

- TOEIC がどのようなテストか全く分からなかったが、プレ・アイアシスタントをすることでテストの構造を理解することができたから。

c. あってもなくてもよい

(人文社会科学部)

- 書き込みができない点を不便だと感じたから。
- うまく使用できなかった。
- そんなに使わなかった。
- 個人的な意見ですが、カーソルを毎回動かして、一つ一つ単語を選択していく動作が時間がかかるため、効率の悪さを少し感じました。

(教育学部)

- パソコンを開く機会があまりなかったからです。
- パソコンを使う習慣がないことと、すぐに利用するのが難しかったため、空き時間にも学習を進められるよう原稿用紙や参考書、問題集を使っていたからです。少し時間のあいた時に一度ログインした程度でした。

(理工学部)

- オンラインでの学習には私自身がなじみがなく、入力ミスなどが多くなってしまい、めんどうに感じたため。
- パソコンより教材を使ったほうがやりやすいから

(農学部)

- 自分で教材を買い学習できたから。

d. なくてもよかった

(農学部)

- パソコンを使うことができないから

e. ないほうがよかった。

(理工学部)

- 解答の間違いが多い。正しい解答をしても減点…。PC+紙の勉強は腰・首が痛くなるし、やりにくい。紙の方がやりやすい。

4. 「プレ・アイアシスタント」のどの仕組みがよかったですか？

- a. 共通課題 共通課題「読書レポートの作成と提出」について
- b. 共通課題の個別の書籍紹介（書籍情報、内容紹介、アドバイス）
- c. 共通課題の読書レポート（電子ファイル）提出機能
- d. 共通課題の読書レポートのコメント返却機能（添削機能）
- e. 先生からの「おすすめの本」
- f. 図書紹介カード
- g. 質問カード
- h. 教科学習（e-Learning 数学/英語）

	a	b	c	d	e	f	g	h
回答者数（人）	55	20	49	22	4	2	2	53
割合	34%	12%	30%	14%	2%	1%	1%	33%
割合（昨年）	30%	14%	28%	21%	3%	1%	1%	32%
割合（一昨年）	29%	11%	29%	12%	3%	0%	1%	30%
割合（一昨々年）	23%	6%	23%	14%	2%	0%	1%	27%

上記を選んだ理由を教えてください。

(人文社会科学部)

- a●これから学んでいく分野に関連する学習を読書を活用して学べたから。
- a●サイトでも見ることができて良かったから。
- a●レポートという大学で行うことの事前練習になったから。
- a●自分の興味があることに熱心に取り組むことができ、やりがいを感じた。
- a●手順やコンピューターの操作がわかりやすかった。
- a●大学生になると、レポートを書くことが多くなるので、事前に練習することができたから。
- a●普段は読まない分野の本に触れ考えを深めることができたから。
- ac●わざわざ郵送しなくてもよい点があったため
- acde●先生からのコメントを読み、本を選ぶことができましたし、提出も簡単で、コメント返却を読んで、今後の参考に
なりました。
- acdh●インターネット上で提出できるのは非常に便利だった。また、個別にコメントがあることで次に繋げることが
できる。
- acdh●本への理解を深め、自分の考えを形にする良い機会になったから。
- ah●ネット上でできるということで、様々な手間が省けて良かった。
- b●自分の興味のある分野を選ぶ時に、とても参考になったから。
- b●本を選ぶ際にとても役に立ったから。
- c●印刷する必要がなく、パソコンのデータを直接送信できるという点で非常に便利だったから。
- c●簡単に課題を提出することができたから。
- c●大学の課題提出の雰囲気が味わえた。
- c●提出するまでが簡単だった。
- c●読書レポートを提出しやすかったから。
- d●自分の書いたりレポートを読んで添削していただける点がとても嬉しかったです。
- d●自分の提出した課題が確実に届いていることが確認できたし、これからの大学での学びに向けてのアドバイスもあって
役立ったから。
- d●提出したものを添削していただくことにより、これからレポートを作成していく上での課題が見つかったから。
- g●気軽に質問することができ、早く解決したから。
- h●テキストを買うことに必要なお金を最小限にとどめ、TOEICなどの学習をすることができたから。
- h●高校までの数学、英語の復習に役立ったから。
- h●自分の苦手なところが分かり、たくさん演習ができたため。
- h●春休み中の自主学習を行う際に役に立ったから。

（教育学部）

- a●大学の学びを知ることができた。
- a●印刷して送らなくてもパソコンからそのまま送ることができ楽だったため。
- ab●あまり慣れていないレポート作成について、やり方や本の内容紹介が書かれていて役立ちました。
- abc●課題の提出が楽だったから。
- abcd●レポートを作成する時にアドバイスなど参考にしてスムーズに取り組めたと思ったから。
- acd●提出やコメントを見ることなどをスムーズに行えるから
- aeh●現在時刻がわかる時計があるとわかりやすいです。
- ah●レポートも教科学習も自分のためになり、知識もさらに増やすことができたからです。
- b●読みやすかったからです。
- c●word で作ったものがそのまま送れるため、プリントアウトしなくてもよかったところ。
- c●レポート作成のときにとても便利だったから。
- c●読書レポートの提出がとてもしやすかったです。
- c●便利だと思ったから。
- ch●出来上がったレポートを、その場ですぐに提出することができるから。自分が使っている教材の他にも、さらに勉強することができるから。
- f●紹介文を読むことで、読んでみたい本が増えた。様々な分野への興味が湧いたから。
- h●TOEIC 対策として英語の勉強を気軽に行うことができたため。
- h●TOEIC もあったため、特に英語の教材を使用し学習できたので、この仕組みはよかったです。
- h●e-Learning で英単語の勉強ができたから。
- h●TOEIC の事前学習ができたから。
- h●TOEIC 対策を気軽にすることができた。
- h●色々なユニットがあるので不得意なところを強化するのに役立ったから。
- h●数学で意外と見落としていた部分を復習することができたため。
- h●入学式前日に TOEIC テストがあり、教材を買わなくても e-Learning 英語で練習できたから。
- h●復習をすることができたから。

（理工学部）

- a●あまりレポートを書く機会がなかったので取り組めてよかったです。
- a●すべてが大学に役立つと思った。
- a●とても簡単にできたから。
- a●まとめて提出できて楽だった。
- a●レポートの提出等でも役立つと感じた。
- a●高校の復習に使え、レポートの書き方も学べたから。
- a●早くからレポートの書き方などがわかったのはよかった。
- a●普段あまり読まないような本に触れるいい機会になったから
- a●復習できたから
- ac●レポートを直接輸送や e メールで送るより、プレ・アイアシスタントを通した方が安心できたから。
- ach●便利だったから
- ah●学力の補強という面で教科学習は大いに役立った
- ah●初めてのレポート、高校時代の復習を行え、学力アップにつなげることができたから。
- b●参考になったから
- b●書籍を選ぶ際の参考になりました。
- b●本を決めるのに役立ったから
- b●本を選ぶための参考になった。レポートを作成するためのアドバイスも分かりやすかった。
- c●PC を使用したほうが、直しが簡単にできるから。
- c●word で作ったものをそのままあげることができた。
- c●パソコンの様式に合わせてレポートを作成できたので、初めてレポートを作る人には便利だと思った。
- c●作成から提出まで、パソコン一台でスムーズに行えたから。
- c●手軽に提出することができたから。

- c●大学ではそのようなことが多くあると思うのでいい機会になったと思う。
- c●提出が楽だった。
- c●提出が簡単（すぐ）だったので、あせらないで取り組めた。
- c●電子ファイルを手軽に遅れるところ
- c●郵送する手間が省けたから。
- c●郵送よりも時間を気にすることなく提出できるから。
- cd●提出がしやすい、評価がわかりやすい
- cdh●教材を沢山持ち歩かなくても、パソコン 1 台で勉強などが出来たから。
- d●レポートの完成度をしることができるから。
- d●自分の改善用がわかり、さらに取り組みたいと思った
- d●初めてレポートを書いてみてその出来がどんなものか知ることができるから。
- d●的確なアドバイスがよかった
- e●本を選ぶにあたっての良い参考となったから。
- f●読書レポートを書く時の参考になったから。
- g●困ったときに助かるから。
- h●TOEIC テストや数学プレースメントテストに向けて、力をつけられるから。
- h●パソコンを使った学習は効率が良く、学習経過が目に見えたので意欲が湧いたから。
- h●パソコンを使った学習は高校にはないものだったので新鮮だった。
- h●一通りの復習をする機会が得られたため。
- h●基礎的なことを学び直すことができた。
- h●効率よく勉強できた。
- h●高校での学習のまとめとして大いに役立ったから。
- h●高校の数学と英語の復習にはとても良かったから。
- h●高校の勉強内容が復習できるから。
- h●自分の中で知識があいまいな部分を確認できたから。
- h●数学と英語の復習がしっかりできたから。
- h●説明が分かり易かった。
- h●大学での勉強において、もっておくべき知識を身につけることができたから。
- h●復習がいつでもできるから。
- h●復習がしっかりできたから
- h●復習することができたから。
- h●復習に役立ちました。
- h●分かりやすかった。

（農学部）

- a●自分の興味がある分野の本をピックアップしてくれて、レポートを作成することで、より本の内容を深めることができたから。
- a●読書の仕方を改めることができたため。
- c●パソコン文章だと自分で何度も添削できて、しかも提出が楽だったから。
- c●提出が簡単だったから。
- c●郵送での提出よりもとても便利であったため。
- cd●提出、添削が簡単にできる所。
- cd●cの機能も便利でしだし、dの機能もレポート作成の能力の進展につながり良いと感じました。
- cdh●パソコンで、データを送信できる事は非常に便利だったから。
- d●自分の課題の足りなかった部分を知り、次に生かせる。
- d●レポートのコメントが来るということで、書きっぱなしではなく、きちんと第三者の目が通ったことが分かるし、客観的な意見をもらえるから。
- h●純粋に学習教材として丁度良かった。
- h●e-Learning を利用することで、学習へのきっかけを多くつかむことができたので。
- h●学習の内容が単元ごとに分かれていて勉強し易かった。

h●手軽に利用でき、解読も丁寧な点が良いと感じた。

h●他の人の勉強の進行状況が分かることでモチベーションを上げることができたから。

(学部不明)

a●ボタン一つでレポートを提出できたので便利だった。

a●高校生活で本をあまり読まず、読書のおもしろみを感じる事が少なかったのですが、課題を通して、他者の意見を本から読みとり、自ら考える楽しさ、充実感を味わえたから。また、自分が学んでいくであろう分野について、さらに深い部分を知りたいと思うようになった。

5. 「プレ・アイアシスタント」に今後欲しい機能があったら教えてください。

(人文社会科学部)

- 入学前の不安をサポートしてもらいました。ありがとうございます。
- 他大学に合格した人では、合格した人同士での接点があるプログラムがあったからそういうのがあっていいと思う。
- レポートの見本
- スケジュール機能：入学前の説明会や TOEIC テストなど入学式までのスケジュールが一目で分かる機能があると便利だと思いました。
- e-Learning 英語に解説をくわしくしていただきたいです。

(教育学部)

- 入学前にどのような準備としての学習をすればよいか、先輩の声が聞きたい。
- 学ぶ分野の先取り学習
- スマホでも使用ができれば手軽に e-Learning が活用できると思いました。
- 質問コーナー
- ログインボーナス機能
- 質問などの直接やりとりができるようなものがほしい。

(理工学部)

- このままでよかった。
- e ラーニングが完了できたことを、確認できたらよかった。
- 解答の正確性
- 教科学習に物理と化学を追加してほしい。
- 課題図書を出した後に確認できる機能
- ネイティブスピーカーとテレビ電話で英語を使って会話する機能
- 読書レポートの手本があれば書きやすくなるとおもう 動画で説明すれば間違いも減るはず
- 入学式やその他の行事、イベントの日程の表示
- e-ラーニングが完了したかどうか分かるようにしてほしいです。

(農学部)

- 大学の必須授業について詳しく伝えてあると勉強の目標がたてやすいです。
- 英語と数学以外の科目の機能が欲しいです。
- e-Learning の理科教科
- 自分の学部に「必要そうな知識」を学ぶ方法（その内容が載っている本やサイト）を掲示してくれる機能
- 各学科ごとに課題用とは別のおすすめの本を教えてくれる機能があったらいいなと思った。
- 教科学習の機能がとても便利で、入学前の私は助けられています。ぜひ今後とも続けてほしいと思います。

平成27 年入学前教育 理工学部e-Learning アンケート

2016/5/10

教育推進機構

「入学前教育」対象者に対し、下記の通りアンケートを実施・集計しましたので、結果を報告します。

※69 名提出 ※小数点以下四捨五入

Q1. e-ラーニングを行う環境は、あなたの自宅に整っていましたか？

	1.あった	2.なかった	3.その他（ ）
回答者数（人）	63	3	3
割合	91%	4%	4%

「3.その他」

- スマートフォンでやりましたが、数学の教材がみれなかったり、英語の音声が届きませんでした。
- あったが途中でなくなった。
- 3月末ころに整った。

Q2. ログインした後に、e-ラーニングサイトに容易に接続できましたか？

※無回答 1

	1.できた	2.できなかった	3.その他（ ）
回答者数（人）	60	6	2
割合	87%	9%	3%

Q3. 今回の「数学」の教材は、高校数学の復習や補完に役に立ちましたか？

	1.役に立った	2.まあまあ役に立った	3.役に立たなかった
回答者数（人）	51	16	2
割合	74%	23%	3%

Q4. Q3 でそのように答えた理由を教えてください。

1. 役に立った

（化学・生命理工学科）

- 説明が簡潔でわかりやすかったから。
- 忘れていた単元の復習ができたから。
- 基本の復習ができたため。
- 苦手分野の基礎をもう一度確認ができたため。
- 数Ⅲを主として復習できたから。
- 大学で学ぶ上で必要な知識を今一度復習できたから。
- 自分の苦手なところを再度確認することができたから。
- 講義があって復習しやすかった。

（物理・材料理工学科）

- 自分が理解できていなかったところもすべて補われていたから。
- 早期入学が決まったため、どのように学習をすすめればいいのか悩んでいたから。
- 忘れていたところを思い出せたから。
- しっかり復習できたから。
- 準備ができた
- 単元ごとの講座は復習するのに役立った。
- この教材だけで全ての範囲を復習できたから。
- 数Ⅲを忘れていたので、思い出すいいきっかけになった。

（システム創成工学科）

- 基本例題がいっぱいあり復習をしなおせたから。
- しっかりとした復習ができたから
- 素早く高校3年間の復習をして弱点をみつけられたから。
- 基礎を解説してくれたので良かった。（答えの間違いが結構あったけど。）

- 基本的な内容で数Ⅲの復習ができた
- 多くの分野を幅広く学習し直すことができたから。
- 復習することができたため。
- 難易度が適度であったから。
- 逆三角関数など高校で習っていない分野にも触れることができたから。
- 公式などの復習をすることができた。
- 教科書では分かりにくかったところの説明が分かりやすかったから。
- もう一度勉強することで理解を深めることができたから。
- 基礎の復習に適していたと思うから。
- 自分の穴が再確認できたから。
- 数学の復習ができたから。
- 基礎の確認ができたから。
- 基礎的な所から応用的な部分まで幅広く学べたから。
- 最初の講義のおかげで詳しく学習できたから。
- 忘れていた部分を思い出すことができた。
- 公式・解説がとても具体的なものだったから。
- 習っていない単元があったから
- 初歩的なところから復習でき、苦手な分野の原因を見つけることができたから。
- 忘れていた分野の復習ができたから。
- 説明も例題も教えてくれたり、分かり易かったから。
- 進学校でないので、数学の授業が少なく、深く勉強できなかったから。
- 自分でも忘れていた所があったり、習っていなかったものの学習ができたから
- 習っていない部分を学習できたから
- 公式の証明など詳しく書かれていたため。
- 高校で学んだところを復習できたため。
- 範囲が広がったから。
- 忘れていた分野を思い出すことができたから。
- 忘れていた問題を思い出せた。
- 基礎をしっかり復習できたから。

(無記名者)

- 数Ⅲの内容が抜けている所があったので、それに気付けてよかったから。
- 復習できたから。

2. まあまあ役に立った

(化学・生命理工学科)

- 全体的に補うことはできたが、微分積分のところはもう少しほってみてもいいと思った。
- 基本公式の確認などするのによかった。
- 習っていない部分もあったから。

(物理・材料理工学科)

- 思い出した公式や考え方などが多くあったから。

(システム創成工学科)

- 設問の間違いがあった
- さまざまな種類の問題を解くことができたので、ある程度復習できたから。
- ベクトルと複素数をもう少し難しい方がいいと思った。
- 高校の教科書にのっていない内容があった。
- 学校では前期対策としての数学の授業をうけていたので、数学の基礎をおぎなえたから。
- 4月の月上旬に再度ログインをしたさいにコースがなくなっており復習や補完が完全にできたとはいいがたいから。
- 高3年次に習った数Ⅲの内容が少なかったから。
- 基本を再確認することができたから
- 高校で使ったことのない記号が出て分かりにくいところがあった。
- いい教材だった。

(無記名者)

- 学校で学べたことを復習できたから。

3. 役に立たなかった

(システム創成工学科)

- 解答がただしくなかったから。

(無記名者)

- 解説がわかりにくい

Q5. 今回の「数学」の教材の難易度はどうでしたか？

	1.難しいと感じた	2.適度であった	3.易しいと感じた
回答者数(人)	12	50	7
割合	17%	72%	10%

Q6. 今回の「英語」の教材は、高校英語の復習や補完に役に立ちましたか？

	1.役に立った	2.まあまあ役に立った	3.役に立たなかった
回答者数(人)	39	28	2
割合	57%	41%	3%

Q7. Q6 でそのように答えた理由を教えてください。

1. 役に立った

(化学・生命理工学科)

- 充実していたから。
- 忘れていた群動詞などを思い出すことができたから。
- 英語を一から学び直すことができたから。
- 復習することができた。
- 説明が分かり易かった。

(物理・材料理工学科)

- 英語が苦手だから。
- 苦手教科のため勉強を進めていく上で助かった。
- 忘れていたところを思い出せたから。
- 準備ができた
- 英語の基礎を細かいところまで復習できた。

(システム創成工学科)

- 説明が詳しくかいてあって、間違えた時の解説も分かりやすかった。
- 基本を学ぶ良い機会だったから。
- 文法の補強ができた点
- 復習することができたため。
- 分かり易かったから。
- 文法の総復習に役立ったから。
- 文法の再確認ができた。
- 文の構造を学べた。
- 教科書ではあまりふれなかった内容もあったから。
- 英語が苦手だったので、復習するよい機会となったから。
- 文の組み立て方や、紙ではできないような勉強ができた。
- 基礎の確認ができたから。
- 問題を解くことでより英語力が定着してきている感じがしたから。
- 英語の基礎的なところを確認できた。
- 例文が多く載っており、その意味の比較や構造が分かり易かったから。
- 分かりやすい

- リーディング、リスニング共に学習でき、バランスが良かったから。
- 発音も確認することができたから。
- 自身が英語が苦手なので解説がついているのが役に立ったため
- 詳しい解説がわかりやすかったから
- 高校 1 年のときに習ったことを忘れていた。
- 解説・確認・演習がそろっていて分かり易かった。
- 基本をしっかり学べたから。
- 良い復習になったから。
- 基本からあって良いと思った。
- 自分の分からない部分が多くあったから知識を増やせた。
- 細かいところまで解説があって分かり易かったから。

(無記名者)

- 復習がとてもしやすいから。
- 復習できたから。

2. まあまあ役に立った

(化学・生命理工学科)

- 文法など最近やっていなかったところは補うことができたから。
- 基本事項の確認に役だった。
- 基本の復習ができたため。
- あまり高校では見慣れない文法知識があったように感じた部分があった。
- 文法の復習ができたから。
- 習っていない部分もあったから。

(物理・材料理工学科)

- 英語は苦手だったが思い出したことや、やっと分かったことがあったから。
- プレテストで点がとれたから。
- 文法の復習には役立ったから。
- 形式が自分好みだった。

(システム創成工学科)

- とても簡単なものと、考えさせられるようなものがあってよかった。
- (重要っぽい) 単語とかもう少し出して欲しかった。
- 英語には Listening Reading Writing などの要素があるがこれらにつながる基本を復習できたから。
- 文法だけでなく発音も確認できたから。
- 高校でやっているレベルよりは低かったけれど、文法などを確認できたから。
- もう少し数を増やしてもよかったと思う。
- 基礎の復習に適していたと思うから。
- 単語など忘れていたものが多かったので、良い復習となったから。
- 本当の基礎から学ぶことができ、気付かされることもあったが、やったという手応えがあまり感じられなかった。
- 正しくログインできてからしめきりまでの間が短くて復習・補完が完全にできたとはいいいがたいから。
- ひとつひとつの解説が分かりやすく役立った。
- 知らなかったことを知ることができたから。
- 英語ができない自分にとってはよいものだったが、問題の難易度が高くやる気が落ちてしまうから
- いい教材だった。

(無記名者)

- 少し難しかったから。
- リスニングがよかった

3. 役に立たなかった

(システム創成工学科)

- 内容が簡単すぎるように感じたから

- 高校の英語より簡単な部分があったので物足りなかったため。

Q8. 今回の「英語」の教材の難易度はどうでしたか？

	1.難しいと感じた	2.適度であった	3.易しいと感じた
回答者数（人）	13	45	11
割合	19%	65%	16%

Q9. あなたは英検の資格または TOEIC・TOEFL 等のスコアを持っていますか？

	1. 持っている	2. 持っていない
回答者数（人）	36	33
割合	52%	48%

Q10. Q9で「1. 持っている」と回答した人は、その結果を教えてください。

	英検2級	英検準2級	英検3級	英検4級	英検5級	TOEIC
回答者数（人）	2	19	13	1	1	350点・420点 各1名

Q11. 大学入学前に高校の勉強を完結することは大変重要であるため、今回、「数学」と「英語」の教材を準備しました。課題量はどう感じましたか？

	1.多い	2.丁度良い	3.もう少しあっても良い
回答者数（人）	11	49	9
割合	16%	71%	13%

Q12. 今回は数学と英語の教材を準備しましたが、それ以外で要望がある場合には教えてください。（複数回答）

	1.物理	2.化学	3.その他（ ）	4.特にない
回答者数（人）	30	16	0	27
割合	43%	23%	0%	39%

Q13. 本学では、英語の自由学習用として、ネットアカデミー2「スタンダードコース」、「TOEIC テスト演習 2000 コース」の二つのe-ラーニング教材も用意しました。これらの教材を使って英語の学習は行いましたか？ 少しでも学習した人は1を選択して下さい。

	1. 学習した ー スタンダード	1. 学習した ー TOEIC テスト	1. 学習した ー 教材未選択	2. 学習していない
回答者数（人）	15	9	2	48
割合	22%	13%	3%	70%

※「1.」の回答者のうち、5名は両方の教材を学習

Q14. Q13.で「1. 学習した」と回答した人にお聞きます。難易度はどうでしたか。

	1.難しいと感じた	2.適度であった	3.易しいと感じた
回答者数（人）	6	14	1
割合	29%	67%	5%

Q15. Q13.「2. 学習しなかった」と回答した人は、その理由を教えてください。

※無回答 1

	1. 学習する時間 がなかった	2. 興味が なかった	3. 存在を 知らなかった	4. 面倒であった	5. その他（ ）
回答者数（人）	21	4	8	3	11
割合	44%	8%	17%	6%	23%

「5.その他」

（化学・生命理工学科）

- すでに、別の TOEIC の参考書をかっていたため。

（物理・材料理工学科）

- 別に参考書を買ったから。
- 他の教材を進めていた

（システム創成工学科）

- 自分参考書を買って学習していたから。
- TOEIC に関しては、テキストがあったから
- 書店で教本を買ったから。
- 自分で書店にて対策問題を購入したから。
- 他の教材で学習したから。
- 他の教材で学習しようとしていたから。
- 自分で買った教材があったため、そっちを行った。

（無記名者）

- 新書や公式問題集で勉強しているため。

Q 1 6. あなたは推薦入試合格の後に大学入試センター試験を受験しましたか？

	1. 受験した	2. 受験していない
回答者数（人）	68	1
割合	99%	1%

Q 1 7. あなたは入学前教育で大学の講義内容を先行して学びたいですか？

※無回答 1

	1. 学びたい	2. 少し学びたい	3. 入学前に学ぶ必要はない
回答者数（人）	15	44	9
割合	22%	64%	13%

Q 1 8. 入学前教育について感じたこと、要望等がありましたら自由に記載して下さい。

（化学・生命理工学科）

- 締め切りの日時をもっはっきりしたほうが良いと思った。英語の文法をもっとやってもいいのではないかなと思った。入学前教育により自分の今の実力が分かるのでとても良かった。
- 数学と英語の復習ができてよかったです。取り組み易くとても役に立ちました。

（物理・材料理工学科）

- 入学前にこのように学習できる環境を作っていただきありがとうございました。

（システム創成工学科）

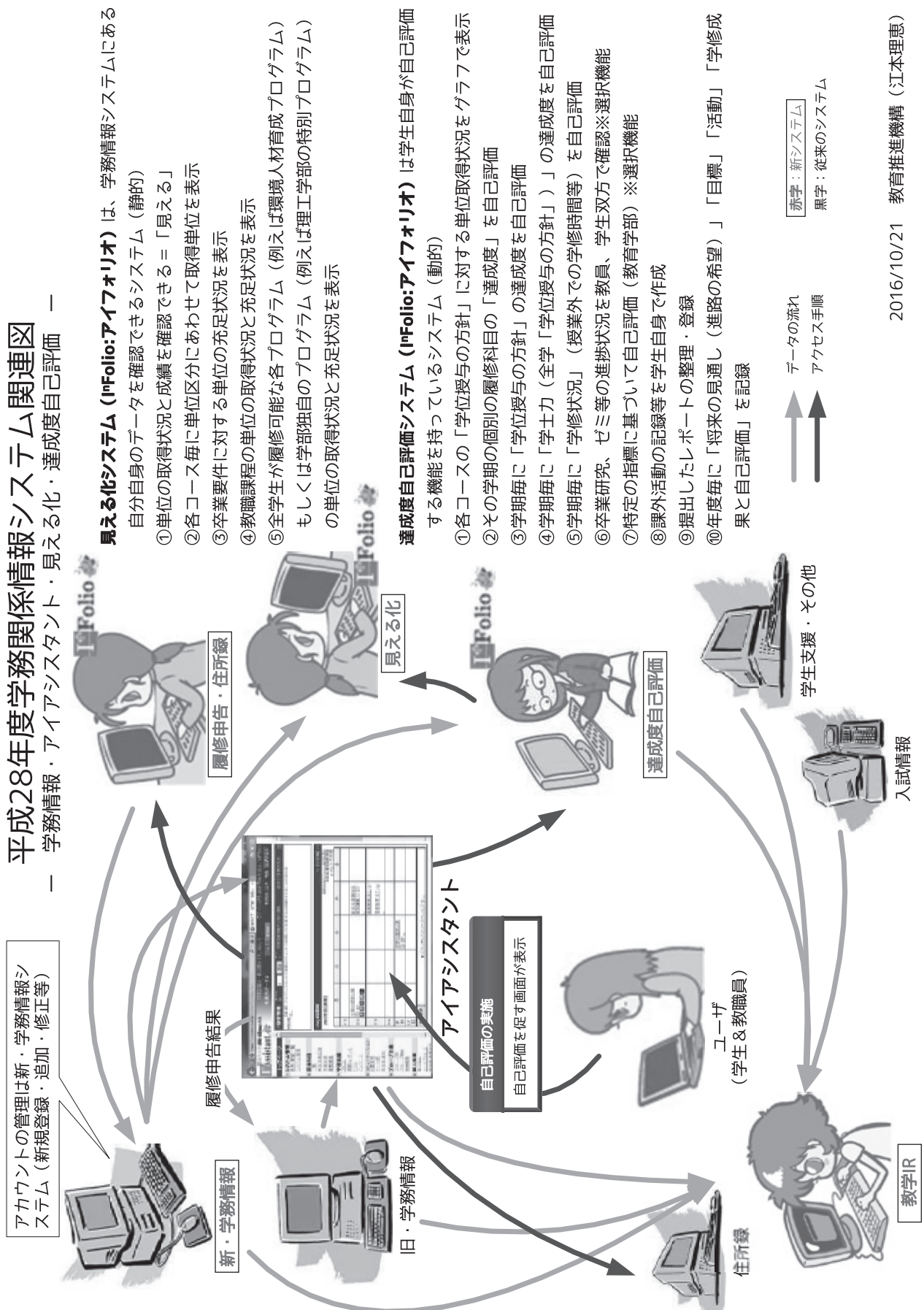
- あまり勉強をやらないうと忘れてしまうのでセンター後にやることがあってよかった。
- 課題を完了するための条件を詳しく明示してほしい。例：正答率 100%で完了など。上記のことなどから、紙媒体による課題にしてほしい。英語の「これでどうだっ、英文法！」において MicrosoftEdge で開くとページの表示がおかしくなった。
- 推薦合格と同時に課題を出してほしかった。
- パソコンを使うのに慣れていなかったが、兄に教わってなんとか使うことができた。パソコンに慣れていないと大変だった。
- 基礎的なところを深く学べてよかった。
- 高校の内容の復習をするのも大事だけれど、大学数学の内容を予習したりしたい。あと、自分は地域創生特別プログラムなので、事前に研修のようなものがあったらいいと思う。
- スマートフォンでもログインできるようにしてほしいです。
- 解答の正確性が上がれば、やる気も上がり良いと思う。

（無記名者）

- なにをどのくらいやらなければいけないかわかりにくい。

平成28年度学務関係情報システム関連図

— 学務情報・アイアシスタント・見える化・達成度自己評価 —



2016/10/21 教育推進機構 (江本理恵)

仕様策定委員会委員名簿

調達設備名：教学 IR システム一式

所属等	職 位	氏 名	連絡先 (Tel・Mail)
教育推進機構	教 授	脇 野 博	wakino (6938)
教育推進機構	准教授	江 本 理 恵	riemt (6924)
人文社会科学部 国際文化課程	教 授	後 藤 尚 人	ntgoto (6761)
情報基盤センター	技術専門職員	加 治 卓 磨	kaji (6096)
学務部 教務企画課	課 長	山 崎 義 夫	yo.yama (6091)

仕様策定委員会委員名簿

調達設備名：学務情報システムの構築一式

所属等	職 位	氏 名	連絡先 (Tel・Mail)
教育推進機構	教 授	脇 野 博	wakino (6938)
教育推進機構	准教授	江 本 理 恵	riemt (6924)
学務部 学務課	課 長	太 野 昭 彦	futono (6052)
学務部 学務課	副課長	切 金 敦	kirigane (5055)
学務部 学務課	主 査	高 橋 勝 也	ktaka827 (6077)
学務部 教務企画課	主 査	佐 藤 光 明	ksatou (6078)
学務部 入試課	主 査	黒 澤 喜 一	kikurosa (5064)

※本調達には、履修状況システムも含む。

仕様策定委員会委員名簿

調達設備名：達成度自己評価システム一式

所属等	職 位	氏 名	連絡先 (Tel・Mail)
教育推進機構	准教授	江 本 理 恵	riemt (6924)
情報基盤センター	准教授	中 西 貴 裕	takahiro (6993)
情報基盤センター	准教授	川 村 暁	kawamura (6098)
工学部 電気電子・情報システム工学科	准教授	木 村 彰 男	kimura (6488)
工学部 社会環境工学科	准教授	斎 藤 貢	mitsugu (6452)
学務部 教務企画課	課 長	山 崎 義 夫	yo.yama (6091)

仕様策定委員会委員名簿

調達設備名：マルチメディア教育支援（CALL）システム一式

所属等	職 位	氏 名	連絡先 (Tel・Mail)
教育推進機構	准教授	江 本 理 恵	riemt (6924)
情報基盤センター	准教授	中 西 貴 裕	takahiro (6993)
人文社会科学部 国際文化課程	教 授	斎 藤 博 次	saihirog (6742)
人文社会科学部 国際文化課程	教 授	後 藤 尚 人	nagoto (6761)
学務部 教務企画課	課 長	山 崎 義 夫	yo.yama (6091)

岩手大学

教育推進機構

年次報告 2015

平成 29 年 3 月 29 日 発行

●編集・発行

岩手大学教育推進機構

岩手県盛岡市上田 3 丁目 1 8-3 4

●印刷・製本

杜陵高速印刷株式会社

